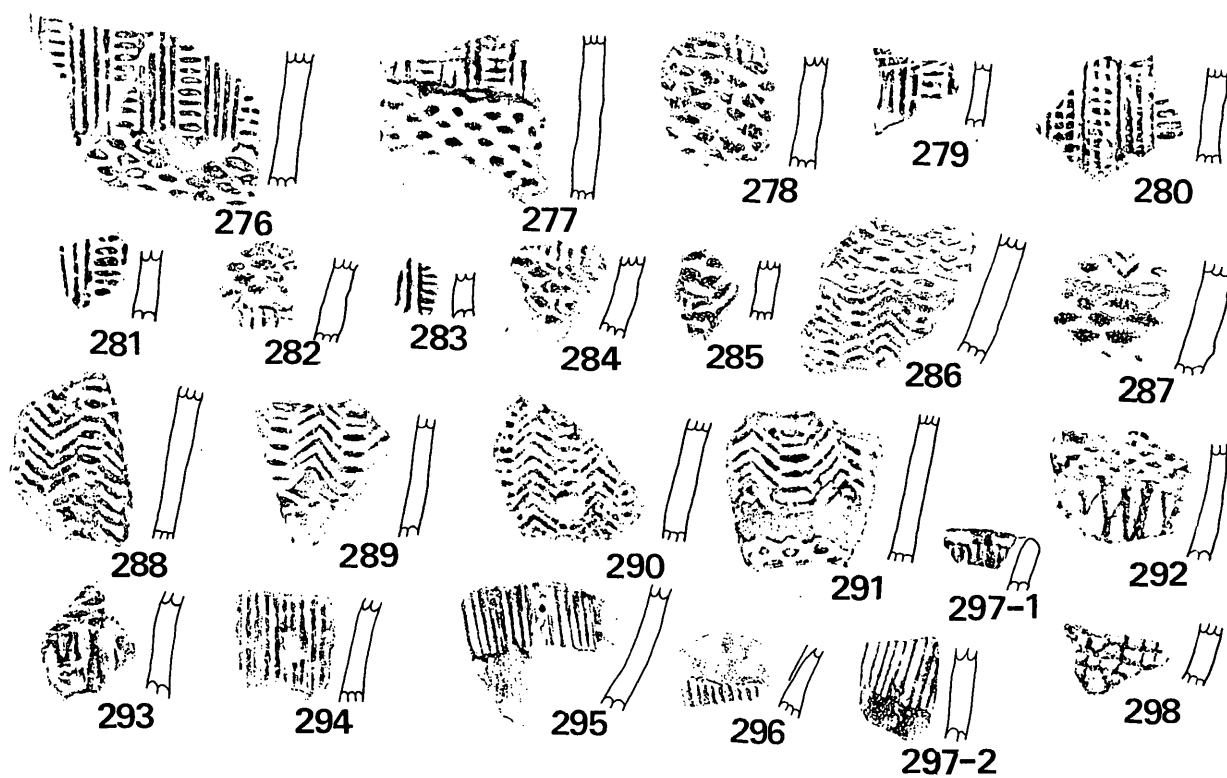


上林中道南遺跡 III

長野県下高井郡山ノ内町上林中道南遺跡発掘調査報告書

—— 縄文草創期～早期の北信濃の注目される遺跡 ——



1996

長野県山ノ内町教育委員会
長野県中野建設事務所

上林中道南遺跡 III

長野県下高井郡山ノ内町上林中道南遺跡発掘調査報告書

—— 縄文草創期～早期の北信濃の注目される遺跡 ——

1996

長野県山ノ内町教育委員会
長野県中野建設事務所



北東から見た遺跡全景 (A地区)



南西から見た遺跡全景



細久保式押型文土器



沈線文土器



絡条体圧痕文土器（1984年出土）

序

山ノ内町には、佐野遺跡（国史跡 縄文時代晩期 昭和51年12月25日指定）をはじめとする数多くの縄文時代遺跡があります。

ここに報告する上林中道南遺跡は、山ノ内盆地の沓野台地の上方に位置し、国道292号線を志賀高原に向かう旧上林ゲート料金所西側の農耕地と山林に所在し、佐野遺跡よりも古い縄文草創期からの遺跡であります。

この地域に1998長野冬季オリンピックアルペン競技会場への道路建設に伴い、冬期間の交通安全対策のため「上林チェーンベース」建設計画が中野建設事務所から提示され、平成6年11月に試掘調査を実施し、平成7年5月から中野建設事務所の委託を受けて本格的な大規模調査を実施したものであります。

今回の調査では、縄文草創期から後期、平安時代の土器類と住居址が発掘され、当時の北信地方を知るうえで極めて重要な遺跡であると再確認されたことであります。

発掘された貴重な文化遺産と共に本書が多くの人々に広く利用され、また郷土を知り学ぶことで地域文化の向上に役立てば幸いです。

終わりに、発掘調査から本書の作成まで従事していただきました檀原長則団長はじめ(株)中野広域シルバー人材センター山ノ内支所の皆様、地元の皆様、またあらゆる面でご指導ご協力を賜った多くの関係者に対し、深甚なる感謝を申し上げます。

平成8年3月

山ノ内町教育委員会
教育長 小布施竹男

例 言

- 1 本書は、長野県下高井郡山ノ内町上林所在の上林中道南遺跡の第3回の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は長野県中野建設事務所の委託を受け、山ノ内町教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査の概要は第I章に記した。
- 4 本書に使用した写真は檀原長則が撮影した。
- 5 本書の執筆は、檀原長則と小淵利男が行った。
- 6 本書の編集は湯本栄一と、檀原長則がおこない、鬼灯書籍の協力を得た。
- 7 出土遺物と、実測図類、遺物台帳などの記録は山ノ内町教育委員会で保管している。
- 8 関係する山ノ内町の考古資料も併せて掲載した。
- 9 本報告書作成までに、多くの方々のご教示と、ご協力を得たことを感謝します。
- 10 担当者の力不足により、発掘の成果を十分に報告できなかった面がある。今後今回の成果を生かしたい。

目次

序	e 押型文系IV群土器	39
例言・凡例	f 楕円文土器とその他	40
目次	g 押型文系V群土器	40
第I章 遺跡の位置と環境	(5) 早期貝殻文沈線文系I群土器	40
1 位置及び自然環境	(6) 早期貝殻文沈線文系II群土器	40
2 歴史的環境	(7) 早期貝殻文沈線文系III群土器	46
3 山ノ内町の押型文土器の出土遺跡	(8) 早期縄文系II群土器	46
4 発掘地の地質と地層	(9) 早期縄文系III群土器	47
第II章 発掘計画	(10) 早期条痕文系I群土器	47
1 発掘計画と経過	(11) 早期条痕文系II群土器	48
2 調査団の構成	(12) 早期条痕文系III群土器	48
3 調査日誌抄	(13) 早期条痕文系IV群土器	49
第III章 調査の結果	(14) 早期条痕文系V群土器	49
1 遺構	(15) 縄文前期I群土器	49
(1) 縄文時代	(16) 縄文前期II群土器	49
a 遺構の概要	(17) 縄文前期III群土器	50
b 遺構	(18) 縄文前期IV群土器	50
(2) 平安時代と以降	(19) 縄文前期V群土器	50
a 遺構	(20) 縄文前期VI群土器	51
2 遺物	(21) 縄文中期I群土器	51
(1) 草創期～早期出土土器の概要	(22) 縄文中期II群土器	51
(2) 草創期末～早期 表裏縄文・縄文系I群土器	(23) 縄文後期I群土器	52
(3) 早期撚糸文系土器とその他	(24) 石器	52
(4) 早期押型文系土器	(25) 古墳時代	139
a 押型文系I群土器	a 遺物	139
b 押型文系II群土器	(26) 平安時代と以降	139
c 押型文系III群土器	a 遺物	139
d 異形押型文土器	第IV章 まとめ	141

挿図目次

第1図 山ノ内町の遺跡分布図	2	第7図 遺構全体図	17・18
第2図 遺跡周辺の地形と地質	3	第8図 調査グリッド設定図	19
第3図 周辺の関連する遺跡	5	第9図 3～5号住の遺構・遺物	20
第4図 遺跡周辺の地質	7	第10図 6号住の遺構・遺物	21
第5図 遺跡の基本土層図	8	第11図 2号住の遺構・遺物	22
第6図 調査地の位置	10	第12図 土坑・溝の遺構	24

第13図	集石遺構	25	第51図	土器拓影図20 (沈線文～条痕文)	72
第14図	溝・柱穴の遺構	26	第52図	土器拓影図21 (沈線文～条痕文・平安時代土器)	73
第15図	1号住の遺物	27	第53図	土器拓影図22 (沈線文～条痕文)	74
第16図	1号住の遺構	28	第54図	土器拓影図23 (前期)	75
第17図	柱穴実測図(1)	29	第55図	土器拓影・実測図24 (前期)	76
第18図	柱穴実測図(2)	30	第56図	土器拓影図25 (前期)	77
第19図	柱穴実測図(3)	31	第57図	石器実測図1	77
第20図	柱穴実測図(4)	32	第58図	石器実測図2	78
第21図	押型文土器の分布	36	第59図	石器実測図3	79
第22図	綾杉文押型文模式図	36	第60図	土器拓影図26 (中期)	80
第23図	平行線組合せ文押型文模式図	36	第61図	土器拓影図27 (中期)	81
第24図	土器検出断面図	38	第62図	土器拓影・実測図28 (後期・C地点トレンチ出土土器)	81
第25図	土器分布の区分図	41	第63図	鉄器実測図 (古代末・中世)	139
第26図	A区の土器分布	41	第64図	土器実測図 (古墳・平安時代)	140
第27図	B区の土器分布	42			
第28図	C区の土器分布	43			
第29図	D区の土器分布	44			
第30図	E区の土器分布	45			
第31図	F区の土器分布	45			
第32図	土器拓影図1 (草創期～早期縄文)	53			
第33図	土器拓影図2 (草創期～早期縄文)	54			
第34図	土器拓影図3 (草創期～早期縄文)	55			
第35図	土器拓影図4 (草創期～早期縄文)	56			
第36図	土器拓影図5 (草創期～早期縄文)	57			
第37図	土器拓影図6 (草創期～早期縄文)	58			
第38図	土器拓影図7 (草創期～早期縄文)	59			
第39図	土器拓影図8 (押型文)	60			
第40図	土器拓影図9 (押型文)	61			
第41図	土器拓影図10 (押型文)	62			
第42図	土器拓影・実測図11 (押型文)	63			
第43図	土器拓影図12 (押型文)	64			
第44図	土器拓影・実測図13 (押型文)	65			
第45図	土器拓影図14 (押型文)	66			
第46図	土器拓影図15 (沈線文～条痕文)	67			
第47図	土器拓影・実測図16 (沈線文～条痕文)	68			
第48図	土器拓影図17 (沈線文～条痕文)	69			
第49図	土器拓影図18 (沈線文～条痕文)	70			
第50図	土器拓影・実測図19 (沈線文～条痕文)	71			

第 I 章 遺跡の位置と環境

1 位置及び自然環境

山ノ内町は長野県の東北端に位置し、山ノ内盆地を形成する800m以下の平地は7分の1と少なく、大部分は山岳地帯である。この志賀高原の山麓にある上林中道南遺跡は、昭和59年（1984）沓野区圃場整備事業にともない、初めての発掘調査が行われている。遺跡は292号線志賀草津道路の旧上林ゲート西の下段にあり、縄文早期、前期、平安時代後期の土器と、住居址が検出されている。

今回の調査は、この発掘地点の南方に、約12,000㎡のチェーン着脱場を長野県が建設するための緊急発掘調査で、計画された範囲は、大字平穏字上原238・244・256・257・258・259・260・261・262・264・265・271・272・273、字桑山道南527・528などの地番が該当する。

この該当地の本格的発掘調査を計画樹立するため、1994年11月10日から16日まで試掘調査を実施した。

この結果、縄文時代早期、前期、中期、後期の土器と石器が検出され、さらに平安時代の土器が発見された。この遺物包蔵地は、大字平穏字上原260・273-1・273-5、字桑山道南527-1の地番が該当する。

そのうち527-1は、宅地のため遺構が破壊されており、宅地化される時、土器などが出土したと伝えられていたが試掘調査の結果除外した。そのほか、調査結果から上原259・261と桑山道南528-2が遺物包蔵地と推定されたが、地権者の事業への同意が得られず、試掘調査ができなかった。

このような経過から当初の発掘計画は、地番、上原260・273-1・273-5の合計1,783.65㎡の遺物包蔵地で、1995年5月から行われることになった。しかし発掘調査を始めてから、上原261と桑山道南528-2の事業同意がなされ、1,232.09㎡の発掘調査を行ったが、残る上原259番の1,109.21㎡は未調査である。

上信国境の横手山（2,304.9m）方面に発する角間川（上流は硯川）と、大沼池方面に発する横湯川が、山あい抜けて合流し、夜間瀬川となる。この合流地点上の台地を通称島崎といい、この沓野集落の台地は、おおよそ三角形を呈し、両川に挟まれて存在する。この沓野台地の段丘崖は、はるかなる地質年代に、山ノ内盆地地面を埋めて形成した、土砂を横湯・角間川が、下刻作用をおこなった結果、形成されたものである。遺跡南方の角間川の段丘崖は、50mの落差がある。

この台地の基部というべき、志賀高原への上り口、標高800m前後に遺跡が存在する。この東方には、天川神社所有の山林があり、樹齢の経た赤松などの自然林があり、ここに清冽な清水が大量に湧出し、小川となって遺跡を貫流し、竜宮川と呼んでいる。この清水は神聖視され、沓野集落の発祥の原点と考えられている。

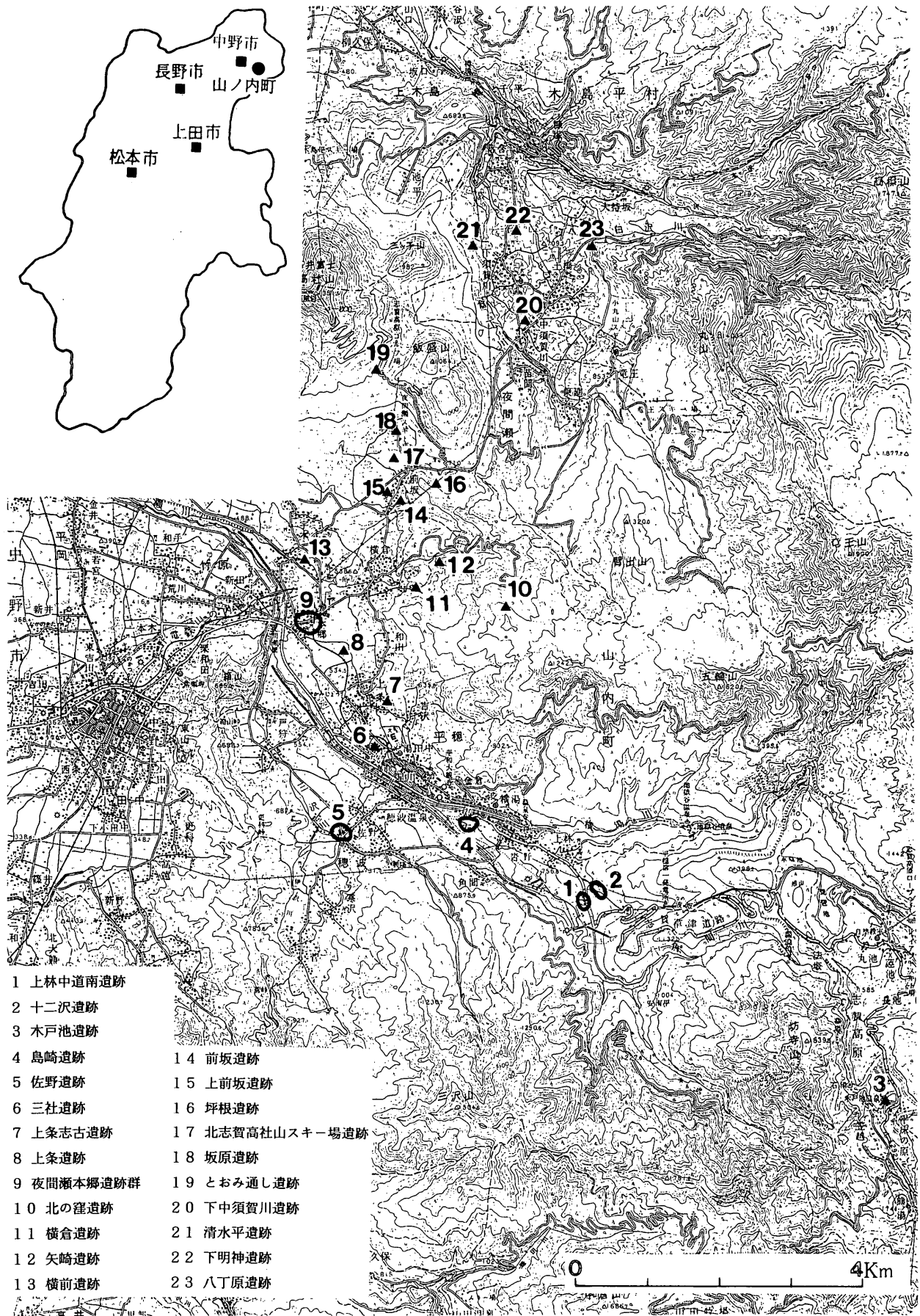
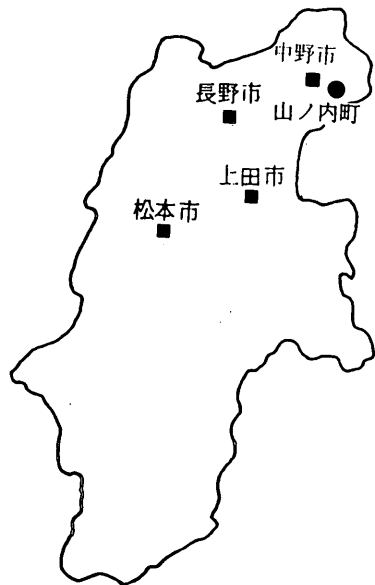
この川と、遺跡地で交差している坪根堰は、明治18年（1885）噴泉で有名な、渋の地獄谷から引水されたものであり、台地上の水田を潤している。

上信国境の三国山脈は利根川水系と、千曲川水系の分水嶺をなしている。この範疇に含まれる志賀高原には多くの湖沼があり、四季の変化にとみ観光地として、冬はスキーのメッカとして親しまれている。

山ノ内盆地の気候は、この上信山地また関東と北陸地方を二分し、冬季は北西季節風が強く、降雪が多く北陸型で、寒気がきびしい。夏季は一日の温度差が大きく、内陸盆地型となる。

冬の気候をみると、中野平面、山ノ内盆地地面、志賀高原と高さによる温度差が大きく、上林中道南遺跡は、気候的にも盆地地面と、山地との境界に位置している。

志賀高原の横手山（2,304.9m）の中腹を通り、群馬県草津町までの近世の交通は、発掘調査地のほとりを通り、十二沢から波坂を上り、硯川沿いの道を通り、最高所渋峠（標高2,100m）を越えて行程28kmであった。



第1図 山ノ内町の遺跡分布図

この道は近世には、菅平高原を通る大笹街道と、しばしば抜け道として、中馬塚ぎの論争があった。

馬に荷を積んで、朝6時に沓野を発って、午後3時には、草津に着いたといわれている(『沓野民俗誌稿』1981)。

この遺跡にたてば、西方は山ノ内盆地から、北信五岳の山々を望み、南も北も1000mから2000mの山々につらなり、東の志賀高原の山なみに合している。この恵まれた自然を背景として、原始時代以降営まれたのが、この上林中道南遺跡である。

2 歴史的環境

かつて志賀高原の木戸池付近から石刃が、発見されたという報告があり、戦後間もなく新湯田中温泉の夜間瀬川に面した崖から、頁岩製の石刃が発見されている。また昭和42年(1967)には沓野の中道間(上林中道南遺跡のうち)の地下1mの黄色土層から黒耀石の石核が土壤検定の作業中発見されている。

さらに高社山東麓のとみ通しなどからも石刃が発見されており、このように山ノ内地方でも旧石器時代の遺物が発見されつつある。

縄文草創期では須賀川八丁原から槍先型尖頭器が発見され、標高1,000mの横倉北の窪からは、御子柴型の石斧が発見されている。

草創期末の土器は、上林中道南遺跡から発見されている。早期の遺跡は、この上林中道南遺跡と、高社山麓の前坂周辺の遺跡、須賀川盆地の下明神遺跡などが知られている。この草創期から早期にかけた遺跡は、まだ発見例が少なく、調査した中道南遺跡は県下でも注目されている。

前期の遺跡は、隣接する十二沢遺跡から始まって、山ノ内盆地の各地に散在しているが、とくに大遺跡としては存在していない。

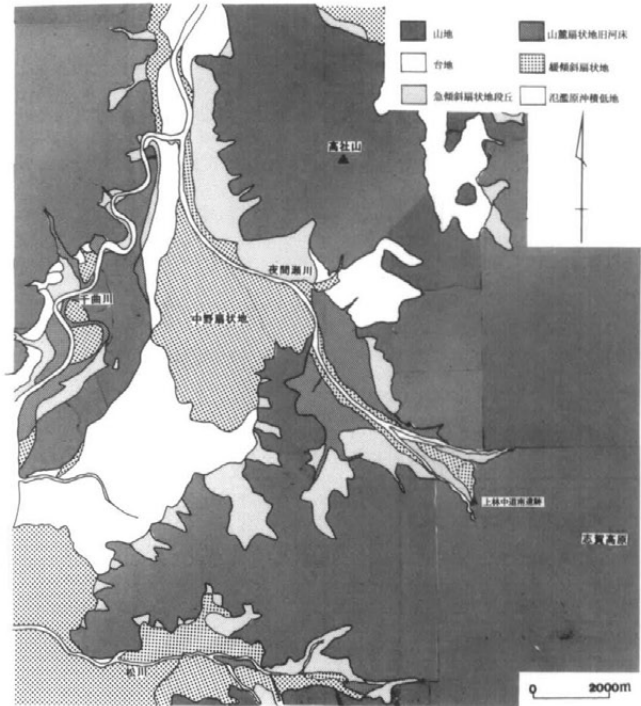
中期の遺跡は加曾利E式併行期のものが多く、上林中道南遺跡と同じ台地下方の島崎遺跡は、これが主体である。

後期の遺跡で知られているのは、伊勢宮遺跡で、堀ノ内期の柄鏡型敷石住居址が発見されている。その他の後期の遺跡は小規模である。

晩期の遺跡は、佐野遺跡が知られている。これは中部高地の晩期の標式遺跡で、始まりは東北地方からの移住集団の遺跡との説がある。しかしそのほかの遺跡では、佐野式の土器片の発見だけで、具体的には不明である。

弥生時代の遺跡は山ノ内盆地の中野市よりの標高500m前後の地帯にみられるが、600m以上の地帯には、みられないようである。したがって沓野台地には存在しない。この地方の開拓が始まったのは、古墳時代も後期になってからで、横穴式石室古墳が湯田中・本郷などに存在し、戸狩・宇木にも存在した。

奈良時代も過ぎて平安時代も後期になると、山ノ内盆地の各地に、当該期の遺物が出土し、開拓の歴史が本格化したことを示している。しかし須賀川盆地の遺跡や、この上林中道南遺跡の性格は、同時代の山ノ内盆地面の



第2図 遺跡周辺の地形と地質

遺跡とやや異なり、山棲みの住まいと推定している。この時代の終わりの大治5年(1130)に造られた金倉の弥勒石仏は、後の文治2年(1186)の『吾妻鏡』にみえる金倉井の牧の全盛時代の遺産と考えられている。

宇木の八柱神社境内から発見された経塚遺物は、鑄鉄製の経筒・和鏡・短刀数振で、いずれも破片となっている。しかし和鏡の背文様が、圏線が細く低い平安末から鎌倉初期に多い形式で、牧場適地と見られる高社山麓の景観と併せて、笠原の牧北条の時代の遺物と見られる。

室町時代の中期までには、田中・金倉・沓野などを領域とした、金倉井の牧も開拓されて、沓野の台地の下手に「奥長倉」と呼ばれる集落があったと、『諏訪上社造宮帳』に記されている。このころは北信の雄族高梨氏の支配下にあったとされている。戦国乱世の時代になると、越後上杉氏と甲斐武田氏の争いに巻き込まれて、天文22年(1553)前後に上杉方の高梨氏は、越後に去ってこの地方は、武田氏の支配地となった。

天正10年3月、武田勝頼は織田・徳川の連合軍に敗れ、この地方は一時織田氏の将の支配するところとなった。6月、織田信長が本能寺の変で倒れ、上杉景勝の支配地となった。この上杉氏も慶長3年(1598)会津に移封されて、家臣の高梨氏なども従った。

その後豊臣秀吉の蔵入地や、森忠政領となるが、同8年より松平忠輝(家康6男)領となった。慶長20年(元和・1615)忠輝は沓野山(志賀高原)の鷹巣山15か所に11人の巢守衆をおいている。

その後領主が交替しても巢鷹山は継続し、元和8年、真田氏の松代藩領になっても巢鷹山、巢守は継続した。しかし、いつの頃からか、巢守衆は8人に減り、貞享5年(1688)藩では、沓野山の巢守を廃止し、山見役、国境見回り役のみ存続させている。

宝暦12年(1762)沓野組の住民は、藩に願って田中村から独立した。天保15年(1844)松代藩の佐久間象山は、佐野・田中・沓野の利用掛に任じられた。嘉永元年(1848)に鉱物資源の探査を計画し、渋峠から上州草津に出て、入山・和光原・布池(野反池)から魚野川の溪谷を通り、秋山にでて、野沢温泉を経て沓野に帰っている。この探査行は彼の『鞆野日記』に詳しい。

明治4年(1871)廃藩置県が行われると、沓野は松代県から中野県となり、長野県となった。

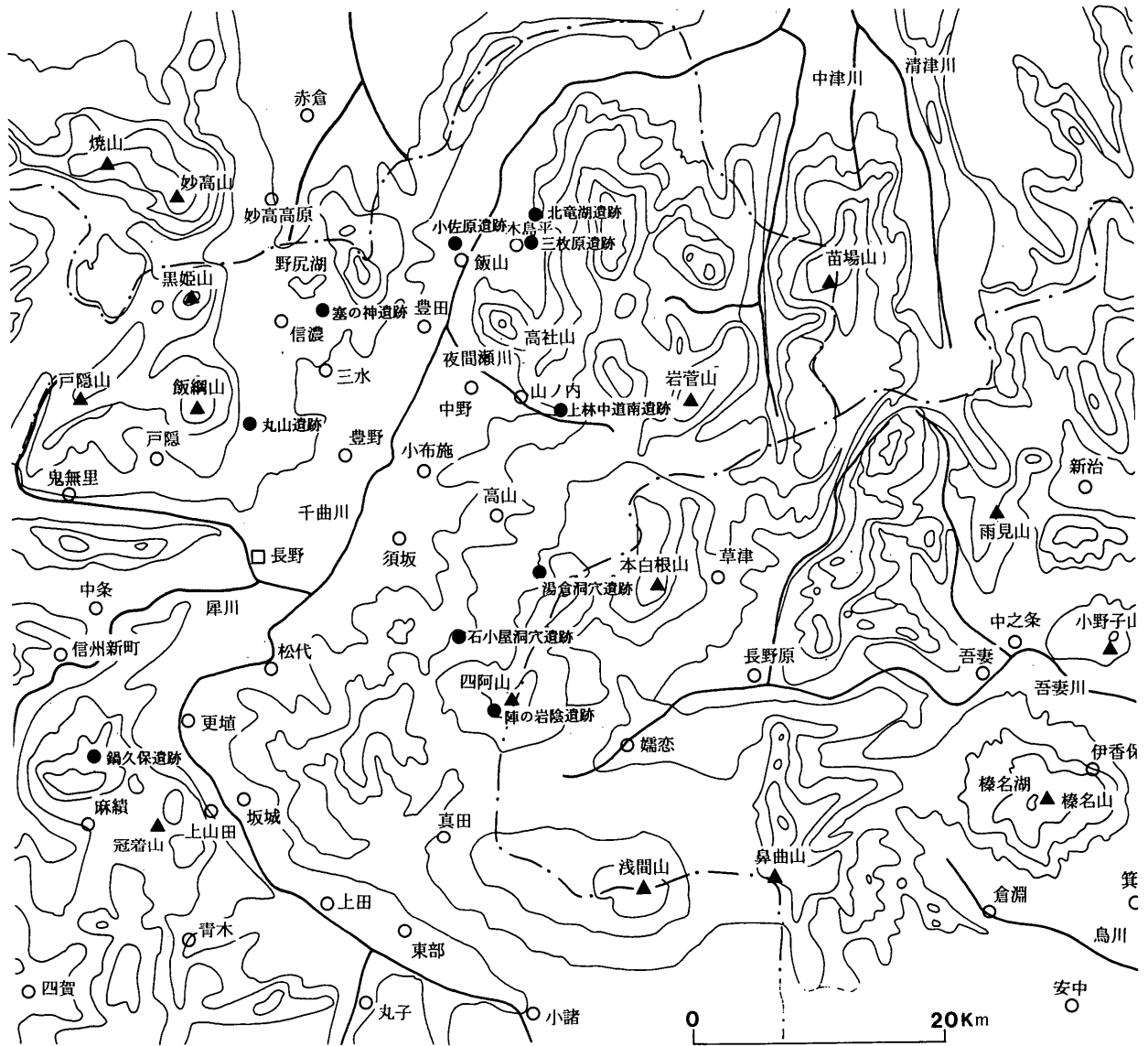
6年に地租改正条例が公布され、以後曲折があったが、これは「官・民有区分」を伴うものであった。これまで林野は、共有意識により、慣行に基づいて入会する風習が強かった。

7年、沓野・湯田中両村は、田畑山野地券作成に際して、志賀高原の山林を公有地として、記載報告した。その後、公有地は官有地に編入され、8年になって官有地として確定された。これでは生計の道が断たれたとして、10年(1877)に地域住民が、民有地引戻しの出願をしたが、認められなかった。

12年になって、象山のあと利用掛になった、館三郎に依頼して、民有地引戻しの運動を展開することになった。その後多くの経過を経て、13年、文六・竜王・志賀山方面の引戻しが成功し、19年(1886)には、岩菅山方面の民有地引戻しが実現した。これらの財産の管理団体として、昭和2年(1927)になって、「財団法人下高井郡平穏村和合会」、「同共益会」が設立され、志賀高原の観光開発にかかわっている。

志賀高原の麓にある沓野は、草津街道の宿場であり、山稼ぎ人の食料などの基地でもあった。「当村の儀は高山の麓、霧下の嵐強く、谷合薄地取れ高も少く、不相応の人家多く、極難の儀は眼前に御座候処、御見聞の百姓一派にては恐れ乍ら住居相成り難く、困窮仕り外に余業もこれ無く、雪中深山牛馬通し無く、人足も難く、嶮岨の場所厭わず山稼ぎ専に仕り候儀は、(以下略)」(『和合会の歴史』から転載)と、明治の民有地引戻し運動の嘆願書の文書に述べられている。

このように沓野では田畑の耕作の外は、山稼ぎに大きくたよってきた、その主なものは、白簗製造、根曲がり竹採取、薪炭製造、狩猟などであった。



第3図 周辺の関連する遺跡

この山稼ぎ、草津通いの古い道は、沓野から遺跡近くの竜宮清水のほとりを通り、十二沢、滑（波）坂（なめつきか）を上って志賀に入った。この竜宮清水にはかつて茶屋があり、ワサビが栽培されたことがある。

志賀高原から秋山郷にかけた山々では、狩猟法のきびしく無かった時代、春先になると尾根筋の雪庇の下に隠れて、上を通るカモシカの足を木鋤（こすき）で叩いて骨折させる狩猟が行われていたといわれる（関伊志雄氏談）。

渋峠または草津峠を越えて（あちゃとだんべの国ざかい）、群馬県草津町、六合村入山地方などの吾妻地方と、信州側沓野との交流は、古くからあり、近世以後盛んになった。浅間山の大噴火が原因とされる天明の飢饉では、吾妻郡の百姓衆が信州側の高値の米を買って帰って行く姿が、哀れであったと、書かれた文書が残っている。

昭和2年（1927）ころは、沓野から草津へは、卵、米、野菜（玉ネギなど）などを運び、草津からは、まげもの、ヒシヤク、めんば、硫黄などを持ち帰った。牛なら2頭、馬なら1頭で荷物を運搬し、売買も行った。草津に運んだ品物は、3～5倍で売れたと言われている。

沓野でこの草津かよいをしていた人は、最盛期には20人はいたと言われている。春の雪が解けてから、10月末までが荷運びの期間で、硯川で昼食を使い、午後3時ごろには草津に着いた。夕立は信州側より、草津は雨も激

しく、雷鳴も大きかったという。時には白根山の噴火に会うこともあり、馬の足がやけどした話も伝わっている。

六合村の入山地方の熊倉や元山へは、渋峠から芳か平、または草津峠から草津を通らずに行く道があり、カンジキのころは、見通しにゆけて、近かったといわれている。

昭和初期頃、この地域は広大な山野を利用した、馬の飼育が盛んで、農繁期には沓野の人が中をとりもって、善光寺平の農家に、貸付けることも行われた。

このころまでは、吾妻溪谷の道路が未整備で、信州ルート of 最短距離を占める、沓野の草津商人と呼ばれる人たちの活躍の場であった（『山ノ内町誌』『沓野民俗誌稿』）。

3 山ノ内町の押型文土器の出土遺跡

現在までに確認されている山ノ内町の押型文土器を出土した遺跡は、上林中道南遺跡を除くと、北部の夜間瀬地区の山間に所在する。上前坂・坂原の両遺跡は隣接し飯盛山（1064.1m）南麓の前坂集落の上部に位置し、視界は山ノ内盆地から中野平を望む位置にあり、両遺跡は須賀川盆地に通ずる道路を挟んでいる。

遺跡はこの地の湯本重幸氏の発見で、標高は650～700mの高社山噴出物で構成される傾斜地に南面し、火山性黒色土が厚く堆積している。遺跡は小規模と推定される。

遺物は楕円・山形の押型文土器があり、高山寺式と推定される土器片がある。その他縄文前期の有尾式期の土器片が採集されている。

須賀川盆地は高社山（1,351.5m）と竜王山（1,900.1m）などの山々に囲まれた、標高約600～800mの盆地でおおよそ東高西低の地勢で、長野盆地北部の平地部とは、隔絶した別天地をなしている。

昭和35年（1960）同地の八丁原遺跡で土師住居址の発掘調査が桐原健氏らによって行われ、その際付近の表面採集によって楕円・山形・楕円と山形の複合文の三種の押型文土器が採集された。

遺跡は標高約700m地帯にあり、白沢川の南方に位置し、今は下明神遺跡として周知されている。

このように今まで知られている山ノ内町の押型文土器出土遺跡は少数で、現時点でみると、標高700～800m地帯に遺跡が立地する特色がある。

4 発掘地の地質と地層

今から約3500万年以前（新生代第三紀中新生時代）は北信地方は糸魚川～静岡の大地溝帯（フォッサマグナ・大きな裂け目）の北辺にあたり、大断層によって地殻の変動が起こり、大火山活動が活発に行われ、海水の侵入、大湖水をつくったりした。

そしてこの地域は海底より火山活動によって隆起をはじめ、志賀高原の群馬県境の大高山（2,079.4m）などはひん岩～石英閃緑岩（中新生）で、岩菅山（2,295.0m）方面の山々は、鮮新世に活動した熔岩が浸食されてできた地形であり、その他の山々はその後の火山活動による噴出物に覆われている。

深成岩で基盤となるひん岩は、横湯川・角間川、幕岩の断崖に露出し、この地域の温泉はいづれもこのひん岩から湧出している。

石英閃緑岩は角間川の潤満滝から本遺跡南方の崖に、横湯川では地獄谷上流に露出している。

魚の化石がみられる頁岩の別所層は、発哺温泉付近と、三沢山（1,504.6m）西方に小分布している。

この深成岩の上に、火山活動によって先にみた岩菅山などの火山噴出があり、柱状節理の発達した長石と輝石を含む安山岩は、当時まだ海であった長野盆地の猿丸層（鮮新世末期）に、礫岩となって堆積しており、上信越高速自動車道工事で中野市高丘地区で確認されている。

この火山活動の後、しばらく静穏の時代があり、第四紀のはじめになって、東館山などが活動を始め、最初に噴出したのは、火山灰と火山礫でできた凝灰角礫岩で、つぎに多量に噴出したのは灰白～青灰色の緻密な安山岩で、板状節理が発達している。

第四紀の中頃になって志賀下部熔岩と呼ばれる火山活動によって、旧志賀湖と呼ばれる湖ができた。この中に志賀上部熔岩と呼ばれる茶褐色～灰黒色で多孔質な安山岩の噴出活動がはじまり、志賀山・旭山などができ、火山活動は終わりをつげた。

山ノ内盆地は志賀山地から流出する横湯・角間両河川の断層の影響と、侵食によって骨格が形成されている。

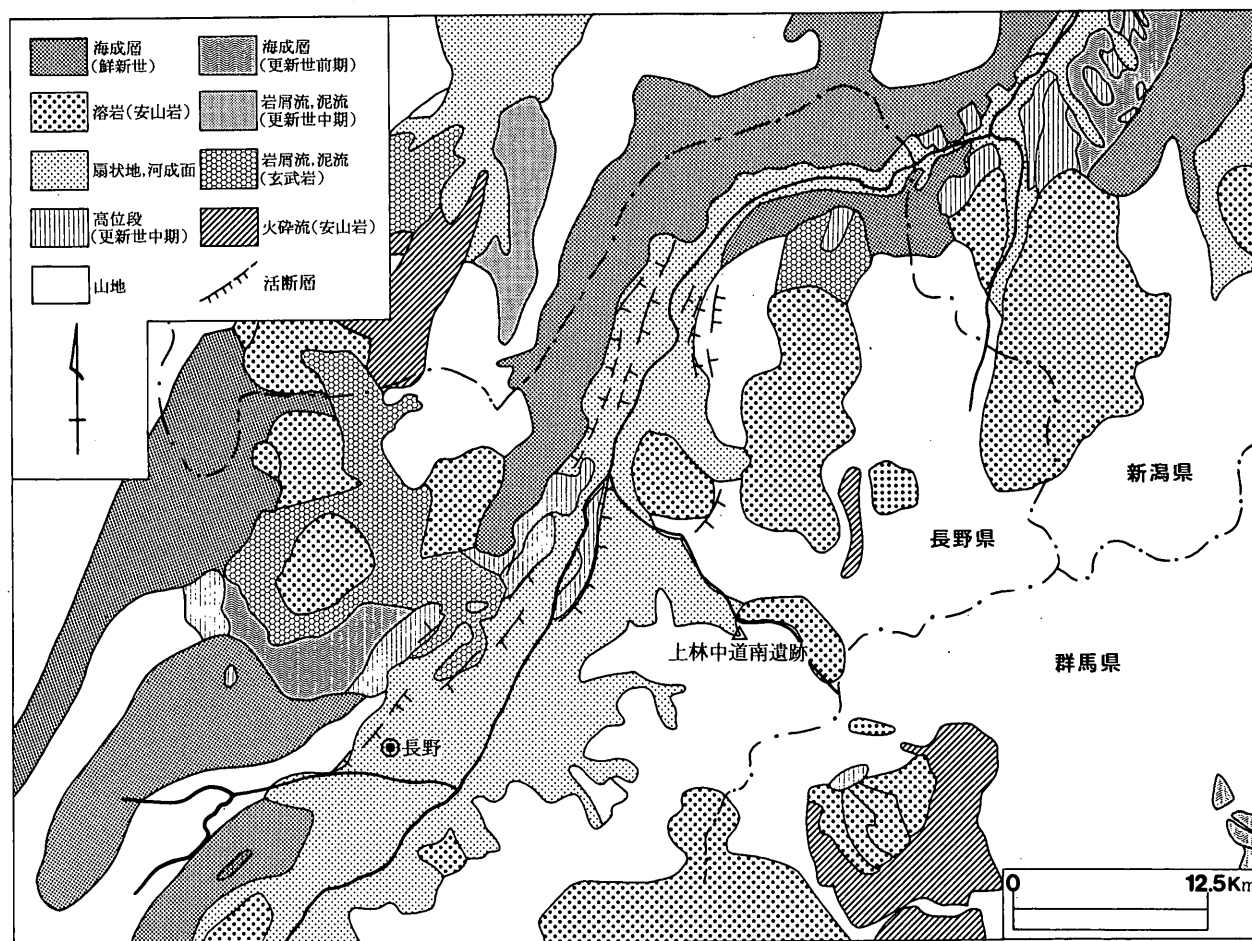
盆地は基盤岩の上に第1次埋積物による佐野面（遺跡面）がつくられ、遺跡南方の角間川からは約50mを数える。佐野面は礫層たまに細砂、粘土を挟んでおり、礫は主にひん岩と黒色緻密な安山岩の亜角礫・亜円礫で、大きいものは径1mもある。遺跡付近では崖錐性堆積がみられ、亜角礫、角礫は多くは酸化鉄の被膜があり、やや風化が進んでいる。この崖錐から竜宮川の源泉が多量に噴出している。

湯田中面は、佐野面を夜間瀬川が長い年月に侵食してできた堆積段丘である。これは遺跡下方から夜間瀬川にそってのび、中野扇状地の扇頂に接続している。

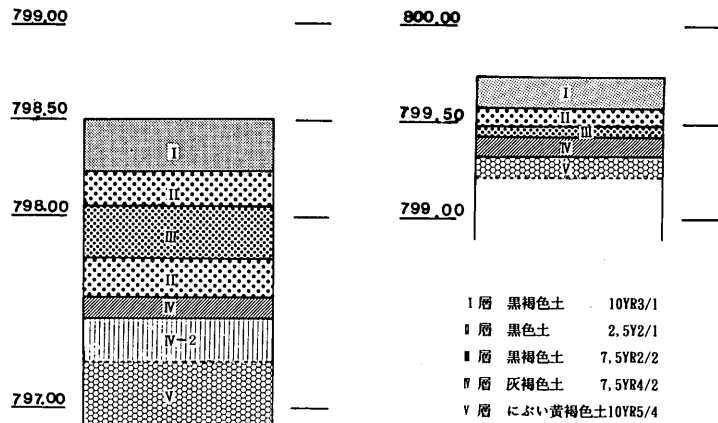
夜間瀬川氾濫原は現河床と同じ標高の流域で、しばしば洪水にさらされている。

佐野面（遺跡面）にはローム面の堆積はなく、砂礫層上の細砂は黄色を呈している。この上に黒ボク土が堆積している。

この黒ボク土の主成分は火山灰で、現在も活火山とされる妙高・浅間・草津白根山から供給されたと推定され



第4図 遺跡周辺の地質



第5図 遺跡の基本土層図

る。このうち妙高赤倉テフラ(火山灰と火砕流)は、妙高山の中央火口丘形成期のもので、直下に縄文早期末～前期の遺物があると報告されている(早津1985)。

このように前記の完新世諸火山と、最終氷期の火山の降下テフラが、山ノ内町の山間地に堆積しており、これを母材として、完新世の降灰静穏期ないし休眠期に、草木植生(ススキ・ササ)の腐植が集積して、黒ボク土が生成されたものである。

この黒ボク土の腐植物基底層の14C年代は6,000 YBPを示す場合が多いとされている。このように黒ボク土の分布は、後氷期における森林が伐採、焼畑、野火のような人為的な行為により、植生が移りかわったススキ、ササなどの分布を示している(松井1987)。

調査地Aは北に平均4度傾斜し、竜宮川沿いはやや斜度を増している。中央部は川(北)に向かう程、左右に比べて高まりをみせている。このため表土はQ20付近で表土(耕作土)6cm前後の黒色土10cmの遺物包含層で、下層の灰褐色土までに遺物がみられたが、石の間に遺物が散在し、下層の灰褐色土・砂礫・石は無遺物層となる。

これに比べて西のS29の3号住を検出した付近は表土10cm、遺物包含層の黒色土66cm、漸移層の灰褐色土10cmで、以下は砂粒からなる、にぶい黄褐色の地山層となる。しかしこの間の層には転石が多くみられた。

この調査地の基本土層は、G40の南壁に設けたもので、I層、表土(耕作土)・黒褐色土(10YR3/1)・30cm、II層、黒色土(2.5Y2/1)20cmで、III層は黒褐色土(7.5YR2/2)で、10cm前後を数え、I層下部よりIII層までが主な遺物包含層で、IV層では稀となる。IV層は漸移層・灰褐色土(7.5YR4/2)20cmである。V層はにぶい黄褐色土(10YR5/4)で地山層となり、石が多く観察された。稀にこの層の上面に遺物が検出されている(第5図)。

従前の調査地の東方は、ほぼ同じ勾配で竜宮川に落ち込んでいた。しかし発掘してみると川幅は広く、急激に落ち込んでいることが判明した。

旧川の上層は黒色土が厚く堆積し、鉄製の農工具でつけられた疵のある石が堆積する層もあり、近世以後に整地されたと推定された。

この東面のG34の土層は、1、I層表土・黒褐色土40cm、2、II層黒色土45cm、3、III層黒褐色20cm、4、II層黒色土30cm、5、IV層灰褐色土25cm、6、IV層-2灰褐色土25cm、7、V層にぶい黄褐色土、以下地山層となる。

この層序は凹地に流入した土砂の堆積状況を示しており、川底面に平安時代・古墳時代の土器片が検出され、上層から縄文時代の遺物が検出されたことと一致する。

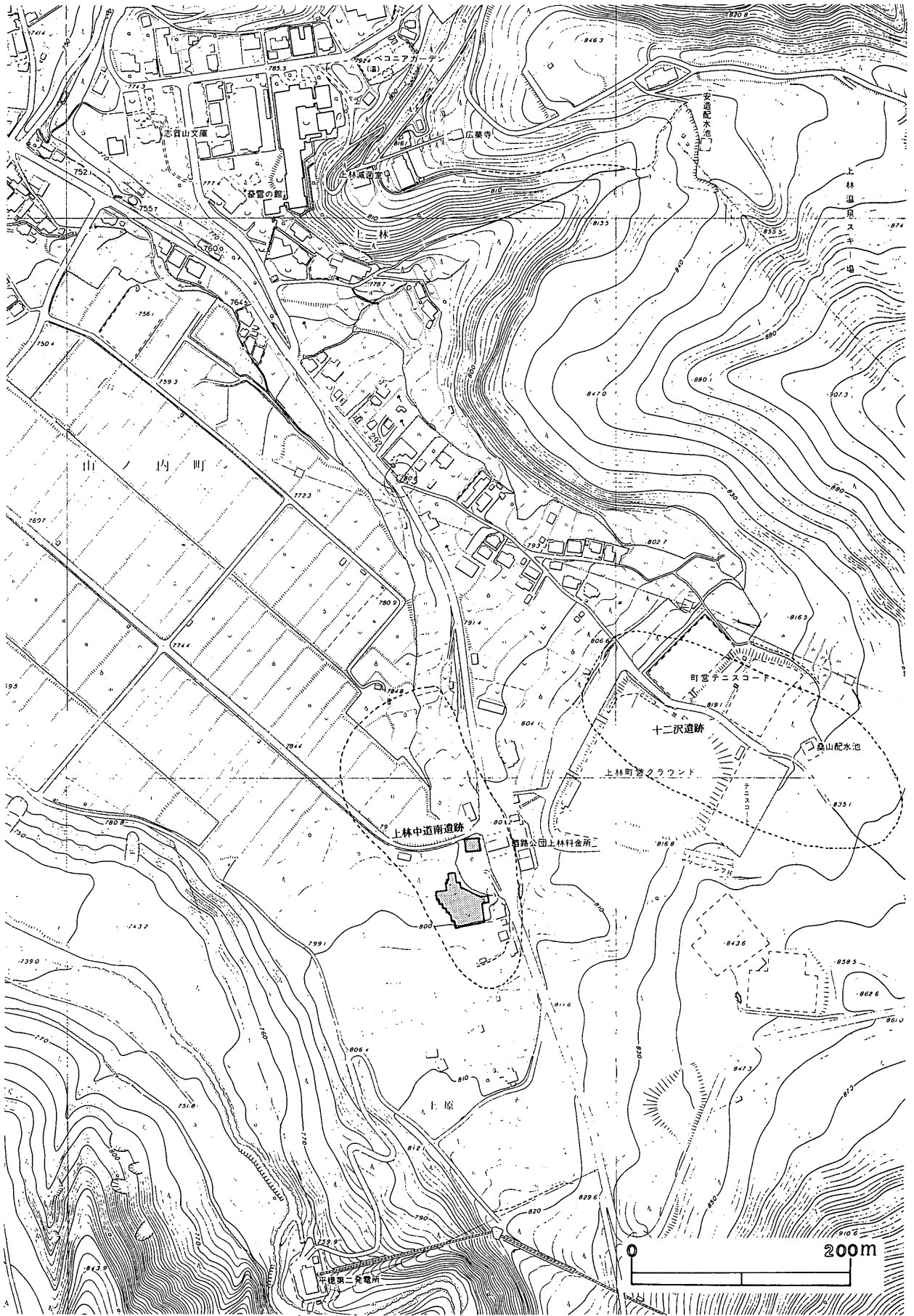
B地点は、国道292号線旧上林ゲート料金所の西側に位置する。南側は家屋建設のため破壊された箇所と、湧水のため、遺構・遺物の検出はなく、北側の528-2の畑にのみ認められた。

しかしここは15度以上の傾斜のため、黒ボク土の堆積はわずかで、加えてリンゴの栽培によって地層が攪乱され、遺構・遺物とも明確な出土層準を示さなかった。

しかし遺物の流出を考慮すると、国道とさらに上部までも、遺跡の広がる可能性がある。



東北から見た発掘調査風景、手前B地点



第6図 調査地の位置

第II章 発掘計画

1 発掘計画と経過

平成6年(1994)長野県中野建設事務所より山ノ内町に提示された「上林チェーンベース」の計画内容は、上林中道南遺跡内12,000㎡(有効面積9,500㎡)／盛土量35,000㎡盛土厚さ2～5m／用水路つけ替え／チェーン着脱場コンクリート舗装(仕上げ厚さ20cm)／規模鉄筋コンクリート平屋建、大形車、小形車用、トイレ、／工程平成6年暫定使用開始、平成8年供用開始。

となっており、平成6年10月の埋蔵文化財保護協議の結果、11月に3日間大型重機によりトレンチによる試掘調査を実施した。

この結果、遺物包蔵地は地権者の承諾を得た内の面積1,700㎡が確定した。この面積にシートを敷き盛土保護し、仮使用することになった。そして平成7年に着脱場の土砂を取り除いて、発掘調査することに決定した(上林中道南遺跡試掘調査報告書II参照)。

平成6年度の試掘調査の結果をみて、発掘調査費を策定し、中野建設事務所より山ノ内町教育委員会に委託契約がなされ、平成7年5月より発掘調査開始し、同年度中に整理作業と報告書の刊行を行うことになった。

経過

平成7年

4月20日 仮埋設土の土砂搬出工事着手

4月27日 仮埋設土の土砂搬出工事完了

5月8日 中野建設事務所と山ノ内町教育委員会で「上林地区埋蔵文化財に関する協定書」と「調査委託契約」を締結

5月8日 中野建設事務所は「平成7年度国補雪寒地域道路(防雪)に伴う埋蔵文化財発掘調査」監督員技師安藤紀彦、同副中村博を通知

5月8日 発掘調査開始

6月18日 上林中道南遺跡調査速報No.1 発行

7月5日 " No.2 発行

9月10日 現地説明会開催(参加者50名)

9月27日 現地調査終了

10月11日 山ノ内町文化センターで整理作業開始

11月30日 調査面積増による「上林地区埋蔵文化財に関する変更協定書」締結

12月19・20日 神村透講師の指導会

平成8年

3月21日 報告書作成完了

2 調査団の構成

調査責任者	小布施竹男	山ノ内町教育委員会教育長
顧問	金井喜久一郎	山ノ内町文化財保護審議会会長
	金井汲次	日本考古学協会会員 山ノ内町文化財保護審議委員

調査団長	檀原長則	日本考古学協会会員				
調査補助員	湯本栄一					
発掘作業 参加者	生玉公延	池田きよ子	岩本輝正	小淵春光	上林具親	木村 照
	児玉 勇	児玉 栄	小林あつ子	小林延秋	小林正人	小林 誠
	下田佐吉	下田公子	鈴木治子	関 右記子	関 光雄	竹節 ふさ
	谷本利夫	徳竹十成	藤井昭吉	保倉甲子郎	松本弥吉	村上 治
	望月正一	山崎行夫	山本直治	山本百合子	湯本栄子	
整理作業 参加者	池田きよ子	江戸聖世	金子丈子	小林あつ子	小林延秋	小林 誠
	鈴木治子	天間智恵美	西澤紀子	松本佳子	保倉甲子郎	宮崎 篤
	湯本栄子					
指導・助言	神村 透 (木曾郡町村会埋蔵文化財保護専門指導員)					
	中沢道彦 (長野県教育委員会)					
	賛田 明 (長野県埋蔵文化財センター)					
事務局	山ノ内町教育委員会事務局					
	岩下徳治 事務局長					
	小淵利男 局長補佐社会教育係長					
	宮崎弘之 体育係					

3 調査日誌抄

1995年

5月8日 今回新しく調査地点に編入された、桑山道南畑528-2、面積728.03m²の試掘調査をおこなう。幅1mのトレンチ5本入れた。これによると南は湿地帯で、北半分に遺構の存在が予想され、土器片1を得る。

つぎに当初計画の竜宮川西の畑の表土剥ぎに移る。中央部は南北に堆積土が浅く、旧耕作土10cm分の排土にとどめることにする。

土器片2袋採集、縄文早期から平安時代の土器片あり。テント設営。

5月9日 表土剥ぎ続行。昨日試掘した、元道路公団上林料金所西の畑も北半分の表土を除去する。表土は堆積土が深いところで30cm、浅いところで10cmを除去する。土器片1袋採集。グリット設定の準備。

5月10日 表土剥ぎ続行。グリット設定、2×2m。中野市教委徳竹氏来援。作業員は中野広域人材シルバーセンター派遣の人達が主力を占める。

東方から発掘も始める。ここは堆積土厚く、指痕文土器、押型文土器出土。

5月11日 グリット設定と発掘。縄文前期末の土器出土。北信タイムス小林記者取材。

5月12日 グリット設定ほぼ終了。発掘は雨のため、午後休み。

5月16日 E30(グリット)付近に石礫多い。G38から楕円と綾形文の土器がまとまって出土。

5月17日 G40石礫多く、石の間に土器片あり、G35の下層は土器片少なく黒土層厚い。

5月18日 G32打製石斧、H39同出土。他に早期土器、土師器片出土。耕作土(表土)剥土の厚さ、中央頂部10cm、竜宮川沿い同40cm、U30付近40~50cm、P18付近40cmの厚さである。国土調査座標にB・M設定標高798.65m。

5月19日 H39片面円礫面の打製石斧、特種磨石出土。押型文土器、中期土器、平安期土器が同じ層にあるが、

下層は押型文土器多い。G31は黒土層厚く、現在の川の流れと同じ方向に、古い川の流れが予想される。

6月2日 実測後に土器を取り上げる。発掘は特種磨石2出土、G38から押型文などの下から薄い撚糸文土器検出。黒色土から黄色土の漸移層と下の黄色土に散在していた。

6月5日 G38から太い縄目の復元可能な土器が、先の楕円と綾形文の一括土器より上層のG37との畦の部分から出土。土坑も検出。

H30に黒色土器底部と灰釉の小さな破片あり。

6月6日 I40北の土坑に珪石の剥片2あり、I39薄い縄文土器と無文の土器が漸移層の下部に検出、押型文土器より古いか？。

6月7日 G33の地表下120cmの石の上に前期縄文土器あり、K40は石の間に土器あり、下は黄色土となる。G32の東地表下1mから短刀検出、平安期土師器はさらに下にあり、150cmで砂利層となった。

6月8日 K38から楕円と太い平行線のある押型文土器出土。K31から田戸上層式土器集中し、下層に薄い縄文土器片が黄色漸移層から出土。

6月9日 発掘はL通りとなる。N27は石礫の高所にあつて、黒色土中から角丸に近い文様の押型文土器片が、集中して出土。格子目押型文の小片も検出。

6月12日 N・M31・32から平安時代住居址検出。焼土、炭片、土器片などあり、カマドは東南の中央にあり、床面中央にも焼土面があつて、カマドと炉の併用かと、思われた。

K35の石の間から楕円と平行線組合せの押型文土器出土。

6月13日 N通り掘り下げ、平安住（1号住）のプラン確認作業と実測して土器取り上げる。

G40の黄色土漸移層から薄い縄文土器と楕円押型文土器検出。

6月15日 G36の黄色漸移層から薄い羽状縄文土器5片出土。P35の上層から中期の渦巻文の土器2片出土、指圧文土器もあり。平安住断面実測。G36の薄い縄文土器と、表裏縄文土器が現在破片14、黄色漸移層から黄色土中に存在する。これらの上層にあった縄文土器は、この二種類の土器よりやや厚い縄文土器で、これも相対的には押型文の土器より下に存在した。

6月16日 G36から表裏縄文・楕円の帯状施文土器・縄文の土器検出。P通り南を掘り下げ。O36から口縁部の内面だけ縄文の表裏縄文土器検出。

6月19日 N37の前期後葉土器と田戸式土器は同一レベルから出土。山形の大きい押型文土器片がK35、P32からも出土。

6月20日 O通りに土器片が多い。平安住の2回目の実測図と、土器の取り上げ。

6月21日 Q通り掘り下げ、平安住（1号住）の実測図と土器の取り上げ、柱穴掘り。

6月22日 R23・24の黄色漸移層から黄色土に楕円押型文土器片集中。Q28から石囲み炉址検出。中期の渦巻文の土器片さらにP35から出土。

6月23日 S33に羽状縄文土器片集中する。R33（試掘ピットあり）の黒色土層に焼土面あり。発掘はR・S通りに入る。

6月26日 雨のため2人だけで土器を洗う。

6月27日 R29の上層に絡状体圧痕文土器片集中。S34の表層黒色土から、堀ノ内2式の縁帯加飾の深鉢破片と土師器検出。

6月28日 T通り掘り下げ、Q28の住居址畦をとり、掘り下げる。

6月29日 T34から縄文後期の撥形石斧出土。R33北の断面を写真撮影。元料金所西を発掘開始、E5付近に



発掘調査風景

落ち込みあり。

6月30日 E5付近を住居址と想定して掘り下げる。早期・前期・中期の土器片出土。R30から日計式系押型文土器片など8片、黄色土直上から出土。V28から楕円押型文土器片（胎土がくすんだ黄赤色、胡桃色）が黄色土5cm上から出土。

7月3日 雨のため土器洗い。

7月4日 雨のため午前中だけ土器洗い。

7月5日 土器洗い、午前中に山ノ内町の教育委員など文教関係者の視察があった。

7月7日 T・O通り発掘。2号住の柱穴掘り、写真撮影。

7月10日 B地点（旧料金所西）の発掘、北に拡げる。他は前日と同じ、写真、実測図、土器取り上げ。

7月11日 VとW通り掘り下げ、U23・24に石列あり、B地点の遺構埋没土を取り除き終わり、実測後土器を取り上げる。調査速報NO2できる。

7月12日 雨で休み

7月13日 V・W通りの南の掘り下げ、J通り上下に別れて掘り下げる。

7月14日 午前中雨のため、土器洗い。J通りは南に土器片が多い。

7月17日 J40は土器片が多い。G36矢羽根状の縄文前期後葉土器片は、黒土層下40cm、早期土器同60cm、下層の黄色土漸移層に表裏縄文土器片18、帯状施文の楕円押型文土器片1を検出。K35に楕円状集石あり。

7月18日 B地点の畦を除去。W27楕円押型文土器片ほか16。S33縄文後期土器片あり、周辺は石が多く敷石遺構に注意する。

7月19日 B地点の畦取り外し、W26に条痕文土器片28。I28に条痕文土器片22。J26から横刃型石匙出土。J25列石の溝遺構検出。

7月20日 W22・23・24、X22・23に条痕文土器片、石と砂利層の下の黄色土上の漸移層中に検出多い。J通りは川まで発掘終わる。

7月21日 午前中発掘と実測、土器洗い。午後は雨のため休み。

7月24日 Y23原表土下80cmに薄い縄文土器片ほか2片あり、漸移層に小砂利が多く見られる。縄文早期の生活面か。グリットによる発掘ほぼ終了する。

7月25日 東南より畦の発掘に移る。B地点の遺構、円形の集石を実測して土器を取り上げる。

7月26日 畦を大ブロックにして残す。G32・31付近は、弥生時代以前は竜宮川の流路で、川が後退し黒色土約1.6m堆積する。鬼高式系土器片（椀）が旧川底面から30cm上から出土する。

7月27日 B地点は最終の写真撮影と実測。G31の旧川底面から平安期の土器片多数出土。

7月28日 畦の発掘続行する。H39に円形の土坑検出。旧川の洗い場の遺構の存在に注意する。

7月31日 I28に打製石斧検出。H28の旧川の川砂上に、鉄鎌と打製石斧破片を原地表下1mに検出する。発掘した川底はほぼ平坦であった。西方の字上原261の山林に幅1mの試掘坑を入れる。

8月1日 畦の発掘と、旧川底の発掘。現川に沿って赤土に石灰混合の防水用？の土層を検出。

8月2日 畦の発掘と実測、写真撮影。

8月3日 畦の発掘と実測。N30から石錐、剥片石器出土、P29から特種磨石出土。

8月4日 O23から特種磨石出土、S28から横刃型石匙出土、Q35に同一個体の条痕文土器片多く検出する。

8月7日 畦の発掘、W33付近土器片多く検出。

8月8日 畦の発掘、実測と土器の取り上げ。

8月9日 2号住の北の畦の発掘、実測図作成、写真撮影。

8月10日 2号住南と西に条痕文の土器片多数あり、その北と西の畦発掘する。

8月11日 T28付近とO～U30付近土器片多い。田戸上層式土器片の下に、山形と楕円押型文の土器片があり、下の漸移層に表裏縄文土器の小片を検出。H39の土坑の黒色土中に無文土器あり。

8月17日 G38の土坑に楕円押型文土器片11、西南に羽状縄文土器片が炭片とともに、黒色土中に検出。土坑の規模は直径1m、深さ1mで円形である。H39の土坑の黒色土中に石あり、中に焼けた石と、土器片3あり、規模は直径1mで深さは未調査。

8月18日 前日調査した土坑付近の実測、旧川底の黒色土は泥に近いもので、砂礫層上に黒色土器など土師片多い。砂には鉄分沈着。列石の観察する。

8月19日 調査団15名で上越市総合博物館に文化庁主催の新発見全国出土遺物速報展を見学する。

8月21日 I28の旧川底の砂上に土師椀底あり、O36～U36の南の漸移層に山形押型文ほか早期の土器多数あり、前回とりあげた土器から、黒色土と石の厚さが約30cmである。

8月22日 Q～U36から南側の掘り下げ、前回検出の土器より20～30cm下の漸移層上の層から田戸式土器片出土。R38から黒耀石の石鏃出土。L～P35から北も掘り下げる。

8月23日 O～U31から南を第3回の掘り下げ、Q35から黒耀石の鋏形鏃が漸移層上から出土。

8月24日 前日に同じ箇所、土器片は東に多い。東は土のみ、西は砂利の混じった土層。S33で表土より1m下から土器出土。

8月25日 北へO～U26まで最終回の掘り下げ。U30に住居址の一部検出。T30I楕円押型文土器片と下に表裏縄文土器片あり。

8月28日 O～U26南の発掘終わる。T・U30の黄色土上に住居址検出、土器片は縄文・燃糸文（小片）・楕円押型文・条痕文など13片、ただし周囲にもある。S29・30に溝状の土坑検出、土器は燃糸文・縄文など20片。

8月29日 西側の山林、字上原259（C地点）の試掘調査、幅1.5mのトレンチを入れる。H39の土坑に石と前期の羽状縄文土器片あり、中層に黄色土（覆土か）あって底と周囲は黒色土で埋まっていた。

8月30日 C地点の掘り下げ、O～U29付近に土器集中する。午前中に町議会文教委員の遺跡見学あり。

9月1日 C地点の発掘と雨のために土器の整理。

9月4日 Q25付近の掘り下げ、実測を続行、土器洗い。

9月5日 前日と同じ作業、檀原は山ノ内町の県文化財パトロールを行う。

9月6日 前日に同じ作業。

9月7日 U30付近の住居址（5号住）直径3.25m、その北の上層に無文土器と、帯状山形押型文（樋沢式）土器片があり、下の漸移層に表裏縄文土器片が17検出。その東のR30の土坑内にも同種表裏縄文土器片があった。

9月8日 土器洗いと現地説明会の準備、U29付近に住居址確認、表裏縄文土器片が漸移層に多く、黄色土中には僅かあり。特種磨石検出。

9月10日 午前中遺跡現地説明会、山ノ内町文化財審議委員会長金井喜久一郎先生ほか40数名参加する。

9月11日 本日より作業員少数となる。土器洗い、W26付近の土器集中箇所発掘、溝状遺構に土器片多数、楕円押型文土器片が漸移層上にあり、無文・捺糸・縄文土器片は、漸移層と一部は黄色土上層にあった。

9月12日 W24付近まで拡大して掘り下げる。土器洗い。

9月13日 前日の箇所の実測と土器上げ、全景の写真撮影。土器洗い今までの取上げ分終了。

9月14日 W26付近の溝に土器片10検出。実測続行。

9月18日 1号住の再点検。土器洗い、実測続行。

9月19日 実測続行。集石の検索と掘り下げ。

9月20日 実測続行。

9月21日 実測続行。

9月25日 実測続行。1号住西の黒色土と漸移層の間に無文土器片検出。

9月26日 断面図作成。検索箇所の掘り下げ。

9月27日 全景写真撮影、補足の測量、テントの撤収、現地調査終了。

10月11日から山ノ内町文化センターで整理作業開始。

1996年3月30日、報告書刊行

〈余録〉

上林中道南遺跡の発掘作業に参加して

縄文の土器現れて若葉風
梅雨晴れ間平安時代の家の跡
地底から湧きてたごとく青蛙
積み上げし表土に夏草生い繁る
木苺を摘みて昼餉を豊にす
しばし昼寝杉の林に風とおる



遺跡に現れたかもしか

太古から涸れることなき清水汲む
泉から秋立つ風の吹きおこる
土器標す竹串に蜻蛉またとんぼ
遺跡原縁を飾りて女郎花
鬼やんまつがいで翔べり遺跡原

鈴木治子

第Ⅲ章 調査の結果

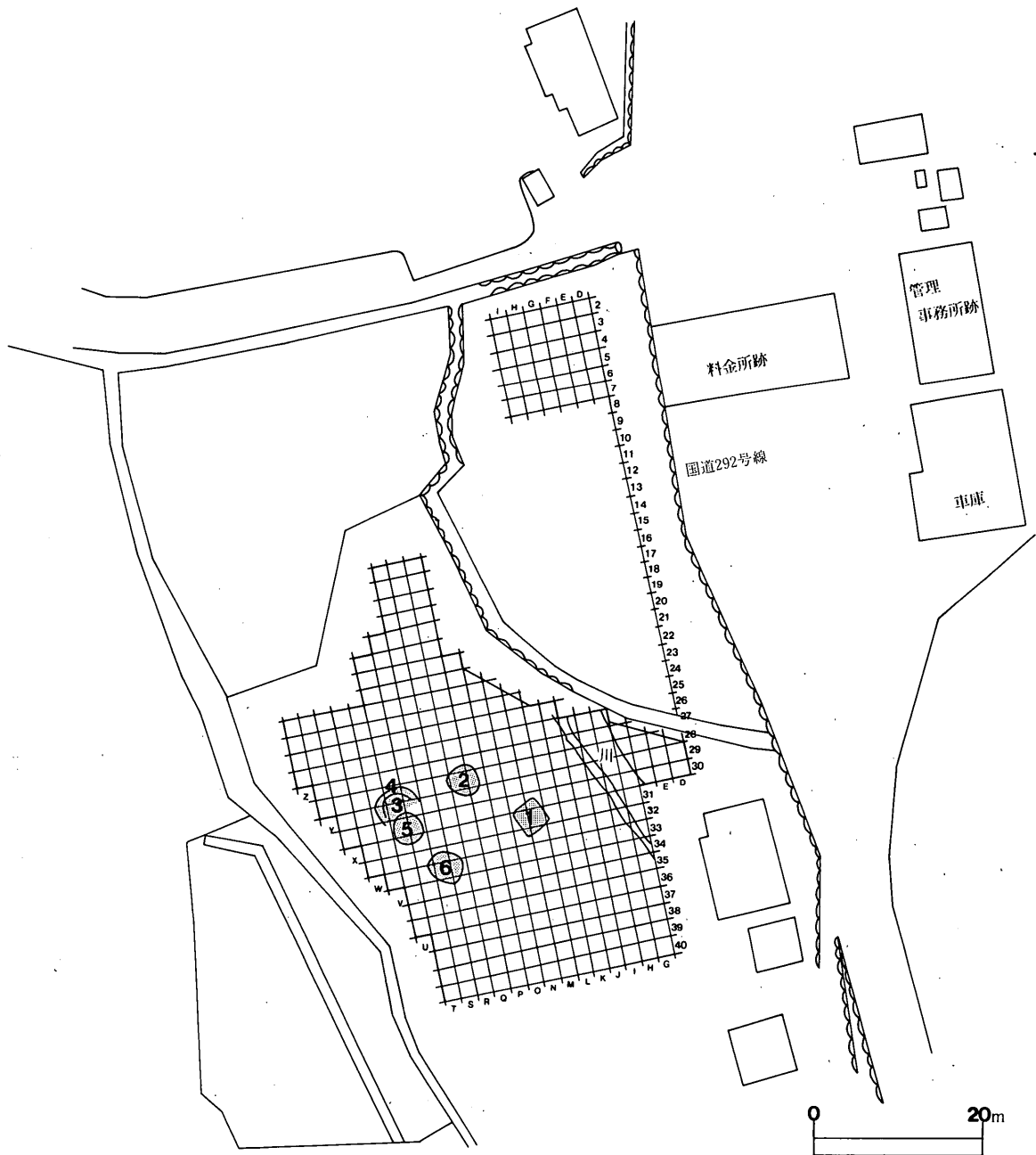
1 遺 構

(1) 縄文時代

a 遺構の概要

今回の調査で検出された土器や石器・鉄器の年代は、縄文時代草創期から中世に及んでいる。しかし検出された住居遺構は、縄文草創期～早期の住居址4、前期と推定される住居址1、平安時代の住居址1となっている。

土坑の遺構は8基で時期は早～前期のものである。溝状遺構は、草創期～早期1、中世以後のもの1となっている。



第8図 調査グリッド設定図

早～前期の集石と列石と推定された多くの遺構は、表層以下に自然の石が多く存在したため、明確に確認できない面があった。

この時期の集石遺構と列石遺構は合計15箇所ほど確認されている。

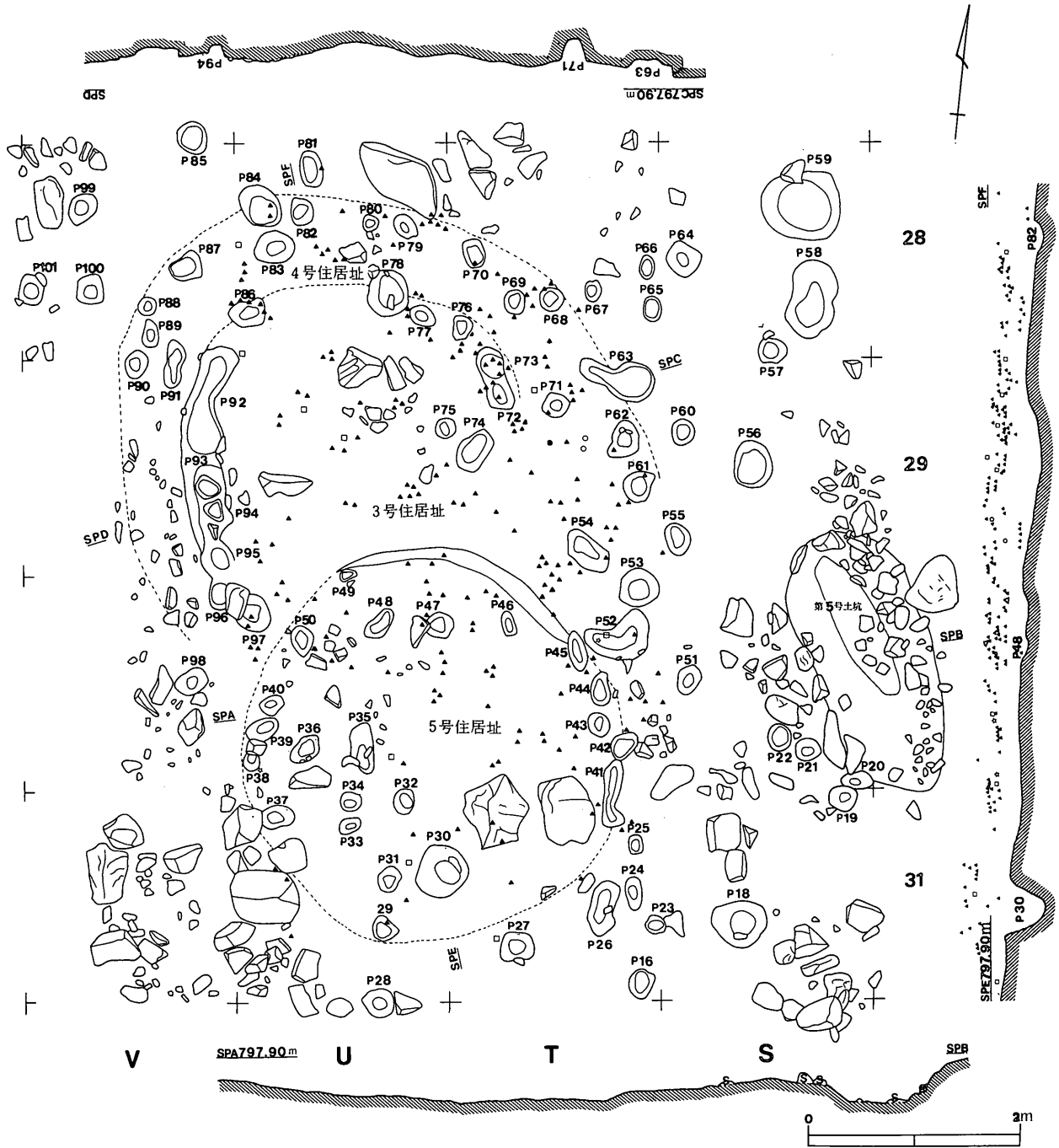
さらに中世以後の整地のためと思われる集石遺構と、溝状遺構も確認されている。

また竜宮川にかかわる水場遺構もあり、古代末以降に急速に埋没していた。

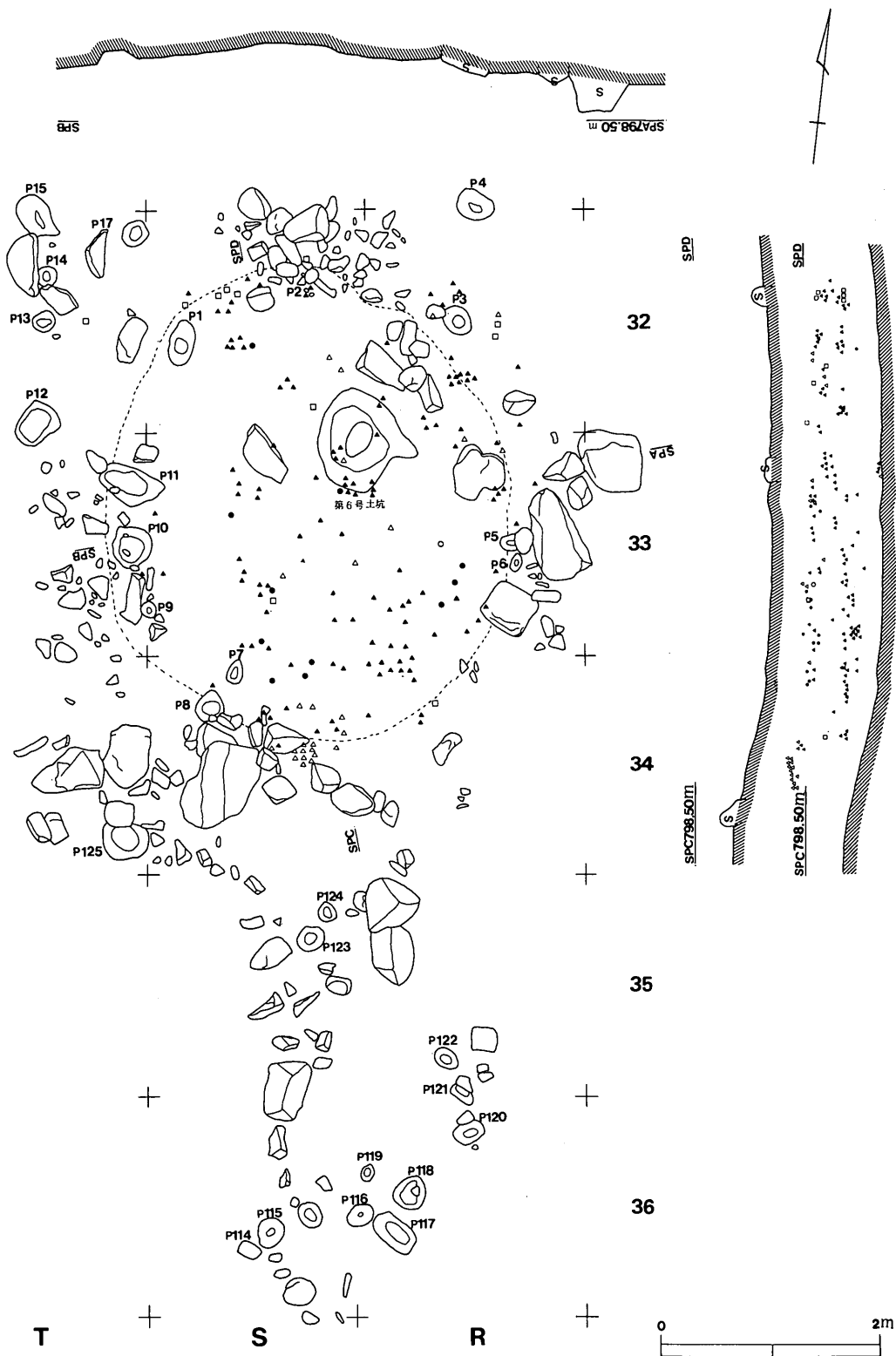
b 遺構

〈3～6号住居址〉(第9図) U28～31を中心として確認された住居址で、検出された土器などから、時期は草創期～早期のものと推定される。

住居址は石礫の多い中央部をさけて、その西方の石の少ない箇所に営まれている。しかし住居址内には転石な



第9図 3～5号住の遺構・遺物



第10図 6号住の遺構・遺物

ども見られた。また屋内からは炉址や、焼土は確認されていない。

ほぼ円形を描く柱穴と、落ち込みによって、住居址の規模を推定した。3・4・5号住は複合しており、3号住は直径3m強で、明瞭なプランは確認されていない。周囲の柱穴はP73・74・76~78・86・92~97と、P47~50が重複している。

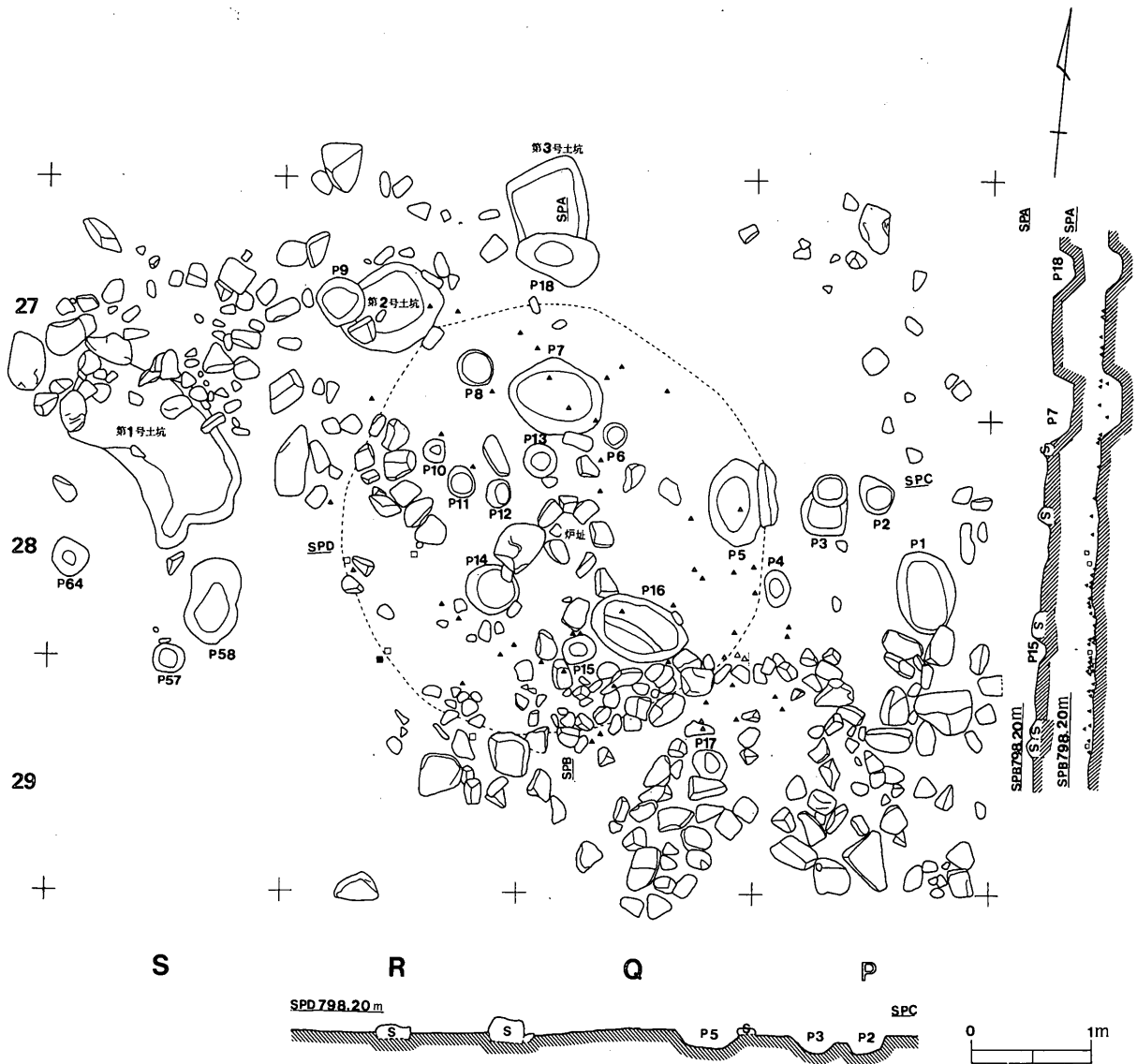
4号住は3号住を同心大に拡大した住居址で、直径5m前後の規模と推定される。柱穴はP54・61~63・68・70・79・80・82・84・87~90と推定され不整な円形である。

5号住は3・4号住の北に検出され、南側に落ち込みがみられた。柱穴はP25~27・29・37~40~48・50で円形に近く、直径3.5mほどである。

これらの3・4・5号の住居址の柱穴は、確認面の数値で直径20cm前後、深さ10~20cmのものが多く見られた。

この住居址の柱穴の在り方から小屋組を想定復原すると、比較的細い闊葉樹の下方の側枝は落とし、梢は残したまま柱材として使用し、この柱材の高さ1.5m前後のところより、半円形に折り曲げ、周囲の柱も同様にして、左右の梢を一緒に結わえて、半円形の屋根を構築するものである。

これは積雪に備えるなどのほかは、室内の支柱は必要としない構造である。柱は細木を横に何段か回し結わえ



第11図 2号住の遺構・遺物

で固定し、カヤなどを屋根・壁（兼用）に被覆して完成させる住居址と考える。

近年までこの地方でみられた、山仕事などに一時的に造られた休み小屋に同種例があり、短時間に少ない労力で、比較的丈夫な住居が出来上がる特色がある。

この5号住居址の東に8号土坑、西には7号土坑が伴っている。

〈6号住居址〉（第10図）S33付近から検出されたもので、P1～11で円周し、直径3.5m前後の円形のプランの住居址で中に土坑6がある。

上層から縄文後期土器、そして前期土器などがみられるが、相対的に下層から早期土器が検出されている。

さらにV26付近から検出された第1号溝の西に柱穴102～113まであり、付近から表裏縄文土器などを検出した。このため住居址の検出につとめたが確認するまでに至らなかった。

〈2号住居址〉（第11図）中央に7石で囲む炉址が検出された。しかし加熱の跡は顕著ではなかった。支柱穴はP5・13・14・16の4本で円形のプランは土の色と石の存在によって判断した。

炉址の面から推定すると、黒色土の中に床面があり、柱穴の検出には困難な面があった。

プランはほぼ円形で直径3.5m前後の規模と推定される。土器は主に床面の下層から検出され、縄文早期土器が多い。しかし住居址の時期は前期の所産と考えたい。

〈土坑1～3〉（第12図）2号住の北西に連なるもので、1号はS27～28、2号はR27、3号はQ27にあり、いずれも不整形で深さは40cm前後を測り、1・2のように片側に石のみられるものがある。

また2・3のように柱穴状のものと同様なものもある。

〈土坑4〉（第12図）この土坑はH39にあり、プランは円形で直径105cmを測り、深さは65cmである。中に埋まった土・石のなかに（第12図27）の特殊磨石と前期の土器が検出されている。

さらに、土坑内の中層以下の埋没土が貯蔵物を被覆したような層序の堆積を示していた。

〈土坑5〉（第12図）土坑4の東3mG38から検出された土坑内で、長径1.5m、短径1.4m、深さ60cmを測る。しかし底部の中心が東にふれており、元は直径1.3mの土坑と考えられる。

〈土坑6〉（第12図）S32・33の6号住の中の土坑である。長径90cm、深さ30cmの不整楕円形を呈している。

〈土坑7〉（第12図）5号住の西60cm、W・V31の土坑で、直径1m前後、深さ25cmの円形を呈する。底は石で平面をなしていた。

〈土坑8〉（第12図）5号住の東1.5mの土坑で、長さ2.5m、幅1.1mの長楕円形を呈し、深さは中央で30cmを測る。東と北は石が貼り詰められており、この中に（第58図28）の磨石があった。

〈集石と列石〉（第13図）図示したもののほかにM37付近の比較的大きな石の集石、Q36付近の同種のもの、J32付近の同種のもの、M・N24の同種のものなどがある。

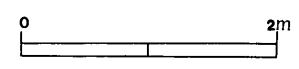
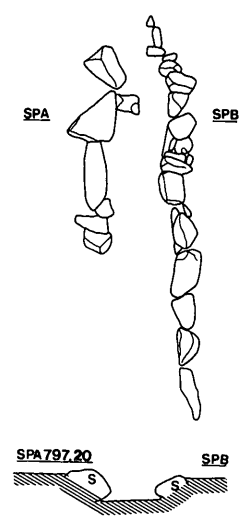
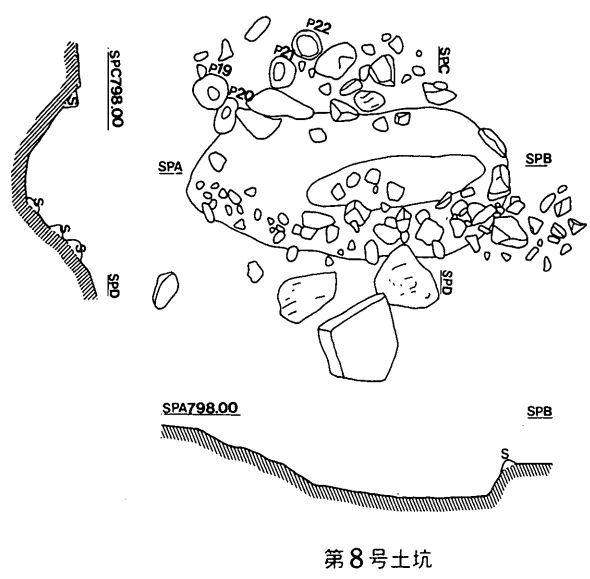
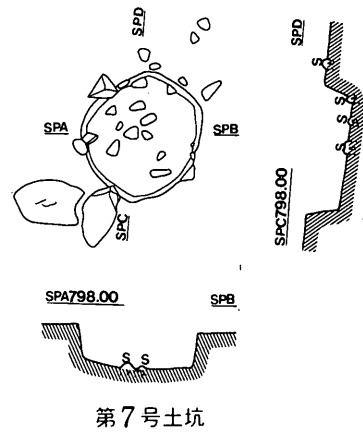
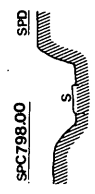
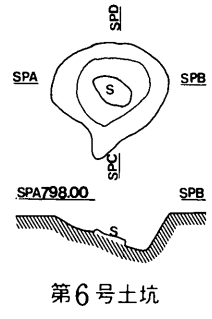
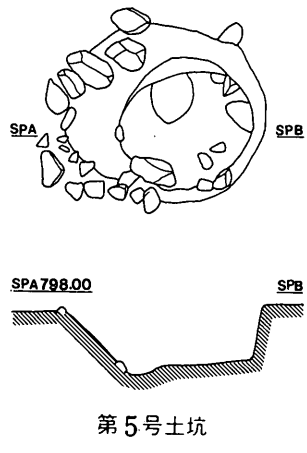
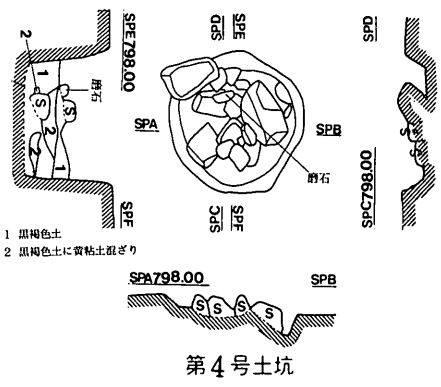
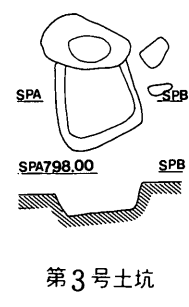
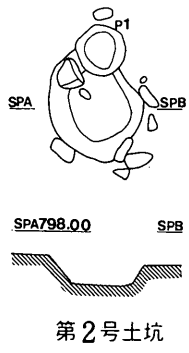
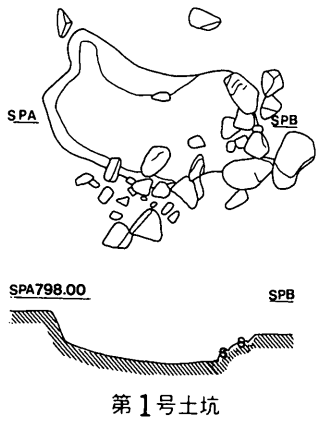
列石では1号住の北、M29から連なるもの、U24の石の間にみられるもの（第13図12）、S26付近のものなどが注目される。

第13図1の集石の調査では、内部から遺物・遺構が検出されず、単に石の集積に過ぎないことが分かった。3と6では内部に落ち込みがみられたが、特に性格のわかる遺物は検出されていない。

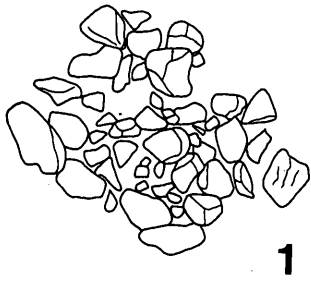
以上のことからここでは図示や指摘にとどめて、築かれた時期や、性格は今後の検討にゆずりたい。

〈溝状遺構〉（第14図）V25～27から検出された、第1号溝は、南北に延びた最大幅70cm、深さ30cmを測る。人為的な面の少ない遺構のようで、傾斜地の雨水による働きによって造られたとみられる形状をなしている。

しかしこの付近の発掘では小粒な砂利が漸移層（IV層）の上に薄くみられ、古い生活面ではないかと、推定して発掘にあたったことと、住居址の項の終わりに触れたように、この溝の西にみられた、柱穴群の遺構との関連



第12図 土坑・溝の遺構



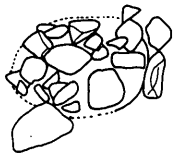
1



2



3



4



5



6



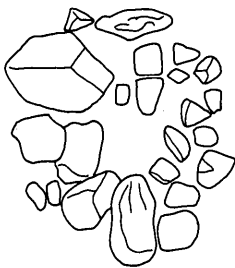
7



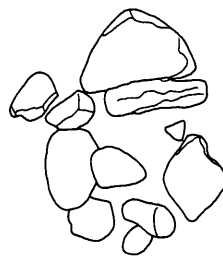
8



9



10



11



12



13

第13図 集石遺構



第14図 溝・柱穴の遺構

もあり、この遺跡の最古の土器群と、思われるものが多く検出された地点でもあるからここに取り上げた。

この溝の周囲からは、表裏縄文土器と、縄文土器片が検出されている。これらの土器は図示した「表裏縄文土器～縄文土器」の1, 14, 18, 21, 25, 26, 32, 49, 58, 59, 67, 75, 85, 89, 90, 91, 95, 99, 112, 119, 122, 123, 125, 126, 128, 132, 135～7, 153, 158, 179, 201, 202, 211, 213, 222, 233, 241, 258, 270, 271, 275, 278, 284, 290, 295, 300, 301, 306, 307, 310などが黒褐色土（III層）から漸移層（IV層）に多く検出され、一部は黄褐色土（V層）にも包含されていた。またI層からIII層までに多く検出された押型文系土器は、39, 40, 109, 173, 222, 224, 294, 304, 324, 327などで、沈線文～条痕文系土器は57, 67, 74, 110, 196などである。これらの土器の出土状態を示したのが第24図Cである。

このようにこの溝状遺構は、草創期以後の土器の出土位置を知る上でも重要である。

(2) 平安時代と以降

a 遺構

〈1号住居址〉（第15・16図）1号住居址はM31を中心に所在し、北には国土調査用起点ベース（今回は測量のB・Mに使用）が設置されていた。

発掘された水場から8mほど離れた中央の高所に営まれた住居で、埋没土が浅く、耕作によって大きく破壊さ

れていた。

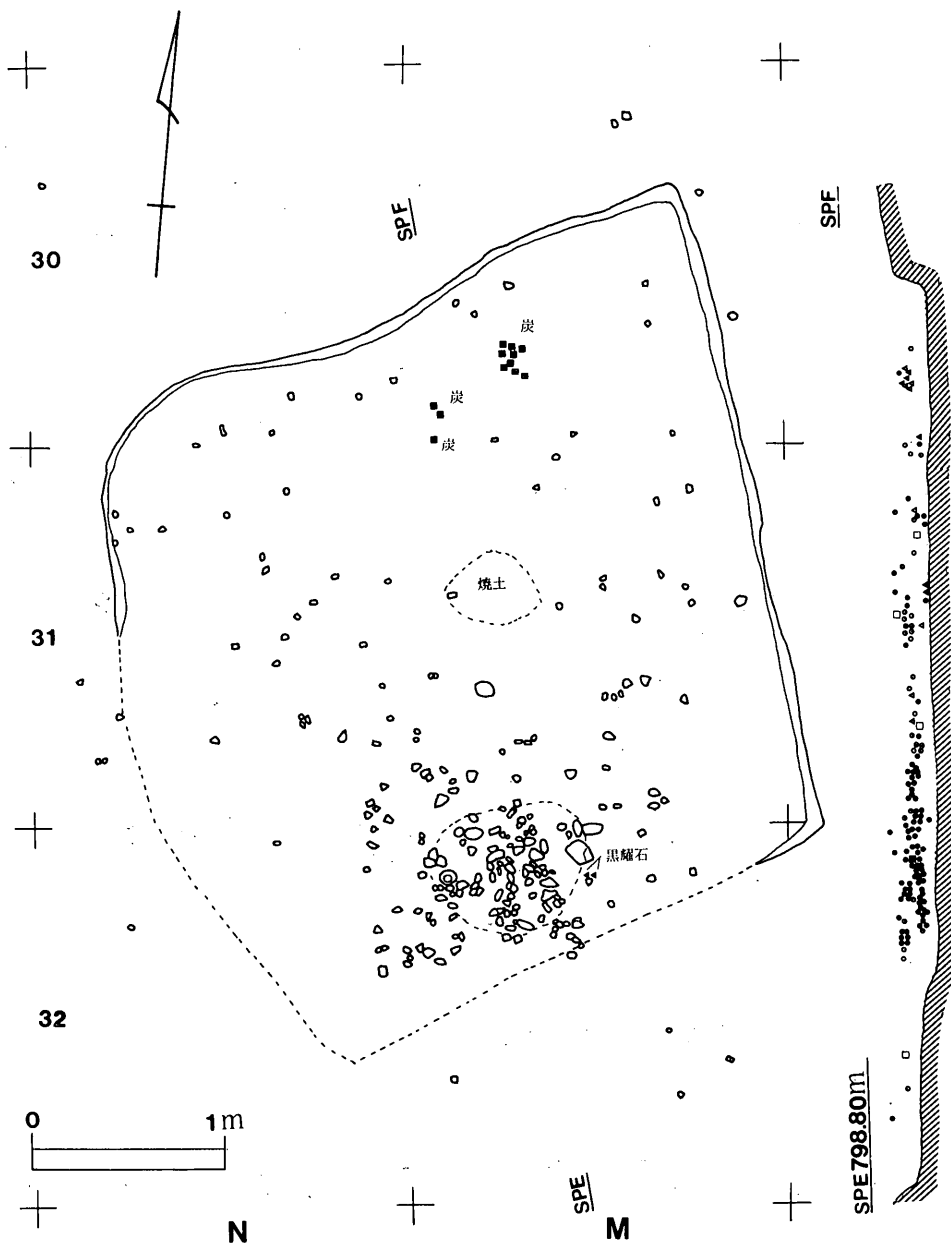
1辺3.5mの方形住居址で、柱穴が4基（P 1～4）検出された。しかし周囲の壁などの構造は、正確に知ることができなかった。

中央南には石芯のカマドがあり、回りに坏・椀・小型壺・甕（第64図6～8・10・20・23・24）が破砕していた。

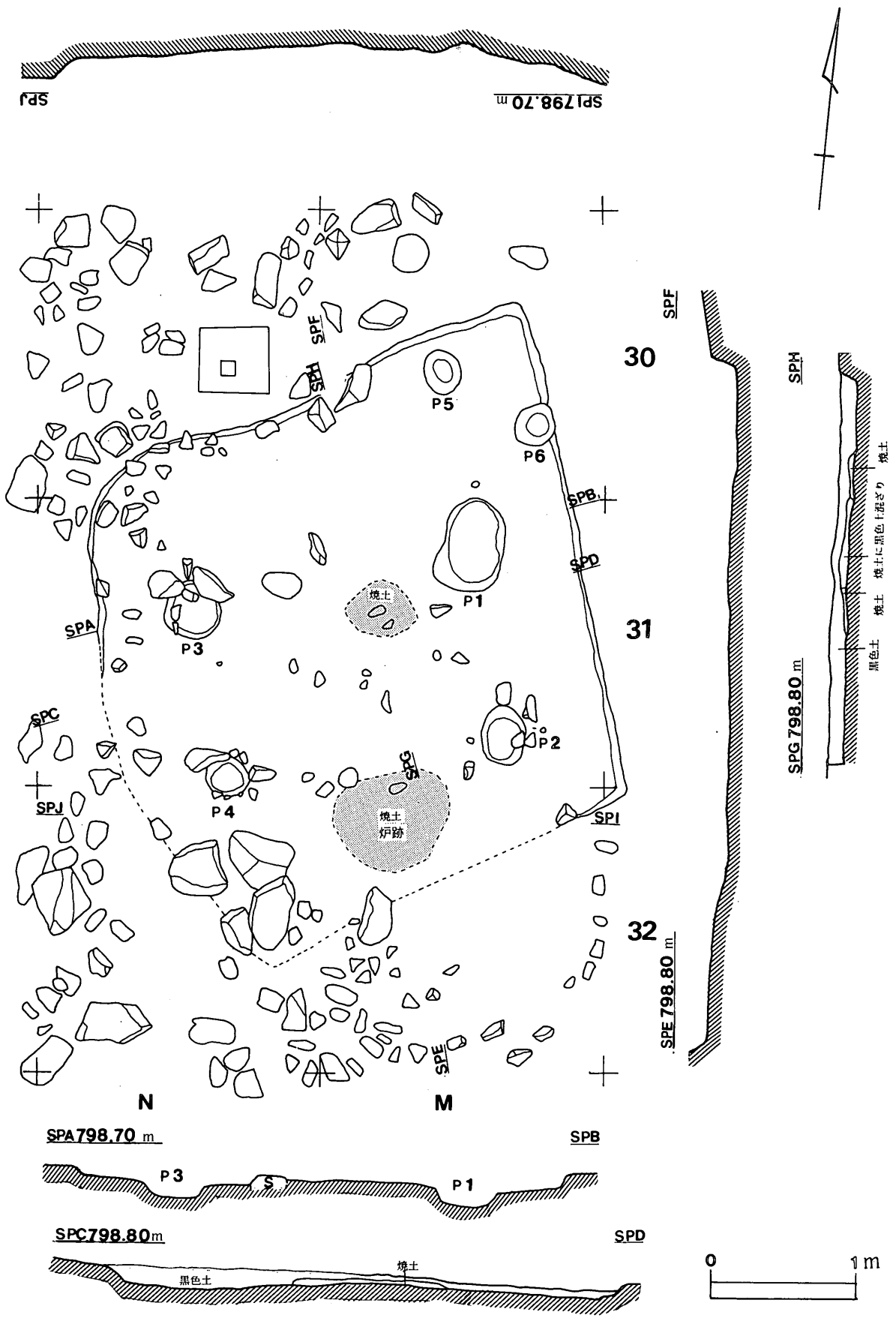
これらの土器に、周辺から検出された、同期の土器を加えて観察すると、坏では、黒色土器とロクロ成型のままのものがある。甕の下半部がケズリ成型されている。少量だが灰釉陶器が見られるなど、平安時代IV期後半、11世紀代の所産と思われる。

床面には縄文早期・前期の土器も散在し、炭の破片も多くあった。住居址の規模は焼けた土の広がりで推定したものである。

またカマドの焼土のほか、中央部に焼土があり、暖炉（イロリ）と推定した。これが正しければ、カマドから



第15図 1号住の遺物



第16図 1号住の遺構

ビット 番号	グリット	住居 番号	図	ビット 番号	グリット	住居 番号	図	ビット 番号	グリット	住居 番号	図
1	M31	1		6	Q28	2		16	T31	3	
2	M31	1		7	Q27	2		17	T32	4	
3	N31	1		8	R27	2		18	S31	5	
4	N31	1		9	R27	2		19	S31	3	
5	M30	1		10	R28	2		20	S30	4	
6	M30	1		11	R28	2		21	S30	5	
1	P28	2		12	R28	2		22	S30	3	
2	P28	2		14	R28	2		23	T31	4	
3	P28	2		15	Q28	2		24	T31	5	
4	P28	2		16	Q28	2		26	T31	3	
5	Q28	2		17	Q29	2		27	T31	4	
				18	Q27	2		28	U31	5	
								29	U31	1	
								30	U31	3	
								31	U31	4	
										5	



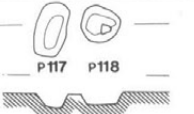
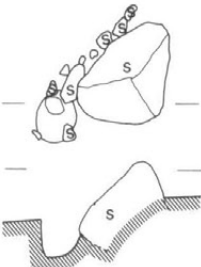
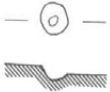
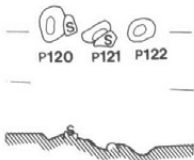
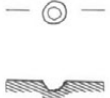

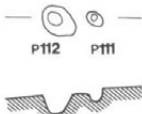
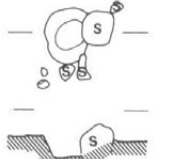
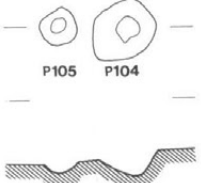
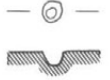
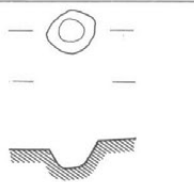
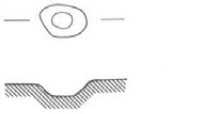
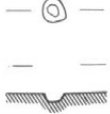
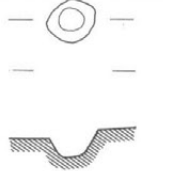
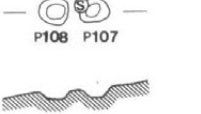
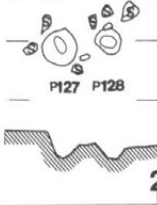
第17図 柱穴実測図(1)


ビット 番号	グリット	住居 番号	図	ビット 番号	グリット	住居 番号	図	ビット 番号	グリット	住居 番号	図
32	U31	3 4 5		49	S29	3 4 5		61	T29	3 4 5	
33 34	U31 U31	3 4 5		50	U30	3 4 5		62	T29	3 4 5	
35 36	U30 U30	3 4 5		51	S29	3 4 5		63	T29	3 4 5	
37	U31	3 4 5		52	T30	3 4 5		64 66	S28 T28	3 4 5	
38 39 40	U30 U30 U30	3 4 5		53 54	T30 T29	3 4 5		65	T28	3 4 5	
41	T30-31	3 4 5		55	S29	3 4 5		67 68 69	T28 T28 T28	3 4 5	
42 43	T30 T30	3 4 5		56	S29	3 4 5		70	T28	3 4 5	
44	T30	3 4 5		57	S28	3 4 5		71	T29	3 4 5	
45	T30	3 4 5		58	S28	3 4 5		72 73	T29 T29	3 4 5	
46	T30	3 4 5		59	S27	3 4 5		74 75	T29 U28	3 4 5	
47 48	U30 U30	3 4 5		60	S29	3 4 5					

第18図 柱穴実測図(2)

ピット 番号	グリット	住居 番号	図	ピット 番号	グリット	住居 番号	図	ピット 番号	グリット	住居 番号	図
76	T28	3 4 5		89	V28	3 4 5		3	R32	6	
77 78	U28 U28	3 4 5		90 91	V28-29 V28-29	3 4 5		4	R31-32	6	
79 80	U28 U28	3 4 5		97	U30	3 4 5		5 6	R33 R33	6	
81	U28	3 4 5		98	V30	3 4 5		7 8	S34 S34	6	
82 84	U28 U28	3 4 5		99	V28	3 4 5		9	S33	6	
83	U28	3 4 5		100	V28	3 4 5		10	T33	6	
85	V27-28	3 4 5		101	V28	3 4 5		11	T33	6	
86	U28	3 4 5		1	S32	6		12	T32	6	
87	V28	3 4 5		2	S32	6		13 14	T32 T32	6	
88	V28	3 4 5		92 93 94 95 96	V29 V29 V29 V29 V30	6		15	T32	6	
								114 115	S36 S36	6	
								116 119	S36 S36	6	

第19図 柱穴実測図(3)

ピット 番号	グリッド	住居 番号	図	ピット 番号	グリッド	住居 番号	図	ピット 番号	グリッド	住居 番号	図
117 118	R 36 R 36	6		103	X 27			109	X 25		
120 121 122	R 36 R 35 R 35	6					110	X 25			
123 124	S 35 S 35	6					111 112	X 25 X 25			
125	T 34	6		104 105	X 26 X 26			113	X 25		
				106	Y 25			126	V 25		
102	W26-27			107 108	Y 25 Y 25			127 128	V 25 V 25		

0  2 m

第20図 柱穴実測図(4)



発掘調査風景

イロリに、生活の場が移り変わる、中間の様式を示す住居址である。

〈水場〉A調査地のG35から北は、竜宮川に沿って急激に落ち込んでいた。調査前にはほぼ同レベルで推移していたので、予想外であった。

この埋没した川砂層の上から鉄鎌や、平安時代の土器が多く見つかったことから、古代末ころから埋没が開始されたと推定され、黒土層が最大95cm堆積していた。したがって、ここでの川幅は、現在の護岸工事によって狭められた2～3mの幅に比べて、10m以上に広がったと、試掘調査以後の調査によって確認している。

G32・33の川縁の石2個は、上が平で長さ1mもあり、ここから北は川底が水平で、長さ約14m、発掘の幅5mである。

この水場の中には石が配列されており、上には先に記した黒ボク土が厚く堆積していた。発掘によって復元された南側の川辺からは、縄文早期の土器は、ほとんど検出されず、前期の土器と、多量の平安時代の土器であった。このことから発掘した水場の遺構は、平安時代以降のものである。

しかしながら縄文時代にも多量に湧出する清水を利用して、イワナ・ヤマメなどの淡水魚の飼育や、生け贄としての利用が想定される。また樹皮のさらし、堅果類の表皮の除去、山菜の保存処理など、食料の調製にこの水場が利用されたことは容易に想像される。

これらの手段は平安時代の山地居住民にも継承されたとみたいのである。

2 遺物

(1) 草創期～早期出土土器の概要

上林中道南遺跡の縄文時代の土器は草創期後半、約1万年前の回転縄文系土器に続く、表裏縄文土器と、本遺跡の漸移層から地山層の黄褐色土に検出された金雲母・石英を含む器壁の0.4～6cmの縄文土器から始まっている。押型文系土器は立野式系から始まって、樋沢式系の山形文土器がまとまって見られ、細久保式系に至って、多くの異形押型文土器があり、復原した土器もある。この異形押型文の在り方は、この遺跡の押型文期後半の特色をなしている。これらには各地との交流を示す多くの押型文土器があり、この分析によって、押型文期の中心地とみられる、近畿地方と、中部山地の実態が明らかになることが期待される。

沈線文土器（貝殻文沈線文系土器群）は、関東地方の撚糸文系土器群に続く土器群で、長野県では関東地方などの編年を援用して、分析が進められている。この遺跡では、沈線文土器群は押型文土器群と、一部重複して存在している。胎土・文様などの共通性をさぐり、共存の在り方を探りたい。

さらにこの地方では、初見とみられる細沈線文土器もあり、今後さらなる検討が待たれる。

条痕文土器（貝殻条痕文系土器）は、沈線文土器に後続し、その型式の一つの鶉ヶ島台式の土器が1984年の調査で、まとまって出土している。今回の調査ではそれに続く茅山下層式併行と、推定される特色ある土器が、検出されている。

そのほか、早期に属する縄文地文に爪形文、縄文地文に沈線文、細沈線文などの土器がある。

絡条体圧痕土器は、1984年の調査でも確認されたが、今回も確認されている。この遺跡でも各種のものが存在することが判明した。

これらの早期末の土器群には、系統と所属が今後の検討課題の土器もある（草創期～早期縄文系・撚糸文系土器図1～322）。

(2) 草創期末～早期 表裏縄文・縄文系I群土器

〈1類土器〉 表裏縄文土器で内面の下部まで施文された土器である。

1類土器の多くは、内面に指頭圧痕が認められるものである。胎土に金雲母と石英粒が目立ち、暗褐色～赤褐色の土器が多い。

確認された土器は、小さな破片が多いため、胴部の内面施文は、不確定な面がある。

また、縄文のみの土器では、破片資料のため図示したものには前期のものが混在している可能性もある。

1類土器は器厚が0.5～0.9cmの範囲にあり、口端（唇）部の形態がa種、カマボコ状のもの（2・13・19・29）、b種、尖ったもの（1）これはカマボコ型の端面に両方から縄文を押捺したものである。c種、平のもの（16・23・25・263）で、以上はすべて口端部に縄文を押捺している。d種、外面に尖ったもの（5・17・24・27・28・31・32・34・50）などで、34は縄文押捺によって平坦面をつくっている。縄文施文は異方向のものが多く、内面は斜位～横位である。

口縁部は直立するもの（27）は少なく、中位に外反するもの（1・21）などで、強く外反するもの（2・5・6）などがある。

また（20）は無節の縄文で内面は、横位、斜位の施文があり、表面の輪づみ接合部に上部と下部に施文されている。底部は（120）の丸底のみ確認されている。

これらの土器群は長野県内では、信濃町日向林遺跡・東裏遺跡、飯山市小佐原遺跡、南佐久郡北相木村栃原岩陰遺跡、高森町増野川子石遺跡と、群馬県石畑遺跡にみられる土器で、関東の撚糸文系土器群の井草Ⅰ・Ⅱ式に併行する土器で、表裏縄文を施文し、草創期的な整形を継承している。

口唇部文様帯の縄文押捺は1方向と、2方向から行われ、口縁部文様帯は外面横位に縄文施文される13・26・28の口唇部が尖頭状のものは、古い様相を示している。

〈2類土器〉表裏縄文土器で、a種、内面口縁部のみに縄文施文もの（22・30・260）、しかし破片のため、全容は不確定である。口唇部に縄文押捺があり、器厚は0.4cmと薄く、口縁部が強く外反する。

これらの土器は裏面文様帯・口唇部文様帯を1類土器から継承し、井草式の影響により口縁部が強く外反し、口唇部縄文押捺の見られる22・30・260などの土器で、表裏縄文土器終末の三枚原段階（標式遺跡・木島平村三枚原遺跡）の土器と推定される。

〈3類土器〉器厚が0.6cm前後でa種、縄文施文が表面のみのもの（57・59・60・67・80・91・92・126・127・153・158・196・206・258）などである。すべて無節の縄文を施文している。

b種 単節縄文が外面のみに施されている（73・74・77・86）ものである。

なお、これらの土器は破片のため、所属時期の確定が難しいが、1類土器に属する可能性がある。

〈4類土器〉器厚が0.5cm以下の薄い土器である。

a種 単節縄文が施され、金雲母・石英粒がみられる（62・63・65・70・71・93・98・198・199・279・286など）。199は縄文施文が異方向にみられる。これらは2類土器の胴部破片の可能性もある。

b種 器壁に金雲母・石英粒の見られない土器（53・81・113・183・224）で、岩石粉末の白色の細粒が混じっている。

焼成は軟らかくa種とは異質の土器である。

以上の土器群がⅣ層灰褐色土層を中心にして相対的に多く出土した土器である。

(3) 早期撚糸文系土器とその他

撚糸文土器を一括した。

a類 撚糸文が縦位のもの（51・136・227）などで、胎土に繊維痕は見られない。51は夏島式土器に類似する。

b類 撚糸文が横位で胎内に金雲母と石英粒が多量に見られるもの（229）。胎土は立野式に類似する。

c類 撚糸文が横位で繊維痕の見られないもの(231・238・245・247・249)である。231は口縁部に施文し、238その他は帯状施文で、胎土が樋沢式系の山形押型文に似る。

d類 撚糸文が横位で繊維痕のわずかに見られるものは(235・239・240)である。

これは押型文土器の細久保式期の信濃町塞の神遺跡に出土例がある。

(4) 早期押型文系土器(1~331)

a 押型文系Ⅰ群土器

立野式土器である。先述の撚糸文土器と2片だけである(242)。器壁の厚さ0.7cm、単節縄文、金雲母と石英粒が多い胎土である。

b 押型文系Ⅱ群土器

樋沢式押型文系の土器を一括した。器形は口縁が僅かに外反し、口唇部は平らなもの(2・6)、カマボコ形(3・4)、内部に緩く傾斜するもの(7)などがある。いずれも施文後に口唇部が成型されている。胎土に繊維痕、金雲母を含まず、石英粒がごく少量で、白色の岩石粒がみられる堅い焼成の土器を指標とした。

a類 山形文の土器(第39図1~56、ただし16を除く)で帯状施文されている。

a種は横位の山形文で、鋭角のもの、角が円いものなどいろいろなタイプがある。

b種は縦位の山形文で(40)だけである。

b類 楕円押型文の土器で横位の帯状施文のもの(242・169・244)がある。169と244は同体で口唇部は平である。そのほか胎土の観察により、口縁外面が2度施文された、楕円文全面施文の(208・221・228・233・241・250・253・255・264)の同体の土器と、補修孔のみられる(185)などが該期のものと推定される。

c類 太い線の綾杉文の土器(269・274)も樋沢式に属すると思われる。

d類 縄文施文のもの(撚糸文は前述)

破片資料で確定できがたいが、(第37図縄文243・244・246・256)の帯状施文のものがある。いずれも単節の斜縄文で、胎土に白色粒を含む。

e類 短線文・縦線文・柵状文とよばれる文様の土器(図294~297)で、器壁はにぶい橙色で、繊維はなく、混和材も僅かである。

297は口縁端部が外傾し、僅か0.5cmの空白をおいて施文している。295の施文原体は長さが不明で、直径0.7cmの円棒に9条の縦線をいれている。

この柵状文は岡谷市樋沢遺跡(会田ほか1987)、北佐久郡望月町平石遺跡で検出され、平石式とされている(福島1989)。

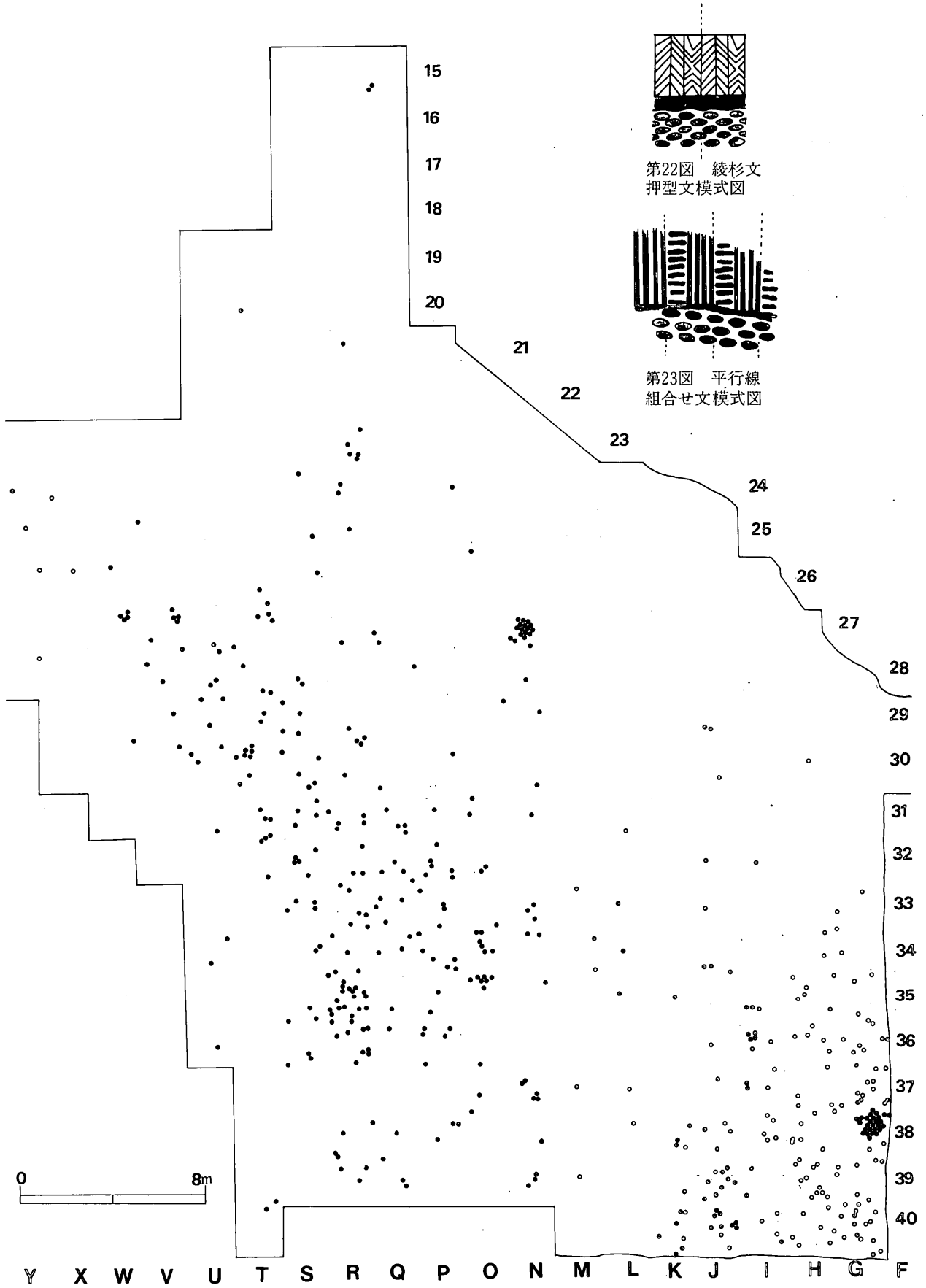
柵状文の土器は樋沢遺跡では、上層出土で細久保式とされている(『長野県史』1988)。あえてここではこの段階に含めたのは、土器のもつ属性から、少なくともこの遺跡でみる細久保式の範疇には入らず、樋沢式の新しい部分として考えた。

f類 格子目文の土器(298~300)は2個体で、298と299は同体で胴下半部の破片である。円弧状に施文されている。300は器壁が0.4cmの薄い土器である。

c 早期押型文系Ⅲ群土器

諏訪市細久保遺跡の押型文土器を標式としている(松沢1957)。楕円文や山形文の密接施文が特徴とされている。

北信では信濃町塞の神遺跡の調査により、異形押型文の存在が注目された(笹沢・小林1966)。この異形押型文の遺跡は、長野県の伊那谷から諏訪湖周辺の地域や、同県の北部、伊豆半島の付け根あたりに比較的遺跡が集中



第21図 押型文土器の分布

している(片岡1988)と、指摘されている。

この土器には、貝殻文沈線文系土器群に先行するとされる、東北地方に核のある日計式の土器の影響が考慮される。この日計式系の土器は、新潟県妙高山山麓より発見されている(小島ほか1992)。これは南限の報告例かと推察される。

しかしこの地方までの波及の過程で多くの変容を受け、細久保式段階の多くの異形押型文に影響を与え、細久保式文様要素に日計式文様を導入し、受容、同化したものと言える(小島1992)。

またこの時期より繊維痕のみられる土器が多くなって来る。本遺跡の日計式系の影響の受けた土器にも砂粒と繊維が含まれ、白色粒も見られる。

d 異形押型文土器

A類 平行線(状)文の土器(304~331)

この内、楕円文と組合わさるのは、(304~307・310~312)の土器である。このうち乾燥の進んだ状態で施文されたか、楕円文のまとまりを欠くものは(304・306・307)などがある。

1種 322はX24の漸移層から出土したもので、山形文から平行線文に変容し変化したものとする、中間的な様相を示している。

2種 307の平行線文は直線状で、U字状を呈し、中は無節の縄文のような痕跡がある。

3種 326は棒状工具で引かれたようであり、施文具は一様でない。

破片で平行線文のみの土器(313~331)は横位のものが多く、口縁部破片は口縁部外反のもの(316)、直立のもの(317)などである。さらに縦位のもの(327)、斜位のもの(320)、底部付近の破片(321)などである。

これらの平行線文土器は妙高山麓松ヶ峯N O 237遺跡、新潟県卯の木遺跡、飯山市北竜湖遺跡から出土し、2種に類似している。

B類 V字状文(292・293・301)

V字形が交互に組合わされた文様で、原体の両端が平に切断され、器面に段を作らない。楕円文は横位の細長い、小さな楕円文で、同種は236などあり、214は口縁部破片で293と、235は292と同体と思われる。

C類 連続菱目文(302・303)

陽刻の山形文を向かい合いに彫って、菱目にしたもので、この地方では飯山市トノ池南遺跡出土例があり、新潟県卯の木遺跡では連続菱目文土器が60%を越えているという。小破片のため不明だが、303は卯の木式の胴下半部の可能性がある。なお、(81)の楕円文と複合山形文が施文された土器は、この卯の木式土器と思われる。

D類 平行線組合せ文(216・276~281~284)

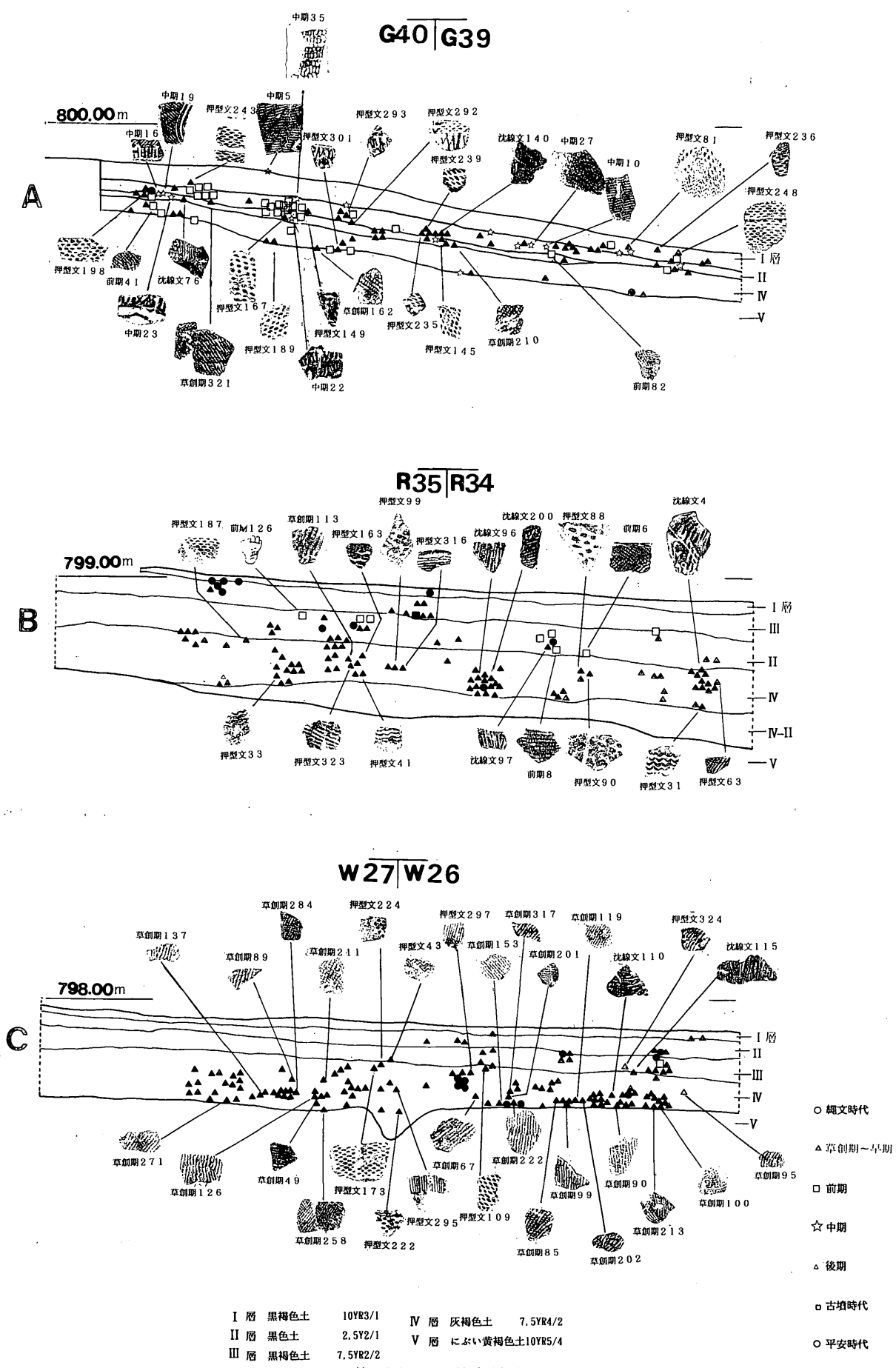
楕円押型文と組み合わせでみられる文様で、縦位4条の条間に、横位の短条を10条?配している。県内では初見のものである。

しかし、ほぼ類似する文様は塞の神遺跡にもある。また破片は全部が属性の違うもので、今後の類例の増加が期待される。

E類 綾杉状文(267・269・271~275)

検出された綾杉状文には施文幅の広いもの(269・274)があり、いずれも横位に施文されている。269は器面剥落して詳細は不明である。274には楕円文が見られる。

267と273、272と275は同体の土器である。これらの土器は楕円文があり(271は不明)、長方形の狭い区画に繊細な綾杉文を縦位に刻んでいる。272と275は、綾杉文を連続して施文し、原体の長さは2.2cmで、器壁の厚さは0.8cm前後である。



第24図 土器検出断面図

267はG37・38からまとまって出土したもので、沈線文系として図示した191の復原土器よりやや下層から出土した。

胎土には繊維がやや多く見られ、かまぼこ形した口縁端部と直口縁で、楕円文と綾杉文を交互に施文している。底部は失われて無い。原体の先端は丸く、長楕円文(長さ0.7~8cm、幅0.2cm)は、交互に横一線に並ぶ、直径0.9cm、長さ2.6cmの丸棒の原体と推測される。

綾杉文は2区画が一組である。1区画は幅1.1cm、長さ2.2cmの長形区画内に7単位の矢羽根状文がある。1区画は0.7×2.2cmの区画内に、山形状文4単位を中央から逆方向に配している。

この2種類の文様は密接に施文された部分と、無文帯をなす部分が見られる。

F類 複合山形文(62・63~67・69・70・72~74・76・79・80・82・217・136・143・150・198・213・218・243・248など)、ほぼ当該期のものと思われる。

これらの土器は胎土にあまり顕著に繊維痕は見られない。山形が直角に近いものが多く、鋭角のものは(64・65・73)などで、鈍角なのが(59)である。

楕円文と組合わされるものは、(76・79・270)である。

62は原体長さ4cm、直径1.2cmの陰刻円棒の施文具と推定される。なお、65は日計式系の土器に多い文様である。

G類 台形文(78・286~291)

288と290を除いて楕円文と組合わされている。繊維の混入は僅かで、長石類の砂粒がみられ、焼成の堅い土器である。

この台形文は、山形状の文様列に長楕円文を組み合わせたものと考えられる。

この山形状の文様と、F類の62の複合山形文は類似しており、とくに291とは胎土その他で、親近性がある。細久保式の古段階の所産かと思われる。

同種の出土例は、長野県大原遺跡、百駄刈遺跡、浜弓場遺跡、栃原岩陰遺跡、静岡県平井御堂山遺跡、神奈川県夏島貝塚などで出土している(片岡1988)。なお『長野県史』(1988)では栃原岩陰遺跡例を樋沢式としている。

e 押型文系IV群土器

高山寺式系または、同時期と推定した押型文土器をまとめた(83~85・87・88・90・93~96・98・101・103・127・157・162・170・240)。

和歌山県高山寺貝塚を標式とするこの土器は、静岡県東部から西日本に多く分布し、当然、南信方面に多く北信は少ない。

器壁厚く繊維を含み、粒径1~2cmの粗大な楕円文(小形と大形の菱形文)が乱雑に施文され、内面に斜行沈線が施される特徴がある。

この遺跡では内面の斜行沈線の土器は確認されていない。器壁の厚さは0.8cm~1cmで、繊維を多く含んでいる。

この遺跡のもっとも高山寺式に類似した土器は、

1種 83・84の土器で、器壁内部が黒褐色を呈し、施文が浅く粗雑である。

2種 96・98・170・240は、にぶい褐色をした土器で、円形に近い楕円文の土器である。

96には、施文具軸の尖った端部痕が観察される。

3種 95・101・103・127・162の土器は、同体または、同種と推定され、にぶい赤褐色の土器で、形の崩れた円形に近い楕円文である。

以上の2者の土器も押型文期後半の在地系または、それに近い土器と推定される。

f 楕円文土器とその他

細久保式の特徴は横位密接に押型文を施文する特徴がある。土器の形態は口縁部が外反し、胴部下部が膨らみ、底部は乳頭状な尖底である。

文様は山形文・楕円文が主体的に存在し、このほか縄文や捺糸文がともなうと思われる。また、篋状工具による沈線や、押型文原体による刺突がみられる(守谷1994)。

以上のような定義に従えば、提示した楕円文の横位密接施文の土器に、多くの類例があり(117・136・143・150・198・213・218・243・248など)、ほぼ当該期のものと思われる。

しかし口縁部は横位に胴部は斜位または、縦位に施文するものがある。168も同様に口縁部は横位に、胴部は縦位に施文されている。

180の土器の胴部は、斜位に施文され、また、112・128・141の底部に近い土器は縦位に施文され、後者は底部が、乳頭状ではなさそうである。114(146と同体)・118の土器は、胎土に繊維の見られない土器で、楕円文は不規則な方向である。

以上あげた土器は細久保式期の土器と思われる。しかし分析が不完全で前段階の土器などや、隣接する他地方から、流入した可能性の高い土器などが含まれる可能性がある。

g 押型文系V群土器

相木式と推定した土器である(16)。近畿地方では、穂谷式土器と呼ばれるもので、栃原岩陰遺跡で、最上層から検出された押型文土器である。

相木式系土器と推定した、押型文土器は器壁に多くの繊維、長石類の砂粒、白色粒のみられる土器で、縦位に山形文を施文している。

(5) 早期貝殻文沈線文系I群土器

三戸・田戸下層式併行土器

細久保式押型文期に関東・東北地方に沈線文系土器群(竹之内式・三戸式)が成立したといわれる。この土器は中部山地にもたまたま発見されている。この地方でも中野市大久保遺跡、木島平村三枚原遺跡などで発見されている。

この遺跡の三戸式併行土器と推定されるのは、(23・24・43)の土器である。

器壁に繊維はなく、7～8mmの厚さで、含有する石英粒・白色粒は微粒である。

内面は磨研され、表面は幅2～3mmの沈線が斜状に施文されている。

9の土器は胎土に繊維のほとんど無い土器で、器壁は6mmで、鉄分粒・白色粒を含み、黒燐石の小破片がみられる。口唇部は外削ぎ状で、補修孔もみられる。文様は口縁下の沈線間に三角文、下の沈線は放射状である。

(6) 早期貝殻文沈線文系II群土器

田戸上層式併行土器

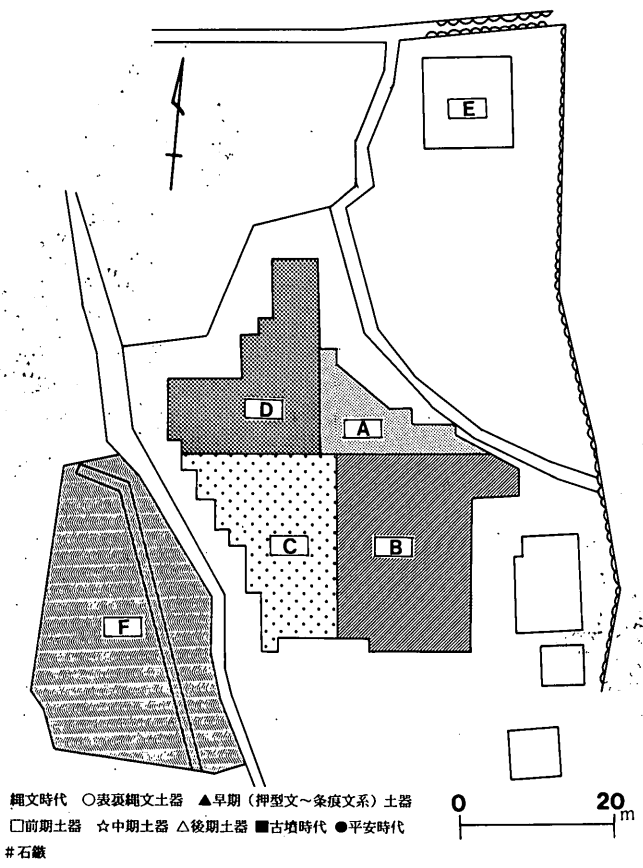
a類 本群とした土器は胎土に繊維が含まれている。しかし僅かのものもある。幅2mmの沈線文で、平行線(19・28・30・36・85)、斜平行線(11)、三角文(11・14・22・26・27・38)などを描いている。

8の土器は器壁が8mmで繊維を含み、黒雲母が目につき白色粒も多い。口縁端部は外そぎ状である。

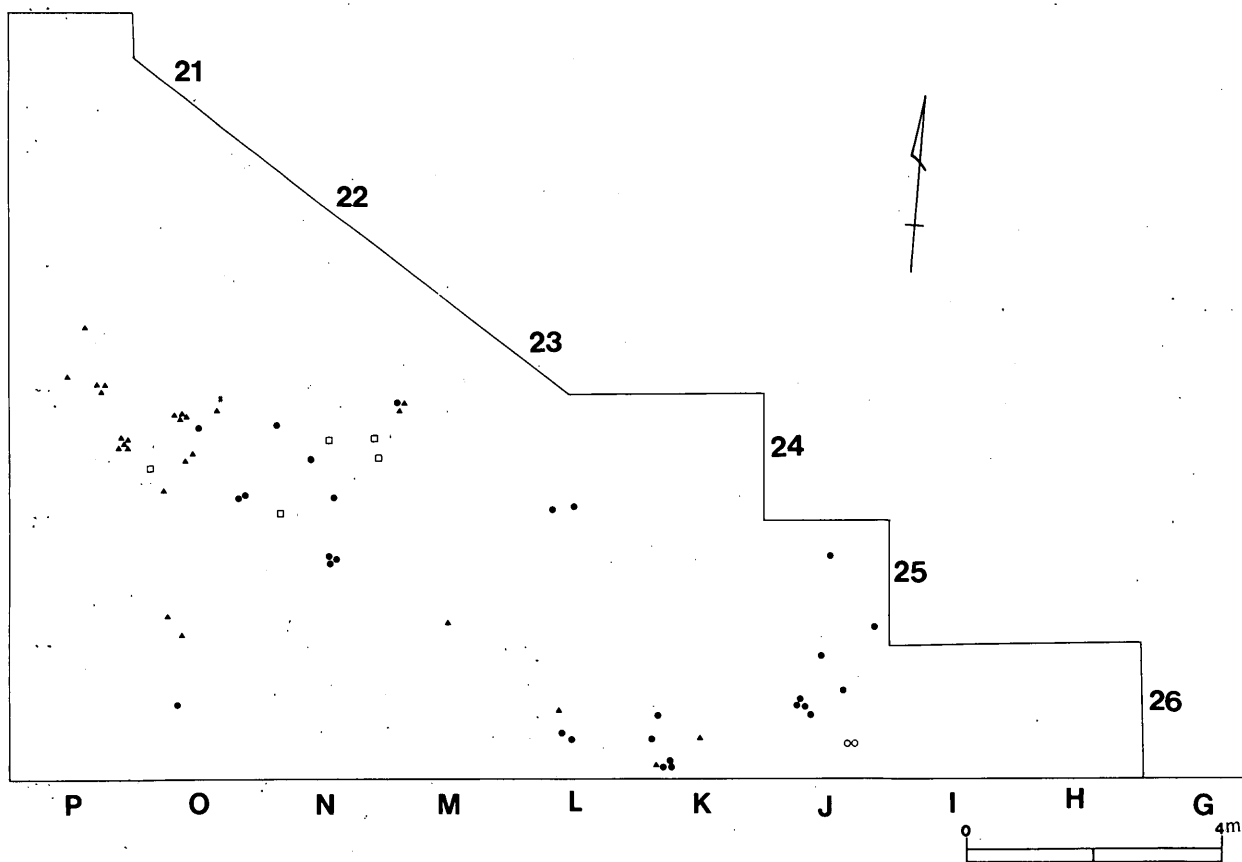
沈線は平行線・弧状などを描いている。

11の土器は器壁が8mmで繊維痕、白色粒がみられる。文様は三角、斜状、平行などである。

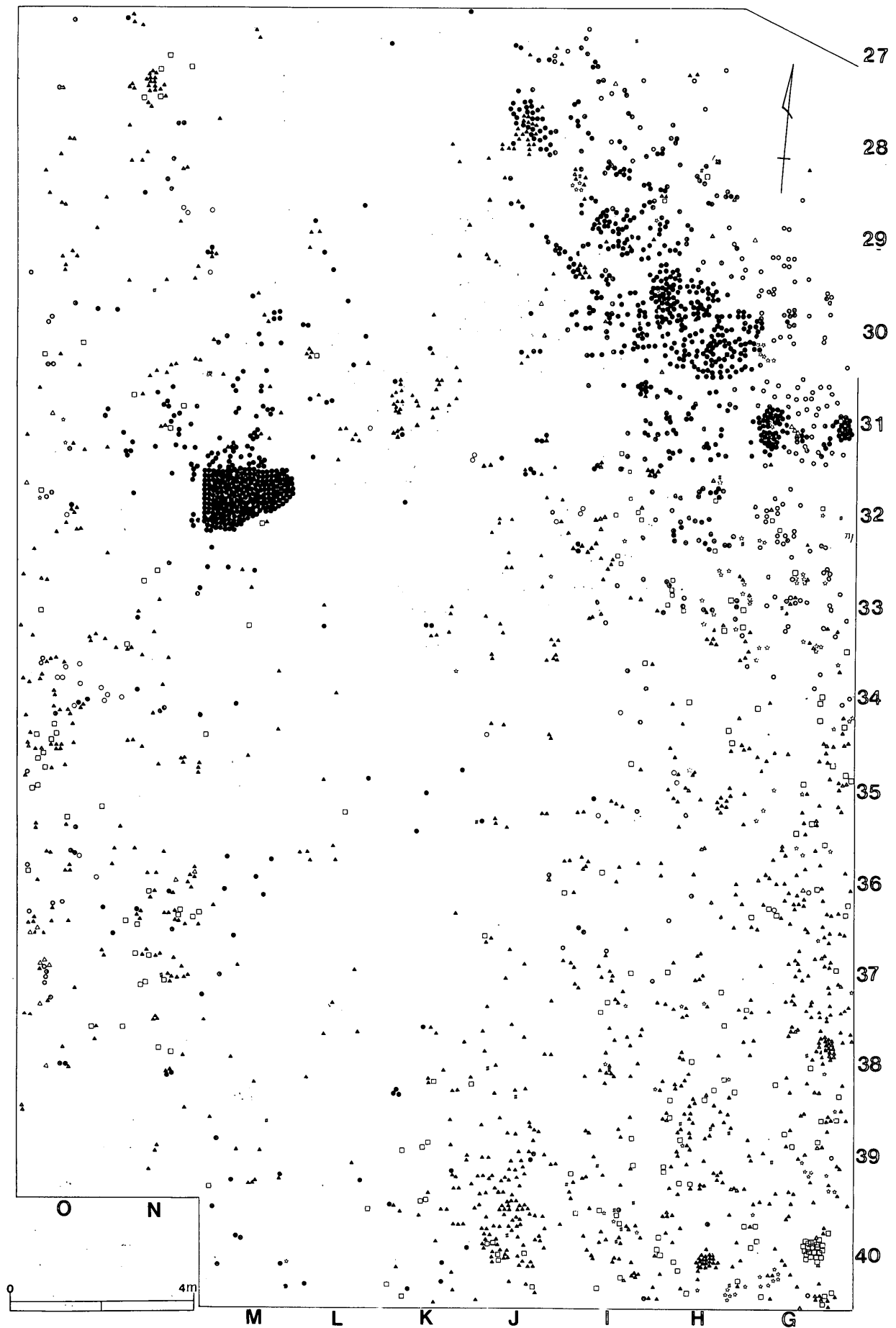
この土器はH36グリット検出で、G・H37・38グリット検出の土器をみると、上層から縄文中期と前期土器が



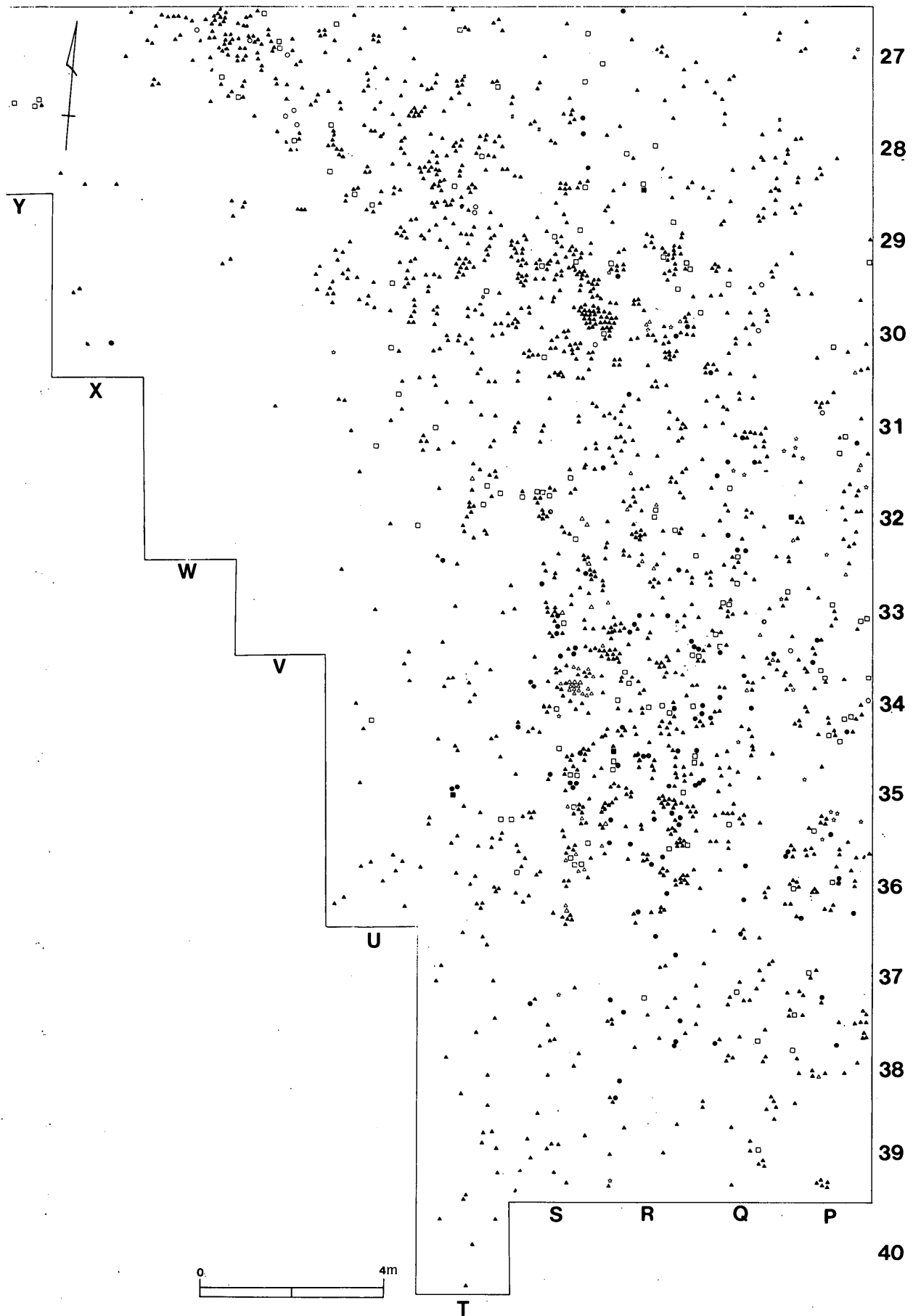
第25図 土器分布の区分図



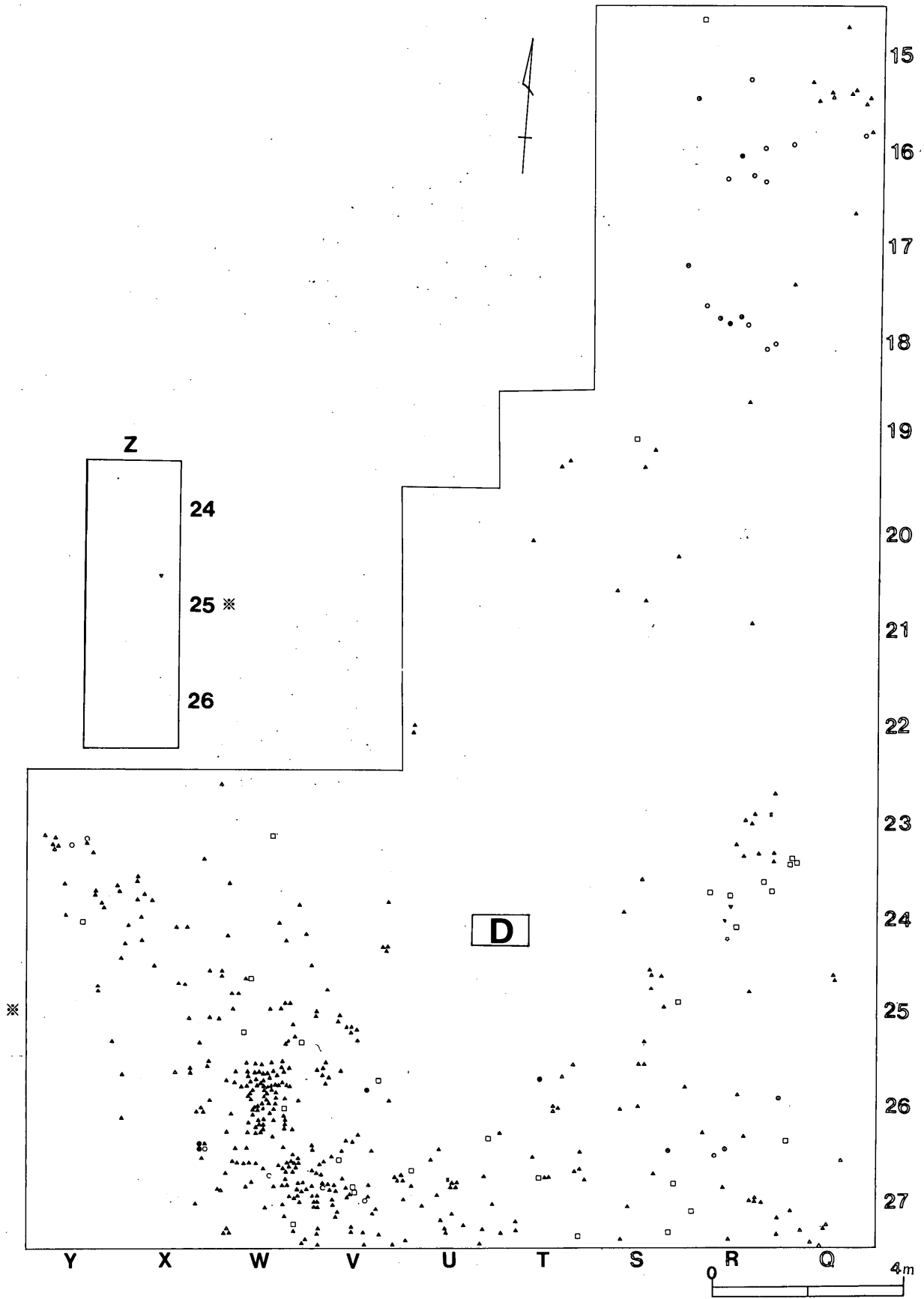
第26図 A区の土器分布



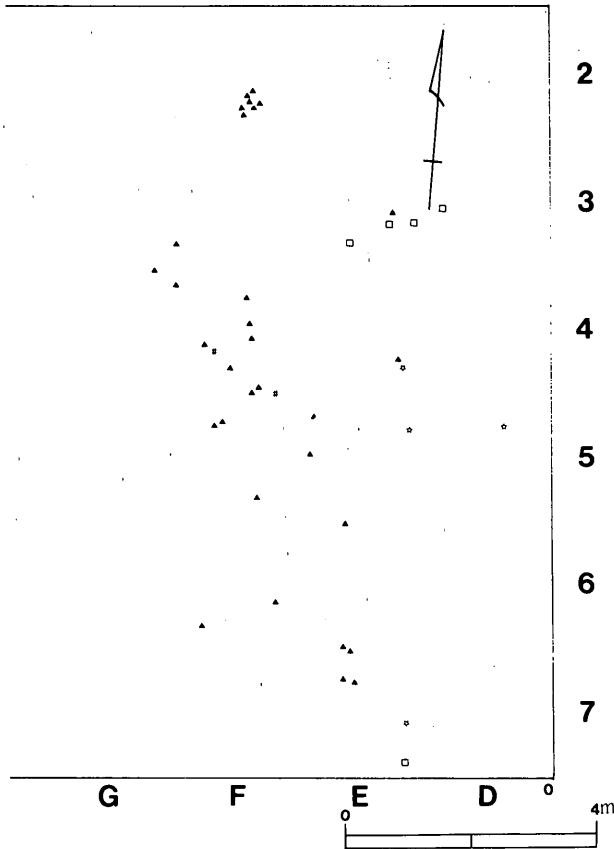
第27図 B区の土器分布



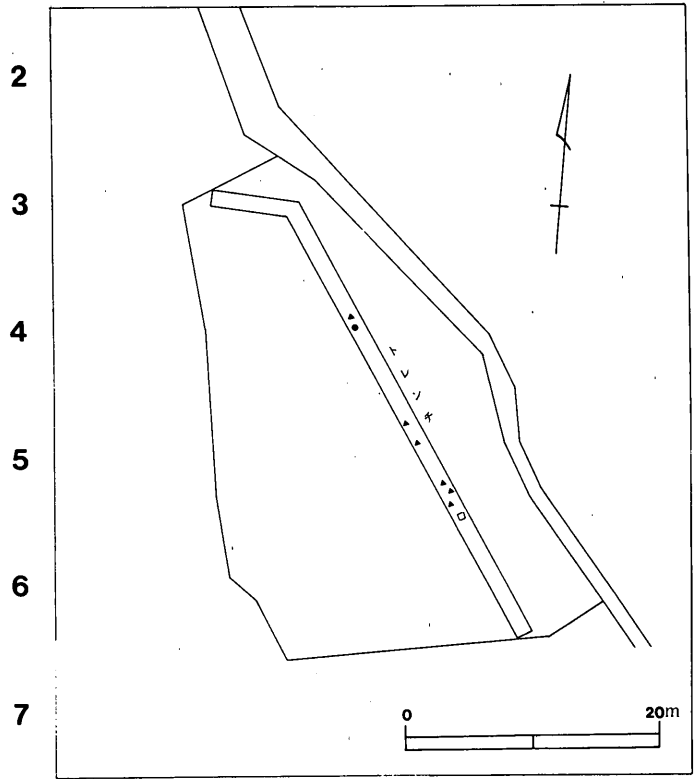
第28図 C区の土器分布



第29図 D区の土器分布



第30図 E区の土器分布



第31図 F区の土器分布

出土し、粗大縄文と沈線文の土器 (191)、細久保式系押型文土器 (261) が出土した。この11の土器は、この下層に楕円押型文土器片と存在し、漸移層から黄色土層には、薄手縄文土器が存在した。

b類 刺突文のみられる土器 (46~48・66・50) である。46の土器は器壁に繊維はなく、刺突は篋状工具の狭い面で、平行沈線に沿い、間隔をおいて行っている。

47の土器は口縁下の破片で、器壁に繊維はなく、斜行沈線間に同じ篋状工具で、間隔をおいて爪形状に刺突している。

50の土器は波状口縁で、胴部上半部の口縁部文様帯から強く外反する器形である。口唇部はカマボコ形を呈し、器壁は6mmで、繊維痕があり、白色粒の多い土器である。文様は口縁にそって横に、刺突文列を作っている。

99の土器は器壁に繊維と白色粒がみられ、厚さは8~9mmである。文様は横に矢羽根状の沈線を描き、中心を当間隔に幅3mmの角のある篋状工具で刺突している。

48の土器は口縁部が内湾する器形で、器壁は8mmで繊維がみられる。口唇部に刻み目がつけられ、幅3mmの角頭状の篋状工具で刺突している。これは円形を描く傾向が見られる。

この文様は鶴ヶ島台式土器にもみられる。

b類 斜格子文 (15)、波状文 (32) のみられる土器を本類とした。器壁などの属性は前者と同じである。

本類の中には御代田町下荒田遺跡出土土器に類例がある (中沢1995)。

(7) 早期貝殻文沈線文系Ⅲ群土器

田戸上層式併行土器

土器面に浅く沈線文を描き、空白部に刺突文を施す土器である (55・66・70・76・78・89・93・95・103・105・108・123)。

a 類 70の土器は器壁が5mm前後で、砂粒は無く、繊維がみられ、内面は凹凸のあるものの磨研されている。文様は幅1.5mmの板状篋工具、または貝殻で浅く縦位平行線、斜位平行線、横位平行線などに描き、中の空白部に同じ工具で、刺突文をやや不規則に充填している。沈線の区画は方形(95)や、三角(123)もみられる。

b 類 内部に条痕などのみられない細沈線文の土器である。先の丸く尖った小さな篋状工具で縦横などの細沈線を描いている。

1種 平口縁の土器で、口唇部は平になでられ、幅1mmの細沈線文を縦位、横位に配し、中に刺突文を列状に4箇所以上組をなして刺突し斜状(56)や、密に施文する(69)などがある。

2種 平口縁の土器で口縁下に段があり、胴部は張ると推定される。器壁に繊維、白色粒がみられる。

口唇部は平でここに斜めに幅1mmの細い刺突が加えられている(57)。段の上には平行線があり(100)、刺突は4単位で、間隔をおいて行われている。この施文は貝殻の腹縁または、篋状工具の先端が、分割されたもので行われた蓋然性が高い。

3種 細沈線文の土器である(51・54・66・79・88・112・155)。

51・54・112は同体の土器である。口唇部はカマボコ状で、胴部上より緩く外反りする器形である。胎土は黒褐色、器壁は5～6mmで、白色粒と、繊維が僅か含まれている。

文様は幅1mm前後の細沈線を4本単位に口縁部下より、横位に密に引き、後に縦位に2単位の直線、または斜線に引いて区画をつくり、この中と、口縁部下に刺突文を連続させている。

88と155は同種の土器である。79は横位の擦痕状の細沈線文の土器で、口唇部に刻み目がみられる。

4種 口縁下からゆるく外反する器形で、口唇部はカマボコ形である。125・126・128は器壁に繊維は僅かで、砂粒のない土器である。

器面を幅2mmの沈線を3単位で、横位、斜位など条痕状に引いている。口縁部には細い棒を束ねたような原体の刺突文が連続している。

127は器壁に繊維の多い土器で、幅1mmの沈線が4単位で縦横に巡らされた土器である。

以上の土器群は北信地方では、類例の乏しいもので、今後の検討に待つところが大きい。関東地方の田戸上層式併行式または、後続する土器群と思われる。

(8) 早期縄文系II群土器

a 類 1種 単節縄文地文?に横線状と斜状に爪形文が見られる土器(171)である。白色粒を含み繊維は僅かである。

a 類 2種 黄褐色の器壁の柔らかい土器(156)で繊維を含み、砂粒はあまりみられない。

縦位の単節縄文地文に、横位に爪形文を配している。施文を復元すると、上から拇指の爪、下から人差し指の爪で、同時施文している。

a 類 3種 単節の粗大縄文の施文された土器(253・254・323)で、異方向施文もみられる(254)。器壁は0.6cm前後の厚さで、繊維を含み、鉄分粒・白色粒・角のある砂粒を混和している。内面は指頭痕を残して、ナデ整形された土器である。

a 類 4種 a 3類の属性をもつ土器で、爪型文がみられる土器(沈1～3)である。爪(拇指)を背にして縄文地文に上下から1組を列状に横位施文し、上側は斜状をなし、1と3では2列1組となっている。

b 類 単節縄文が斜状に施され、口唇部は細棒状工具によって斜状に押えられて、波状を呈する土器(106)である。器壁は0.4～0.5cmで、繊維と白色粒を含み、内面は不整形である。

c 類 無節の縄文の土器(321)で、口縁部下より外反し、口端部が直立傾向を示す器形で、胎土に繊維はな

く、砂粒は中位に含れている。

内面は細かな条痕が横位にみられ、外面は口端部の直立部(幅0.7cm)に右傾に縄文を押捺し、下に左傾に縄文帯を押捺し、縦位の無文帯(幅2cm)に縦位に縄を押捺している。

以上の土器は筆者には、時期や系統の出自が難しいが、樋沢式押型文期前後の所産としたい。

(9) 早期縄文系Ⅲ群土器

a 1類 口縁部が「く字状」に外反する土器(沈4~7)で、破片からは縄文は観察されない。器壁に繊維を含み、石英粒が目立つ土器である。

すべて同種または同体の土器で、4~6は幅0.6cmの馬蹄形の刺突があり、4と5は、逆位にある、同じ工具で交差、斜状などの文様が施文される。しかし、半截竹管状にはならず、片流れ風な沈線をなしている。7は幅0.4cmの篋状工具の太沈線と、同工具による刺突の見られるものである。

a 2類 単節右傾粗大縄文の土器である(191~193)。191は、口縁端部がつよく外反し、器壁に多くの繊維を含み、鉄分粒と白色の細粒が観察される。

外口端部から幅0.4cmの篋状工具で、「Uの字」・「Vの字」状の沈線を描いて、口縁部文様帯を作り、「Vの字」の延長は胴部までのびて、交差している。

(沈192・193)・(縄255・257)は同種の土器で、胴部の破片の可能性が高い。

これらの土器は、条痕文系土器群の在地系の土器と見られる。

(10) 早期条痕文系Ⅰ群土器

野鳥式併行土器

条痕で器面を加飾する土器である(129~131・134・135・208)。

a 類 1種 平縁(129)または波状口縁(131・134)で、口唇部に刻み目がつけられ、口縁部下から「くの字」形に外反りする器形である。器壁は7mm前後で、砂粒は無く、白色粒少量、繊維は多く含まれている。

外面に横・斜めなどに、凹凸のある工具で、条痕状に施文している。

2種 胴部破片(72)で、器壁に白色粒、繊維が多く含まれている。器面には沈線状の条痕文が斜位に施され、上に刺突文が弧を描いている。

3種 器壁に石英粒、繊維の多い土器である(137・211)。幅1cmほどの施文具で、左右交互に斜位に条痕状に描いている。内面には見られない。なお158はこの土器の下半部と推定される。

4種 砂粒の見られない胴部破片の土器である(143・145)。器面に不規則な条痕がつけられている。

5種 板状工具で器面を成型したような条痕の土器である。198・204・210の土器は器壁に繊維は見られず、赤褐色の堅い土器である。209は砂粒の多い土器である。115・136・248の土器は、繊維を含んでいる。

b 類 内外面に条痕文のみられる土器で(215・216・219・220・221・222・225・228・238)、同体の土器である。口縁部の破片はない。器壁に砂粒はなく、繊維は少量である。

表面に裏面の絡条体の原体の押圧と思われる絡条体圧痕文があり、不規則な施文もある(154・203・219・220・215・221・222・223・225・228)。また、表面にも条痕文がみられる(238)。

内面の条痕は幅8mmに4単位の沈線状の施文具で、縦横に無数みられ、器面を整えるために使用されたと思われる。

147の土器はほぼ直立する器形で、口唇部はカマボコ形、器壁に砂粒はなく、繊維のみられる土器で、器厚は5mmである。両面に器面を整えたような条痕を施す。

c 類 擦痕状の条痕文土器(146・199)、199は胴下半部の破片である。器壁に砂粒はなく、石の粉末があり、

繊維は見られない。表面は擦痕状の成型痕が縦方向に見られる。内面は幅8mmの成型具で器面を整えている。

146は口縁部が僅かに外反する器形で、口唇部はカマボコ形である。器壁は6mmで白色粒が僅かあり、繊維は見られない。外面に擦痕状の痕跡がある。205も同種土器である。

以上は主に貝殻条痕文系土器群の野島式に併行する、この地方の在り系土器と思われる。

(11) 早期条痕文系II群土器

鶴ヶ島台式土器である。1984年の発掘調査で、地点を変えて主体的に出土した土器である。

今回は明瞭に指摘できる当該期の土器は検出されていない。

(12) 早期条痕文系III群土器

絡条体圧痕文の施文された土器をまとめた。しかしこの絡条体圧痕文のみられる土器は、野島式の段階から、一部は前期に及んでいるとされている。

a類 小破片(229・230)で器壁に白色粒が見られ砂粒、繊維は見られない。厚さは8mmである。横位に絡条体圧痕文がみられる。

b類 232は器壁に砂粒、繊維が認められる。厚さは8mmである。

条痕が土器の表面の縦方向にあり、内面も条痕で整形されている。この整形に絡条体が用いられ、2cmの幅に9本の縄が認められる。

整形には縦方向に、原体の絡条体を押捺してから縦位に擦痕した痕跡が観察される。

c類 器壁が1.2cmと厚い土器である(250)。石英粒・白色粒、繊維が含まれている。胴部上部に絡条体圧痕文が、間隔をあけて横・縦・斜位に施文されている。

胴部下半部は細かな条痕が斜位に施文されている。しかし内面にも同様な痕跡が認められるが剥落が多く不明瞭である。

d類1種 J40の早期の土器群の最上層から検出された土器である(241・245・251)。

口縁部はほぼ直立し、丸底である。器厚は0.5~1cmで、器壁には多量の繊維を含み、砂粒、白色粒も認められる。

胴上半部に絡条体圧痕文が、横位にやや不規則に施文して文様帯をつくり、胴部は条痕が斜め、横位に認められる。内面の調整は脆い器壁のため、不明である。

d類2種 同じJ40から検出された絡条体圧痕文土器である(233~235・249)。器壁、胎土は1種と同じ土器である。器厚は1.1cmと厚い。

絡条体圧痕文が胴上半部に横位に並行にあり、下半部には条痕が見られる土器と思われる。

以上の絡条体圧痕文系土器は、所属時期の古いものと、と思われるものから提示した。他の在り地の土器と組合わさって、条痕文土器群の後半から末葉にかけて存在した土器と推定される。

(13) 早期条痕文系土器IV群土器

茅山式併行土器

器壁が1cmと厚く、内外面に条痕文が認められる土器である(236・237・240・243・244)。いずれも胎土に繊維が含まれている。条痕は不規則である。器体にゆるい段があり(243)、平底の土器(240)もある。

(14) 早期条痕文系土器V群土器

その他の土器を一括した。いずれも小片で、所属、時期などに確証を欠く。

a類1種 197の土器は器壁は7mmで、石英粒が多く、繊維も認められる土器である。内面と口縁部に条痕が横位に認められる。口唇部と、口縁部下に斜めに爪形状の刺突が連続して加えられている。

b類1種 227は口縁部下の「くの字」に開いた部分の破片で、内外とも条痕は認められない。器壁は6mmで、砂粒が多く含まれている。

文様は平行文・波状文を櫛歯状工具で描いている。愛知県天神山遺跡を標式とする、天神山式と推定したい。

c類1種 113は器壁は8mmで、石英粒が多く含まれ、繊維も見られる。D字状の爪形状が横位に見られる。

c類2種 247は屈折のある器形である。内面には条痕も認められる。器壁は9mmで砂粒は少なく繊維が認められる。屈折部に横位にD字状爪形文があり、竹管状工具の円形刺突も見られる。

以上のうちc類2種を除いた土器は、搬入された土器と想定される。

(15) 縄文前期I群土器

前期II期 関山式併行土器

胎土に繊維が認められ、羽状縄文が施文される土器である。

a類1種 羽状縄文の屈接部に綾織りの押捺（結節）がみられるものである（前期20・45・51・52・72）。器壁の厚さは6～7mmである。20・45・52の土器は同体である。

a類2種 羽状縄文の屈接部に結節の押捺の見られないものである（1・2・27・90）。

これらの土器は単節縄文で、器壁に白色粒・砂粒・繊維を含んでいる。

27の土器は内面に炭化物が付着し、面は細かな条痕状に整形されている。早期的色彩の濃い土器である。

(16) 縄文前期II群土器

前期III期 黒浜式・有尾式併行土器

胎土に繊維がほとんど認められない土器である。

a類 無節の左巻りの縄を縦・斜位に押捺または回転させた縄文の土器である（55～64・91）。平縁で、底部から直線的に外反する器形で、口縁部は内折し、口唇部は丸い。

器厚は7mm前後で、胎土には砂粒は見られず、白色粒が多く含まれている。内部はよく磨研されている。

59の破片を見ると、外胴下半部は条痕状に整形される土器もある。また、63はさらに細い原体の縄で施文されている。

b類 平縁で直線的に開く器形の土器で(54)、器厚8mmで、口唇部は外削ぎ状で丸い。内面は横にナデた痕跡が残る。外面に無節の粗大縄文が斜走する。

c類1種 底部から直線的に外反し、口縁下からゆるく外反りする器形の土器で(92)、口唇部は緩い円を描く、胎土は精選され、白色粒も細かい。器厚6mm前後で、内部はよく磨研されている。

口縁部下に上下に竹管の押引文で区画して、無文帯を作っている。そこから下の底部まで単節の右傾縄文を密に施文している。

c類2種 胎土・器形・縄文施文が1種と同じ土器である(77)。口唇部が外面に突出し、丸くつくられた土器である。18・44・78の土器は器厚が4mmと薄いと同種の土器である。

d類 羽状縄文の土器で(12・21・23～25)、同体の土器である。器壁に石英粒がみられ、厚さは6～7mmである。内部は平滑にナデられている。羽状縄文の接合部には、結節は見られない。

e類 これも単純に外反りする器形で(76・89同体)、口唇部は平たく丸い。内部はかすれがあるが、よく磨研されている。胎土はあまり砂粒は見られない。外面の単節縄文は左傾で、横位に近い施文もあり、76には縄末端の押捺が残る。

f類 口縁下から丸く外反する器形の土器で(66)、器壁には石英粒がみられる。内面は擦れているが、磨研されている。口唇部は小波状に加飾されている。口縁部下から左傾単節縄文が施文されている。

h類 無節縄文の土器である(28・79)。器壁は5mmの厚さで、砂粒はなく白色粒が多い。内部はよく研磨されている。

i種 直線的に外反する器形と推定される土器で(46~50)、器壁には白色粒、砂粒があり、内面は平滑に磨研されている。縄文文様は、太い縄と細い縄の組み合わせたものである。

j種 竹管文の土器である(93~95)。類例の乏しい壺型の土器である。器壁に胎土砂粒少なく、白色粒が目立つ土器で、厚さ1.1cmを測る。

口縁部に2条の竹管文で三角?をつくり、無文部を作っている。胴部は竹管平行線で、平行・曲線を組み合わせている。96は隆帯に竹管文の見られる土器である。

(17) 縄文前期III群土器

前期IV期 南大原式 諸磯a式併行土器

a種 肋骨文の土器である(98)。小片で器壁に繊維はなく、砂粒はやや多い。内外壁とも平滑である。文様は竹管による円形文が縦に連続し、左右に竹管による平行線がやや弧を描いている。

(18) 縄文前期IV群土器

前期V期 諸磯b式 上原式併行土器

無文で、口縁が大きく屈折する浅鉢形土器の破片である(図示なしH39-19・J35-1出土)。石英粒の多い堅い焼成の土器である。

(19) 縄文前期V群土器

VI期 下島式・諸磯c式併行土器

a類 横位の綾杉状の文様の土器である(103~110)。平口縁(105)の土器で、胴部はやや屈曲がある(103)。厚さ7mmの器壁に石英粒があり、磨研はやや粗である。

文様は竹管状工具で、矢羽根状に描き、交互に繰り返している。中には横位に引いたり、縦位に施文したものがあ(109)。

b類 斜格子文の土器である(99~102・106)。

1種 99は口縁部下で屈折した器形で、口縁部に無文帯をつくり、胴部に斜格子文を施文している。100~102は同体の土器で、器壁に石英粒の少ない、7mmほどの厚さの土器である。文様の平行線、斜格子文は細い篋状工具で引かれたものと思われる。

2種 半截竹管で引かれた文様で、器壁はa類に同じである。

c類 地文として用いられる条線文の土器である。

1種 平底の土器で底部上より外反し、集合条線文が横位に施されるもので(112)、器壁に白色粒があり、厚さ6mmを測る。

2種 集合条線が縦位に施すもの(117)、平底で、器壁に石英粒が多い、厚さは5~7mmである。

3種 条線文と竹管文の土器である(111・115・119・120)。111は波状口縁の土器で、器壁に石英を含み、7mmの厚さである。横位の条線文に口唇部上と、縦位は2連の竹管文を刺突しながら引きずっている。

119は器壁に砂粒を含み、9mmの厚さの土器で、地文の横位の条線は、竹管で引かれたもので、縦位の竹管文は浮隆文となっている。

4種 貝殻状貼付文の土器で(113・114)、内面上部に段のある器形の土器で、器壁には白色粒・砂粒を含み厚さ5~8mmの土器である。

表面には竹管の条線を縦・斜め・横に施して地文としている。上に貝殻状、円点、長楕円などの突帯を貼付け

ている。

5種 細隆帯の土器である(121)。器壁に白色粒・砂粒があり、厚さ5mmを測る。

地文に横位の竹管の条線文を施し、縦に隆帯を施して、上を竹管で押圧して引いている。

e類1種 縄文施文の粗製土器である(3・8・15・17・18・37・65・70・71)。単純な形の深鉢で、羽状縄文が多くみられる。カマボコ形の口唇部で、器壁は9~10mmと厚く、石英粒が含まれている。粗大縄文の在地系の土器である。

e類2種 縄文地文に口縁部に篋切文の施された土器である(122)。土器のもつ文様や属性が(21・23)の土器に類似する。従ってこの縄文土器はこの時期に属する可能性がある。

口唇部は平で平縁である。内面は平滑にナデた痕跡がある。器壁には石英粒があり、厚さ6mmである。

単節の左傾縄文に、口縁部に2条の横位の細隆帯を貼り付け、密に篋切を施している。下部は剥落があって不明の部分がある。

d類 細竹管文の土器である(97・123)。器壁に石英粒の多い、8mm前後の厚さの土器である。半截竹管で引きずるような押引文、菱形文、弧状に施文している。

(20) 縄文前期VI群土器

縄文前期最終末VII期

当該期の土器資料は、北信濃では断片的であると一般に考えられている。今回の調査で抽出した該期の土器は次の3片である。

a類 器壁に石英粒を多く含み、厚さは8mmである。口縁部は楔状に付加して加飾されている(124)。この口唇部に撚糸で刻むように直角に施文している。あるいは胴部の文様も撚糸文かも知れない。

b類 口縁下に段のある深鉢形土器で(125)、器壁に石英粒が多い。厚さは8mmである。

口縁部下の段までの部分2.5cmに斜走する細竹管文と、口端部に隆帯が付加されて、縦位に刻目がつけられている。

c類 器壁に石英粒の多い、厚さ8mmの土器である(126)。成型は粗雑で、右傾単節縄文が施され、カマボコ状の口縁に2連の粘土紐を付加させている。

(21) 縄文中期I群土器

中期初頭II期

北陸系・関東系の土器があり、在地の主体的な土器が、この地域では把握されていない時期である。

a類 胴部上までゆるく外反りし、上は「くの字」状に外反りして、口縁部は内折または直立する器形の土器である(1)。

器壁に石英粒・金雲母を含み、厚さ1cm前後である。文様は口縁部に斜行沈線文を描き、胴部には方形区画が施されると見られる。区画の角の「くの字」の接点には隆帯の貼付けがあり、刻み目がつけられている。

関東の五領ヶ台式系統の土器である。

b類 隆帯で方形区画される土器で、口縁部の外反りはゆるい(2)。器壁に金雲母・石英粒が含まれ、厚さは1cmである。竹管文もあり、a類より新しい土器と思われる。

(22) 縄文中期II群土器

縄文中期中葉I期 新崎式系・阿玉台式系土器・仮称深沢式

a類 縄文中期前葉の土器群で、縄文に綾線文のみられる土器である(3~10・15・17・18)。いずれも胴部文様で、器形は不明である。器壁には石英粒を含み、厚さは1cm前後で堅い。

斜行縄文（6・8・9・15）と、短く横走する縄文（3～5・7・10・18）がある。4と7・17は、竹管文で方形区画？された中に施文されている。同種の土器に19があり、粗い縄文の24の土器と、38の下半部・底部の残る土器も同時期とおもわれる。

また3・4と17・18は竹管文に沿って、刺突文が巡らされている。3は口縁部下から「くの字」状に開く器形で、縦位の区画は隆帯である。同種の文様の土器に20がある。また縄文は見られないが、同系統の土器に14がある。

c類 文様帯が横位に施される土器である（11～13）。口唇部は内削ぎ状で、口縁部下からゆるく「くの字」状態に外反り器形の土器である。器壁に鉄分粒・石英粒が含まれ、厚さが1cmを測る。

口縁部文様帯は左傾単節縄文が施され、下の凹帯との間に、曲がる小隆帯もあり、篋による沈線が直線・曲線・楕円・刺突・断絶などの文様を作りだしている。

30の蛇行する隆帯に縄文が施文される土器は、これらの土器の胴部破片、または、同種の土器である。

b類 竹管文の土器である（16・26）。

c類と器形の同じ土器で、口縁部文様帯に縄文を施文し、下の横走の太い竹管文に縦に細い竹管文を密に施文した土器である。

d類 指痕文土器で（22・23・35・36）、図示したほかに15片の破片がある。22は直線的に外傾する小形土器で、隆帯も認められる。35・36は平口縁で1.7cmと広く、器壁には石英粒などの砂粒が認められ、厚さ1cmである。

器形はほぼ直線的な深鉢形土器である。外面は土器の成型時の指頭痕を文様化したもので、横方向に連続する。いづれの土器も内面は平滑に磨かれている。

この指頭痕文は阿玉台式系土器に見られる文様である。しかしこの土器は、在地化した土器である。

(23) 縄文後期 I 群土器

縄文後期前葉 堀之内 2 式土器

a類 堀之内 2 式期の朝顔形の丈の長い器形の精製の深鉢形土器である（図・後期 1）。器壁に砂粒が多く、厚さ4～5mmである。器面はよく磨研されている。

口縁下に2条の鎖状隆線を貼付け、胴部に沈線で渦巻きなどを作って、単節の充填縄文を施している。沈線を口唇部に1条、内縁帯に4条施している。口縁突起にはS字形の加飾と、おそらく対になると思われる円形・渦巻き・8の字などを組合わせた加飾がある。

この時期の土器文化は、この地方が関東地方西部の影響下にあったことを示す土器である。

b類 磨消縄文の土器である（2～6）。いずれも無節の縄文を施す。2・3・6は同種の土器で、器壁に白色粒・砂粒を含み、厚さ6～7mmで、内面は研磨されている。表面に縄文帯を押捺後に沈線を施して他を磨消している。4・5は胎土に砂粒の多い薄手の土器である。在地の土器と想定される。

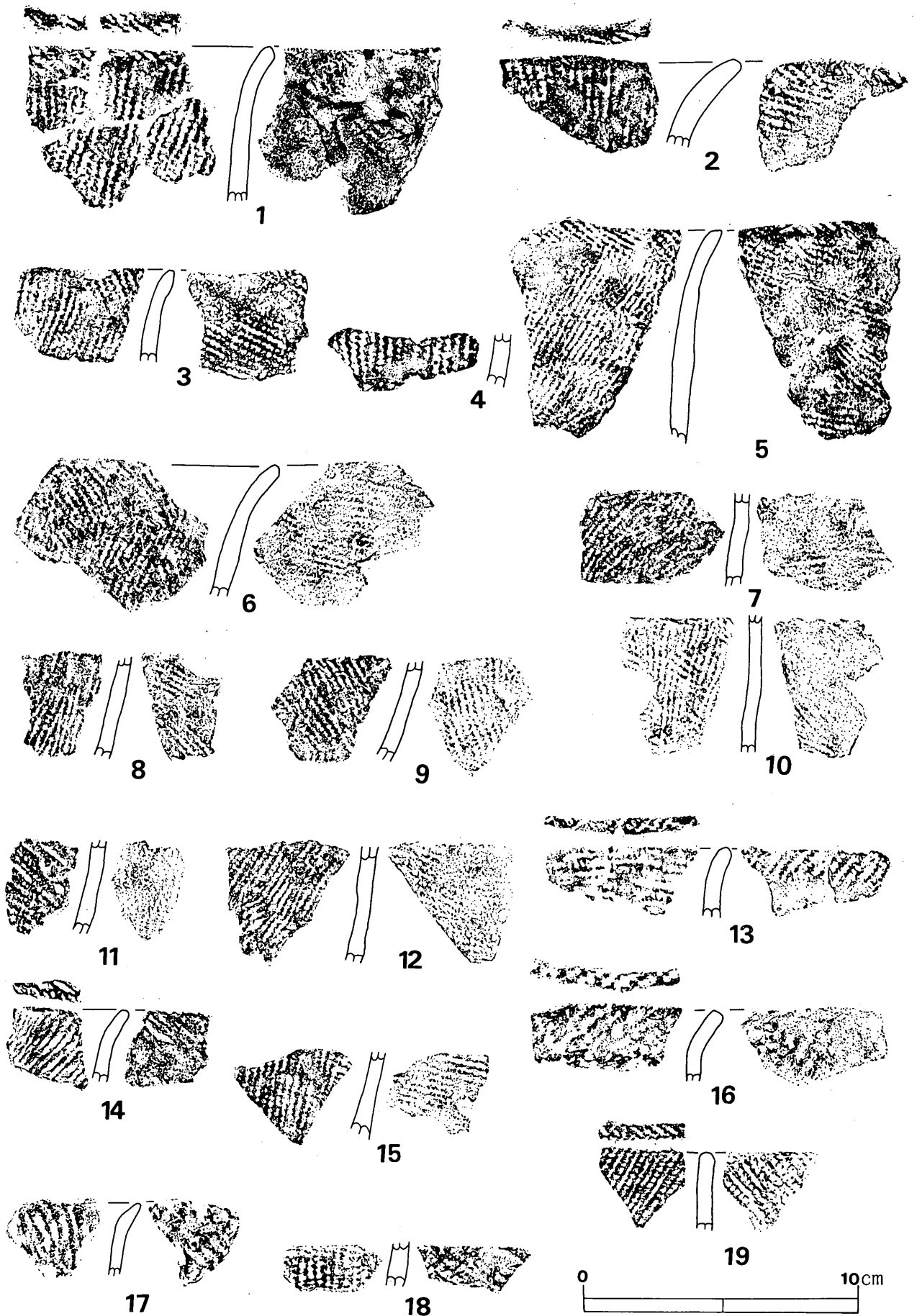
(24) 石器

石器は草創期に属する剥片鏃、剥片石器がある。

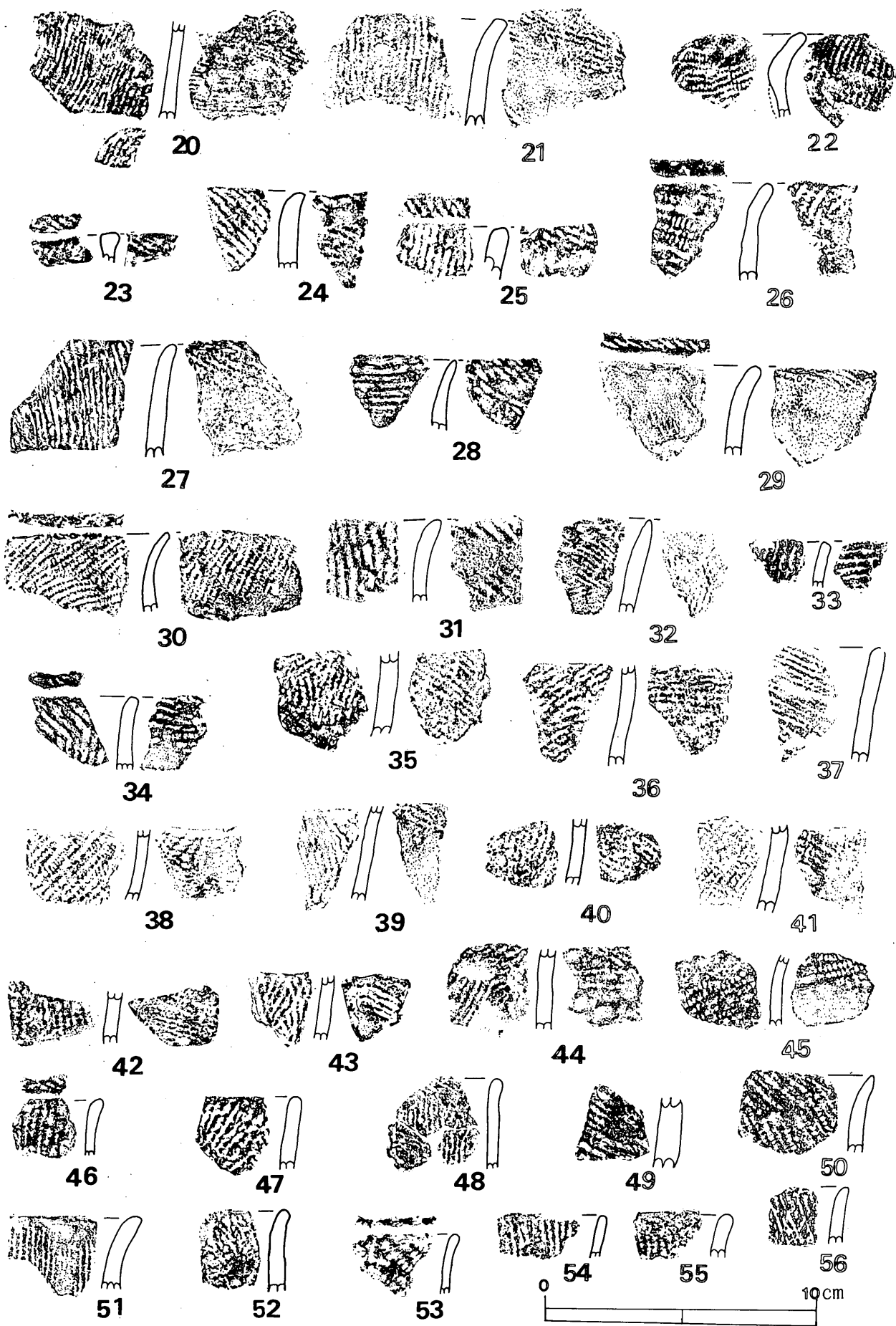
早期では鍬形鏃、横刃型石斧、円礫を加工した片刃石斧（1994年も出土）、小形打製石斧、特種磨石などがある。

前期では石匙、打製石斧（土掘具）、石鏃などがある。中期では石匙、打製石斧（土掘具）、凹石がある。後期では分銅型の打製石斧が検出されている。

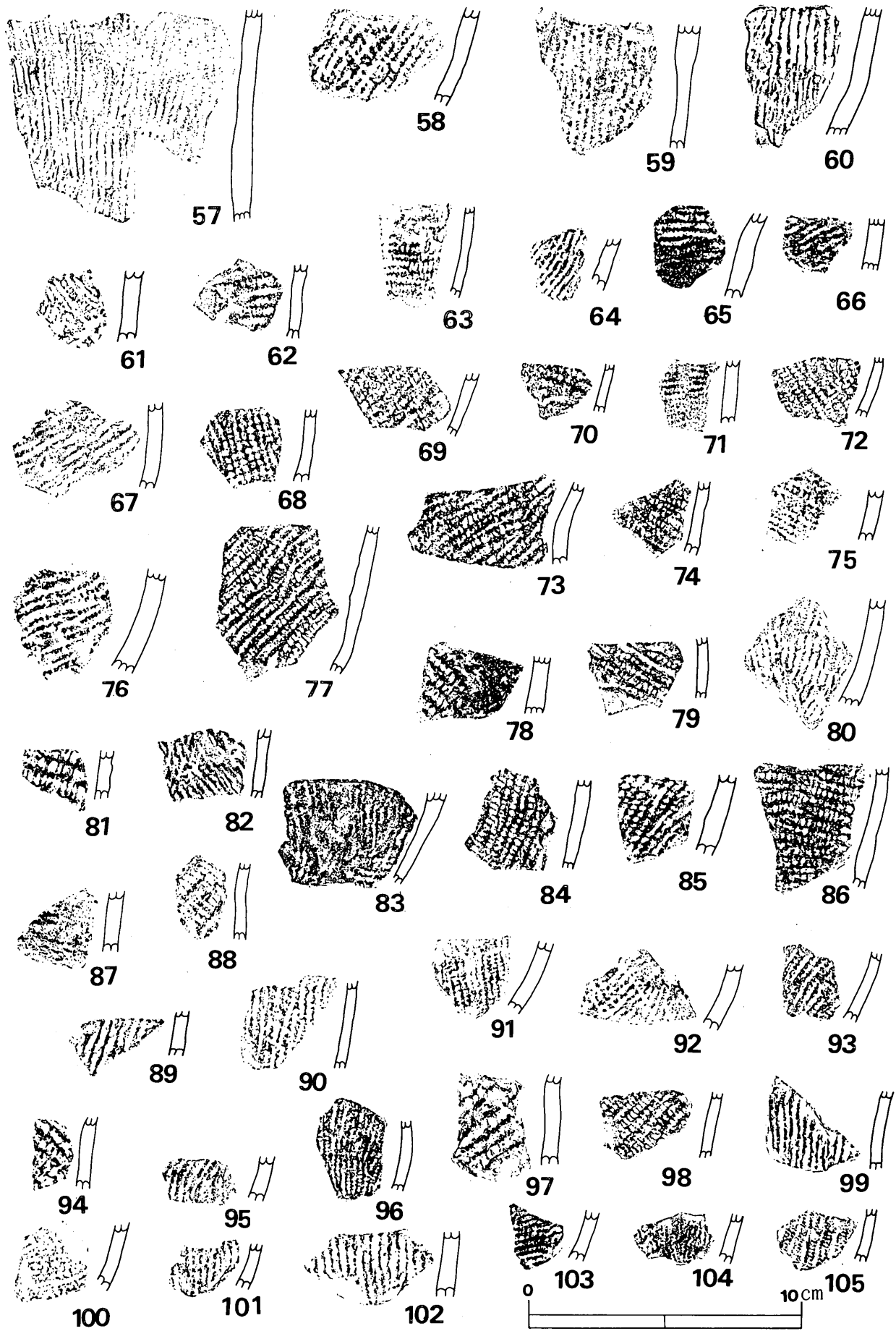
このように早期の特種磨石を除いて、点数は僅かである。



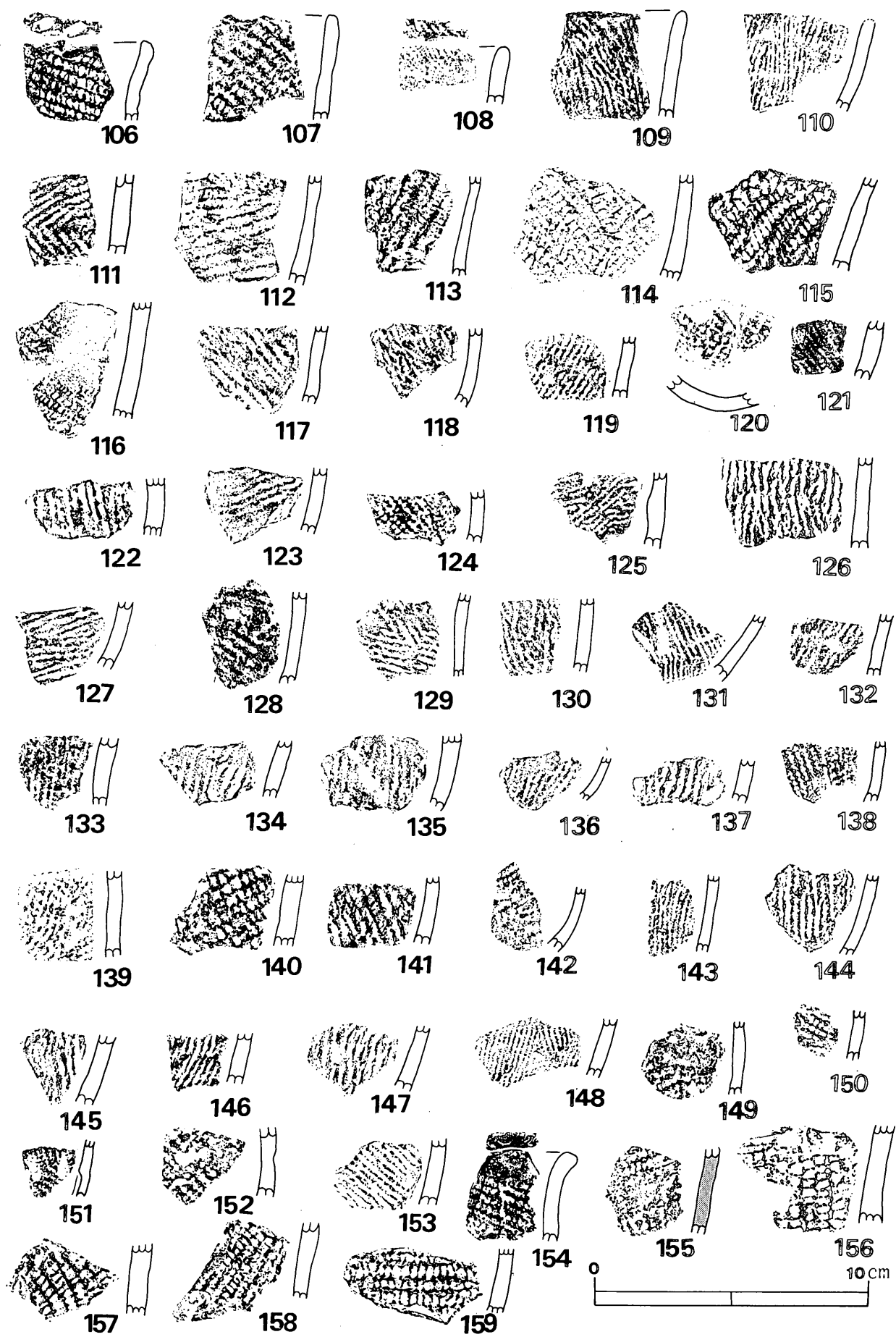
第32図 土器拓影図1 (草創期～早期縄文)



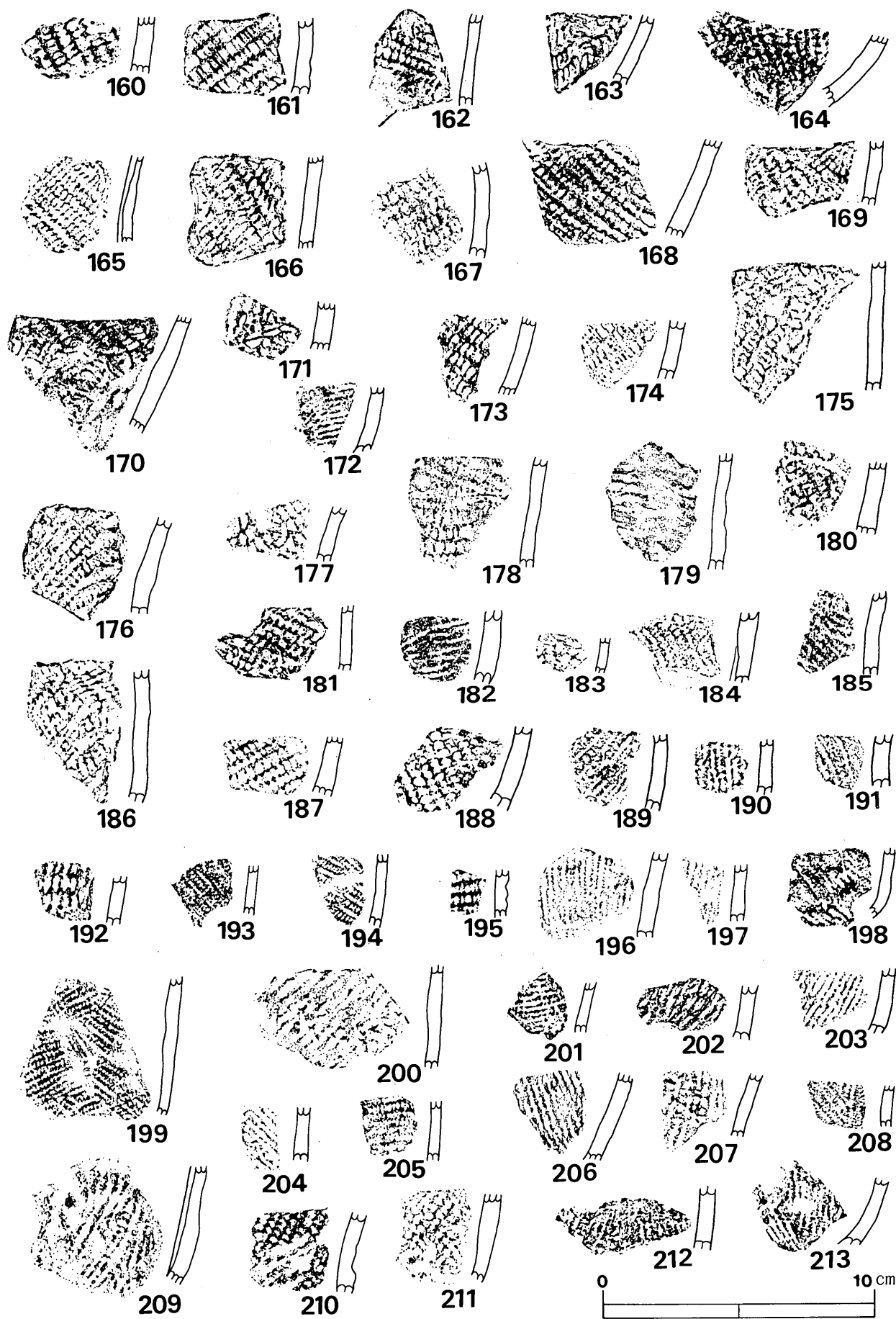
第33图 土器拓影图2 (草創期~早期縄文)



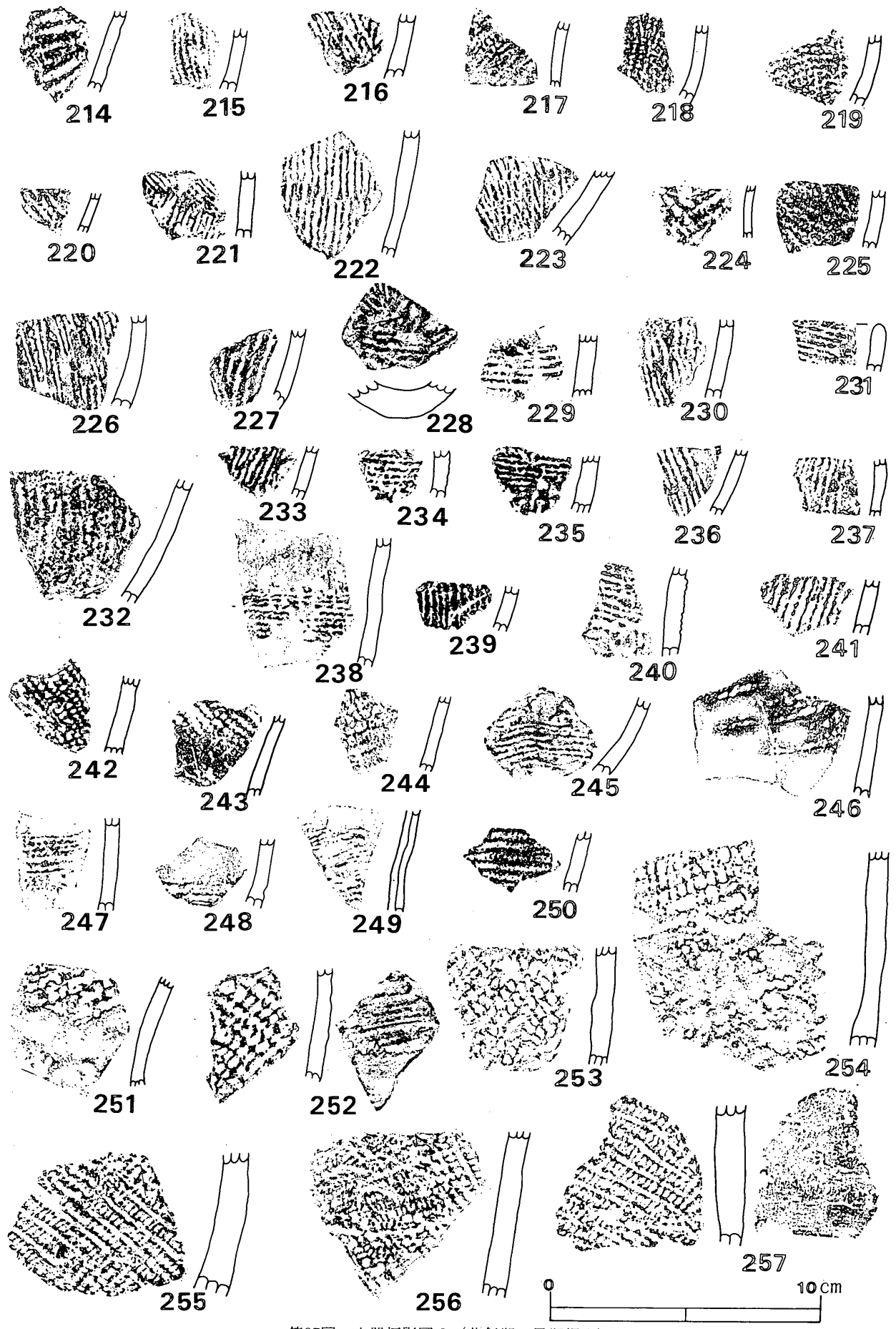
第34图 土器拓影图3 (草創期~早期縄文)



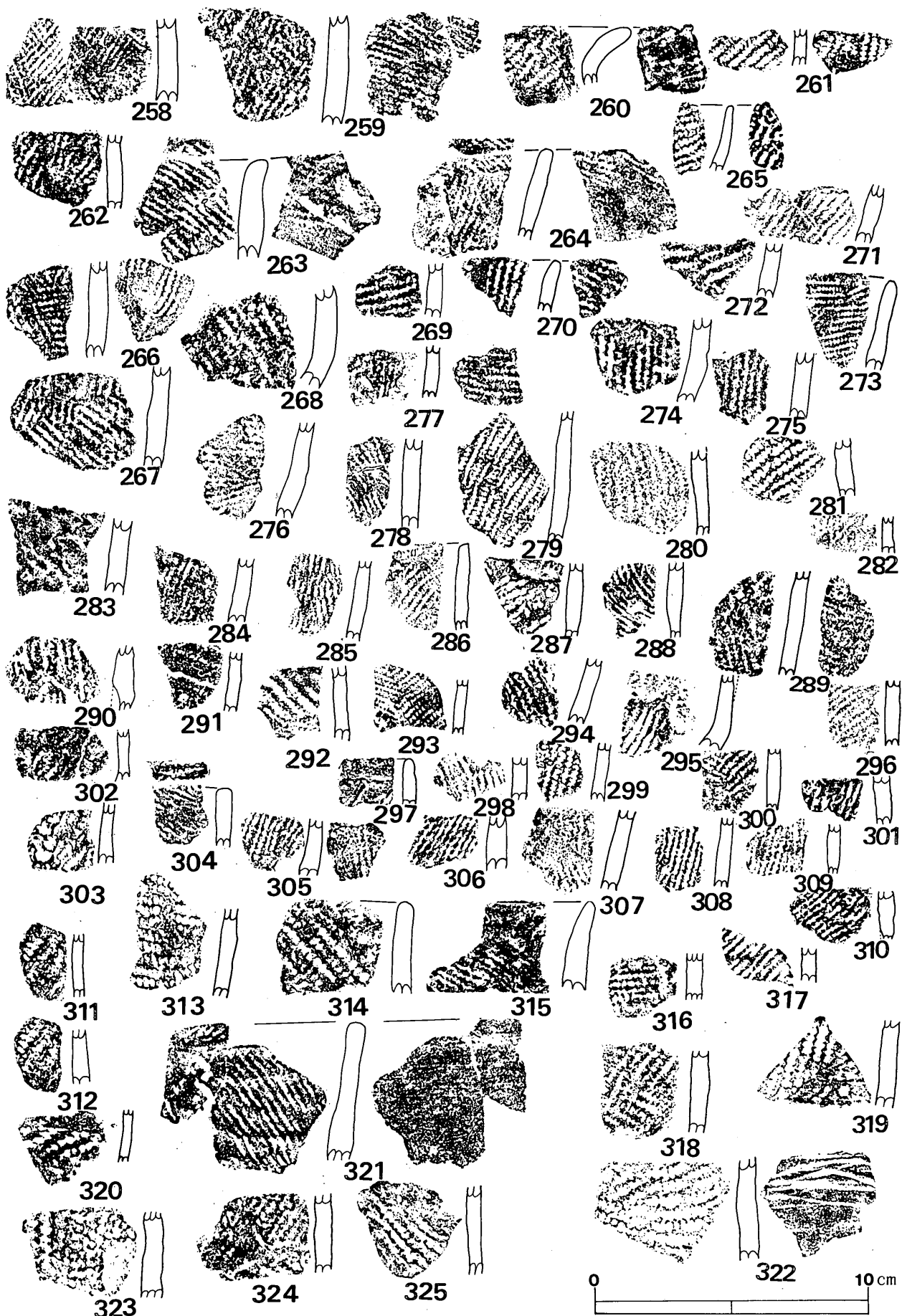
第35图 土器拓影图4 (草創期~早期繩文)



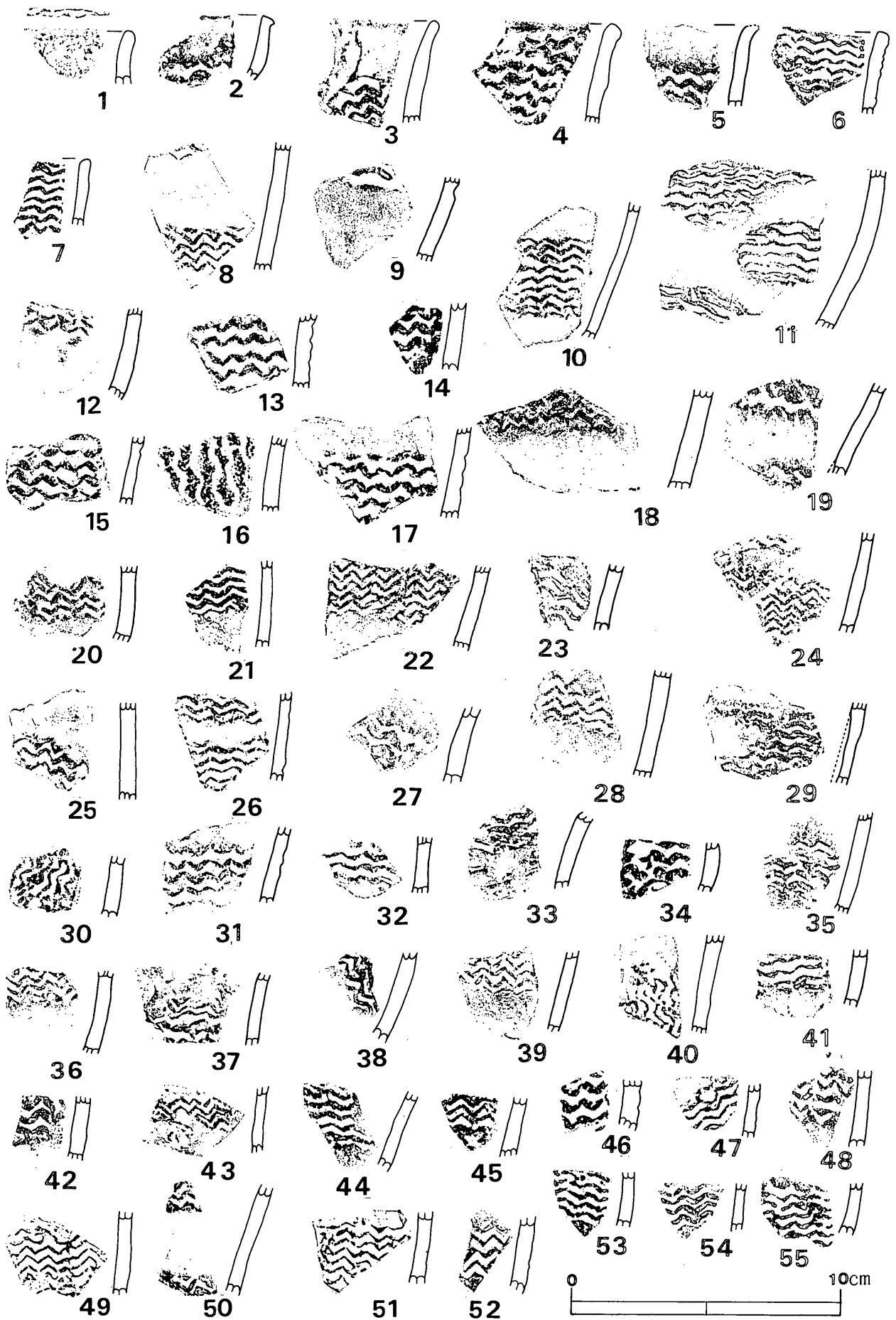
第36图 土器拓影图5 (草創期~早期縄文)



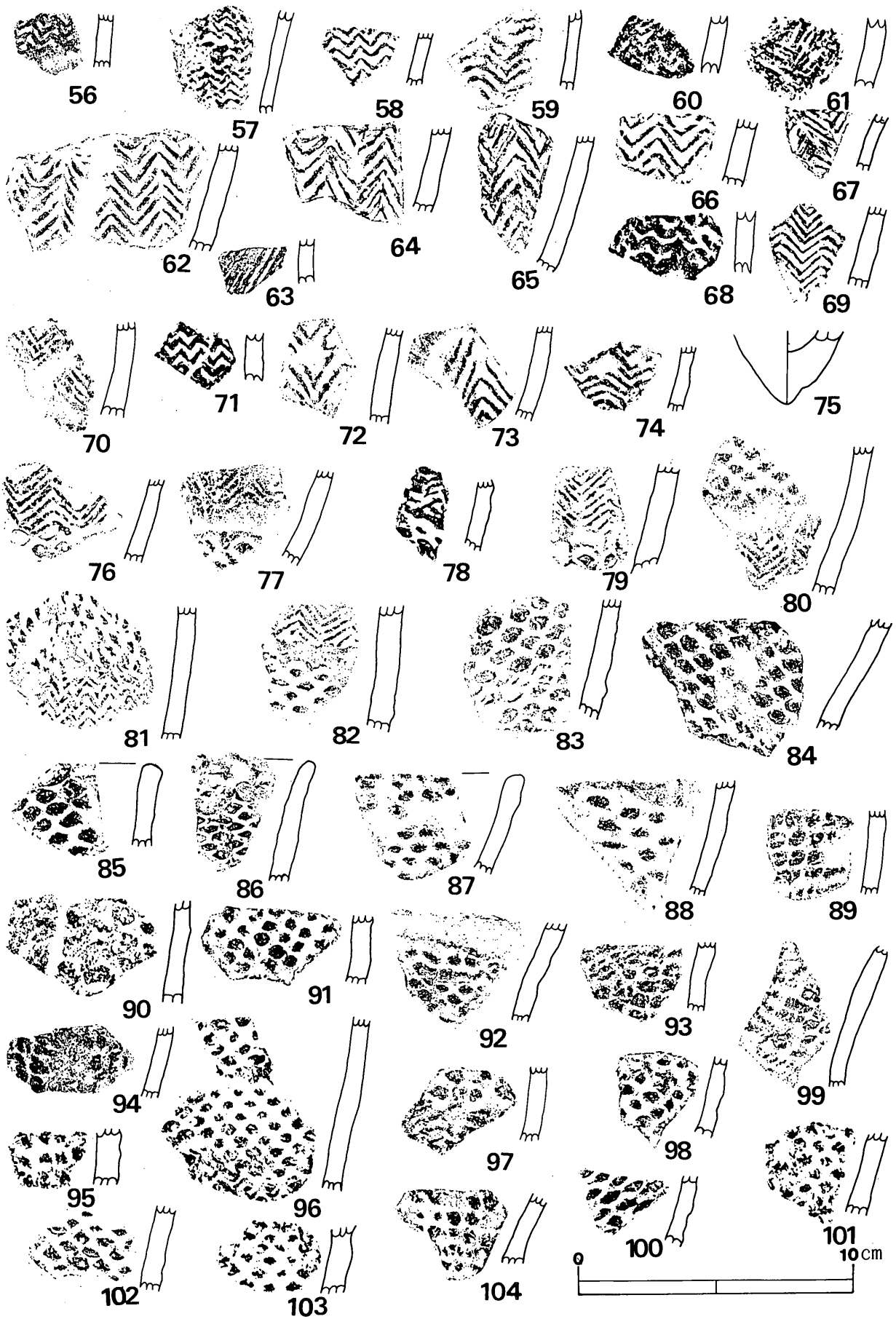
第37图 土器拓影图6 (草創期~早期縄文)



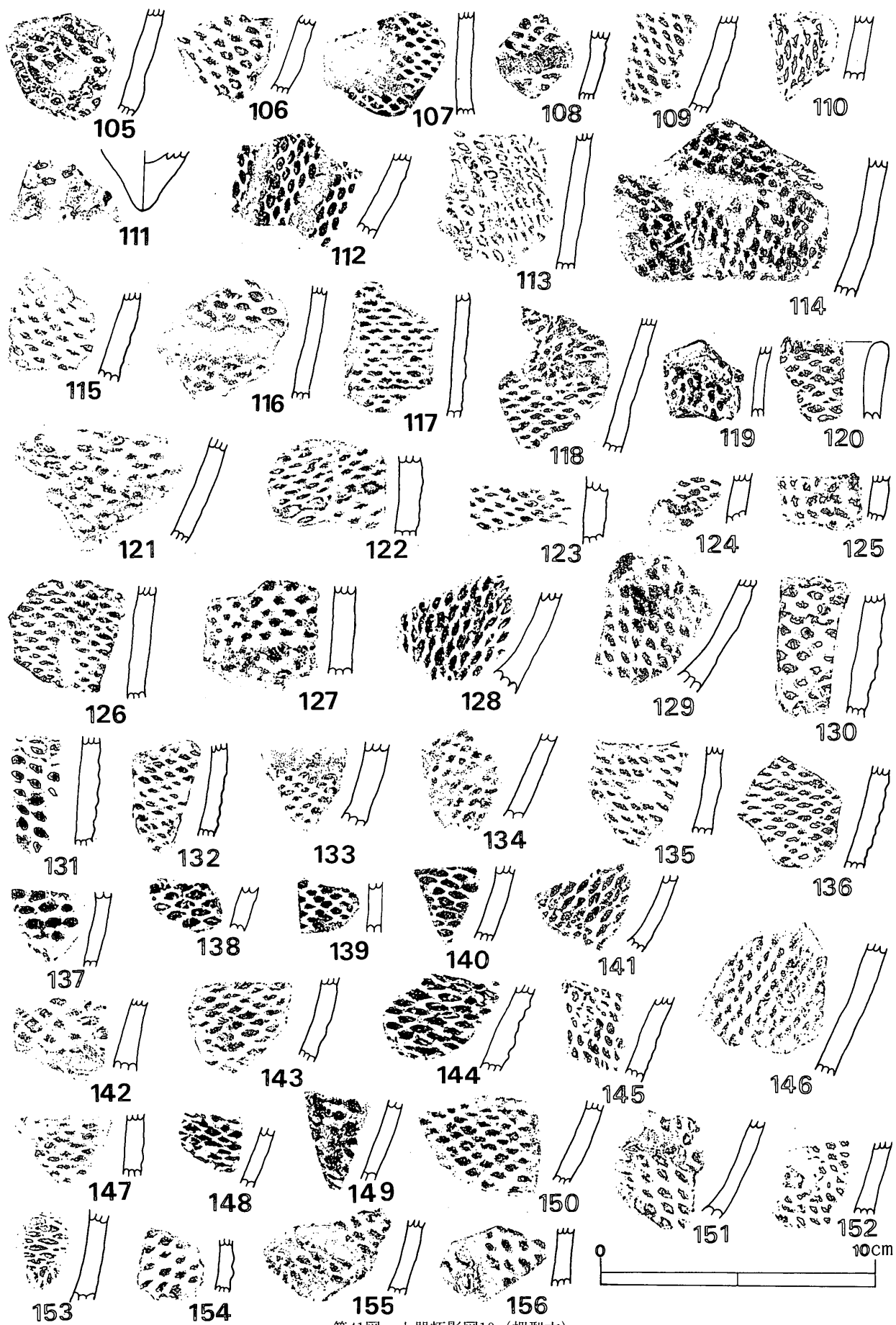
第38図 土器拓影図7 (草創期~早期縄文)



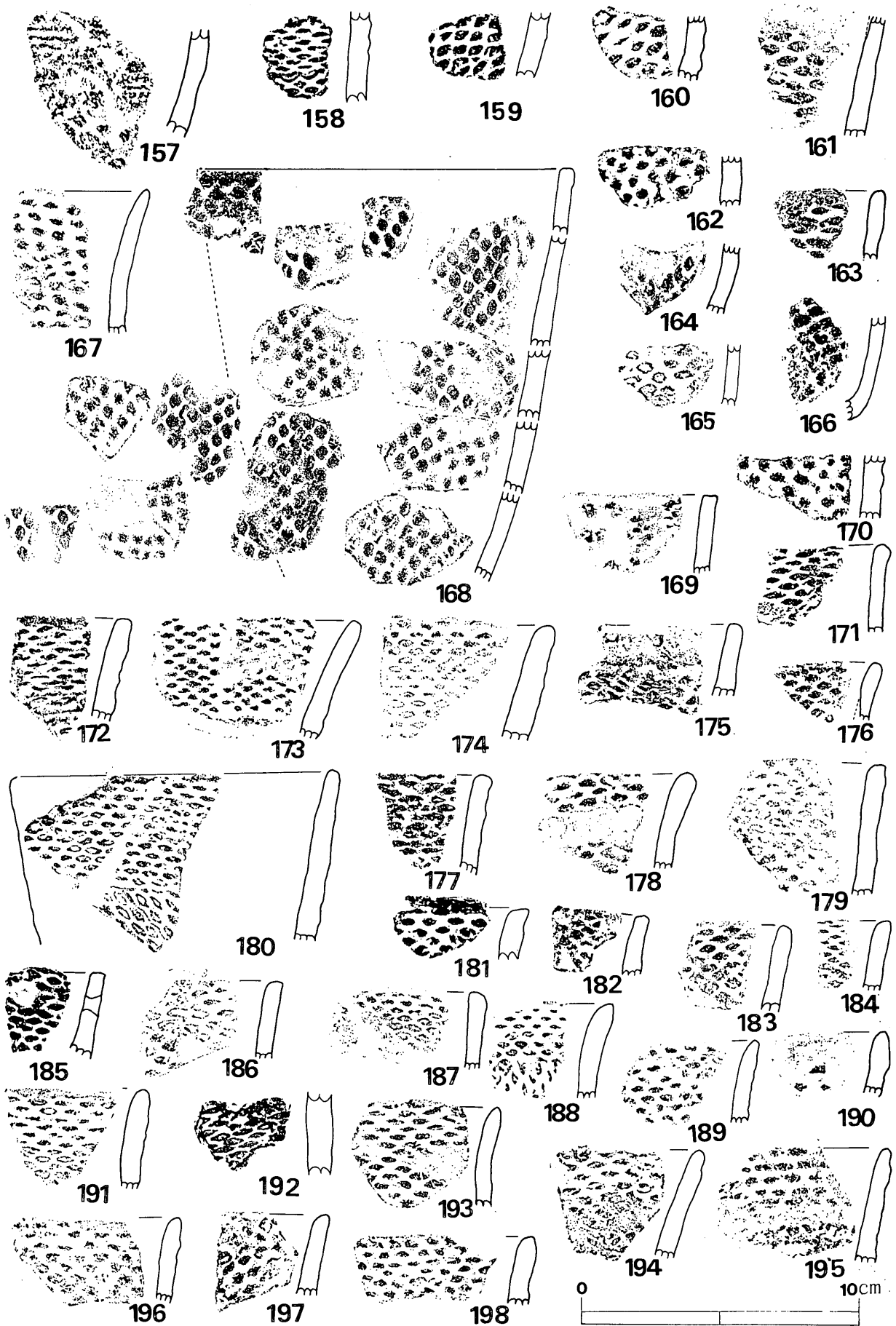
第39图 土器拓影图8 (押型文)



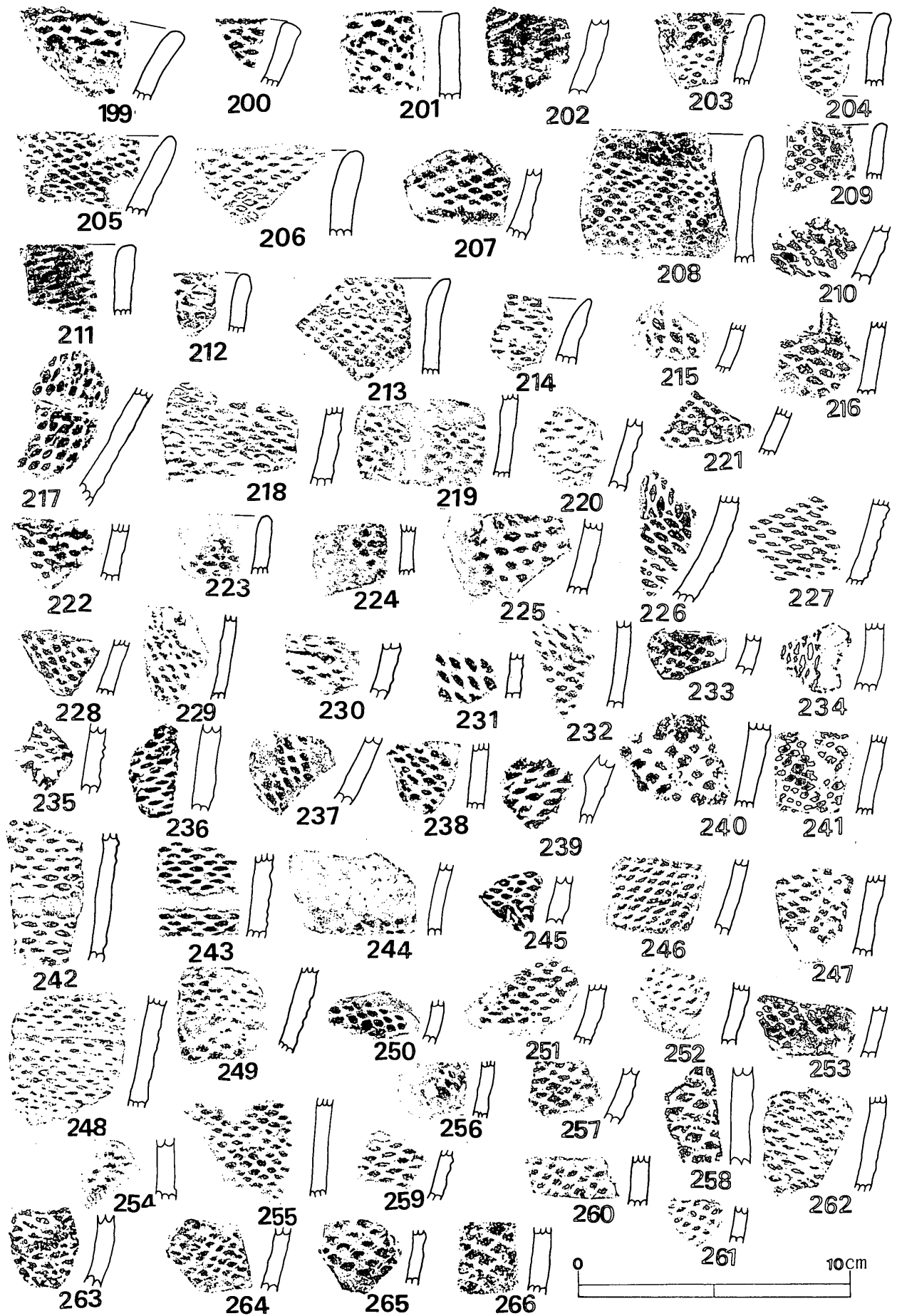
第40图 土器拓影图9 (押型文)



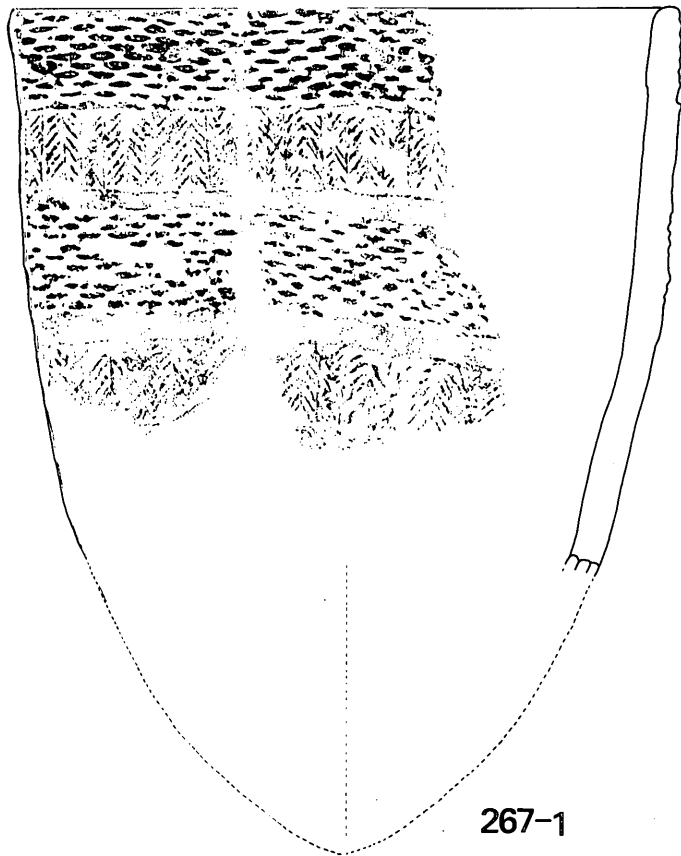
第41图 土器拓影图10 (押型文)



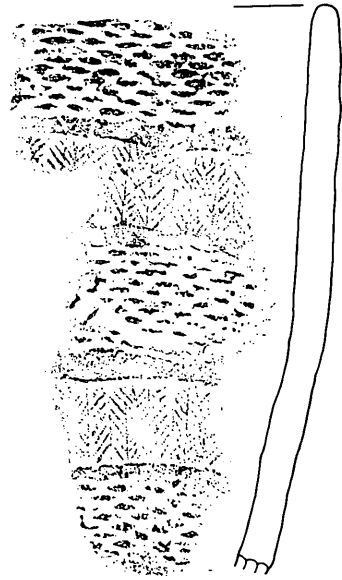
第42图 土器拓影·实测图11 (押型文)



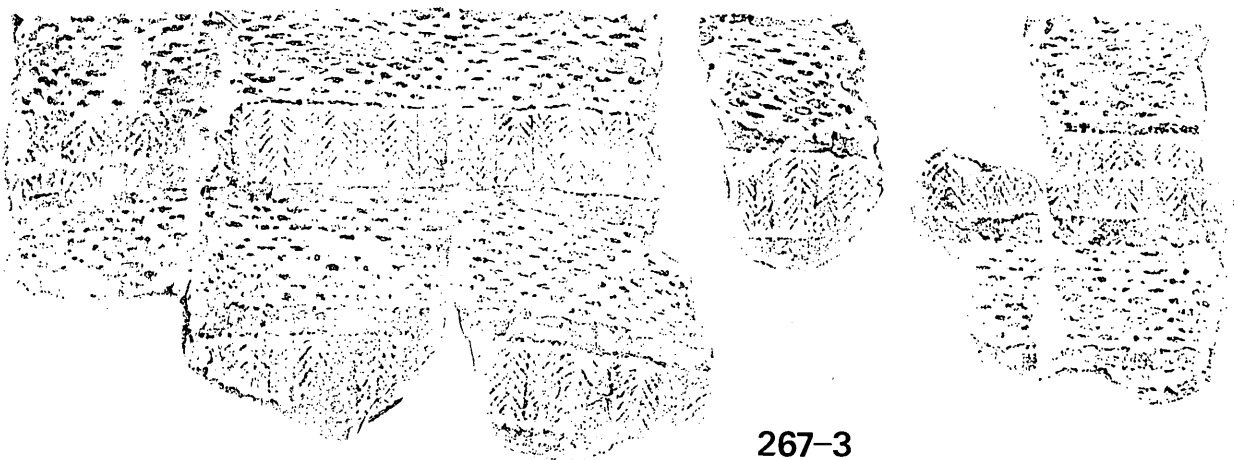
第43图 土器拓影图12 (押型文)



267-1



267-2



267-3



268



269



270



271



272



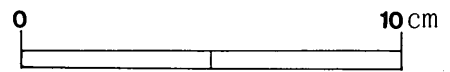
273



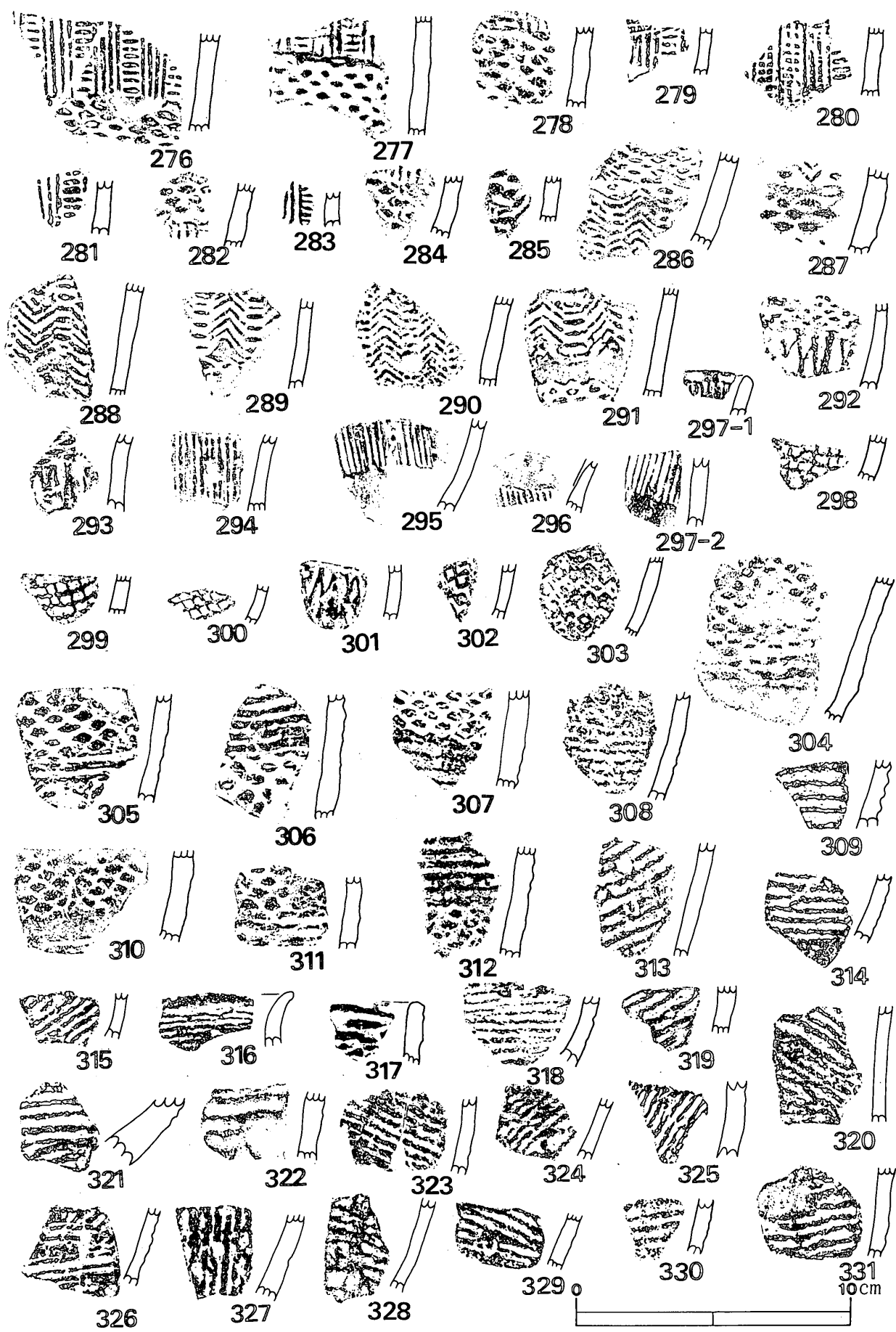
274



275



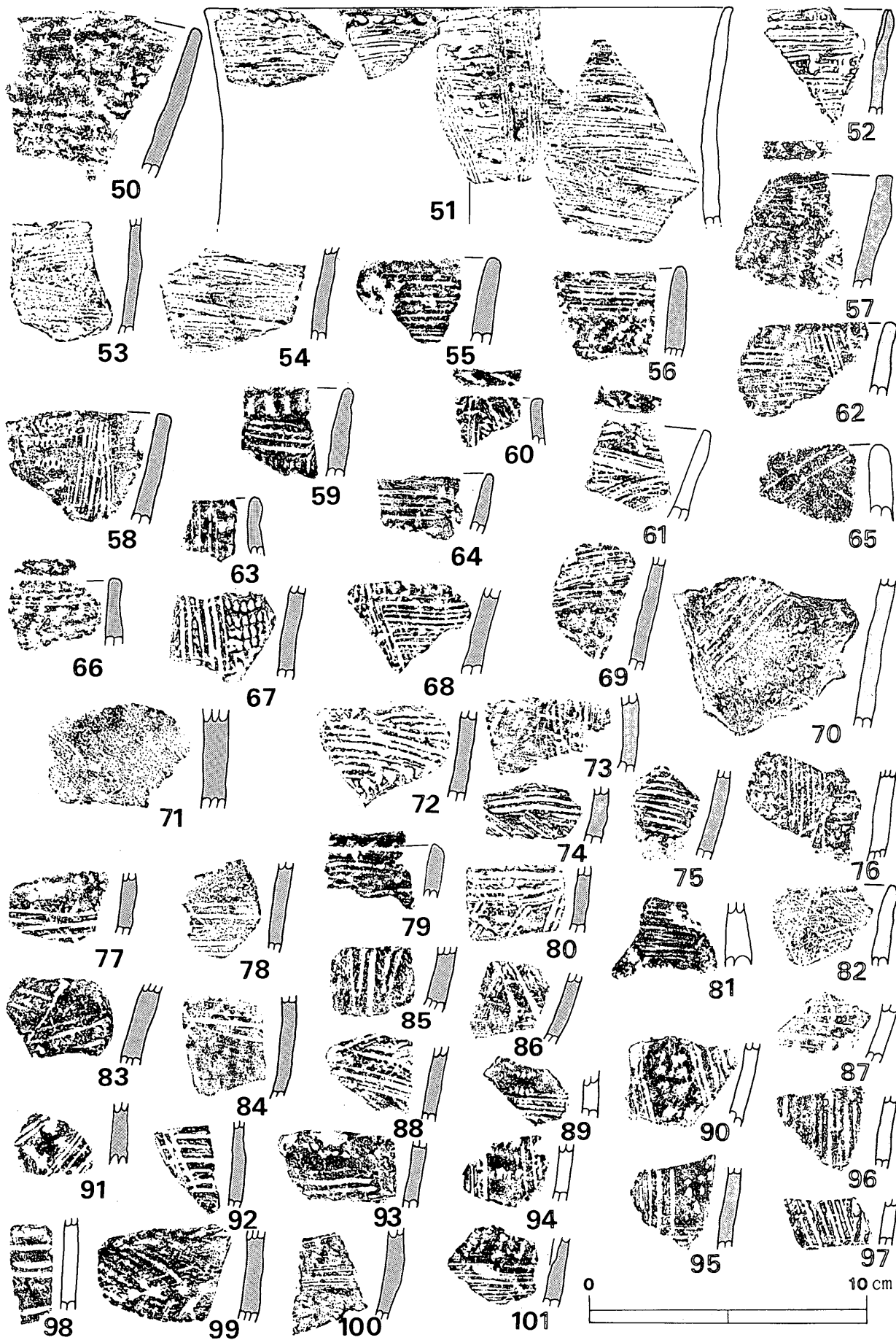
第44图 土器拓影·实测图13 (押型文)



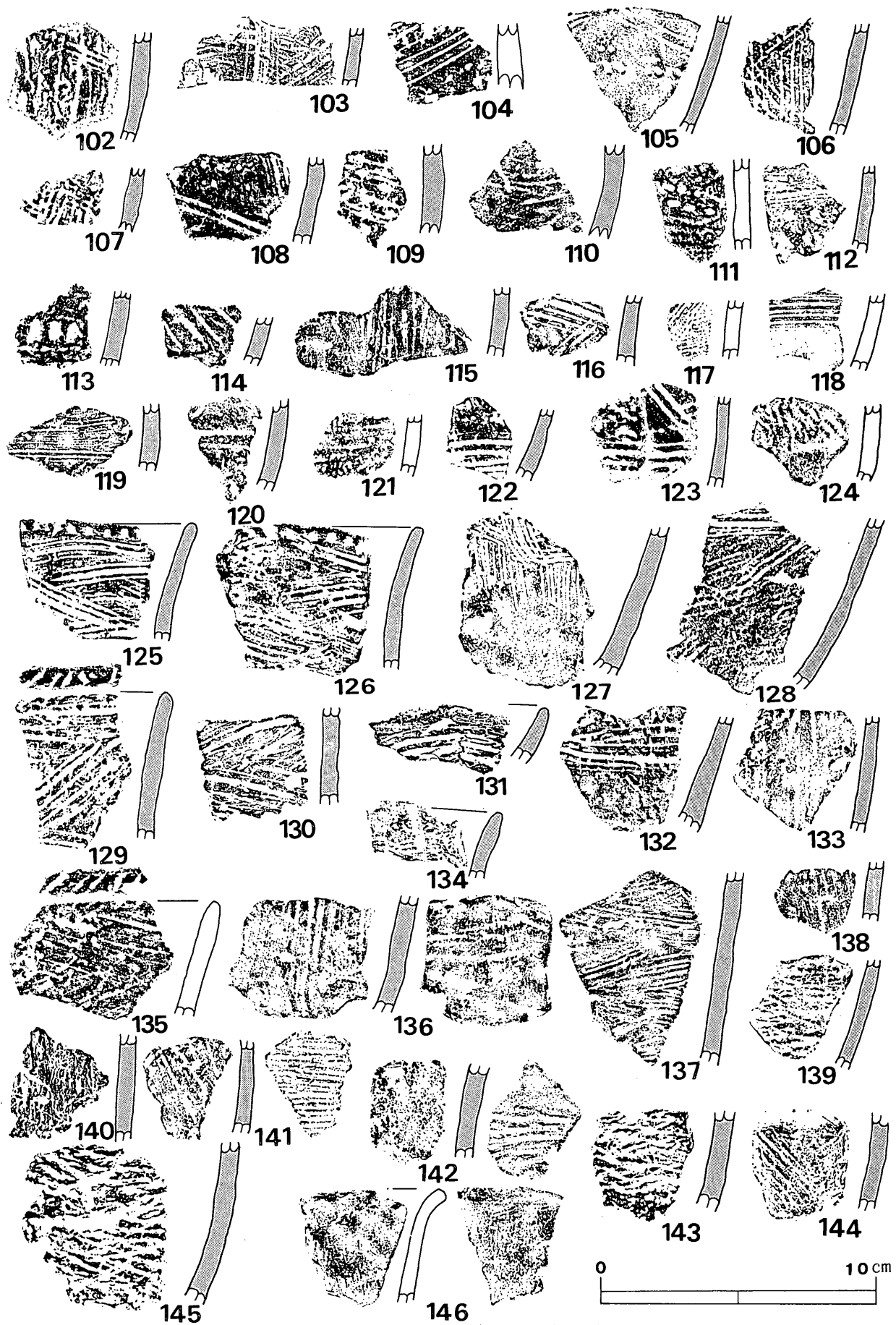
第45图 土器拓影图14 (押型文)



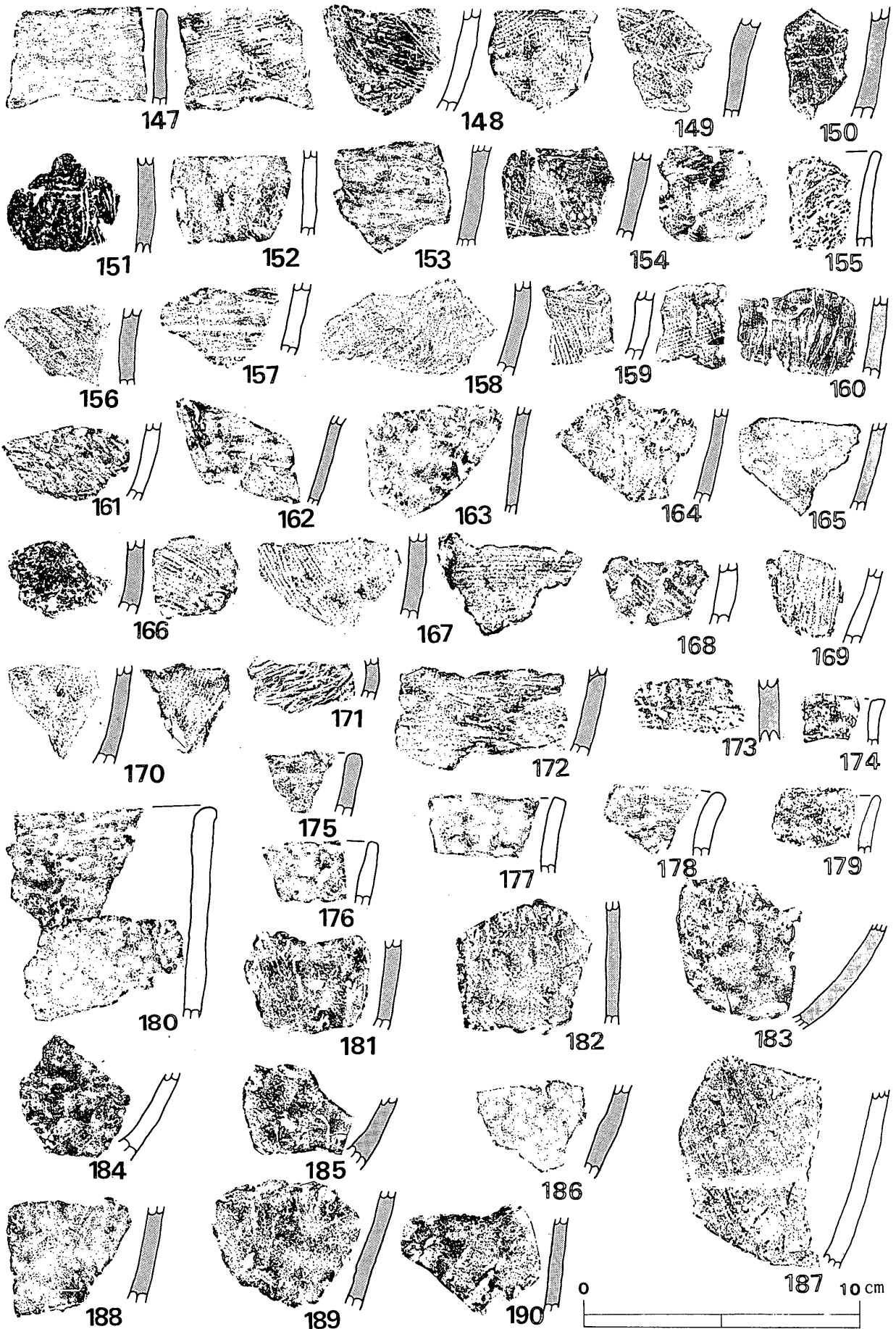
第46图 土器拓影图15 (沈線文~条痕文)



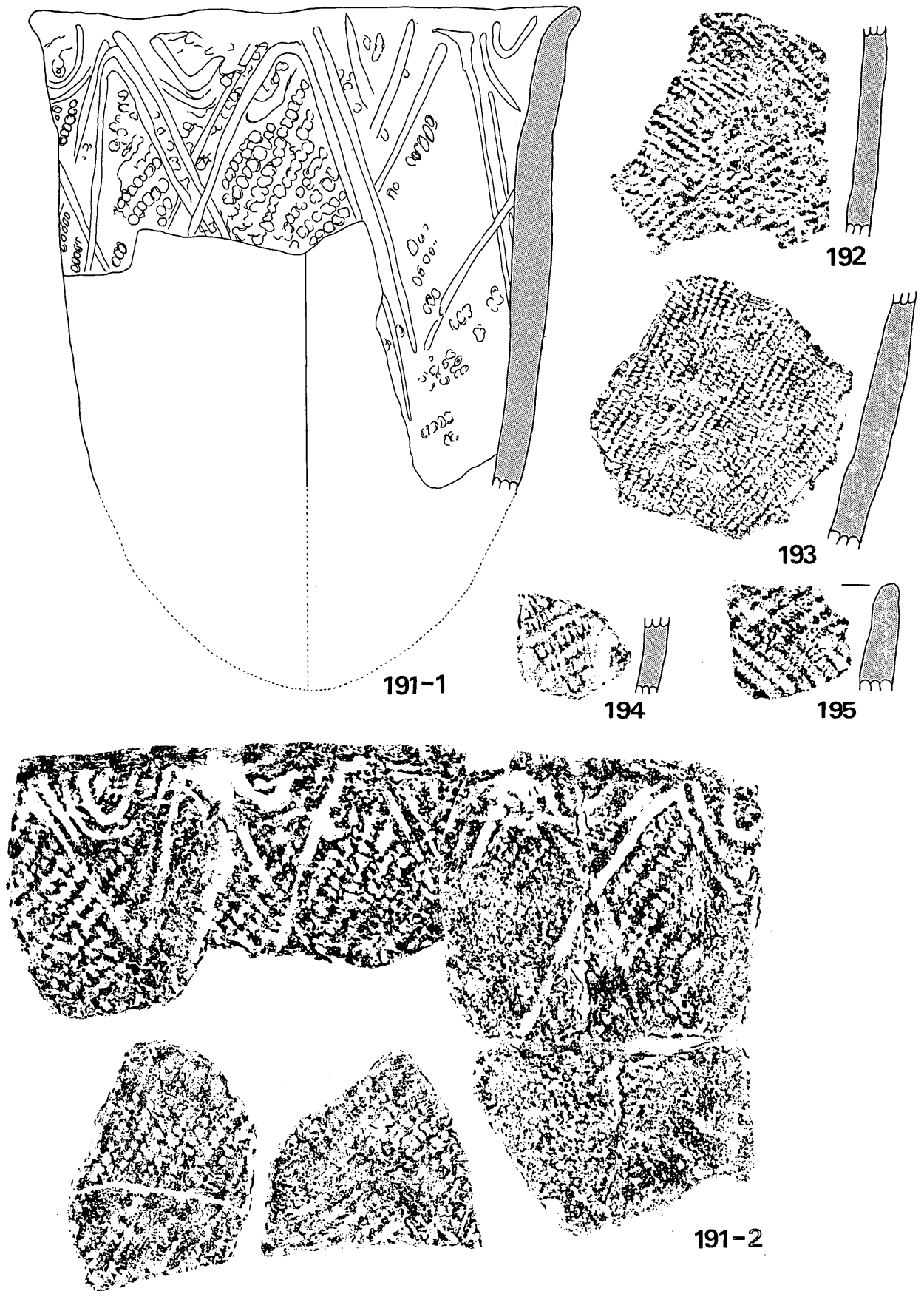
第47图 土器拓影・実測图16 (沈線文~条痕文)



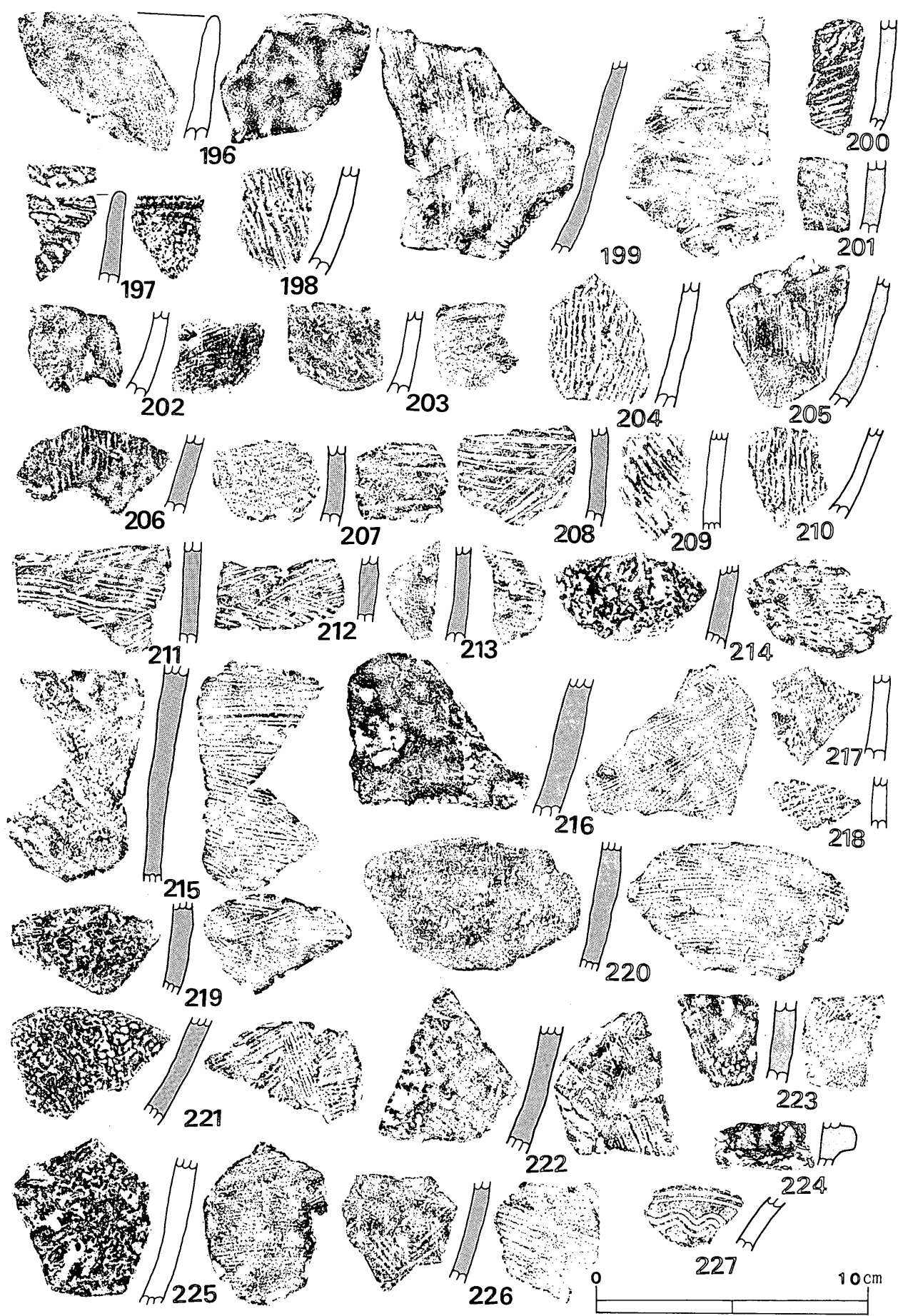
第48図 土器拓影図17 (沈線文~条痕文)



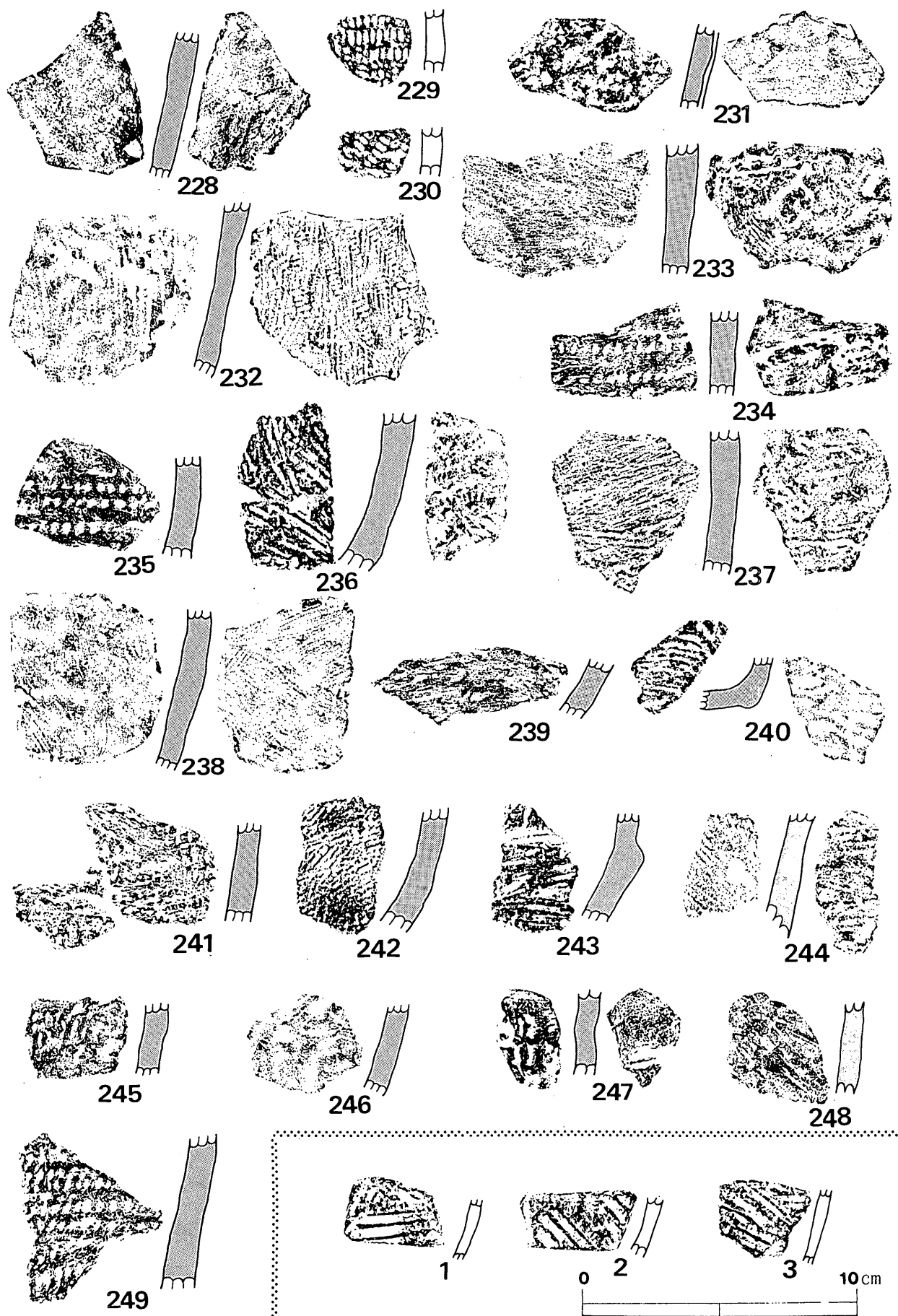
第49图 土器拓影图18 (沈線文~条痕文)



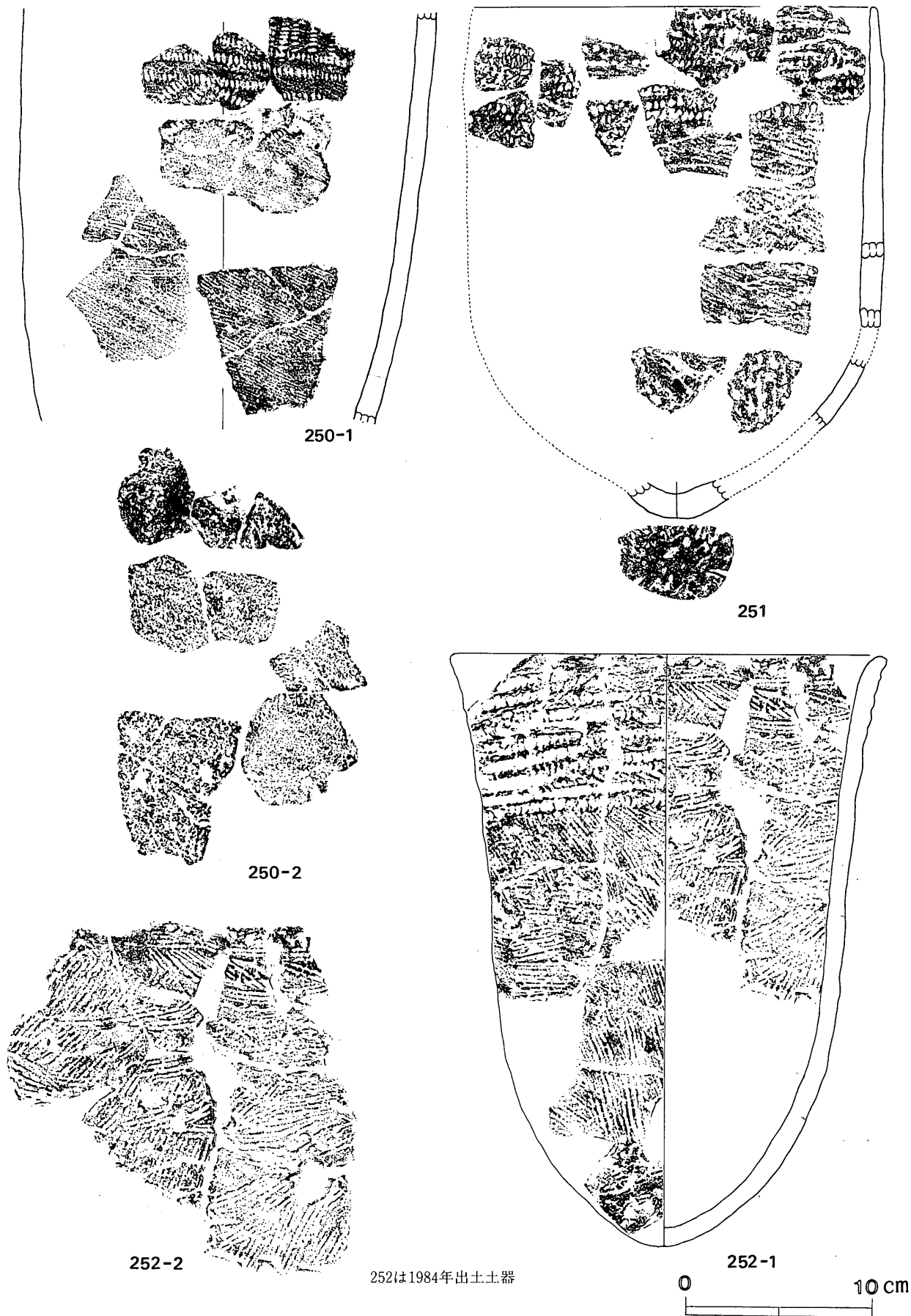
第50図 土器拓影・実測図19 (沈線文~条痕文)



第51图 土器拓影图20 (沈線文~条痕文)

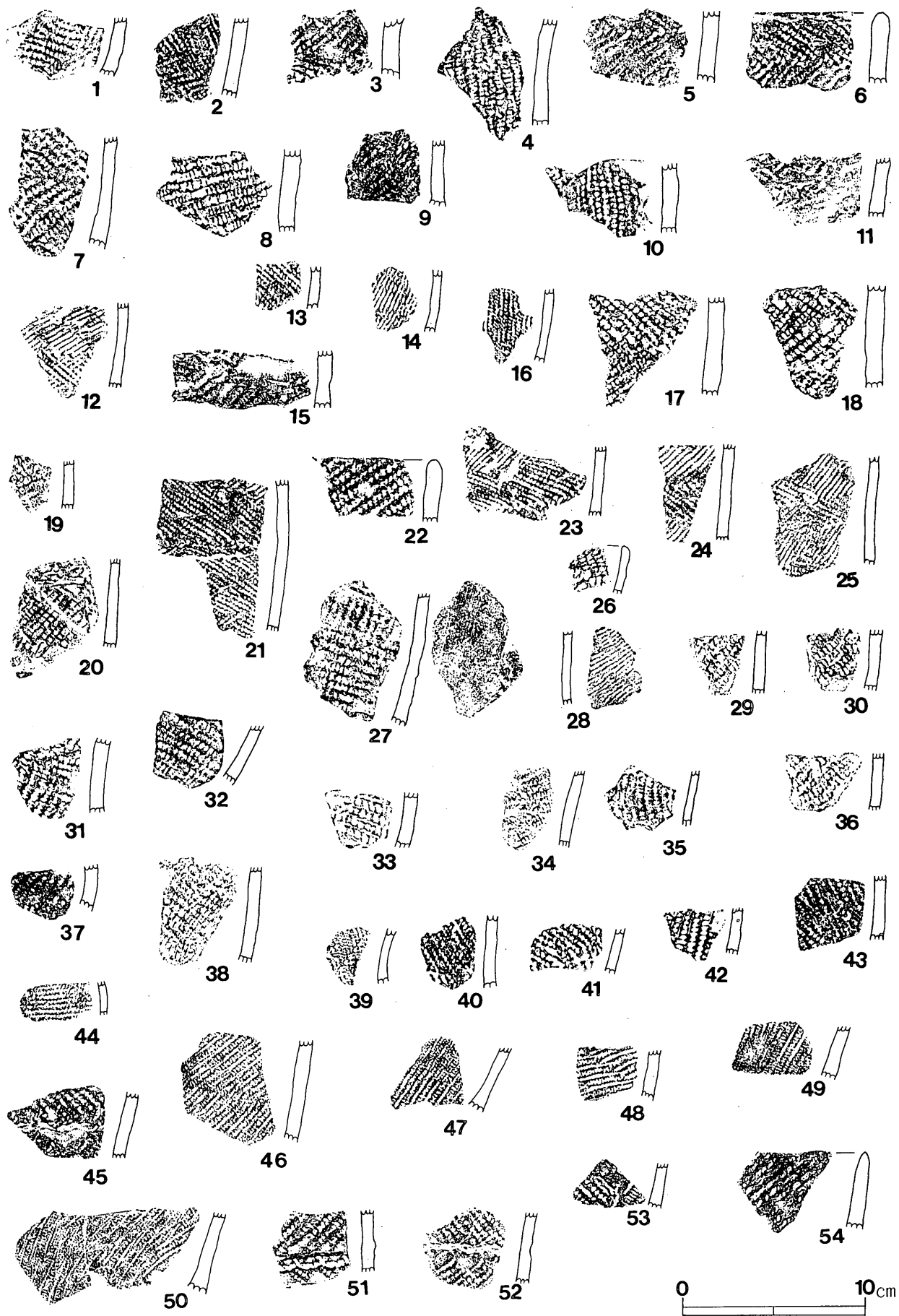


第52図 土器拓影図21 (沈線文~条痕文・平安時代土器)

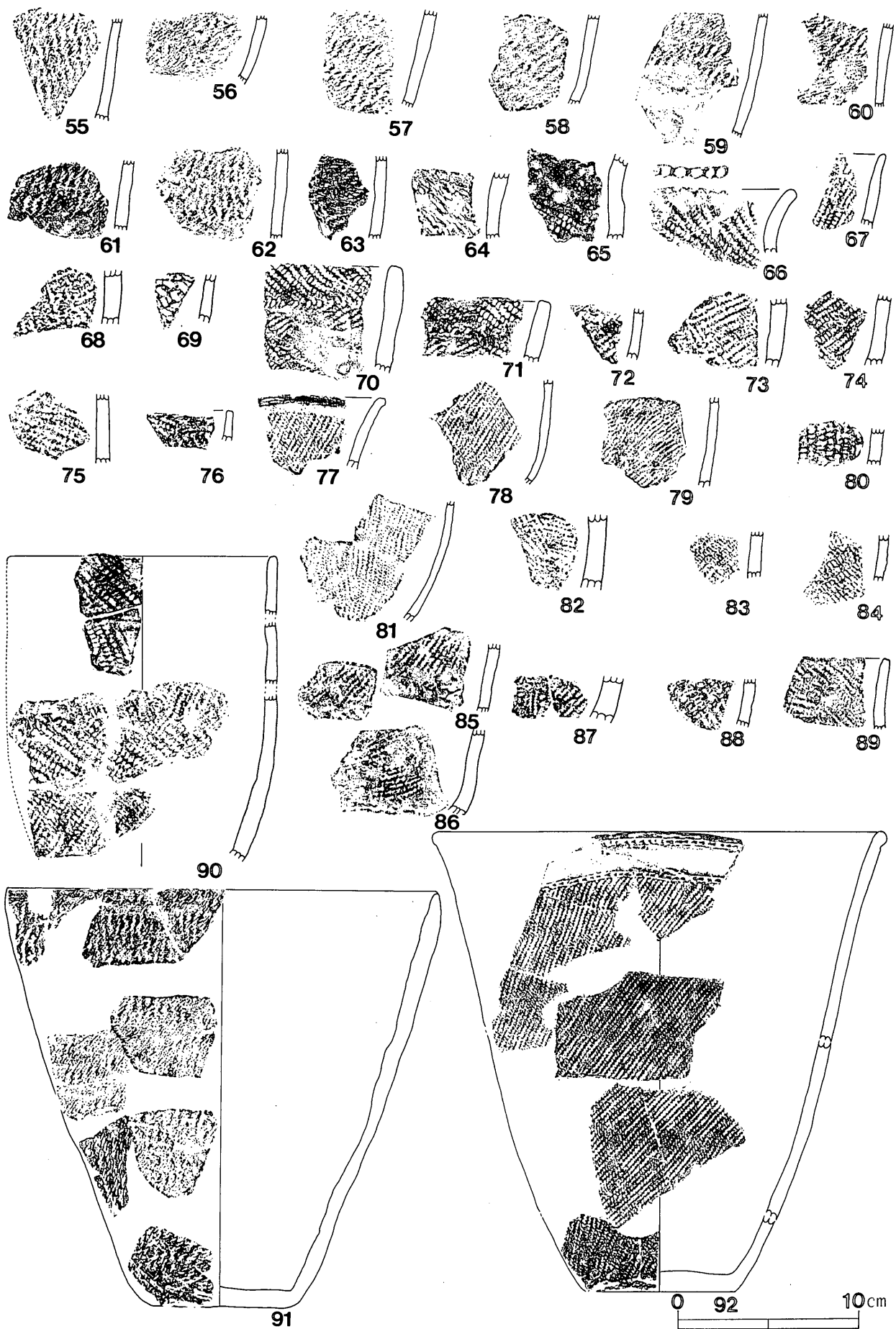


252は1984年出土土器

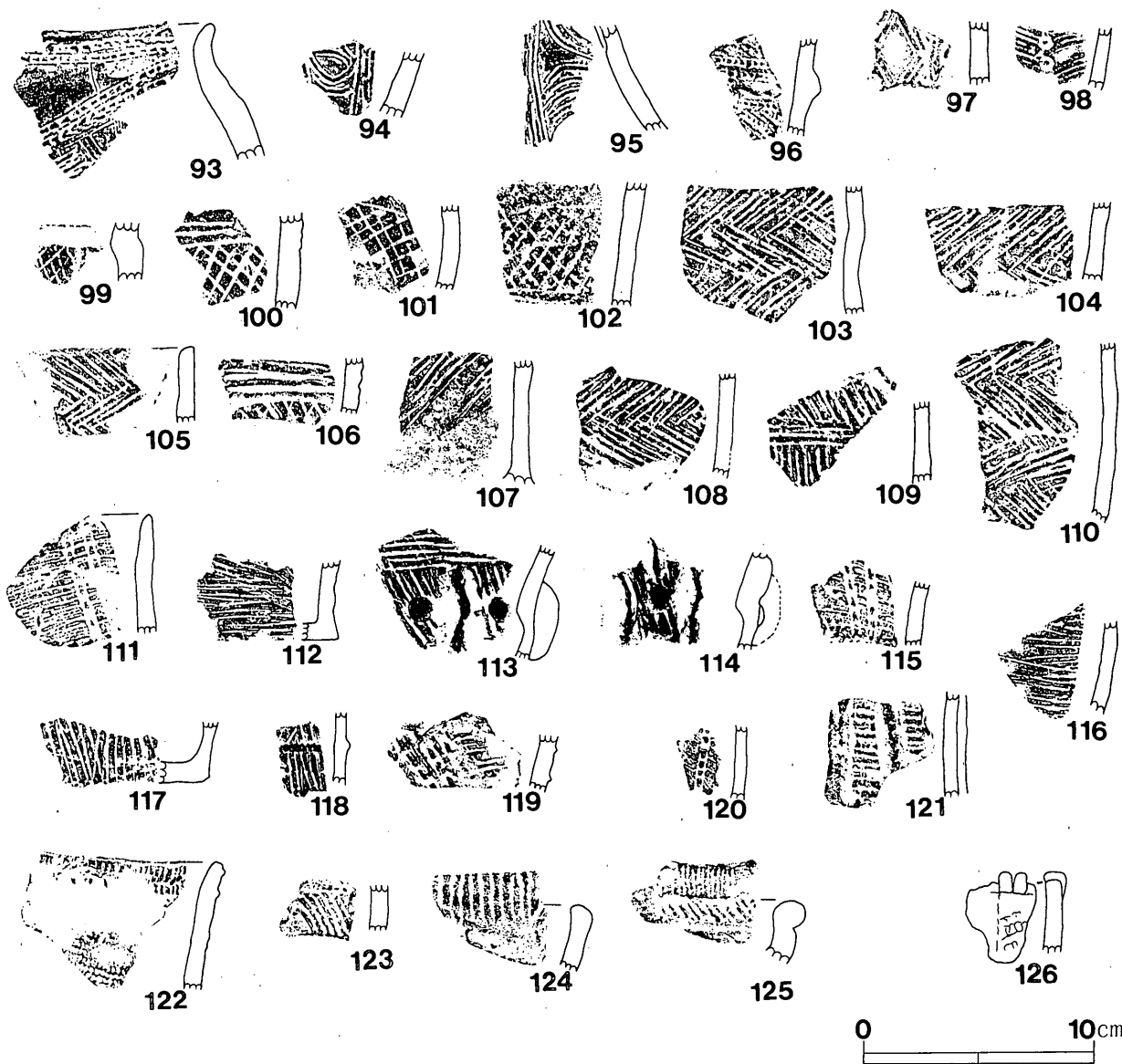
第53図 土器拓影図22 (沈線文～条痕文)



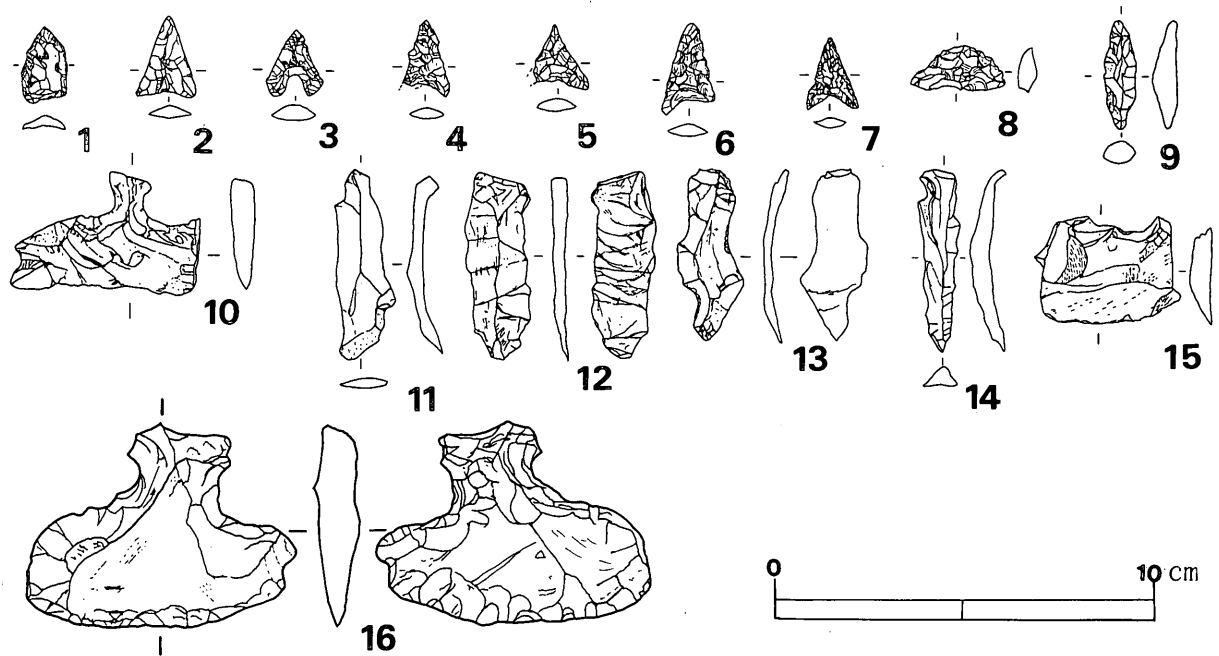
第54图 土器拓影图23 (前期)



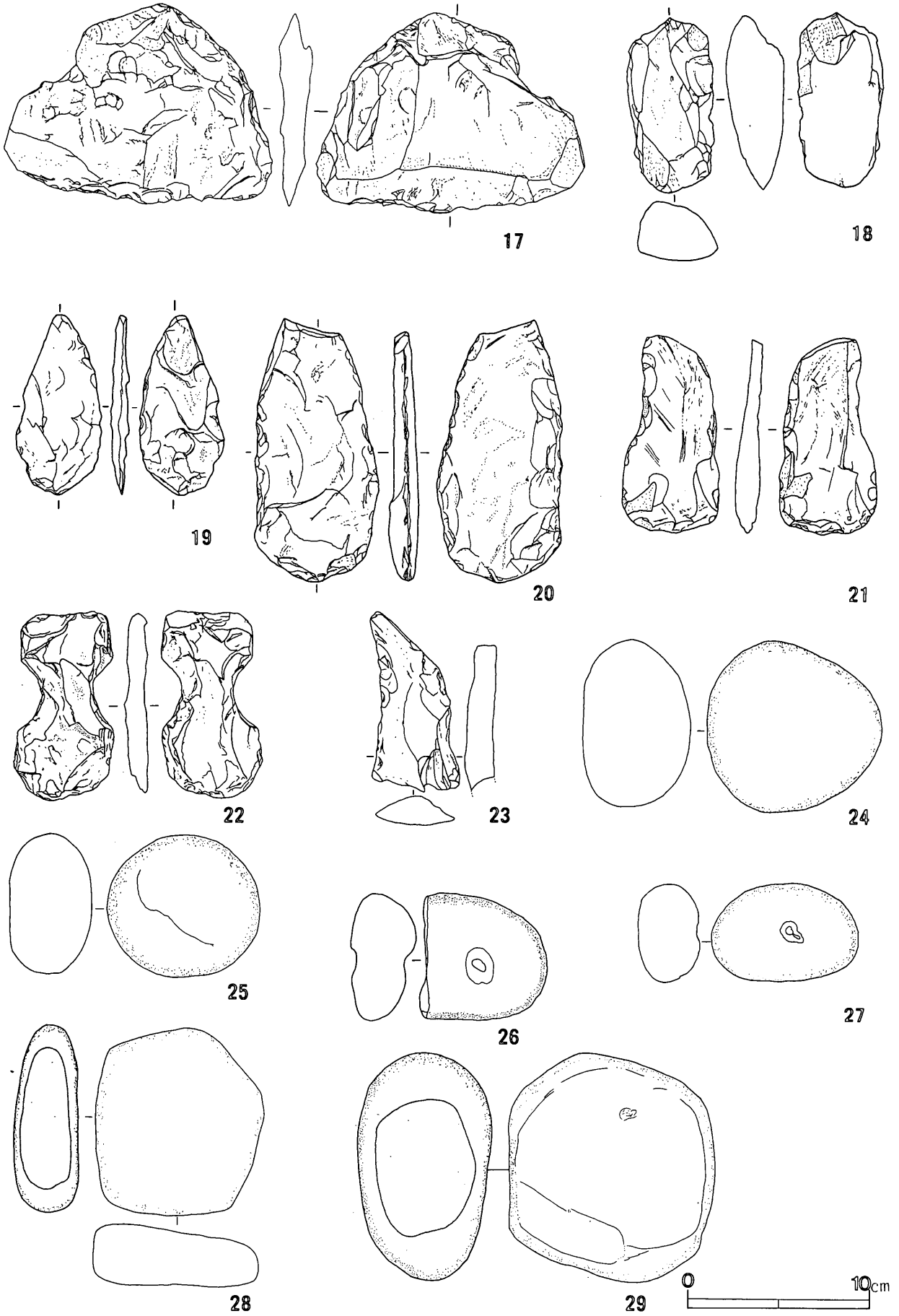
第55图 土器拓影·实测图24 (前期)



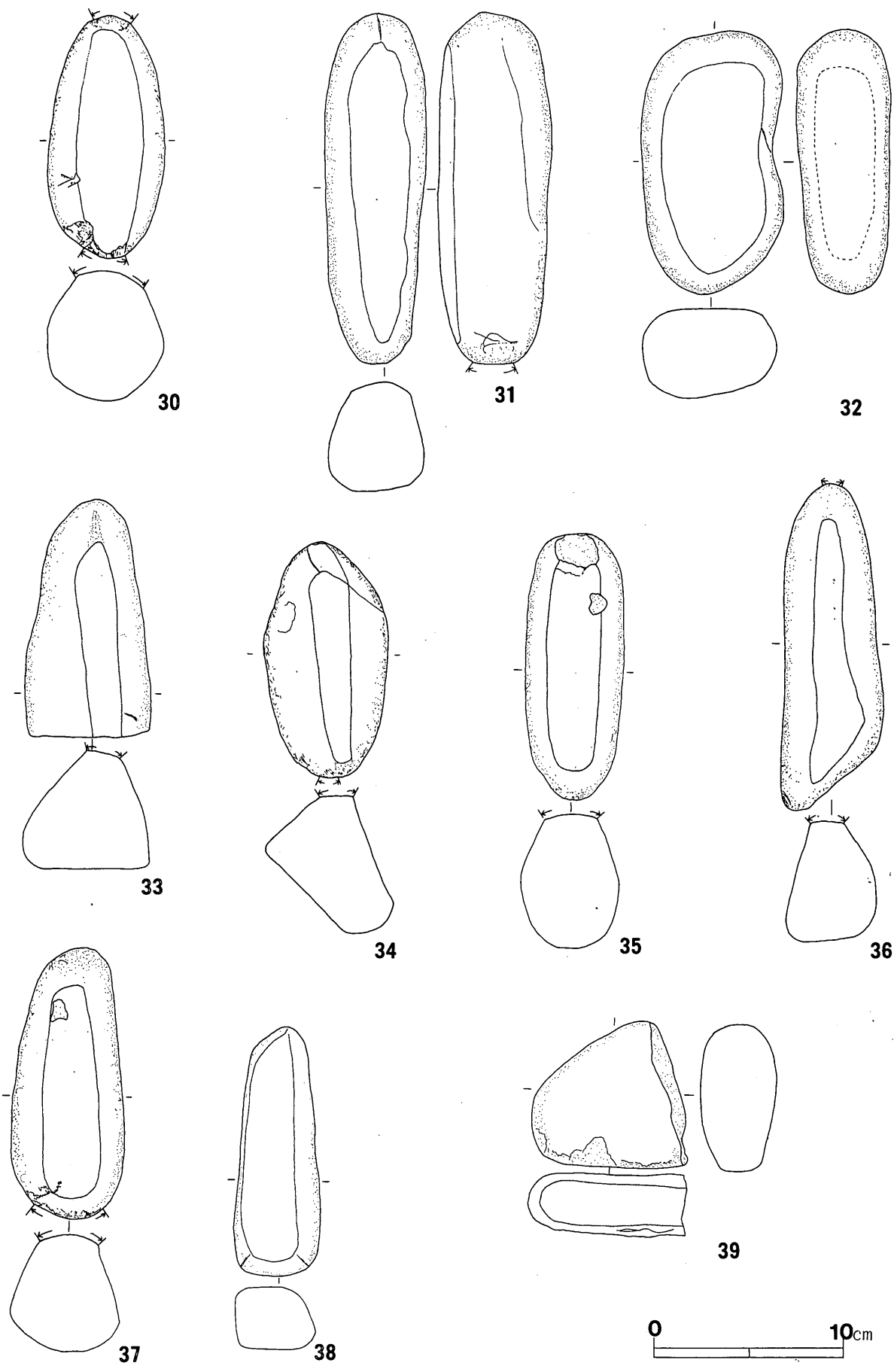
第56图 土器拓影图25 (前期)



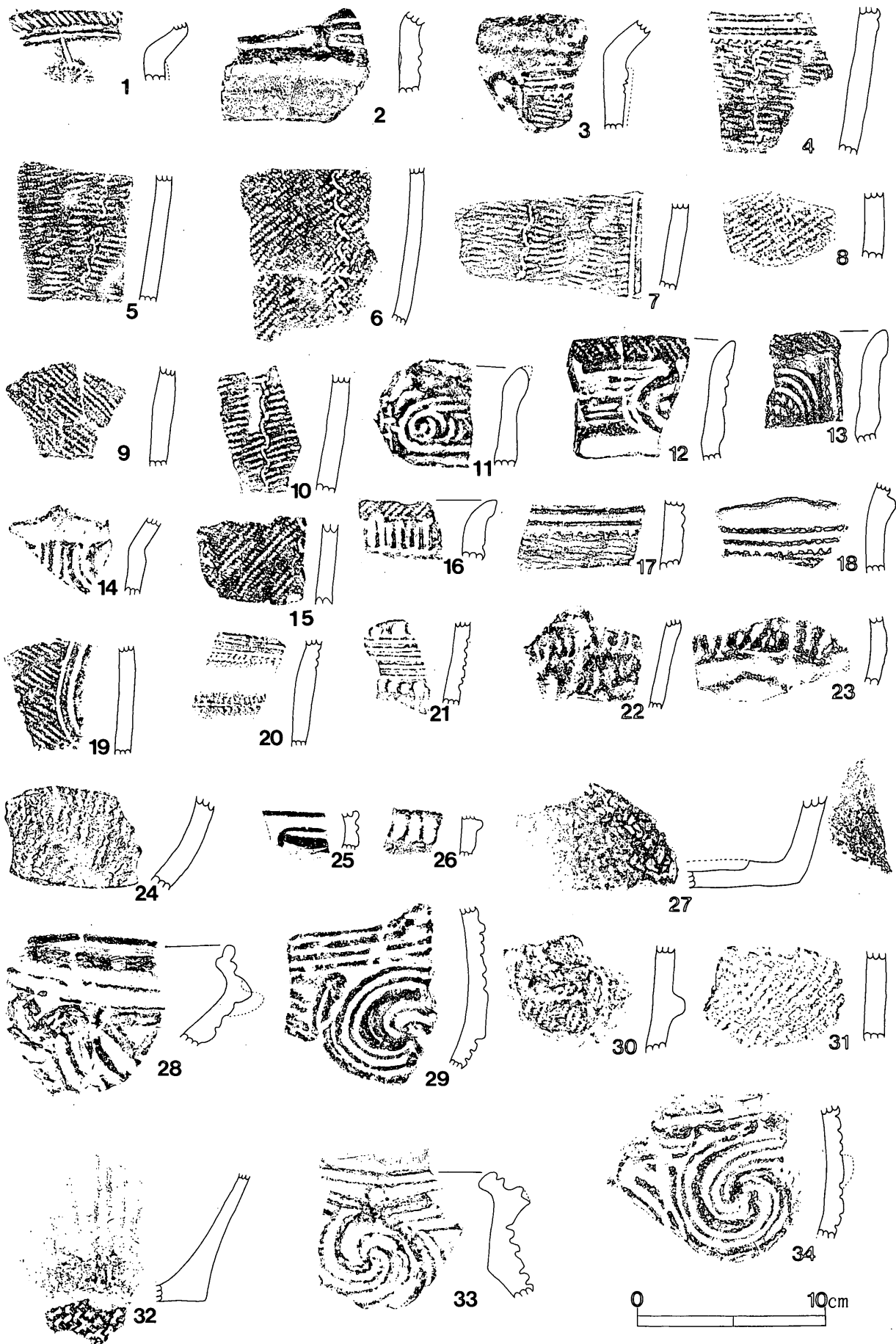
第57图 石器实测图1



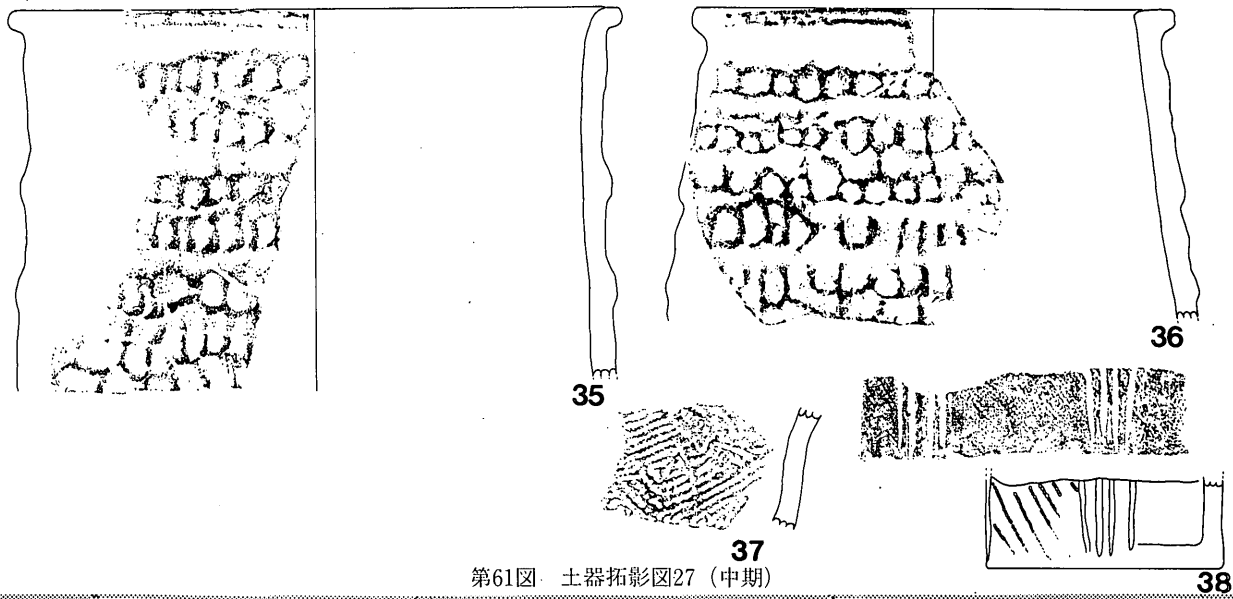
第58图 石器实测图 2



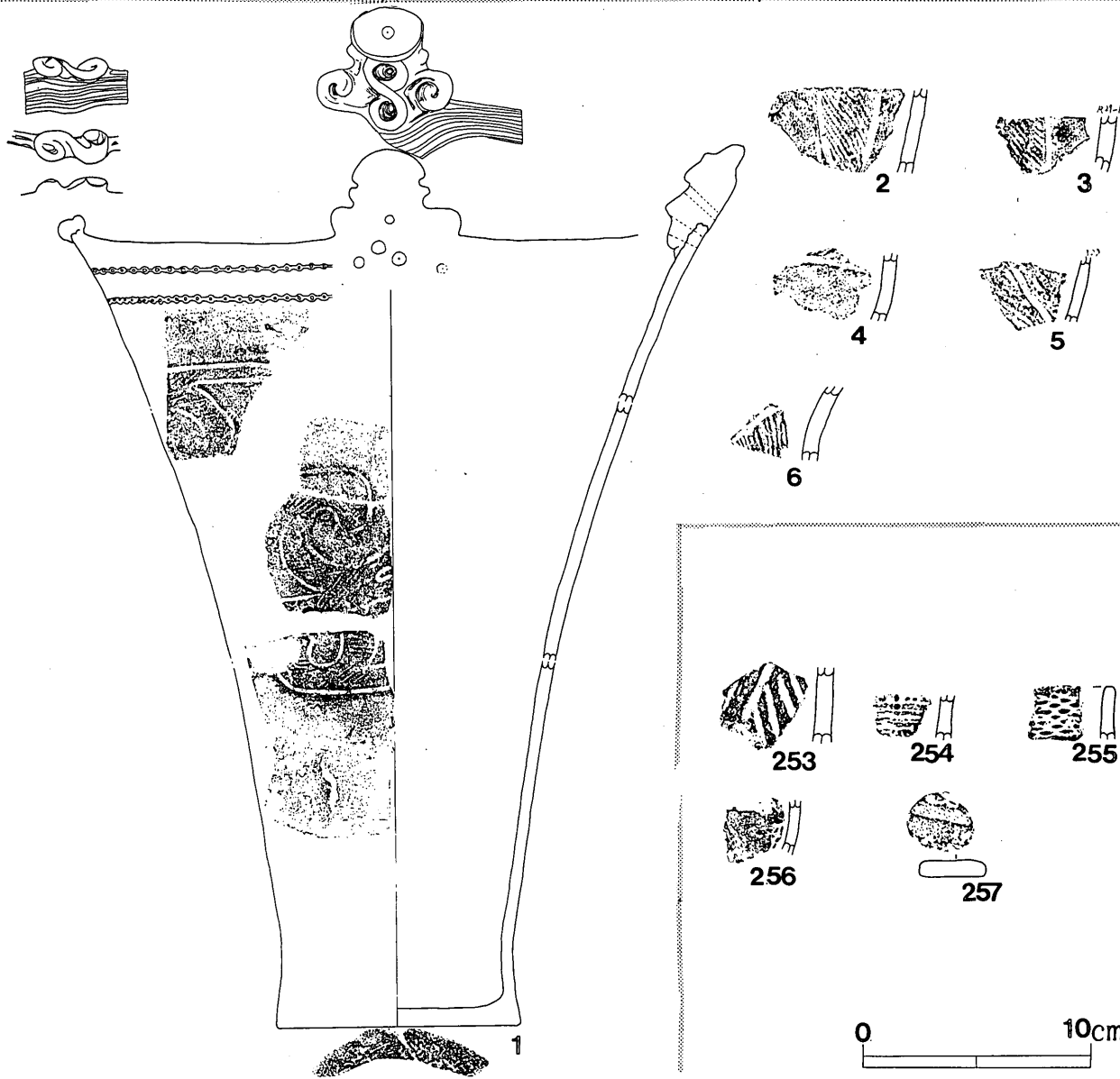
第59图 石器实测图3



第60图 土器拓影图26 (中期)



第61図 土器拓影図27 (中期)



第62図 土器拓影・実測図28 (後期・C地点トレンチ出土土器)

表1 土器一覧表1 (草創期~早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
1	深鉢	口縁部		口唇部、内外縄文	2段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	暗赤褐色 2.5 YR 3/2	堅	95 V 27	同種 4
2	〃	〃		〃	〃	〃		暗赤褐 2.5 YR 3/3	暗赤褐 2.5 YR 3/2	堅	95 U 29-3	
3	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい橙 2.5 YR 6/4	堅	95 Q 34-4	同種 5・6・7・8・9・ 10・11・12・15・36
13	〃	〃		〃	〃	〃		暗赤褐 5 YR 3/2	暗赤褐色 5 YR 3/3	堅	95 Y 23-1	
14	〃	〃		〃	0段多条 (無節縄文)	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/3	にぶい橙 5 YR 6/4	堅	95 W 26	
16	〃	〃		〃	〃	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	堅	95 O 24-1	
17	〃	〃		〃	〃	石英粒		橙 7.5 YR 6/6	橙 7.5 YR 6/6	やや 軟	95 表採	
18	〃	〃		内外縄文	2段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	黒褐 5 YR 3/1	堅	95 U 28-2	
19	〃	〃		口唇部・内外縄文	2段の縄	石英粒		赤褐 5 YR 4/6	明赤褐 5 YR 5/6	堅	95 T 29-3	
20	〃	〃		内外縄文	0段の縄	〃		褐 7.5 YR 4/3	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 P 31-9	2重の施文
21	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒金雲母		褐 7.5 YR 4/3	にぶい赤褐 5 YR 4/4	堅	95 V 28-5	同種 22
22	〃	〃		〃	2段の縄LR	〃		橙 2.5 YR 6/6	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 G 36	
23	〃	〃		口唇部・内外縄文	2段の縄	石英粒		にぶい褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/4	堅	95 U 29-4	
24	〃	〃		内外縄文	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/4	堅	95 S 30-3	
25	〃	〃		口唇部・内外縄文	0段の縄	〃 金雲母		暗赤褐 2.5 YR 3/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	堅	95 U 28-2	
26	〃	〃		〃	2段の縄	石英粒岩石粒		黒褐 5 YR 2/2	暗赤褐 5 YR 3/2	堅	95 Y 23-2	

27	〃	〃		内外縄文	0段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	堅	95 S 30-5	
28	〃	〃		〃	〃	〃 金雲母		極暗赤褐 2.5 YR 2/2	極暗赤褐 2.5 YR 2/2	堅	95 Q 29-1	
29	〃	〃		口唇部・内外縄文	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	赤褐 5 YR 4/6	堅	95 Q 30-8	
30	〃	〃		〃	2段の縄	〃		暗赤褐 2.5 YR 3/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	堅	95 G 36-11	
31	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/6	にぶい赤褐 5 YR 5/4	堅	95 J 32-4	
32	〃	〃		内外縄文	〃 ?	石英粒少		赤褐 5 YR 4/6	にぶい赤褐 5 YR 4/4	やや軟	95 V 26-6	
33	〃	〃		内外撚糸文		〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	堅	95 R 24-7	
34	深鉢	口縁部		口端部内外縄文	0段の縄	石英粒金雲母		黒褐 7.5 YR 3/2	黒褐 7.5 YR 3/2	堅	95 X 26-1	
35	〃	胴部		内外縄文	〃	石英粒		赤褐 2.5 YR 4/6	灰赤 2.5 YR 4/2	堅	95 O 36-7	同種 42・43・44・ 45・49・54・64
37	〃	口縁部		外撚糸文		砂粒	有	灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	堅	95 I 39-5	
38	〃	胴部		外縄文	2段の縄	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/3	堅	95 J 34-1	
39	〃	〃		内外縄文	0段の縄	石英粒金雲母		灰褐 7.5 YR 4/2	黒褐 7.5 YR 3/2	堅	95 Q 27	
40	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 U 34-2	
41	〃	胴部		内外縄文	0段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/3	暗褐 7.5 YR 3/3	堅	95 G 35-5	
46	〃	口縁部		口端外面縄文	2段の縄	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 R 23-1	
47	〃	胴部		外面縄文	0段の縄	〃		赤褐 5 YR 4/6	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 R 31-2	同種 65

表2 土器一覧表2 (草創期～早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
48	深鉢	口縁部		外面縄文	0段の縄	砂粒		暗赤褐 5 YR 3/3	にぶい赤褐色 5 YR 4/4	堅	95 S 31-3	
49	〃	胴部		〃	0段の縄	金雲母・石英粒		橙 2.5 YR 6/6	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 W 27-6	
50	〃	口縁部		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 S 30-6	
51	〃	口縁部		外面撚糸文		砂無し		黒褐 5 YR 2/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	堅	95 RH 27	
52	〃	〃		外面縄文	0段の縄	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 E 7-9	
53	〃	〃		〃 口端波状	前前段多条の 縄	白色粒		明赤褐 5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 5/4	軟	95 R 35-6	
55	〃	〃		外面縄文?		石英粒多		にぶい赤褐 5 YR 4/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 R 31-3	
56	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 T 30-2	
57	深鉢	胴部		外縄文	0段の縄	石英粒金雲母		黒褐 5 YR 2/1	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 R 36-1 95 Q 31-18	
58	〃	〃		外縄文	2段の縄	砂粒		明赤褐 5 YR 5/6	にぶい橙 5 YR 7/4	〃	95 W 24	
59	〃	〃		外縄文	0段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐色 2.5 YR 4/3	〃	95 V 27-4	
60	〃	〃		外縄文	〃	砂粒		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	褐灰 5 YR 4/1	〃	95 N 27-2	
61	〃	〃		〃	〃	金雲母多い		にぶい赤褐 5 YR 4/3	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 N 29-2	
62	〃	〃		〃	2段の縄	石英粒金雲母		褐灰 5 YR 4/1	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 G 3-3	
63	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい褐 5 YR 4/3	黒褐 7.5 YR 3/2	〃	95 H 39-1	
65	〃	胴部上		〃	0段の縄	〃		灰赤 2.5 YR 5/2	灰赤 2.5 YR 5/2	〃	95 J 35-2	

66	〃	〃		外縄文	0段の縄	石英粒		にぶい褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 P 32	
67	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 2.5 YR 4/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 W 26-18	
68	〃	〃		〃	2段の縄	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	黒褐 5 YR 2/2	〃	95 P 24-2	
69	深鉢	胴部		外縄文	2段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/2	堅	95 G 38-7	同種 73・74・ 77・86
70	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	黒褐 5 YR 2/2	〃	95 J 38-1	
71	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 4/3	黒褐 5 YR 2/2	堅	95 I 40-11	同種 72・105
75	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 W 26	
76	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 G 38-3	
78	〃	〃		〃	〃	砂粒白色粒	有	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	やや軟	95 H 40-1	
79	〃	〃		〃	〃	石英粒金雲母		赤褐 5 YR 4/6	褐灰 7.5 YR 5/1	堅	95 I 32-1	
80	〃	〃		〃	〃	〃		赤褐 5 YR 4/6	暗赤褐 5 YR 3/3	堅	95 S 29-3	
81	〃	〃		〃	〃	砂白色粒		赤褐 5 YR 4/6	暗赤褐 5 YR 3/3	堅	95 O 37-10	
82	〃	〃		〃	0段の縄	砂粒		赤褐 5 YR 4/	褐 7.5 YR 4/4	堅	95 R 30-14	
83	〃	胴下半		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/6	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 S 30-3	擬口縁
84	〃	胴部		〃	2段の縄	石英粒		黒褐 7.5 YR	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 J 33-1	
85	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 W 26-9	

表3 土器一覧表3 (草創期~早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
87	深鉢	胴部		外面縄文	0段の縄	石英粒		黒褐 7.5 YR 3/2	暗褐 7.5 YR 3/3	堅	95 Q 30-15	
88	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 H 40-8	
89	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒金雲母		明赤褐 5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 W 27-3	
90	〃	〃		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/3	黒 7.5 YR 2/1	〃	95 W 26-6	
91	〃	〃		〃	2段の縄	〃		褐 7.5 YR 4/4	暗褐 7.5 YR 3/3	〃	95 U 29-6	
92	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 R 32-1	
93	〃	〃		〃	2段の縄	〃		褐 7.5 YR 4/3	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 R 31-9	
94	〃	〃		〃	〃	白色粒		褐 7.5 YR 4/3	褐 7.5 YR 4/3	軟	95 O 36-2	
95	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 4/3	堅	95 W 26-5	
96	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 O 26-1	
97	〃	〃		〃	〃	砂粒	有	灰褐 7.5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 4/2	堅	95 J 38-10	
98	〃	〃		〃	〃	石英粒		灰褐 7.5 YR 4/2	黒褐 7.5 YR 3/2	〃	95 I 35-1	
99	〃	〃		〃	0段の縄文	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 W 26-9	
100	〃	〃		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/3	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 W 26-4	
101	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 R 30-14	
102	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	堅	95 X 26-2	

103	〃	〃		〃	〃	白色粒		褐 7.5 YR 4/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 P 34-13	
104	〃	〃		〃	撚糸文	石英粒		褐 7.5 YR 4/4	黒褐 7.5 YR 2/2	〃	95 P 31-10	
106	〃	口縁部		口端刻み目 外面縄文	2段の縄	白色粒	有少	灰褐 7.5 YR 4/2	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 N 34-1	同種169
107	〃	口縁部		〃	2段の縄	白色粒	有	褐 7.5 YR 4/4	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 I 38-2	
108	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒金雲母		暗赤褐 5 YR 3/3	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 L 31-5	
109	〃	口縁部		内外縄文?	〃 ?	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/4	堅	95 R 30-9	
110	〃	胴部		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 Q 30-10	擬口縁
111	深鉢	胴部		外面縄文	2段の縄	白色粒		灰褐 5 YR 5/2	にぶい赤褐 5 YR 4/4	堅	95 P 28-59 (2住)	
112	〃	〃		〃	0段の縄	〃	有多	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 W 25-2	
113	〃	〃		〃	2段の縄	〃	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 R 35-7	
114	深鉢	胴部		外面縄文	2段の縄	砂粒白色粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/4	堅	95 H 35-2	
115	〃	〃		〃	〃	〃		黒褐 7.5 YR 3/2	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 M 31-5	
116	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/4	〃	95 H 39-2	
117	〃	〃		〃	0段の縄	〃		赤褐 5 YR 4/6	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 N 36-6	
118	〃	胴下半		〃	〃	〃		にぶい褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 P 31-7	
119	〃	胴部		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 W 26-9	

表4 土器一覧表4 (草創期～早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
120	深鉢	底部		外面縄文	0段の縄	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 R 35	丸底破片
121	〃	胴部		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 W 26	
122	〃	胴部		〃	〃	石英粒金雲母		褐 7.5 YR 4/3	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 W 26-10	
123	〃	〃		〃	〃	石英粒		明褐 7.5 YR 5/6	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 W 26-1	
124	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒	有	灰褐 7.5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 F 40-1	
125	〃	〃		〃	〃	石英粒		赤褐 5 YR 4/6	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 W 25-4	
126	〃	〃		〃	反撚の縄	〃		赤褐 5 YR 4/6	赤褐 5 YR 4/6	〃	95 W 27-3	
127	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 W 16-13	
128	〃	〃		〃	0段の縄	〃		暗赤褐 5 YR 3/4	赤褐 5 YR 4/6	〃	95 V 25-3	
129	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 Y 23-1	
130	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 Q 30-1	
131	〃	〃		外面撚糸文		砂粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 K 28-2	
132	〃	〃		外面縄文	2段の縄	石英粒金雲母		明赤褐 5 YR 5/6	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 V 28-5	
134	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 W 26	
135	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 V 27	
136	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 V 27	

137	〃	〃	〃	0段の縄	石英粒金雲母		暗赤褐 5 YR 3/3	赤褐 5 YR 4/6	〃	95 W 27-2	同種 241
138	〃	〃	〃	2段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/3	黒褐 5 YR 2/2	〃	95 H 35-3	
139	〃	〃	〃	0段の縄	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 R 32-9	
140	深鉢	胴部	外面縄文	2段の縄	白色粒石英粒		にぶい赤褐 5 YR 4/3	暗赤褐 5 YR 3/3	堅	95 P 24-1	
141	〃	〃	〃	0段の縄	石英粒		赤褐 5 YR 4/6	黒赤褐 5 YR 3/4	〃	95 S 33-11	
142	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 I 32-7	
143	〃	〃	外面撚糸文		白色粒		明褐 7.5 YR 5/6	褐 7.5 YR 4/4	やや軟	95 表採	
140	〃	〃	外面縄文	0段の縄	石英粒少		赤褐 5 YR 4/6	にぶい赤褐 5 YR 4/3	堅	95 S 29-3	
145	〃	〃	外面撚糸文		砂粒		暗赤褐 2.5 YR 3/4	極暗赤 2.5 YR 2/2	堅	95 N 26-2	
146	〃	〃	外面縄文	0段の縄	石英粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/6	〃	95 Q 31-5	
147	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/4	〃	95 P 23-1	
148	〃	〃	外面縄文	0段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 表採	
149	〃	〃	外面縄文 無文	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3		95 J 40-7	
150	〃	〃	外面縄文	2段の縄	砂粒少		にぶい橙 7.5 YR 6/4	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 S 30-3	
152	〃	〃	絡状体圧痕?		砂粒白色粒	有	褐 7.5 YR 4/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 T 32-4	
153	〃	〃	外面縄文	0段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/4	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 W 26-2	同種 203・204

表5 土器一覧表5 (草創期~早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
154	深鉢	口縁部		外面縄文	2段の縄	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	堅	95 I 40-5	
155	〃	胴部		外面縦位羽状縄文	〃	〃	有	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 U 33-1	
156	〃	〃		外面縄文・爪型文	前々段多条の 縄	白色粒	有少	にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄橙 10 YR 6/4	軟	95 N 38-1	
157	〃	〃		外面縄文	2段の縄	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 I 40-10	
158	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 4/3	にぶい赤褐 5 YR 4/3	堅	95 V 25	
159	〃	〃		外面縄文	2段の縄	白色粒	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	堅	95 H 33-6	同種160・166
161	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7.5 YR 4/2	やや 軟	95 S 28-2	
162	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	堅	95 G 40-4	
163	〃	〃		外面縄文	2段の縄	白色粒		褐 7.5 YR 4/3	褐 7.5 YR 4/3	堅	95 R 32-6	同種175・186
164	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 F 6-23 とき	
165	〃	〃		〃	〃	〃		暗赤褐 5 YR 3/2	暗褐 7.5 YR 3/3	やや 軟	95 P 34-1	
167	〃	〃		〃	〃	〃	有少	灰褐 7.5 YR 4/2	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 H 33-6	同種173
168	〃	〃		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	堅	95 U 32-2	
170	〃	〃		〃	〃	〃	有	にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄 10 YR 5/3	〃	95 I 40-4	
171	〃	〃		外面縄文と爪形文	2段の縄	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 P 29-2	ハ字状爪形文
172	〃	〃		〃	2段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/3	黒褐 5 YR 3/1	堅	95 N 29-3	同種196・197・ 221

174	深鉢	胴部		外面縄文	2段の縄	白色粒	少量	暗褐 7.5 YR 3/3	灰褐 7.5 YR 4/2	堅	95 S 32-7	
176	〃	〃		〃	〃	〃	〃	褐 7.5 YR 4/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 Q 33-14	
177	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	暗褐 7.5 YR 3/3	〃	95 J 37-11	
178	〃	〃		〃	〃	〃	〃	黒褐 7.5 YR 3/2	褐 7.5 YR 4/4	やや軟	95 G 33-4	
179	〃	〃		〃	無節の縄文 (0段)	〃	少量	にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	堅	95 V 26-3	
180	〃	〃		〃	2段の縄	〃	〃	褐 7.5 YR 4/3	明褐 7.5 YR 5/6	やや軟	95 I 40-3	
181	〃	〃		〃	〃	〃	〃	明褐 7.5 YR 5/6	にぶい褐 5 YR 4/4	堅	95 H 39-1	
182	〃	〃		〃	0段の縄	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 T 29-6	
183	〃	〃		〃	〃	〃	〃	暗褐 7.5 YR 3/3	暗褐 7.5 YR 3/3	〃	95 O 37	
184	〃	〃		〃	〃	石英粒金雲母	〃	暗赤褐 5 YR 3/4	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 R 24-8	
185	〃	〃		〃	〃	石英粒	〃	暗赤褐 5 YR 3/4	黒褐 5 YR 2/2	〃	95 N 27-2	
187	〃	〃		〃	〃	白色粒	〃	褐 7.5 YR 4/3	褐 7.5 YR 4/3	やや軟	95 F 6-23	
188	〃	〃		〃	〃	白色粒	〃	灰褐 7.5 YR 5/2	にぶい褐 7.5 YR 5/3	堅	95 E 7-31	
189	〃	〃		〃	2段の縄	石英粒	〃	にぶい橙 5 YR 6/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 E-7	
190	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 F 5-18	
191	〃	〃		〃	2段の縄	石英粒金雲母	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 F-5	

表6 土器一覧表6 (草創期~早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
192	深鉢	胴部		外面縄文	2段の縄	白色粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	極暗褐 7.5 YR 2/3	堅	95 K 29	
194	〃	〃		〃	〃	石英粒金雲母		灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 F 35-2	
195	〃	〃		〃	〃	〃	少量	にぶい赤褐 5 YR 4/3	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 O 37	同種200
198	〃	〃		〃	〃	石英粒		灰褐 5 YR 5/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	G 35	
201	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒		赤褐 5 YR 4/6	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 W 26-2	
202	〃	〃		〃	〃	石英粒金雲母		暗赤褐 5 YR 3/2	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 W 26-15	
206	〃	〃		縦位燃糸文		〃		灰赤 2.5 YR 4/2	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 M 30-1	
207	〃	〃		外面縄文	0段の縄	白色粒		赤褐 5 YR 4/6	赤褐 5 YR 4/6	〃	95 X 24-3	
209	〃	〃		〃	〃	石英粒	少量	にぶい褐 7.5 YR 5/4	暗褐 5.5 YR 3/3	〃	95 J 28	
210	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒	多量	赤褐 5 YR 4/6	にぶい赤褐 5 YR 5/4	やや軟	95 G 39-6	
211	〃	〃		〃	〃	砂粒		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	堅	95 W 27-4	
212	〃	〃		〃	0段の縄	〃 少		明赤褐 5 YR 5/6	にぶい橙 5 YR 6/4	やや軟	95 S 29-4	
213	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	黒褐 5 YR 3/1	堅	95 W 26-4	
214	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒	少量	褐 7.5 YR 4/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 R 36-5	
215	〃	〃		燃糸文		〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	暗褐 7.5 Y 3/3	堅	95 I 37-6	
216	〃	〃		外面縄文	2段の縄	砂粒		明褐 7.5 YR 5/6	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 Y 23-1	

217	〃	〃		〃	〃	石英粒		暗褐 7.5 YR 3/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 I 32-5	
218	〃	〃		〃	〃	〃		暗褐 7.5 YR 3/3	暗褐 7.5 YR 3/3	〃	95 P 33-3	
219	深鉢	胴部		外面縄文	0段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/4	堅	95 R 23-7	
220	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	褐灰 5 YR 4/1	〃	95 I 32	
222	〃	〃		〃	0段の撚糸文	石英粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	黒褐 7.5 YR 2/2	〃	95 W 26-1	
223	〃	〃		異方向の条痕文		〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 N 37-2	
224	〃	〃		外面縄文	前々段多条の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 R 36-3	
225	〃	〃		〃 異方向縄文	2段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 K 31-7	
226	〃	〃		外面縄文	0段の縄	石英粒		赤褐 5 YR 4/6	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 S 34-2	擬口縁
227	〃	〃		外面撚糸文		白色粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	赤褐 5 YR 4/6	〃	95 S 31-2	
228	〃	底部		外面縄文	0段の縄	砂粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	明赤褐 5 YR 5/6	〃	95 P 32-3	丸底
229	〃	胴部		外面撚糸文		石英粒金雲母		暗褐 7.5 YR 3/4	黒褐 7.5 YR 3/2	〃	95 U 22-2	立野式?
230	〃	〃		〃		白色粒		灰褐 5 YR 4/2	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 R 32-1	
231	〃	口縁部		〃		砂粒少		にぶい赤褐 5 YR 4/3	暗赤褐 5 YR 3/6	〃	95 J 40-9	
232	〃	胴部		外面縄文	2段の縄?	白色粒	少量	褐 7.5 YR 4/8	褐 7.5 YR 4/3	やや軟	95 P 32-5	
233	〃	〃		〃	0段の縄	砂粒少		明赤褐 5 YR 5/6	赤褐 5 YR 4/6	堅	95 U 28-1	

表7 土器一覧表7 (草創期～早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
234	深鉢	胴部		外面擦糸文		砂粒少	少量	にぶい褐 7.5 YR 5/4	暗褐 7.5 YR 3/3	堅	95 J 39-2	
235	〃	〃		〃		〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 I 38-8	
236	〃	〃		外面縄文	0段の縄	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 S 29-1	
237	〃	〃		外面縄文	0段の縄	石英粒少		赤褐 5 YR 4/6	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 S 31-1	
238	〃	〃		外面擦糸文 無紋部	内部平滑	白色粒		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 S 25-1	同種 245・247 器壁 縄文式に類似
239	〃	〃		外面擦糸文		砂粒少		にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	やや軟	95 K 40-13	
240	〃	〃		〃		〃	有少	にぶい赤褐 5 YR 4/3	灰褐 5 YR 4/2	堅	95 I 39-2	
241	〃	〃		外面縄文	0段の縄	石英粒金雲母		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 W 26	
242	〃	〃		〃	2段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/3	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 R 26-3	
243	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 J 38-9	带状施文
244	〃	〃		外面縄文	2段の縄	白色粒		明赤褐 5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 5/4	堅	95 H 39-2	
246	〃	〃		〃	〃	〃	有少	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 5 YR 4/2	〃	95 S 20-2	带状施文
248	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 P 30-3	
249	〃	〃		横位 擦糸文		〃		灰褐 7.5 YR 5/2	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 S 25-5	带状施文
250	〃	〃		外面縄文	2段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 I 33-1	
251	〃	〃		〃	〃	白色粒・砂粒		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 S 30-7	

252	〃	〃		外面縄文	2段の縄 内面条痕	白色粒砂粒	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/4	暗褐 7.5 YR 3/3	堅	95 G 33-12	
253	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒	有少	暗褐 7.5 YR 3/3	褐 7.5 YR 4/4	〃	95 G 35-15	同種 254
255	〃	〃		〃	〃 縄巻縄文	〃	有多	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 7/4	〃	95 G 33-6	同種 256・257
258	深鉢	胴部		内面縄文・羽状	0段の縄	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 W 27-8	
259	〃	〃		内外縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 O 36-5	同種 5 など
260	〃	口縁部		〃	2段の縄	〃		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 I 32-5	
261	〃	胴部		〃	前々段多条の 縄	〃		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 I 35-1	
262	〃	〃		外面縄文	0段の縄	〃 金雲母		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 P 29-12	擬口縁
263	〃	口縁部		内外縄文・口唇縄 文	2段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 M 39-1	
264	〃	〃		〃	〃	石英粒		灰赤 2.5 YR 5/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 C 29-1	
265	〃	〃		〃	前々段多条の 縄	〃 金雲母		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 H 35-13	
266	〃	胴部		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 O 34-9	
267	〃	〃		外面縄文・羽状文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 P 30-2	
268	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒	有	明赤褐 2.5 YR 5/6	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 J 37-7	
269	〃	〃		〃	〃	石英粒・金雲母		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 X 25-2	
270	〃	口縁部		内外縄文	〃	鉄分粒・金雲母		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 W 27	波状口縁

表 8 土器一覧表 8 (草創期～早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
271	深鉢	胴部		外面縄文	0段の縄	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	堅	95 W 27-1	
272	〃	〃		〃	前々段多条の 縄	白色粒	有	明赤褐 2.5 YR 5/6	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 M 39-3	
273	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 G 37-8	
274	〃	〃		〃	0段の縄	〃		橙 2.5 YR 6/6	橙 2.5 YR 6/6	〃	95 R 30	
275	〃	〃		〃	〃	〃		橙 2.5 YR 6/6	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 W 25-3	同種 274
276	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 Y 24-1	
277	〃	〃		内外縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 O 34-11	
278	〃	〃		外面縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	赤灰 2.5 YR 4/1	〃	95 W 25-3-2	
279	〃	〃		〃	前々段多条の 縄	石英粒金雲母		赤灰 2.5 YR 4/1	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 P 31-8	金雲母多量
280	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒		灰褐 5 YR 4/2	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 N 28-1	
281	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒	有	灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 V 27-6	
282	〃	〃		〃	0段の縄	石英粒		灰赤 2.5 YR 4/2	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 X 25	
283	〃	〃		〃	不明	白色粒	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 N 30-1	
284	〃	〃		〃	0段の縄?	石英粒金雲母		灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 W 27-2	
285	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 T 31-6	
286	〃	口縁部		〃	前々段多条の 縄	石英粒金雲母		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 G 36-8	

287	〃	胴部		撚糸文・無文部		白色粒		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 Q 29-11	樋沢式系？
288	〃	〃		外面縄文	0段の縄	石英粒金雲母		にぶい橙 5 YR 6/3	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 I 33-9	単位はcm
289	〃	〃		内外縄文	〃	〃		明赤褐 2.5 YR 5/6	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 R 33-1	
290	〃	〃		外面縄文	〃	〃		橙 2.5 YR 6/6	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 V 27-4	
291	深鉢	胴部		外面縄文	不明	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	暗赤灰 2.5 YR 3/1	軟	95 H 40-8	
292	〃	〃		〃	前々段多条の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	暗赤灰 2.5 YR 3/1	堅	95 M 39-3	
293	〃	〃		〃 縦位羽状文	2段の縄	石英粒金雲母		灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 G 36-6	器壁厚 0.4 cm
294	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 Q 28-51	
295	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 W 27	
296	〃	〃		内外縄文	〃 ?	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 O 32-2	同種 289・296・317
297	〃	〃		隆起線文系？		砂粒		褐灰 7.5 YR 4/1	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 I 26	
298	〃	〃		外面縄文	0段の縄	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 P 34-10	
299	〃	口縁近		〃	2段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 H 35-13	器壁厚 0.4 cm
300	〃	胴部		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 W 26-3	〃 0.6 cm
301	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 Y 26	
302	〃	〃		〃 ・無文部	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 I 39-3	

表9 土器一覧表9 (草創期～早期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリッド	備考
								外面	内面			
303	深鉢	胴部		縄文束押捺?	2段の縄?	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 O 34	
304	〃	口縁部		外面縄文	0段の縄	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 K 33-1	
305	〃	胴部		〃	2段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 Q 29-5	
306	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 W 26-4	
307	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 W 27-2	
308	〃	〃		〃	2段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 Q 27-62	
309	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 Q 29-7	
310	〃	〃		〃	0段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 V 28-5	
311	〃	〃		〃	2段の縄	白色粒		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	軟	95 H 40-8	
313	〃	〃		〃	〃	〃	有	赤灰 2.5 YR 4/1	灰赤 2.5 YR 4/2	堅	95 Y 33-8	
314	〃	口縁部		〃	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 5/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 I 40-3	
315	〃	〃		〃	〃	石英粒金雲母		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 O 32-2	
316	〃	胴部		〃	0段の縄	〃		橙 2.5 YR 6/6	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 Y 24	
317	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 Y 26-12	
318	〃	〃		〃・羽状文	2段の縄	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 Y 28-1	
319	〃	〃		〃	〃	白色粒	有	暗赤灰 2.5 YR 3/1	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 N 31-3	

320	〃	〃	〃	・带状施文	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 I 40-3	樋沢式系? 器壁厚 0.4 cm
321	〃	口縁部	〃	結束痕	0段の縄・条痕	石英粒		灰赤 2.5 YR 4/2	赤灰 2.5 YR 4/1	〃	95 G 40-9	
322	〃	胴部	〃	〃	2段の縄・条痕	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 P 24-2	
323	〃	〃	〃	〃	〃	白色粒	有	灰赤 2.5 YR 5/2	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 J 30-6	
324	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 I 40-3	
325	〃	〃	〃	・带状施文	0段の縄?	〃		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 5/2	〃	95 R 27-1	樋沢式系?

表 10 土器一覧表 10 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
1	深鉢	口縁部		口唇部 山形文	ナデ調整	白色粒		にぶい褐 7.5 YR 6/3	にぶい橙 7.5 YR 6/4	堅	95 S 30-6	
2	〃	〃		山形文	〃	砂粒少		にぶい黄橙 10 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 R 32-3	樋沢式系
3	〃	〃		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 O 35-5	〃
4	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 表採	〃
5	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 Q 15-2	〃
6	〃	〃		〃	〃	〃		灰黄褐 10 YR 5/2	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 S 26-1	〃
7	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 S 31-5	〃

表 11 土器一覧表 11 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
8	深鉢	胴部		山形文	ナデ調整	石英粒白色粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/3	堅	95 S 28-2	樋沢式系
9	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 Q 39-2	〃
10	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい黄橙 10 YR 6/3	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 P 35-1	〃
11	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄橙 10 YR 6/3	〃	95 Q 34-9	〃
12	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 T 26-2	〃
13	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄橙 10 YR 6/4	〃	95 M 39-8	〃
14	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 N 38-3	〃
15	〃	〃		〃	〃	〃		灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 S 34-1	〃
16	〃	〃		〃 縦位	〃	石英粒	有	明赤褐 5 YR 5/6	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 R 36-2	〃
17	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 N 34-7	〃
18	〃	〃		〃	〃	砂粒 少		にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 D 24-1	〃
19	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 R 31-1	〃
20	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい褐 10 YR 5/4	〃	95 N 28-6	〃
21	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 L 31-2	〃
22	〃	〃		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 S 25-2	〃
23	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 L 36-3	〃

24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 O 25-2	〃
25	〃	〃	〃	〃	〃	〃	褐灰 7.5 YR 4/1	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 O 35-4	〃
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 P 32-1	〃
28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 G 33-3	〃
29	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 Q 35-3	〃
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	橙 7.5 YR 6/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 V 27-7	〃
31	〃	〃	〃	〃	〃	〃	褐 7.5 YR 4/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 R 34-1	〃
32	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/4	黒褐 10 YR 3/2	〃	95 H 31-4	〃
33	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 R 35-3	〃
34	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 N 39-1	〃
35	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい黄橙 10 YR 6/4	灰黄褐 10 YR 4/2	堅	95 S 31-1	〃
36	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 T 26-1	〃
37	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/4	〃	95 V 27-5	〃
38	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 S 28	〃
39	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 V 27-7	同種 50・51 〃
40	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 V 27-7-2	〃

表 12 土器一覧表 12 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
41	深鉢	胴部		山形文	ナデ調整	白色粒		にぶい黄橙 10 YR 6/3	にぶい黄橙 10 YR 6/3	堅	95 R 35-7	樋沢式系
42	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 O 37	〃
43	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/4	〃	95 W 27-6	〃
44	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 Q 33-4	〃
45	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい黄褐 10 YR 4/3	にぶい黄褐 10 YR 5/4	〃	95 P 29-1	〃
46	〃	〃		〃	〃	〃		橙 7.5 YR 6/6	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 P 33-5	〃
47	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 J 30-1	〃
48	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 Q 34-6	〃
49	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 U 28-1	〃
52	〃	〃		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/3	暗褐 7.5 YR 3/3	〃	95 O 34-3	〃
53	〃	〃		〃	〃	〃		明褐 7.5 YR 5/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 Q 32-6	同種 55 〃
54	〃	〃		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/3	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 R 31-14	〃
56	〃	〃		〃	〃	〃		明褐 7.5 YR 5/6	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 T 29-6	〃
57	〃	〃		〃	〃	〃		灰褐 7.5 YR 4/2	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 表採	〃
58	〃	〃		重層山形文	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 T 29-1	〃
59	〃	〃		〃	〃	〃	有少	にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/3	やや軟	95 T 31-1	〃

60	〃	〃		山形文	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 T 29-1	
61	〃	〃		重層山形文	〃	〃		明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 S 32-1	
62	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/3	堅	95 R 29-2	同種 66
63	〃	口縁部		山形文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 R 34-9	
64	〃	〃		重層山形文	〃	〃	有少	にぶい黄褐 10 YR 5/3	黒褐 10 YR 3/2	〃	95 R 29-2	
65	〃	〃		〃	〃	〃	〃	褐灰 10 YR 4/1	黒褐 10 YR 3/2	〃	95 U 28-7	
67	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 J 39-3	
68	〃	〃		山形文	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 7/3	にぶい褐 7.5 YR 6/3	〃	95 R 39-3	
69	〃	〃		重層山形文	〃	〃		橙 7.5 YR 6/6	明褐 7.5 YR 5/6	〃	95 J 38-3	樋沢式系
72	深鉢	胴部		〃	〃	〃	有少	にぶい黄褐 10 YR 5/3	灰黄褐 10 YR 4/2	堅	95 P 30-7	
73	〃	〃		〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	黒褐 10 YR 3/2	〃	95 V 29-1	
74	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい黄褐 10 YR 5/4	〃	95 H 40-3	
75	〃	底		無文	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 T 28-7	
76	〃	胴部		重層山形文	〃	〃	有少	褐 7.5 YR 4/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 N 29-4	
77	〃	〃		〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	黒褐 5 YR 3/1	やや軟	95 T 32-2	
78	〃	〃		楕円文・台形文	〃	〃		灰褐 7.5 YR 4/2	暗褐 7.5 YR 3/3	堅	95 J 39-8	

表 13 土器一覧表 13 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
79	深鉢	胴部		楕円文・重層山形文	ナデ調整	白色粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	堅	95 Q 31-11	
80	〃	〃		〃	〃	〃	有	にぶい黄橙 10 YR 6/4	にぶい黄橙 10 YR 6/4	やや軟	95 S 33-1	
81	〃	〃		楕円文・重層山形文	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	黒褐 10 YR 3/2	堅	95 G 39-13	卯の木式系
82	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	やや軟	95 Q 32-2	
83	〃	胴部		粗大楕円文	〃	〃	〃	灰褐 7.5 YR 4/2	褐 7.5 YR 4/3	堅	95 Q 31-4	
84	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 R 23-5	
85	〃	口縁部		粗大楕円文	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	堅	95 R 23-5	
86	〃	〃		楕円文	〃	〃	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄橙 10 YR 6/3	〃	95 H 35-12	
87	〃	〃		〃	〃	〃	〃	黒褐 10 YR 3/2	灰黄褐 10 YR 4/2	〃	95 J 39-5	
88	〃	胴部		粗大楕円文	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	やや軟	95 R 34-6	
89	〃	〃		楕円文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	堅	95 R 25-1	
90	〃	〃		粗大楕円文	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	やや軟	95 R 34-6	
91	〃	〃		楕円文	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/4	堅	95 H 39-13	同種96・98 円に近い
92	〃	〃		〃	〃	〃	〃	灰褐 7.5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 V 26-3	同種99
93	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 S 31-3	
94	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 4/3	〃	95 T 31-3	

95	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/3	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 P 32-3	同種 101・103・ 127・162
97	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 R 31-4	
100	〃	〃		〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 S 30-2	
102	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 R 32-1	
104	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 S 36-6	
105	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 J 39-7	
106	〃	〃		〃	〃	〃	〃	灰褐 7.5 YR 5/2	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 P 38-2	
107	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	やや軟	95 H 36-10	同種 221 ほか
108	〃	〃		〃	〃	〃	〃	明褐 7.5 YR 5/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 J 40-3	
109	〃	〃		〃	〃	砂粒 少	〃	明褐 7.5 YR 5/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 W 26-1	
110	深鉢	胴部		楕円文	ナデ調整	砂粒 少	有少	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	堅	95 F 35-1	
111	〃	底部		〃	〃	白色粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 T 27-3	
112	〃	胴部		楕円文	ナデ調整	砂粒 少	〃	明赤褐 5 YR 5/6	灰褐 5 YR 4/2	堅	95 H 35-3	
113	〃	〃		〃	〃	〃	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 I 36-4	
114	〃	〃		〃 縦・横	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 H 36-6	
115	〃	〃		〃	〃	〃 石英粒	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 J 40-5	

表 14 土器一覽表 14 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
116	深鉢	胴部		楕円文	ナデ調整	石英粒		橙 7.5 YR 6/6	灰褐 7.5 YR 4/2	堅	95 R 36-5	
117	〃	〃		〃	〃	〃 白色粒	有少	褐 7.5 YR 4/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 T 39-3	
118	〃	〃		〃 異方向	〃	〃		にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄褐 10 YR 5/4	〃	95 I 38-5	
119	〃	〃		〃	〃	砂粒 少		褐 7.5 YR 4/4	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 K 38-2	
120	〃	口縁部		〃	〃	白色粒		にぶい黄橙 10 YR 6/3	にぶい黄橙 10 YR 6/3	〃	95 N 30-2	
121	〃	〃		〃	〃	〃		褐灰 7.5 YR 4/1	灰黄褐 10 YR 5/2	〃	95 H 36-1	
122	〃	〃		〃	〃	〃		明赤褐 5 YR 5/6	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 G 34-4	
123	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 P 34-9	
124	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 Q 34-1	
125	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 H 37-5	
126	〃	〃		〃	〃	〃		明褐 7.5 YR 5/6	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 表採	
128	〃	尖底上		〃	〃	〃		灰褐 7.5 YR 4/2	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 I 35-2	
129	〃	〃		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/3	褐 7.5 YR 4/4	〃	95 N 28	同種 168
130	〃	胴部		〃	〃	〃		灰褐 5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 4/3	〃	95 J 38-8	
131	〃	〃		〃	〃	〃		明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 M 40-19	同種 167
132	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 P 34-2	

133	〃	〃	〃	無文帯	〃	〃	灰黄褐 10 YR 5/2	にぶい黄橙 10 YR 6/3	〃	95 P 38-1	
134	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明褐 7 YR 5/6	にぶい褐 7 YR 5/4	〃	95 S 35-5	
135	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 V 28-3	
136	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 T 32-1	
137	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 H 39-5	
138	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 Q 39-1	
139	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 F 38-1	
140	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明褐 7.5 YR 5/6	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 I 36-8	
141	〃	〃	〃	〃	〃	〃	橙 7.5 YR 6/6	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 G 34-1	
142	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/4	褐灰 5 YR 4/1	〃	95 N 33-5	
143	〃	〃	〃	〃	石英粒白色粒	〃	橙 7.5 YR 6/6	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 表採	
144	〃	〃	〃	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 4/2	褐灰 5 YR 4/1	〃	95 M 37-2	
145	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 G 39-7	同種 146
147	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明褐 7.5 YR 5/6	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 I 41	
148	〃	〃	〃	〃	白色粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 T 28-6	
149	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 G 40-7	

表 15 土器一覧表 15 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
150	深鉢	胴部		楕円文	ナデ調整	白色粒		橙 7.5 YR 6/6	にぶい橙 7.5 YR 6/4	堅	95 表採	
151	〃	〃		〃	〃	〃	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 Q 34-7	
152	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	〃	95 I 40-6	
153	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 G 38-8	
154	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 H 38-5	
155	〃	〃		〃	〃	〃		橙 5 YR 6/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 G 34-1	
156	〃	〃		〃	〃	〃		明褐 7.5 YR 5/6	にぶい褐 7/5 YR 5/4	〃	95 O 31-5	
157	〃	〃		平行線文・楕円文	〃	石英粒	有	橙 7.5 YR 6/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	やや軟	95 R 23-3	
158	〃	〃		楕円文	〃	白色粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	堅	95 T 28-4	
159	〃	〃		〃	〃	〃	〃	橙 5 YR 6/6	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 R 36-3	
160	〃	〃		楕円文	〃	〃	有少	灰褐 5 YR 4/2	にぶい褐 7.5 YR 5/4	堅	95 S 33-3	
161	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 H 39-5	
163	〃	口縁部		〃	〃	〃		褐 7.5 YR 4/3	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 R 35-7	
164	〃	胴部		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 J 39-6	
165	〃	〃		〃	〃	〃	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 4/2	やや軟	95 H 39-13	
166	〃	底部近		〃	〃	〃		にぶい黄褐 10 YR 5/4	黒褐 10 YR 3/1	〃	95 I 40-7	

167	〃	口縁部		〃	〃	〃	有少	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	堅	95 G 40-7	
168	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 N 27-4	同種 129 浅い押捺
169	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 W 29-1	
170	〃	胴部		〃	〃	〃	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 G 37-4	
171	〃	口縁部		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 G 38-5	
172	〃	〃		〃	〃	石英粒	有少	にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 G 35-5	
173	〃	〃		〃	〃	白色粒鉄分粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 W 27-6	
174	〃	〃		〃	〃	石英粒	〃	灰黄褐 10 YR 4/2	にぶい黄褐 10 YR 5/3	〃	95 O 34-10	同種 175
175	〃	〃		〃	〃	砂少	有多	にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 H 37-2	
176	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 R 36-2	
177	〃	〃		〃	〃	鉄分粒	有	にぶい赤褐 5 YR 5/4	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 G 36-12	
178	〃	〃		〃	〃	鉄分粒	有	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	堅	95 U 30-6	ナデて文様を 消す
179	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 J 40-2	
180	〃	〃	口径推定 12.0	〃	〃	砂少		にぶい黄褐 10 YR 5/4	黒褐 10 YR 3/2	〃	95 I 36-8	原体長さ 4.0
181	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 I 28	
182	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい黄褐 10 YR 5/4	にぶい黄褐 10 YR 5/4	〃	95 N 37-8	

表 16. 土器一覧表 16 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
184	深鉢	口縁部		楕円文	ナデ調整	白色粒		褐 7.5 YR 4/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	堅	95 K 40	
185	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 H 34-1	補修孔?あり
186	〃	〃		〃	〃	砂粒鉄分粒		灰黄褐 10 YR 5/2	褐灰 10 YR 4/1	〃	95 I 36-5	
187	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 R 35-2	
188	〃	〃		〃 縦位・横位	〃	砂 少		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	〃	95 H 40-2	
189	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 40-3	
190	〃	〃		〃	〃	砂 少		にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95031-4	
191	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 Q 30-3	
192	〃	胴部		〃	〃	〃	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 G 37-4	
193	〃	口縁部		〃	〃	〃	有	にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 H 37-1	
194	〃	〃		〃	〃	〃	〃	黒褐 10 YR 3/2	灰黄褐 10 YR 4/2	〃	95 I 37-13	
195	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 G 36-15	
196	〃	〃		〃	〃	〃	〃	灰褐 7.5 YR 4/2	黒褐 10 YR 3/1	〃	95 I 36-6	
197	〃	〃		〃	〃	〃	〃	明褐 5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 H 39-10	
198	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい黄褐 10 YR 5/4	〃	95 G 40-1	
199	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 K 38-1	

200	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 O 33-3	
201	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 J 29-4	
202	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 R 39-2	
203	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 J 39-4	
204	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 H 34-2	
205	〃	〃	〃	〃	〃	〃	灰褐 7.5 YR 4/2	にぶい黄褐 10 YR 5/4	〃	95 G 35-9	
206	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 T 28-14	
207	〃	胸部	〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 P 35-9	
208	〃	口縁部	〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 G 38	
209	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 G 38-1	
210	〃	胸部	〃	〃	〃	〃	明褐 7.5 YR 5/6	褐 7.5 YR 4/4	〃	95 O 32-3	
211	〃	口縁部	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 T 29-1	
212	〃	〃	〃	〃	〃	〃	褐灰 7.5 YR 4/1	褐灰 7.5 YR 4/1	堅	95 T 36-4	
213	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	やや軟	95 G 37-11	
214	〃	〃	〃	〃	〃	〃	黒褐 7.5 YR 3/2	褐 7.5 YR 4/3	堅	95 G 40-2	
215	〃	胸部	〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 S 32-2	

表 17 土器一覧表 17 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
216	深鉢	胴部		〃 平行線文	ナデ調整	白色粒		褐灰 5 YR 4/1	灰褐 5 YR 5/2	堅	95 表採	
218	〃	〃		〃	〃	〃	有	にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 Y 24-1	同種 262
219	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 I 40-1	
220	〃	〃		〃	〃	〃	〃	橙 7.5 YR 6/6	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 H 37-8	
221	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 F 31-8	同種 228・233・ 241・250・253・264
222	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 W 27-5	
223	〃	口縁部		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 J 27-1	
224	〃	胴部		〃	〃	〃	〃	橙 5 YR 6/6	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 W 27-7	
225	〃	〃		〃	〃	〃	〃	赤褐 5 YR 4/6	褐 7.5 YR 4/3	〃	95 G 38-8	
226	〃	〃		〃 縦位・横位	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 I 35-6	
227	〃	〃		〃	〃	〃	有	灰褐 5 YR 4/2	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 N 39-1	
229	〃	〃		〃	〃	〃	〃	赤褐 5 YR 4/6	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 S 31-10	
230	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 P 28-71	
231	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 S 30-11	
232	〃	〃		〃	〃	〃	〃	橙 5 YR 6/6	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 H 40-1	
234	〃	〃		〃 縦位・横位	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/3	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 G 37-11	

235	〃	〃	〃	〃 平行線文?	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 G 40-2	
236	〃	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 G 40-4	
237	〃	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 L 37-2	
238	〃	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 G 37-2	
239	〃	〃	〃	〃	〃	〃		明赤褐 5 YR 5/6	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 G 39-9	
240	〃	〃	〃	〃	〃	〃 石英粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 O 38-1	
242	〃	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 R 21-2	Hタイプ1
243	〃	〃	〃	〃	〃	〃 有少		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 G 40-8	〃
244	〃	〃	〃	〃 無文部	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 J 34-2	
245	〃	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 F 38-2	
246	〃	〃	〃	〃	〃	〃 有少		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 7/4	〃	95 V 29-2	
247	〃	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 O 35-7	
248	〃	〃	〃	〃	〃	〃		灰褐 5 YR 4/2	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 G 39-15	
249	〃	〃	〃	〃	〃	〃 有		にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	やや軟	95 H 35-7	
251	〃	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	堅	95 H 40-9	
252	〃	〃	〃	〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 H 39-4	

表 18 土器一覧表 18 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
254	深鉢	胴部		楕円文	ナデ調整	砂少	有	橙 7.5 YR 6/6	にぶい褐 7.5 YR 6/3	堅	95 J 40-6	
256	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/3	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 I 37-17	
257	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 U 28-4	菱形状
258	〃	〃		〃	〃	〃	有	明赤褐 2.5 YR 5/6	赤灰 2.5 YR 4/1	〃	95 V 29-1	
259	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 U 30-2	
260	〃	〃		〃	〃	〃	有	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 表採	
261	〃	〃		〃	〃	砂少		にぶい褐 7.5 YR 5/4	橙 7.5 YR 7/6	やや軟	95 G 38-3	
263	〃	〃		〃	〃	白色粒		橙 5 YR 6/6	にぶい赤褐 5 YR 5/4	堅	95 G 33-8	
265	〃	〃		〃	〃	石英粒		灰褐 5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 4/2	堅	95 O 24-11	
266	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 6/4	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 J 40-10	菱形状
267	〃	口縁部 胴部	口径 17.7 cm	楕円文・綾杉文	〃	白色粒	有	暗赤褐 5 YR 3/3	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 G 38-2	原体長2.7(楕)2.3(綾)高さ推定22cm
268	〃	胴部		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 G 38-6	同種 267
269	〃	〃		矢羽根状文	〃	鉄分粒	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 T 30-2	異形押形文
270	〃	〃		楕円文・綾杉文?	〃	白色粒	有少	にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 R 23-6	〃
271	〃	〃		〃	〃	鉄分粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 R 35-4	〃
272	〃	〃		〃	〃	〃	〃	明褐 7.5 YR 5/6	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 N 37-4	〃

273	〃	〃	綾杉文	〃	〃	〃	にぶい褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 G 35-1	〃
274	〃	〃	矢羽根状文	〃	石英粒	〃	にぶい橙 5 YR 6/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 R 36-1	〃
275	〃	〃	綾杉文	〃	鉄分粒	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7/5 YR 5/2	〃	95 J 40-5	〃
276	〃	〃	楕円文・平行線 組合せ文	〃	白色粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 K 35-3	〃
277	〃	〃	〃	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 P 32-11	同種 276 〃
278	〃	〃	〃	〃	鉄分粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 P 36-2	同種 276 〃
279	〃	〃	平行線組合せ文	〃	白色粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 N 31-4	同種 276 〃
280	〃	〃	〃	〃	〃	有	灰褐 7.5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 I 37-9	同種 276 〃
281	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 6/4	〃	95 R 36-7	〃
282	〃	〃	楕円文・平行線文	〃	〃	有	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 H 36-5	〃
283	〃	〃	平行線組合せ文	〃	〃	〃	明赤褐 2.5 YR 5/6	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 N 34-8	同種 276 〃
284	〃	〃	楕円文・平行線文	〃	〃	有	にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 J 38-1	同種 282 〃
285	〃	〃	楕円文・平行線 文?	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	暗赤褐 5 YR 3/2	やや軟	95 K 40-1	異形押形文
286	〃	〃	楕円文・台形文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/3	灰褐 5 YR 4/2	堅	95 I 40-2	同種 290 〃
287	〃	〃	〃	〃	〃	〃	橙 5 YR 6/6	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 M 34-2	〃
288	〃	〃	〃	〃	石英粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 N 35-1	同種 289 〃

表 19 土器一覧表 19 (押型文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
291	深鉢	胴部		楕円文・台形文	ナデ調整	石英粒		にぶい橙 7.5 YR 6/4	褐灰 7.5 YR 4/1	堅	95 T 29-4	
292	〃	〃		楕円文・複合鋸歯 文?	〃	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 G 40-8	同種 293・301
294	〃	〃		柵状文 (細平行線文)	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 7/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 V 27-1	同種 295・296・297・ 297-2・平石式
298	〃	〃		格子目文	〃	〃		橙 5 YR 6/6	暗赤褐 5 YR 3/2	〃	95 R 30-1	同種 299
302	〃	〃		菱目文	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 T 20-1	同種 303(N 27-1) 卯の木式
304	〃	〃		楕円文・平行線文	〃	〃 石英粒		にぶい褐 7.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 V 27-2	同種 307・309・310・ 311・312・313・322
305	〃	〃		〃	〃	石英粒	有少	にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 I 31-8	同種 306
308	〃	〃		平行線文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 S 35-1	同種 318・320・ 323・329
314	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 H 37-1	同種 319
315	〃	〃		〃	〃	〃	有少	にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 Y 28-1	
316	〃	口縁部		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 R 35-8	
317	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 S 30-6	
321	〃	底部近		〃	〃	〃	〃	にぶい褐 7/5 YR 5/4	褐 7.5 YR 4/1	〃	95 J 32-7	
324	〃	胴部		〃	〃	〃		橙 5 YR 6/6	灰褐 5 YR 4/2	やや軟	95 W 26-10	
330	〃	〃		〃	〃	〃	有	にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 6/3	〃	95 R 35-8	
326	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/3	暗赤褐 5 YR 3/2	堅	95 S 39-1	

327	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	黒褐 5 YR 2/2	〃	95 V 27-1	
328	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 K 40-6	
331	〃	〃		〃	〃	砂粒	有少	にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 J 40-4	

表 20 土器一覧表 20 (縄文・沈線文～条痕文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
1	深鉢	胴部		LR縄文・爪形文	ナデ調整	白色粒鉄分粒	有少	灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 4/3	堅	95 K 38-3	同種 2
3	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 G 36	縄文に爪背にて 上下に施文
4	〃	口縁部		竹管文	〃	〃 石英粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 R 34-11	同種 5(Q 34-4) 6(R 33-7)
7	〃	胴部		刺突文・沈線文(3)	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 Q 34-7	細板状工具で 刺突と沈線文
8	〃	口縁部		横走沈線文(3)	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 G 37-12	幅 2 ミリの施 文具
9	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 J 38-7	同種 8・13・14・ 16・17・18・19・ 20・25・26・38
10	〃	胴部		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 P 38-5	
11	〃	〃		〃 幾何学文	〃	〃	有少	灰褐 7.5 YR 5/2	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 H 36-1	
12	〃	口縁部		〃 斜走文	〃	白色粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 N 37-3	
15	〃	胴部		〃 斜格子目文	〃	〃	有少	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 G 35-7	

表 21 土器一覧表 21 (縄文・沈線文～条痕文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
21	深鉢	口縁部		横走沈線・斜格子 目文	ナデ調整	白色粒	有少	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	堅	95 S 25-1	口唇にハ字状 の刻み
22	〃	胴部		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 H 40-7	
23	〃	〃		沈線・斜走文	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 U 28-4	
24	〃	〃		〃 幾何学文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 G 37-10	
27	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 G 39-11	
28	〃	〃		〃 平行文	〃	石英粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 G 35-1	同種 29
30	〃	〃		〃	〃	砂粒少	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/3	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 T 29-10	
31	〃	〃		〃 波状文ほか	〃	石英粒	有少	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 H 39-11	
32	〃	〃		〃 波状文	〃	〃	〃	明赤褐 2.5 YR 5/6	明赤褐 2.5 YR 5/6	〃	95 S 30-8	
33	〃	〃		〃 斜走文ほか	〃	〃	〃	明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 P 38-2	
34	〃	〃		〃 (2)	〃	石英粒	〃	橙 5 YR 6/6	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 W 24-3	
35	〃	〃		〃 (3)	〃	白色粒	〃	黒褐 5 YR 3/1	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 E 5-20	
36	〃	〃		〃 平行文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 H 34-1	
37	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄褐 10 YR 4/3	〃	95 R 31-2	
39	〃	口縁部		〃 (1)口端刻目	〃	〃	〃	にぶい黄橙 10 YR 6/3	にぶい黄橙 10 YR 6/3	〃	95 S 33	同種 61
40	〃	〃		〃 (4)	〃	鉄分粒	〃	にぶい橙 2.5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 H 39-1	

41	〃	胸部	〃 (3)平行文	〃	石英粒	〃	褐 7.5 YR 4/4	黒褐 7.5 YR 3/2	〃	95 V 28-5	
42	〃	〃	〃 斜走	〃	白色粒		橙 5 YR 6/6	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 T 29-5	
43	〃	〃	〃	〃	〃		明赤褐 5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 4/4	〃	95 G 37-3	
44	〃	〃	〃 平行・斜走文	〃	〃	有少	明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 H 37-3	
45	〃	底部近	〃 平行文	〃	鉄分粒	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 G 32-2	
46	〃	胸部	〃 刺突文	〃	白色粒		にぶい橙 7.5 YR 7/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 Q 29	
47	〃	胸部	〃 C字文	〃	〃		明赤褐 2.5 YR 5/6	明赤褐 2.5 YR 5/6	〃	95 P 34-11	
48	深鉢	口縁部	刺突文・口端刻目文	ナデ調整	砂粒少		にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	堅	95 P 38-3	
49	〃	胸部	巾広い刺突文	条痕	白色粒	有	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 6/3	やや軟	95 P 36-6	
50	〃	口縁部	ゆるい山形口縁 連続刺突文	ナデ調整	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	堅	95 H 38-3	
51	〃	〃	刺突文・縦横の細い 沈線文(1)	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 R 28-57	同種 51~54・ 112
55	〃	〃	沈線文(1)	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 U 28-6	
56	〃	〃	〃 連続刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 T 28-7	
57	〃	〃	〃 口端刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 V 27-4	
58	〃	〃	沈線文(1)・刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 6/3	〃	95 U 28-5	同種 56・62・68・69・ 73・76~78・89・93
59	〃	〃	〃 ・刺突文	〃	石英粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 6/3	〃	95 R 39-1	同種 113

表 22 土器一覧表 22 (縄文・沈線文～条痕文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
60	〃	口縁部		沈線文(1)・刻み目 文	〃	白色粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 Q 37-8	
61	〃	〃		〃 ・口唇部刻み	〃	〃	〃	にぶい黄橙 106 R 6/3	にぶい黄橙 10 YR 6/3	〃	95 R 33-5	同種 88
63	〃	〃		〃 ・刺突文	〃	〃	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 Q 34-8	同種 58・94・ 100・101
64	〃	〃		沈線文(2)刺突文	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 S 36-2	同種 70・90・ 95・105・108
65	〃	胴部		〃	〃	〃	〃	橙 5 YR 6/6	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 G 37-14	
66	〃	口縁部		〃 (1)刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 U 28-10	
67	〃	胴部		〃 (2)刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰赤 2.5 YR 5/2	〃	95 V 27-5	同種 64 など
71	〃	〃		条痕文	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 5/2	褐灰 5 YR 4/1	〃	95 T 33-3	
72	〃	〃		沈線文(2)・刺突文	〃	〃	〃	にぶい黄橙 10 YR 6/3	にぶい黄橙 10 YR 6/3	〃	95 T 30-3	
74	〃	〃		〃	〃	〃	〃	灰黄褐 10 YR 5/2	灰黄褐 10 YR 4/2	〃	95 U 27-1	
75	〃	〃		〃 (1)	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/4	〃	95 S 30-11	
79	〃	口縁部		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 S 35-4	
80	〃	胴部		〃 (2)	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 S 36-1	同種 84・85・97・98・ 103・115・118・122
81	〃	〃		〃 (4)	〃	〃	〃	橙 2.5 YR 6/6	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 U 28-6	
82	〃	口縁部		〃 (1)	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 4/2	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 G 35-2	
83	〃	胴部		〃 (2)	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 S 35-1	

86	〃	〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 G 36-1	
87	〃	〃	〃	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 M 32	
91	〃	〃	〃 (1)刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 S 29-10	同種 63・94・ 100 など
92	〃	〃	〃	〃	〃	〃	にぶい橙 5 YR 6/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 表採	
96	〃	〃	〃 (2)	〃	石英粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 R 34-17	
99	〃	〃	沈線文(3)・刺突文	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 S 39-1	
102	〃	〃	沈線文(4)	〃	石英粒	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 S 39-8	同種 153・152
104	〃	〃	〃 (1)	〃	鉄分粒	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 I 38-4	
107	〃	〃	〃	〃	白色粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 Q 32-7	
109	〃	〃	刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	明赤褐 2.5 YR 5/6	〃	95 Y 24-3	
110	〃	〃	条痕文	〃	〃	〃	橙 2.5 YR 6/6	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 V 26-14	
111	〃	〃	刺突文	〃	〃	〃	にぶい黄橙 10 YR 7/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 T 30-4	
114	〃	〃	沈線文(2)	〃	砂粒少	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 U 29-3	
116	〃	〃	〃	〃	白色粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 S 30-11	
117	〃	〃	沈線文(1)	〃	〃	〃	にぶい黄橙 10 YR 6/3	にぶい橙 7.5 YR 6/4	軟	95 U 28-2	同種 155 (口縁部)
119	〃	〃	〃 (4)	〃	〃	有	にぶい赤褐 5 YR 5/3	黒褐 5 YR 3/1	堅	95 T 28-3	

表 23 土器一覧表 23 (縄文・沈線文～条痕文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
120	深鉢	胴部		沈線文(2)	ナデ調整	白色粒	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	堅	95 S 30-8	
121	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/3	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 Y 23-5	
122	〃	〃		〃 (2)刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 S 36-2	同種 123
124	〃	〃		〃 (4)	〃	〃		赤褐 2.5 YR 4/6	赤灰 2.5 YR 5/1	〃	95 E 6-28	
125	〃	口縁部		〃 (4)刺突文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 F 3-11	同種 126・128
127	〃	胴部		〃 (2)	〃	〃	〃	にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 E 4-29	
129	〃	口縁部		〃 (4) 口端部刻み文	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 P 37-2	同種 106・135
130	〃	胴部		〃 (4)	〃	〃	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 Q 37-12	同種 131 (口縁部)
132	〃	〃		〃	〃	〃	〃	灰赤 2.5 YR 5/2	灰赤 2.5 YR 5/2	〃	95 S 36-1	
133	〃	〃		条痕状沈線文	〃	〃	〃	にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 S 39	同種 139・152
134	〃	口縁部		ゆるい山形口縁 条痕文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 Q 34-7	
136	〃	胴部		沈線文(4)	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 K 31-16	
137	〃	〃		〃	〃	石英粒	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 K 31-14	
138	〃	〃		条痕文	〃	白色粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 G 37-4	同種 171
140	〃	〃		〃	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 5/2	にぶい橙 5 YR 6/3	〃	95 G 39-10	
141	〃	〃		〃	条痕	石英粒	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 S 30-5	

142	〃	〃		〃	〃	白色粒	〃	にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 G 38-3	
143	〃	〃		〃	ナデ調整	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	黒褐 5 YR 2/1	〃	95 E 6-28	同種 145
144	〃	〃		沈線文(1)	〃	石英粒	〃	橙 2.5 YR 6/6	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 S 35-5	
146	〃	口縁部		条痕文	〃	白色粒	〃	灰褐 7.5 YR 5/2	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 R 19-1	
147	〃	〃		〃	条痕	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 U 36-1	
148	〃	胴部		沈線文(1)	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 I 28-9	同種 159・167
149	〃	〃		〃 (2)	ナデ調整	石英粒	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 S 31-1	
150	〃	〃		〃	〃	〃	〃	明赤褐 5 YR 5/6	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 S 39-5	
151	〃	〃		〃 (1)	〃	白色粒	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 S 36-1	
154	〃	〃		〃 (1)刺突文	条痕	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 6/3	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 I 28	
156	〃	〃		条痕文	ナデ調整	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 T 38-2	同種 165
157	〃	〃		沈線文(4)	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 H 38-10	
160	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい橙 5 YR 6/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 S 36-6	
161	〃	〃		条痕文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 Q 35-6	
162	〃	〃		〃	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 5/2	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 U 22-1	
163	〃	〃		〃	ナデ調整	白色粒少	有	灰褐 7.5 YR 6/2	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 T 36-4	

表 24 土器一覧表 24 (縄文・沈線文～条痕文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
164	深鉢	胴部		条痕文	ナデ調整	白色粒少	有	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	堅	95 T 33-2	
166	〃	〃		〃	条痕	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 7/3	褐灰 5 YR 5/1	〃	95 T 28-4	
168	〃	〃		〃	ナデ調整	砂粒 少		にぶい橙 2.5 YR 6/4	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 H 35 表採	
169	〃	〃		〃	〃	白色粒		明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	〃	95 T 28-1	
170	〃	〃		ナデ調整	条痕	石英粒	有	橙 2.5 YR 6/6	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 S 30-5	
172	〃	〃		条痕文	ナデ調整	〃	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 S 25-4	
173	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 T 34-9	
174	〃	口縁部		ナデ調整	ナデ調整	砂粒少		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	明赤褐 2.5 YR 5/6	〃	95 J 40-7	
175	〃	〃		〃	〃	石英粒	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	極暗赤褐 2.5 YR 2/2	〃	95 Q 28-18	
176	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 R 33-8	
177	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい黄橙 10 YR 6/3	黒褐 10 YR 3/2	〃	95 R 32-6	
178	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 N 29-1	
179	〃	〃		〃	〃	石英粒	有	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 S 31-1	
180	〃	〃		〃 粗	〃 粗	鉄分粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 O 29-6	
181	〃	胴部		条痕文	ナデ調整	〃	有	にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 T 34-7	同種 182・182・184・ 185・188・201・203
183	〃	〃		ナデ調整	〃	白色粒	〃	にぶい橙 5 YR 6/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 Q 15-1	

186	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 T 28-3	
187	〃	〃		条痕文	〃	〃		黒褐 5 YR 2/1	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 R 29-2	
189	〃	〃		〃	〃	〃	有	にぶい橙 7.5 YR 6/4	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 P 27-43	
190	〃	〃		撚糸文?	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 U 30-1	
191	〃	口縁部	口径 19.5 cm 高推 24. cm	LR縄文・沈線文	〃	白色粒	有多	にぶい赤褐 5 YR 4/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	やや軟	95 G 38-1	
192	〃	胴部		LR・RL縄文	〃	〃	〃	にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 6/3	〃	95 G 33-6	
193	〃	〃		LR縄文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 5/2	堅	95 H 33-1-2	
194	〃	〃		LR縄文	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	やや軟	95 J 40-7	
195	〃	口縁部		羽状縄文	〃	石英粒	有	橙 5 YR 6/6	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 O 35-1	
196	〃	〃		条痕文	〃	白色粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 6/3	堅	95 W 27-8	
197	〃	口縁部		口端部押捺・条痕文	〃	金雲母・石英粒	有	黒褐 5 YR 3/1	暗赤褐 5 YR 3/3	〃	95 Q 29-61 (2住)	
198	〃	胴部		条痕文	〃	白色粒		明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	堅	95 P 28-68	同種 204・210・ 209
199	〃	〃		〃	条痕	〃		にぶい黄褐 7.5 YR 5/3	灰黄褐 7.5 YR 4/2	〃	95 O 25-1	
200	〃	〃		沈線文(1)	ナデ調整	〃	有	にぶい黄橙 10 YR 6/3	にぶい黄橙 10 YR 6/3	やや軟	95 R 34-17	同種 61
202	〃	〃		ナデ調整	条痕	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	赤灰 2.5 YR 5/1	堅	95 N 36-3	
205	〃	〃		条痕文	ナデ調整	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 Q 17-1	

表 25 土器一覧表 25 (縄文・沈線文～条痕文)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
206	深鉢	胴部		細沈線(1)文	ナデ調整	石英粒		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい橙 7.5 YR 6/4	堅	95 T 26-3	
207	〃	〃		条痕文	条痕	〃	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 R 32-9	
208	〃	〃		細沈線(4)文	ナデ調整	白色粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 Q 38-4	
211	〃	〃		〃	〃	石英粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 4/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 K 31-15	
212	〃	〃		細沈線(1)文	〃	白色粒	〃	にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄橙 10 YR 7/3	〃	95 S 30-7	
213	〃	〃		ナデ調整	条痕	鉄分粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 T 26-3	
214	〃	〃		条痕文	〃	白色粒	有	にぶい黄橙 10 YR 7/4	にぶい黄橙 10 YR 7/2	やや軟	95 J 28-4	
215	〃	〃		ナデ調整	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 7/3	黒褐 7.5 YR 3/1	堅	95 J 28-5	同種 216・219・220・ 221・223・225・228
217	〃	〃		条痕文	ナデ調整	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい橙 5 YR 6/3	〃	95 R 28-25	
218	〃	〃		沈線文(4)	〃	〃	有	にぶい褐 7.5 Y 5/3	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 P 28-67	
220	〃	〃		撚糸文	条痕	〃	〃	にぶい黄橙 10 YR 7/4	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 J 28-5	同種 215 ほか
222	〃	〃		条痕文	条痕	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐色 7.5 YR 5/3	〃	95 J 28-6	
224	〃	〃		隆帯	ナデ調整	〃	〃	明黄褐 10 YR 7/6	にぶい黄橙 10 YR 6/4	〃	95 S 33	塩屋式?
226	〃	〃		条痕文	条痕	石英粒	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 R 21	
227	〃	〃		波状文	ナデ調整	石英粒・白色粒		黒褐 7.5 YR 3/1	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 P 31-1	天神山式
229	〃	〃		絡条体圧痕文	〃	白色粒		にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 Q 27-41	同種 230

231	〃	〃		条痕文?	〃	〃	有	灰褐 7.5 YR 5/2	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 J 28-7	
232	〃	〃		条痕文	条痕絡条体圧痕	石英粒	有	にぶい橙 5 YR 6/4	褐灰 5 YR 4/1	〃	95 E 5-21	内面に条痕文の原体痕跡
233	〃	〃		〃	ナデ調整	〃 白色粒	有多	橙 7.5 YR 6/6	灰黄褐 10 YR 6/2	やや軟	95 J 40-7	
234	〃	〃		絡条体圧痕文	〃	〃	〃	にぶい橙 5 YR 6/4	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 J 40-7-2	同種 233・235・239・249
236	〃	〃		条痕文	条痕	白色粒	〃	にぶい橙 5 YR 7/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 F 2-8	同種 237
240	〃	底部		〃	〃	〃	〃	にぶい橙 7.5 YR 6/4	橙 7.5 YR 7/6	〃	95 表採	
241	〃	胴部		絡条体圧痕文	ナデ調整	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 6/3	灰褐 7.5 YR 6/2	〃	95 P 31-3	同種 245
242	〃	〃		条痕文	〃	石英粒	〃	橙 5 YR 6/6	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 F 4-14	
243	〃	〃		〃 器壁屈折	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 F 2-7	
244	〃	〃		〃	条痕	白色粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	堅	95 T 19-2	
246	〃	〃		圧痕文	ナデ調整	岩石粒	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 J 37-1	
247	〃	〃		竹管D字文	条痕	白色粒	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 M 27	
248	〃	〃		条痕文	ナデ調整	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 5/2	〃	95 T 38-3	
250	〃	〃		絡条体圧痕文 条痕文	ナデ調整	石英粒白色粒多	〃	灰褐 7.5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 R 29-2	
251	〃	口縁部 ほか	口径推 21.8	〃	〃	白色粒	有多	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	軟	95 J 40-4	丸底
252	〃	〃	口径23.5 高推35.	〃	条痕	石英粒	〃	灰褐 7.5 YR 4/2	灰褐 7.5 YR 5/2	堅	84 NMA 2 L-1	前回調査出土

表 26 土器一覧表 26 (前期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
1	深鉢	胴部		羽状LR縄文	ナデ調整	白色粒	有	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	堅	95 N 24-6	
2	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 J 40-2	
3	〃	〃		〃	〃	石英粒		灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 S 36-10	
4	〃	〃		RL縄文	〃	〃		灰褐 7.5 YR 5/2	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 R 32-4	
5	〃	〃		羽状LR縄文	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 S 35-4	
6	〃	口縁部		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 R 34-8	
7	〃	胴部		〃	〃	白色粒		にぶい褐 7.5 YR 5/3	褐灰 7.5 YR 4/1	〃	95 Q 33-13	
8	〃	〃		RL縄文	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい黄橙 10 YR 6/3	〃	95 R 34-2	
9	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 S 35-3	
10	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 Q 32-11	
11	〃	〃		RI縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 Q 35-4	
12	〃	〃		羽状RL縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 J 40-3	同種 21・22・25
13	〃	〃		RL縄文	〃	白色粒		灰赤 2.5 YR 4/2	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 Q 30-17	
14	〃	〃		RI縄文	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 4/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 R 30-15	同種 28
15	〃	〃		RL縄文	〃	石英粒		灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 S 35-1	
16	〃	〃		LR縄文	〃	白色粒		にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 T 32-5	

17	〃	〃		羽状RL縄文	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 P 35-1	
18	〃	〃		〃	〃	〃		灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 P 35-2	
19	〃	〃		LR縄文	〃	〃		灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 U 31-2	
20	〃	〃		〃環縄つき	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 I 40-3	
22	〃	口縁部		〃	〃	白色粒		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 R 28-33	
26	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 Q 32-10	
27	〃	胴部		RL・LR縄文	条痕	〃	有	にぶい赤褐 5 YR 5/4	褐灰 5 YR 4/1	〃	95 J 38 SK	
29	〃	〃		LR縄文	ナデ調整	〃	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 R 32-5	
30	〃	〃		〃	〃	〃	〃	灰褐 7.5 YR 5/2	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 S 26-4	
31	〃	〃		RL・LR縄文	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 6/3	〃	95 N 31-5	
32	〃	〃		RL縄文	〃	白色粒	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	暗赤灰 2.5 YR 3/1	〃	95 N 28-1	
33	〃	〃		RL縄文	〃	〃	〃	にぶい褐 7.5 YR 5/3	にぶい橙 7.5 YR 6/4	〃	95 T 28-10	
34	〃	〃		LR縄文	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 4/2	〃	95 P 34-5	
35	〃	〃		〃	〃	〃	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 表採	
36	〃	〃		〃	〃	〃		橙 2.5 YR 6/6	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 H 35-2	
37	〃	〃		〃	〃	石英粒		灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 S 36-2	

表 27 土器一覧表 27 (前期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
38	〃	〃		RL縄文	〃	〃 白色粒	有	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 P 32-6	
39	深鉢	胴部		RL・LR縄文	ナデ調整	白色粒		灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	堅	95 P 36-10	
40	〃	〃		RL縄文	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 N 37-5	
41	〃	〃		〃	〃	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 G 40-5	
42	〃	〃		LR縄文	〃	〃	有少	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 O 24-1	
43	〃	〃		RL縄文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 N 33-6	
44	〃	〃		LR縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 O 37-5	
45	〃	〃		LR・RL縄文 縄つき	〃	〃	有	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 表採	
46	〃	〃		付加条のある縄文	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 6/3	にぶい褐 7.5 YR 6/3	〃	95 Q 37-2	
47	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 O 35-6	同種 46・49・ 50・83
48	〃	〃		〃	〃	〃		黒褐 5 YR 3/1	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 P 37-1	
49	〃	〃		〃	〃	〃 砂粒		灰褐 7.5 YR 6/2	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 T 32-1	
50	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 R 36-6	
51	〃	〃		RL・LR縄文・ 環縄つき	〃	〃	有	暗赤灰 2.5 YR 3/1	にぶい赤褐 5 YR 4/3	〃	95 N 33-7	
52	〃	〃		〃	〃	石英粒	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 H 40-11	
53	〃	〃		〃	〃	白色粒	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 N 33-2	

55	〃	胴部		撚糸文	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 O 35-6	同種 56~63・91 (口径推定 23.8)
64	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 N 27-5	同種 56 など
65	〃	〃		LR・RL縄文	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 H 37-6	同種 70 (口径部) 71
66	〃	口縁部		小波状口縁・ RL縄文	〃	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 H 40-2	
67	〃	〃		LR縄文	〃	〃	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	〃	95 S 33-2	
68	〃	胴部		LR・RL縄文	〃	〃	〃	橙 5 YR 6/6	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 I 38-1	
69	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 I 38-10	
72	〃	〃		〃 環縄つき	〃	〃	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 P 34-13	
73	〃	〃		〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 G 33-5	同種 74
75	〃	〃		LR縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 P 24-1	
76	〃	口縁部		RL縄文	〃	石英粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 G 35-8	同体 89 (95 H 34-3)
77	〃	〃		LR縄文	〃	白色粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 R 36-5	同種 78・81
79	〃	胴部		LR縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 Q 34-8	
80	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 Q 23-1	
82	〃	〃		RL縄文	〃	〃	有	にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 R 31	同種 87
84	〃	〃		LR縄文	〃	〃	〃	灰褐 5 YR 4/2	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 S 31-1	

表 28 土器一覧表 28 (前期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
85	深鉢	胴部		LR・RL縄文	ナデ調整	白色粒	有	にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	堅	95 I 40-3	同種 86・90(口径 推定 14.5 cm)
88	〃	〃		RL縄文	〃	〃	〃	橙 5 YR 6/6	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 L 38-3	
92	〃	口縁部	口径推 定 24.6 cm	LR縄文・竹管文	〃	〃		灰褐 7.5 YR 4/2	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 S 32-1 95 S 33-13	
93	〃	〃		竹管文C	〃	〃		灰褐 7.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 E-3-2	同種 94~97
98	〃	胴部		肋骨文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 M 31-3	
99	〃	〃		格子目文	〃	石英粒金雲母		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	明赤褐 5 YR 5/6	〃	95 H 29-1	同種 100~102
103	〃	〃		矢羽根状文	〃	砂粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 G 36-9	同種 104~110
111	〃	〃		条線文・竹管文	〃	〃		灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 P 34-9	同種 115・120
112	〃	底部		集合条線文	〃	〃 白色粒		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 N 36-5	同種 116・117
113	〃	胴部		条線文・D字状貼付	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 G 35-18	同種 114
118	〃	〃		条線文・爪形浮線文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 O 36-4	
119	〃	〃		〃	〃	〃		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 N 36-3	
121	〃	〃		沈線文・浮隆文	〃	〃		灰褐 5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 I 32-4	
122	〃	〃		縄文・篋切浮線文	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 K 38-1	同種縄文 12・ 21・23~25
123	〃	〃		竹管文D	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 G 38-5	
124	〃	口縁部		口端部刻目文	〃	〃		灰黄褐 7.5 YR 4/2	灰黄褐 7.5 YR 4/2	〃	95 J 40-11	中期初頭

125	〃	〃		〃	〃	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 G 35-4	〃
126	〃	〃		LR縄文・ 口端部貼付	〃	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 R 35-6	〃

表 29 土器一覧表 29 (中期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
1	深鉢	口縁部 下		斜行沈線文 貼付文	ナデ調整	石英粒・金雲母		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	堅	95 E 5-22	中期初頭
2	〃	胴部		隆帯文・垂下文?	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 33-1	中期前葉
3	〃	〃		隆帯文・RL縄文 刺突文	〃	石英粒		明赤褐 2.5 YR 5/6	橙 2.5 YR 6/8	〃	95 表採	同種 14 〃
4	〃	〃		RL縄文・竹管文 刺突文・綾線文	〃	石英粒・金雲母		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 37-8	〃 同種 5・7・10・17・18
6	〃	〃		LR縄文・綾線文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 H 33-9	〃 同種 8
9	〃	〃		RL縄文・ 〃	〃	〃		明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 H 35 表採	〃
11	〃	口縁部		楕円沈線文・刻み目	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 33-1	〃 同種 13
12	〃	〃		RL縄文・隆帯文 沈線文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 33-12	〃 同種 11?
15	〃	胴部		LR縄文・綾線文	〃	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 I 32	〃
16	〃	口縁部		LR縄文・竹管文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/4	〃	95 G 40-1	〃
19	〃	胴部		〃	〃	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 40-4	〃

表 30 土器一覧表 30 (中期)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
20	深鉢	胴部		沈線文・竹管文C 刺突文	ナデ調整	石英粒・金雲母		灰赤 2.5 YR 4/2	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 I 40-5	〃
21	〃	〃		沈線文・刺突文	〃	白色粒		灰赤 2.5 YR 5/2	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 P 32-1	
22	〃	〃		指痕文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 G 40-7	同種 23
24	〃	〃		撚糸文	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい褐 7.5 YR 6/3	〃	95 Q 32-4	
25	〃	〃		竹管文・沈刻文	〃	砂粒		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 I 37-3	
26	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい褐 7.5 YR 6/3	灰褐 7.5 YR 6/2	〃	95 P 31-2	
27	〃	底部		網代痕	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 39-4	
28	〃	胴部		隆帯文・竹管文 三叉文	〃	〃		にぶい橙 7.5 YR 6/4	にぶい褐 7.5 YR 5/3	〃	95 P 30-4	
29	〃	〃		渦巻文・竹管文 沈刻	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/4	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 P 35-1	同種 34 馬高式系
30	〃	〃		LR縄文・隆帯文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい橙 2.5 YR 6/4	〃	95 H 33-16	
31	〃	〃		〃	〃	石英粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/3	灰褐 5 YR 4/2	〃	95 P 33-7	
32	〃	底部		無文・網代痕	〃	白色粒		にぶい赤褐 5 YR 5/4	にぶい赤褐 10 YR 5/3	〃	95 U 30-7	
33	〃	口縁部		渦巻文・玉抱き三叉 文・竹管文・沈刻	〃	砂粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 P 35-3	馬高式系
35	〃	〃	口径推 定 24.5 cm	指痕文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 40-11	補修孔あり
36	〃	〃	〃 19.2 cm	〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 G 35-2	
37	〃	胴部		RL・LR縄文	〃	石英粒		灰赤 2.5 YR 5/2	にぶい橙 2.5 YR 6/4	〃	95 G 37-10	

38	〃	底部	底径 9.5	RL縄文	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰褐 7.5 YR 5/2	〃	95 E 4-1	
----	---	----	-----------	------	---	---	--	---------------------	------------------	---	----------	--

表 31 土器一覧表 31 (後期) (第 62 図)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
1	深鉢	口縁部	口径 28.3 cm 高さ 38.3 cm	8 の字文・鎖状文 沈線文・磨消縄文	ヘラ磨き 網代底	砂粒		にぶい黄褐 10 YR 5/3	にぶい黄褐 10 YR 5/3	堅	95 S 34-1	
2	〃	胴部		RL縄文・磨消縄文	ヘラ・ナデ調 整	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 R 30-5	同種 3・6
4	〃	〃		LR縄文・磨消	〃	〃		灰褐 5 YR 5/2	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 J 28	
5	〃	〃		〃・沈線	〃	〃		黒褐 5 YR 3/1	にぶい赤褐 5 YR 5/4	〃	95 J 28	

桑山道南 261 (C 地点) 山林試掘トレンチ出土土器 (第 62 図)

253	深鉢	胴部		平行沈線文(3)	ヘラ・ナデ調整	砂粒		にぶい橙 2.5 YR 6/4	にぶい橙 2.5 YR 6/4	〃	95 K トレンチ 表採	
254	〃	〃		〃 (2)	〃	〃	有	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	〃	95 K トレンチ 3	
255	〃	〃		楕円押型文	〃	〃	〃	にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 K トレンチ 1	
256	〃	〃		無紋	〃	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 K トレンチ 2	
257	〃	〃		〃	〃	〃		赤灰 2.5 YR 4/1	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 K トレンチ 3	土版に加工

表 32 土器一覧表 32 (古墳・平安時代) (第 52 図)

1	甕	胴部		タタキ目	ナデ調整	砂粒少		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 R 16-3	同種 2・3
---	---	----	--	------	------	-----	--	---------------------	---------------------	---	-----------	--------

表 33 土器一覧表 33 (古墳・平安時代)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整(内面)	胎土	繊維痕	色調		焼成	遺物整理番号 出土グリット	備考
								外面	内面			
1	碗	口縁部	口径推定 13.7	丸底	ヘラ磨き	鉄分粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	黒褐 5 YR 3/1	堅	95 H 30-川	同種 2・4 古墳時代土器
3	壺	〃	〃 14.1	くの字状口縁	〃・穿孔	砂粒		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 4/3	〃	95 R 35-16	〃
5	坏	〃	〃 10.2	ロクロ成型・高台坏	〃・糸切底	〃		灰褐 7.5 YR 4/2	黒褐 7.5 YR 3/1	〃	95 I 3018	以下平安時代土器
6	〃	〃	〃 14.4	〃	〃	〃		にぶい赤褐 5 YR 5/3	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 M 32-1	同種 13・1 号住カマド
7	小形壺	〃	〃 9.9	〃	〃	〃		灰褐 5 YR 5/2	褐灰 5 YR 4/1	〃	95 M 32-2	1号住
8	坏	口縁部	〃 12.0 〃 4.3	〃	〃 糸切り底	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 M 32 カマド	黒色土器 同種 1 〃
9	〃	〃	〃 13.6	〃	〃	〃		にぶい橙 2.5 YR 6/4	にぶい橙 2.5 YR 6/4	〃	9532	同種 12 〃
10	碗	〃	〃 13.9	〃	〃	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	灰褐 5 YR 5/2	〃	95 M 32 カマド	〃
14	甕	底部		ロクロ成型・器壁薄	ケズリ	〃		にぶい橙 5 YR 6/4	にぶい橙 5 YR 6/4	〃	95 M 32-12	〃
15-1	〃	口縁部		〃	〃	〃		明赤褐 2.5 YR 5/6	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 N 31-17	〃
15-2	〃	〃		〃	〃	〃		明赤褐 2.5 YR 5/4	明赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 M 31-9	〃
16	坏	底部	底径 5.7	〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 T 26-7	
17	〃	〃	〃 7.4	〃・高台	黒色土器 暗文?	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	黒褐 5 YR 3/1	〃	95 I 29-7	
18	小形甕	口縁部	口径 12.2	〃	ナデ成型	〃		橙 2.5 YR 6/6	にぶい橙 7.5 YR 6/4	やや軟	95 G 32-8 川	
19	甕	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	灰赤 2.5 YR 4/2	堅	95 I 29	
20	〃	〃		〃	〃	〃		にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	〃	95 I 30-40	1号住

21	壺	〃		〃	〃	〃	灰赤 2.5 YR 4/2	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 R 18-40	
22	椀	〃		灰釉(山茶碗)	ロクロ成型	〃	灰褐 7.5 YR 6/2	灰褐 7.5 YR 6/2	〃	95 T 28	
23	甗	〃	口径 19.9	ロクロ成型・ケズリ	ロクロ成型 アテ貝痕	〃	にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	にぶい赤褐 5 YR 5/3	〃	95 M 32 カマド	1号住
24	〃	〃	〃 23.6	〃	〃	〃	橙 2.5 YR 6/6	橙 2.5 YR 6/6	〃	95 M 32 カマド	〃

表 34 遺物一覧表 1 (中世)

挿図 番号	器種	部位	法量	器形と文様	調整	用途	遺物整理番号 出土グリット	備考
1	鉄鎌		長 24.5 幅 4.2 厚 0.8	半月形	目釘穴・環	鎌と鉞の兼用	95 H 28 T	古代末～ 中世初期
2	短刀		長 29.7 幅 2.5 柄長 9.2	平棟・関有	目釘穴無	護身用	95 G 32 T	中世

表 35 石器観察表 (第 57~59 図)

挿図 番号	名称	遺物番号 (出土グリット)	長さ	幅	法量(cm) 厚さ	重量(g)	石材 (石質)	使用痕(cm) 磨面長さ×幅(中央)	備考
1	石鏃	95 P 33	2,0	1.2	0.3	0.7	黒燧石		剝片鏃・平基
2	〃	95 Q 28(2 住)	2.2	1.6	0.3	0.7	玄武岩		
3	〃	95 Q 35-1	1.7	1.5	0.4	0.6	黒燧石		鋏形鏃
4	〃	95 S 31-2	1.8	1,3	0.3	0.5	〃		
5	〃	95 N 39	1.7	1,5	0.35	0.4	〃		
6	〃	85年調査地表面採集	2.2	1.45	0.4	0.7	〃		
7	〃	95 R 38-1	1.8	1.3	0.25	0.3	〃		
8	石錐	95 S 31-2	2.5	1.2	0.6	1.4	〃		
9	〃	95 M 32-2	2,9	0.8	0,6	1.3	珪質岩		
10	石匙	95 S 28-4	4.9	3.0	1.2	9,3	〃		
11	剝片	95 I 40-12	4,9	1.6	0.6	3.5	珪質頁岩		
12	〃	95 I 40-1	4.7	1.7	0.4	3.5	珪質岩		
13	〃	95 W 26-2	4.4	1.7	0.3	2.0	頁岩(赤色)		
14	〃	95 Q 32-5	4.8	1,0	0.6	2.4	鉄石英		
15	〃	95 H 29-13	3,7	2.8	0.7	9,1	頁岩		
16	石匙	95 J 26-1	7.1	5.3	1,1	35.6	玄武岩		
17	横刃型石器	95 G 38-6	13.7	10.7	1.2	300,0	ひん岩		
18	石斧	95 H 39-14	8.4	3.6	2,1	190,0	安山岩		
19	石斧	95 R 23-8	8.6	3.5	0.9	41.0	〃		
20	石斧(土掘具)	95 G 32-1	14.2	6.7	1.4	180,0	〃		
21	〃	95 I 28-1	10.5	5.1	1.3	80.0	〃		
22	〃	95 T 34-4	9.9	5.0	1.2	80.0	〃		
23	〃	95 H 28	9.1	4,7	1.6	75.0	〃		欠損
24	磨石	95 表採	9,45	9.2	5.8	740.0	輝石安山岩		
25	〃	95 R 30	8.3	7.65	4.5	410.0	〃		
26	凹石	95 F 4	6.9	6.7	3.6	200.0	〃		欠損 火熱
27	〃	95 H 40	8.0	5.3	3.4	130.0	〃		
28	特殊磨石	95 F 4	10.3	9.1	3.5	525.0	〃	7.5 2.6	
29	〃	95 S 31-1	12.1	11.4	7.2	1540.0	〃	7.3 5.5	磨面 3
30	〃	95 H 39 土坑	12.6	6.7	6.1	665.0	〃	11.3 4,4	両端敲打痕
31	〃	95 V 27-8	16.1	6.2	5.6	870.0	ひん岩	16.5 3.9	〃
32	〃	95 I 37-2	13.75	7.0	4.7	820.0	〃	11.2 3.9	磨面 3
33	〃	95 I 27-6	12.3	6.6	6.4	755.0	〃	9.4 2.8	欠損 端敲打痕
34	〃	95 表採	14.0	6.1	5.5	720.0	〃	11.7 3.1	両端敲打痕
35	〃	95 H 39-20	14.0	7.1	5.1	655.0	粗粒玄武岩	11.6 3.1	一部欠損
36	〃	95 表採	15.3	6.4	5.0	855.0	砂岩	13.1 3.1	両端敲打痕 磨面 2
37	〃	95 I 40	12.3	7.5	5.5	670.0	〃	10.4 1.9	両端敲打痕
38	敲石	95 G 39-10	13.1	4.5	3.1	330.0	〃		
39	特殊磨石	95 F 32	8.0	7.7	3.8	290.0	〃	7.6 2.6	欠損 端敲打痕 火熱

(25) 古墳時代

a 遺物

〈土器〉(第64図1～4)古墳時代後期の遺物で、坏形丸底の黒色土器(1・2・4)の破片が発見されている。1は内外よくへら磨きされている。2の外表面はロクロなでされ、底部はへらで粗くなでられている。4は大形の坏で、内部はよくへら磨きされ、外底部はやや粗に丸く成型されている。3は直立に近い短い口縁の壺で、焼成前の穿孔があり、へら磨きが施されている。これらの土器は従来は、鬼高式土器と呼ばれていたもので、古墳時代V期新段階(笹沢1988・花岡1991)、7世紀第2～3四半期ごろの所産とみられる。

(26) 平安時代と以降

a 遺物

〈土器〉住居址の項で記した土器のほか、水場遺構にかけて多量の平安時代の土器が検出された(第64図)。このなかには口縁部の形態がさまざまな甕があり、鍔釜土器の破片も検出されている。

これらの平安時代の土器の破片は、総数1431片に及び、半世紀に近い変遷が考えられる。

〈鉄鎌〉(第63図1)H28の水場の底から検出されたもので、腐食のため推定を加えて復元図化してある。半月形で長さ24.5cm、刃部の長さ14cm、同幅4.2cm、同厚さ0.8cmである。

木柄の環の部分には木質部が残っていた。この内径は2cmである。目釘穴の部分は先端を細くして、内側に折り曲げている。

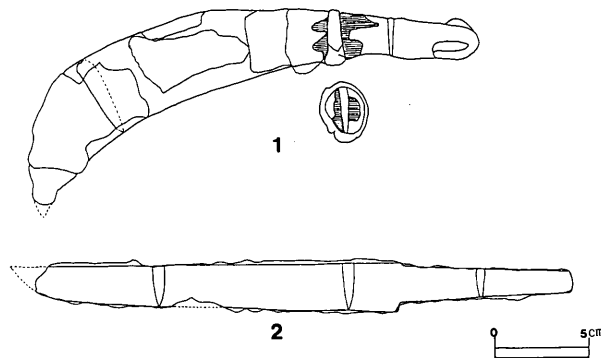
このような形状から後世の鉋と、鎌の兼用した用途が指摘され、古代末から中世初期の所産とみられる。

〈短刀〉(第63図2)G32の東壁付近から検出されたもので、黒土層下約45cmに、20～30cm大の石が並列し、間層があってその下から短刀が検出された。表土より79cmの位置である。さらに30cm下には、長さ1mを越す水場の縁石があった。

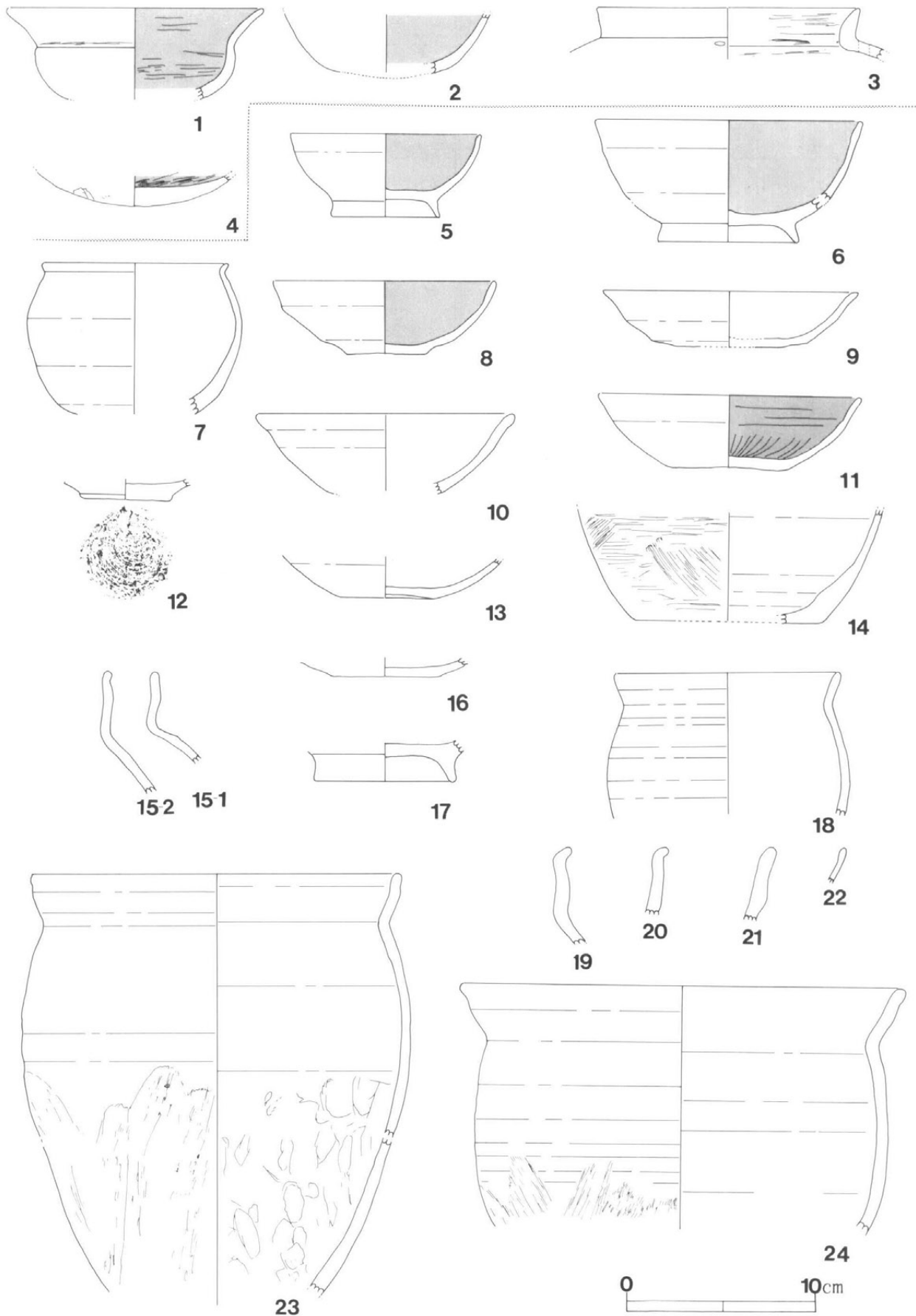
この短刀に関わる遺構の性格は、黒色土の単一層のため、決定できなかった。

短刀は欠損部を復元して、長さ29.7cm(1尺)、身幅最大2.5cm、棟幅0.7cm、柄の部分長さ9.2cm、幅中央で1.6cmなどで、平棟作り、目釘穴は確認されていない。

以上の観察からこの短刀は、中世の所産と推定している。



第63図 鉄器実測図(古代末・中世)



第64図 土器実測図 (古墳・平安時代)

第IV章 ま と め

前回(1984年)と今回の発掘調査によって上林中道南遺跡は、北信地方の草創期～早期の主要な遺跡であることが、再確認することができた。

これを遺跡の地理的環境からみると、背後に無限の生活資源をもつ、広大な山々があり、さらに関東への山元の交通の拠点にもなっていたことがあげられる。

全国で人口8000人といわれる縄文早期の時代の文化圏は広域的であり、永住的な拠点集落でなく、小集団の生活の跡と、遺構と遺物は物語っている。開地の遺跡のため、遺物の層位的検出につとめたが、黒ボク土の層序が乱れており、遺物の層位は絶対的でなく、相対的な深度で提示したことが多い。

縄文時代草創期末、約10000年前の回転文様系土器群の表裏縄文土器は、長野県では古くから注目されており、本遺跡で表裏縄文・縄文系I群1類土器としたものである。しかし個々の土器をみれば、類型が異なるものがあり、解明すべき問題は多い。

この時期に関東では撚糸文系土器群(井草式)が成立している。

表裏縄文土器終末段階のI群2類としたものは、口縁部が強く外反するなど、井草式の影響とみられるものがある。このほか本遺跡のV層黄褐色土上と、IV層灰褐色土(漸移層)から検出された、薄手の縄文土器の位置付けも今後の課題である。

このころ関東では夏島～稲荷台式の撚糸文土器が使用され、本遺跡でも類似のものが検出されている。

この地方はつぎには、同じく回転文様系の押型文土器が登場する。この地方の古い押型文土器は、格子目文の表裏に施文されたものが考えられている。それは表裏縄文土器からの文様構成がスムーズにたどれるからである。

押型文系I群の立野式としたものは僅かであり、空白か、先述の薄手縄文土器で埋まるのか、と推定される。

押型文系II群の樋沢式は、山形文が圧倒的に多く、楕円文は僅かである。これに縄文や撚糸文の土器が加わるものとみられ、この傾向は他の遺跡と同様である。また、この遺跡でも指摘したように樋沢式の後半から文様の多様化が始まっている。

本遺跡で最も多い押型文土器は、押型文系III群の細久保式である。復原した楕円文と綾杉文の土器にみられるように、変化に富んだ施文具が多くみられ、多様な文様が登場し、交流の激しさをものがたっている。

この中には長野県では初見と思われるものもあり、この異形押型文の系統と、出自の問題の究明はこれからの課題である。

細久保式押型文土器の時期に、関東では貝殻文・沈線文系土器群(三戸式)が成立し、本遺跡でも以降の押型文土器と平行関係になる。

押型文土器の終末段階の土器は、繊維の多くみられるものと推定される。高山寺式～相木式と呼ばれるものである。この遺跡では田戸上層式併行式(沈線文系II群)以降に登場する土器である。

本遺跡では、三戸・田戸式併行式(沈線文系I群土器)とした土器は、僅かであり、田戸上層併行式(沈線文系II群土器)に至って、この遺跡では沈線文系土器が主流となり、これは、つぎの条痕文系土器群に継承されている。

この沈線文系II群土器には、細沈線文の土器がみられ、系統は筆者には不明である。これらの土器の文様は、条痕文土器を含めて施文具が、貝殻であるかどうかの究明が必要であろう。

条痕文系土器群は、縄文早期後半に位置づけられ、野島式土器より始まっている。これに併行すると思われる、土器の検出は僅かである。しかし次の段階の鶴ヶ島台式土器は1984年の調査で、主体的に出土した土器である。

長野県には広く分布する土器のようである。

絡条体圧痕文土器は、条痕文土器とともに継続した息の長い土器で、条痕文の原体、絡条体の押捺された土器もあり、早期の土器としては、上層から検出されている。また、早期終末には、各地方の土器が断片的に見られ、この地域が早期全般を通じて、東西文化の接点にあたり、複雑な文化相を示している。

縄文前期の土器は、前期II期（関山式）と前期III期（有尾式）が多くあり、前期後半から終末のIV・V期（諸磯C式）の土器と、大きく二つに分けられる。文化圏の問題や、生業などの復元に示唆をあたえる在り方である。

縄文中期では、初頭II期の土器から始まって、中葉I期の土器が多くみられた。関東の阿玉台式土器と、北陸の新崎式土器などの客体的土器に、在地の仮称深沢式土器などが見られる時期で、北信では明快な編年観が樹立されていない。

中葉II期には隆線の渦巻文土器が見られ、新潟県方面との交流の文化が継続していることを示している。

縄文後期前葉の文化は、関東西部の影響下にあったことが、検出された堀之内2式の深鉢形精製土器が示している。そして在地の土器が見られただけで、この遺跡はここで、縄文時代の住居生活の空間から消えている。

この遺跡に人が戻ってくるのは、7世紀の古墳時代の後期になってからである。しかし定住した痕跡は見つかっていない。

さらに一定期間、人が住み着くのは、平安時代も後半の11世紀になってからである。里から人がこの土地に住居を定めた背景はなにか、豊富な湧水、生業、山の資源、交通の要衝、政治体制の影響など、山地住民の問題の答えは、今後に残されている。

引用文献・参考文献

- | | | |
|---------|--------------------------------------------------|------|
| 中沢道雄ほか | 『下荒田遺跡』御代田町教育委員会 | 1995 |
| 長野県考古学会 | 『長野県考古学会誌』一表裏縄文から立野式へ—77・78 | 1995 |
| 会田進ほか | 『樋沢押型文遺跡調査研究報告書』岡谷市教育委員会 | 1987 |
| 国土地理協会 | 『全国遺跡地図20長野県』 | 1983 |
| 小林康男ほか | 『一般国道20号（塩尻バイパス）改築工事
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』塩尻市教育委員会 | 1988 |
| 戸沢充則ほか | 『縄文時代研究事典』 | 1994 |
| 日本第四紀学会 | 『日本第四紀地図』東京大学出版会 | 1987 |
| 増富寿之助 | 『原色岩石図鑑』 | 1987 |
| 高橋桂ほか | 『三枚原遺跡』木島平教育委員会 | 1977 |
| 神村透ほか | 『開田高原大原遺跡』一押型文と石器一 | 1986 |
| 中島宏 | 「中部地方における押型文土器編年の再検討」
『埼玉の考古学』 | 1987 |
| 片岡肇 | 「細久保式土器」『縄文文化の研究』3—縄文土器— | 1981 |
| ” | 「異形押型文土器について」『朱雀』京都文化財団 | 1988 |
| 笹沢浩・小林孚 | 「長野県上水内郡信濃町塞の神遺跡の押型文土器」
『信濃』18—4 | 1966 |
| 丸山徹一郎 | 「長野県菅平陣の岩陰遺跡調査該報」『信濃』20—5 | 1968 |
| 桑月鮮 | 「東北地方の押型文土器」『長野県考古学会誌』41 | 1981 |
| 檀原長則ほか | 『姥ヶ沢』中野市教育委員会 | 1983 |
| ” | 『上林中道南遺跡』山ノ内町教育委員会 | 1985 |
| ” | 『島崎遺跡試掘調査報告書』山ノ内町教育委員会 | 1994 |
| ” | 『上林中道南遺跡試掘調査報告書』II山ノ内町教育委員会 | 1995 |
| 谷藤保彦ほか | 『中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会 | 1995 |
| 小林達雄ほか | 『縄文土器大観』 | 1989 |

坪井清足ほか	『縄文土器大成』 1 (早・前期)	1981
福島邦男ほか	『平石遺跡緊急発掘調査報告書』望月町教育委員会	1989
神村透ほか	『お宮の森裏遺跡』—一般国道19号上松バイパス建設工事に伴う埋蔵 文化財緊急発掘調査報告書—上松町教育委員会	1995
山ノ内町誌刊行会	『山ノ内町誌』	1973
長野県史刊行会	『長野県下高井郡沓野民俗誌稿』	1981
〃	『長野県史考古資料編』遺構・遺物	1988
〃	〃 〃 主要遺跡北・東信	1982
農林水産省農林技術会議事務局編	『標準土色帖』	1995
小島政巳・早津賢二	「妙高山麓松ヶ峯NO237遺跡採集の押型文土器」 一日計式の波及—『長野県考古学会誌』64	1992
宮崎朝雄・金子直行	「回転文様系土器群の研究」—表裏縄文系・撚糸文系・室谷上層系・ 押型文系土器群の関係—『日本考古学』2	1995
山ノ内町和合会	『和合会の歴史』—志賀高原の歴史—	1975
飯山市誌刊行会	『飯山市誌』歴史編上	1993
小熊博史	縄文時代早期終末における絡条体圧痕文土器の一様相 —新潟県中魚沼地方の資料を中心に—『信濃』41-4	1989

土器破片集計表 上林中道南遺跡 1995年調査

縄文時代

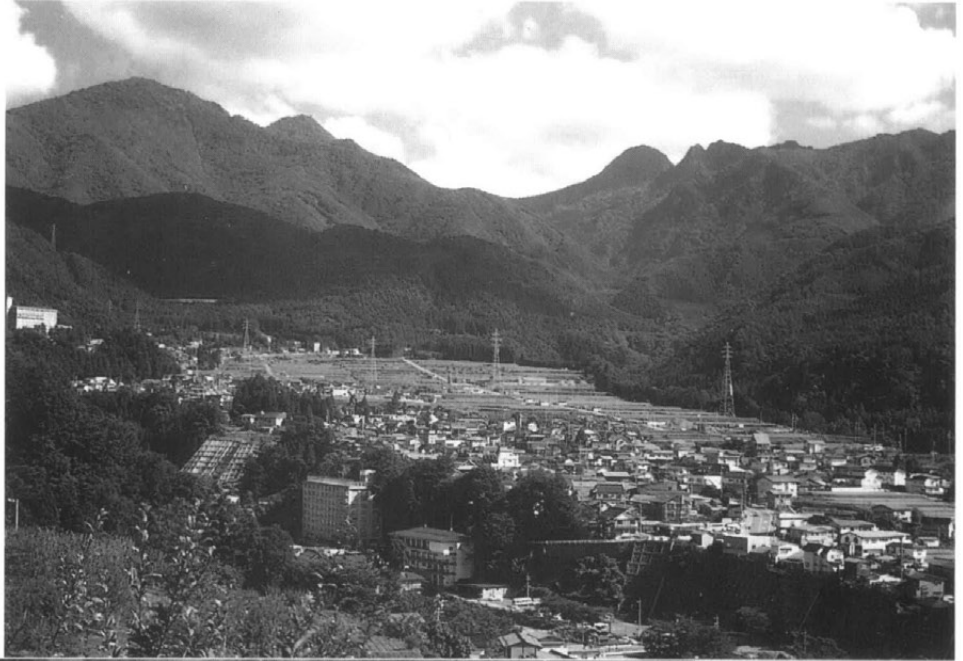
草創期末～早期		前期		中期		後期	
表裏縄文	81	縄文	255	縄文	48	縄文	24
縄文	769	羽状縄文	25	縄文・綾線文	17	無文	6
撚糸文	15	撚糸文	31	竹管文	31	不明	1
押型文		竹管文	45	指痕文	25	合計	31
楕円文	311	貼付文	1	渦巻文	5		
山形文	114	浮線文	12	無文	14		
綾杉文	12	条線文	27	底部	1		
平行線組合せ文	3	斜格子文	5	不明	4		
平行線文	33	無文	70	合計	145		
楕円山形文	8	底部	8				
楕円平行線文	8	不明	9			平安時代	
格子目文	3	合計	488			壺	24
押型文合計	492					坏	589
沈線文・条痕文	771					坏(黒色)	73
絡条体圧痕文	83					甕	729
縄文		古墳時代				椀	23
指頭圧痕文	5	壺	3			鉢	2
無文	718	坏	3			罽釜	1
不明	131	甕	2			灰釉	5
底部	3	不明	1			不明	24
合計	3102	合計	9			合計	1466
						総合計	5241

報告書抄録

ふりがな	かんばやしなかみちみなみいせき
書名	上林中道南遺跡III
シリーズ名	第16集
編著者	檀原長則 小淵利男 湯本栄一
編集機関	山ノ内町教育委員会
所在地	〒381-04 長野県下高井郡山ノ内町大字平穂3352番地1
遺跡所在地	山ノ内町大字平穂字上原260ほか
遺跡番号	長野県9444
遺跡位置	北緯36°44′ 東経138°27′ 標高800m
調査期間	平成7年5月～9月
調査面積	1,715,58㎡以上
調査原因	交通対策事業 チェン着脱場建設
種別	住居跡 遺物散布地
主な時代	縄文草創期～早期・前・中・後期、平安時代
主な遺構	縄文時代住居跡5 土坑 集石 溝、 平安時代住居跡1 水場
主な遺物	縄文草創期～早期土・石器、前・中・後期土・石器、 平安時代土器、中世の鉄器

版 圖

1 金倉から遺跡（△印の下）を望む



2 西方から見た発掘前の遺跡

3 東北から見たグリット設定作業





4 東北から見た発掘風景



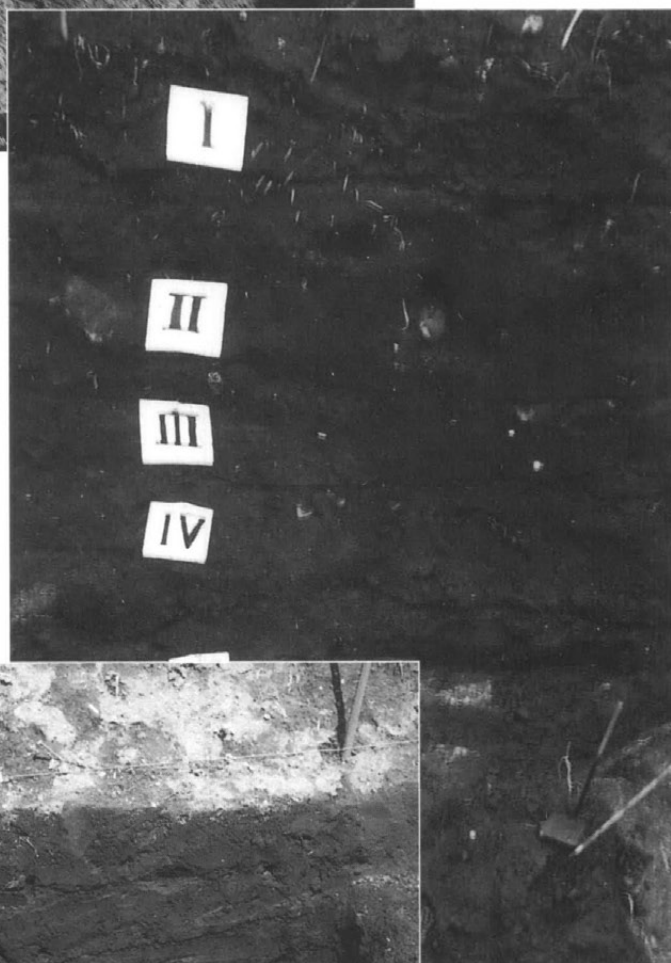
5 同上



6 北から見た遺跡全景



7 K40南の土層断面



8 I40南の土層断面



9 G35東の土層断面

図版 4

10 G38の押型文土器



11 I40の土器出土状況

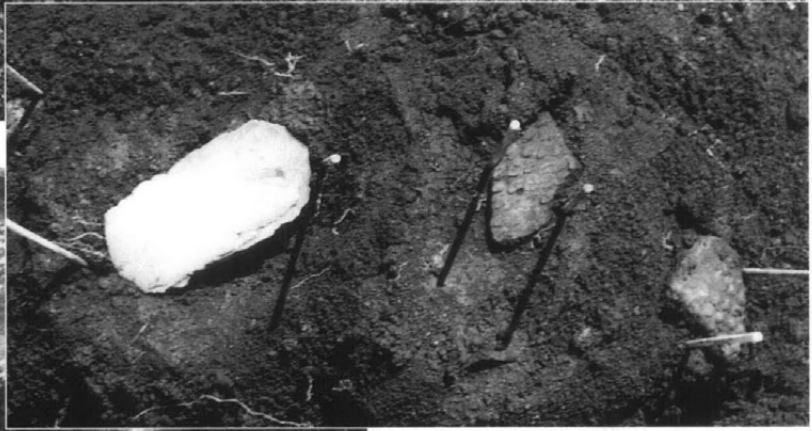


12 H36IV層出土の土器

13 H39の遺物出土状況



14 M39の押型文土器



15 H39の遺物出土状況

16 J 32の遺物出土状況



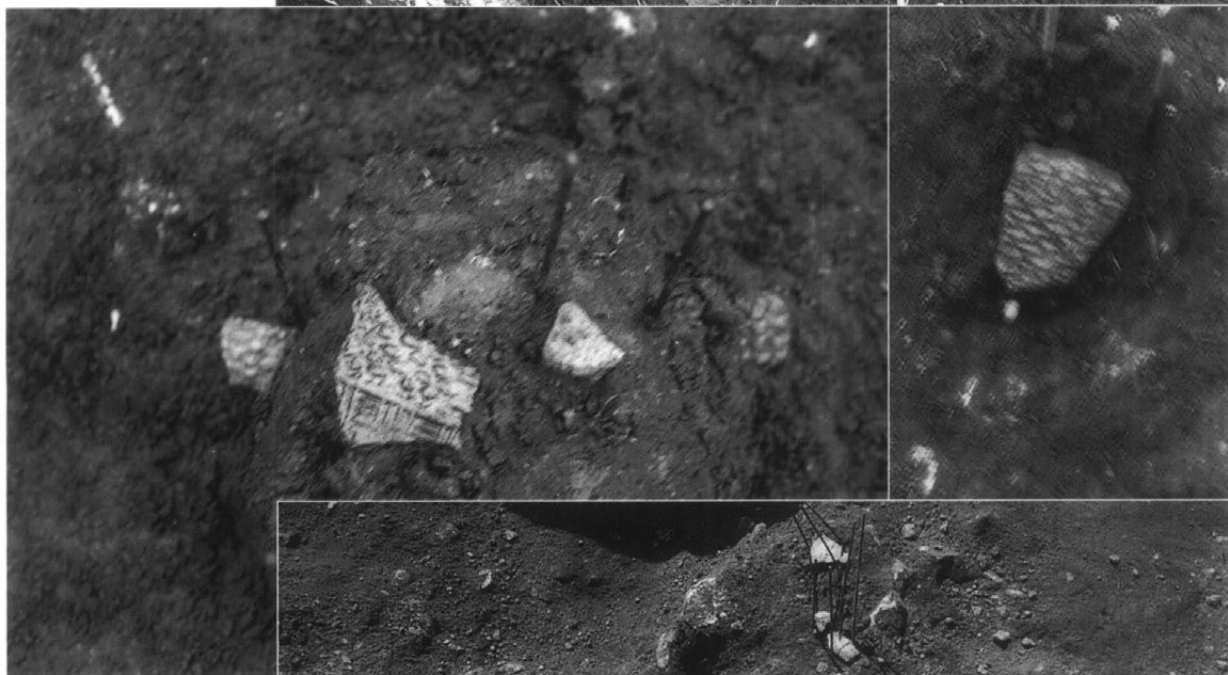
17 G39の遺物出土状況

図版 6

18 N27の押型文土器



20 Y26III層出土の押型文土器 (中段右)



19 P32の押型文土器

21 T36の土器出土状況

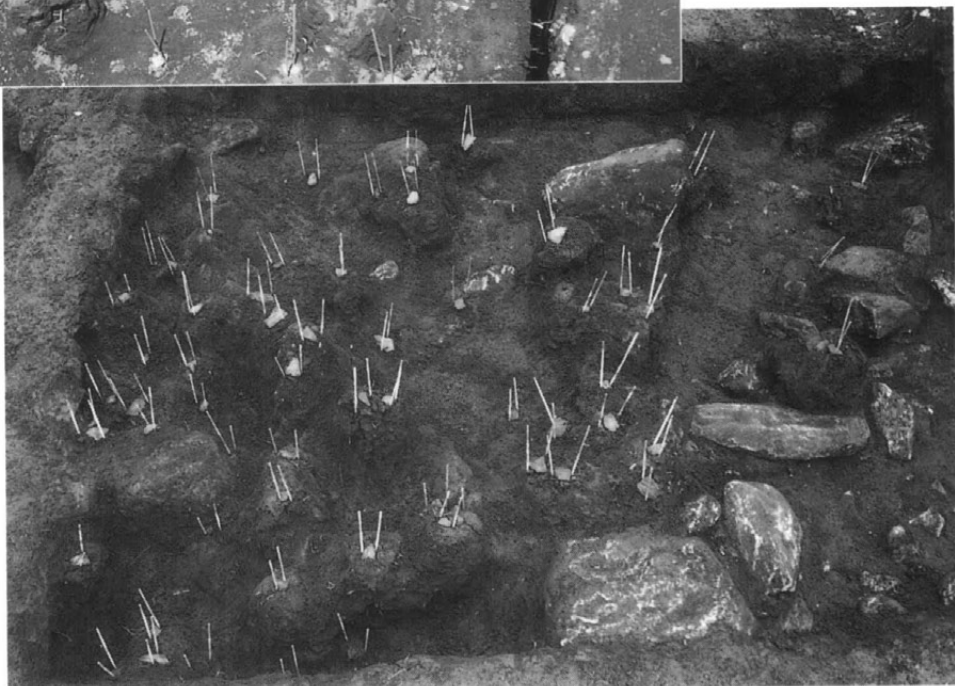


22 H30の土器出土状況



23 Q35の土器出土状況

24 J40の土器出土状況



25 H40の土器出土状況



26 H39の遺物出土状況

27 H36のIV・V層出土の土器



28 東から見た5号住居
址の検出

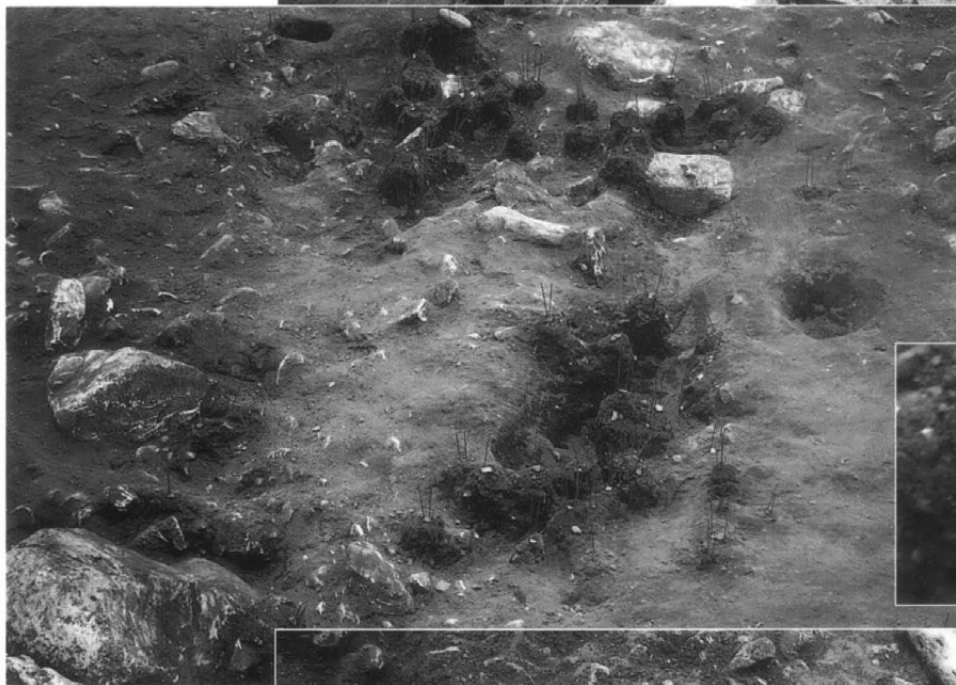
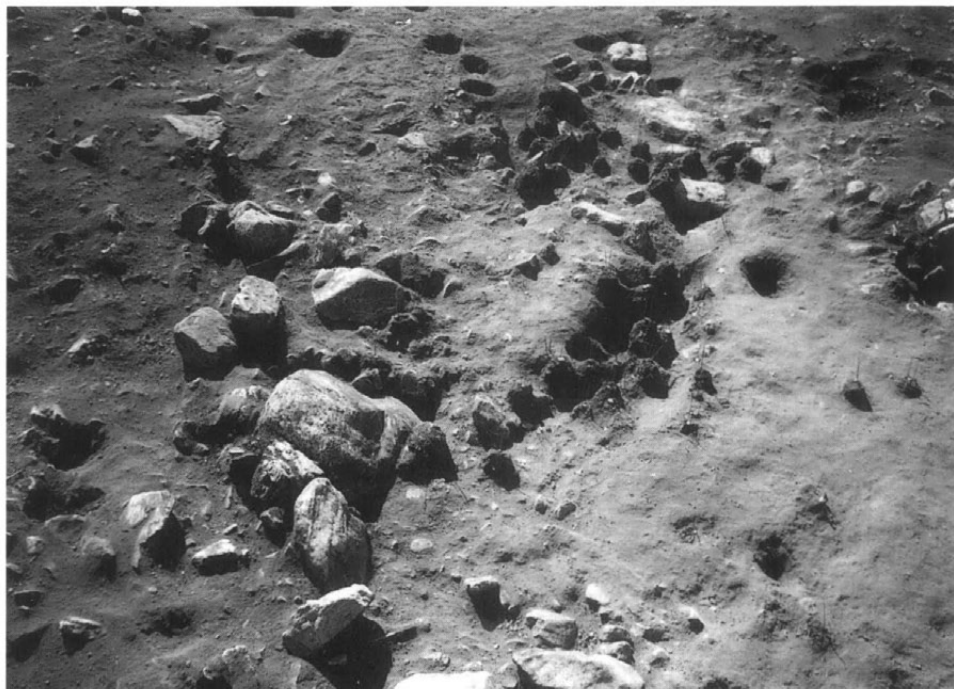


29 S33の6号住の上層
出土の土器

30 同上の部分



31 北から見たV26付近
の遺構・遺物



32 同 溝状遺構の土器

33 同 出土の土器



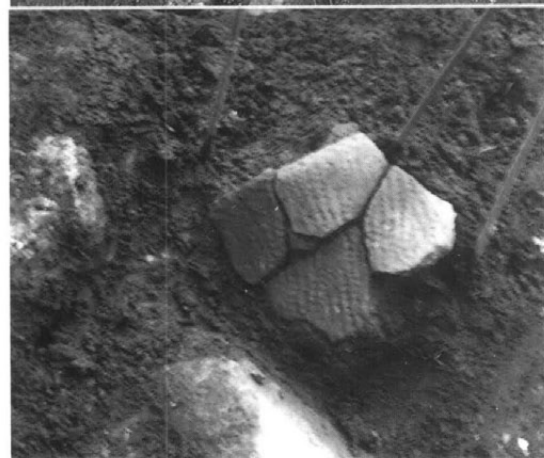
34 同 溝状遺構と土器



35 北から見たV27付近
の遺物



36 同上部分



37 同上表裏縄文
土器の出土



38 R36出土の土器



39 S34のII層出土の堀之内2式土器

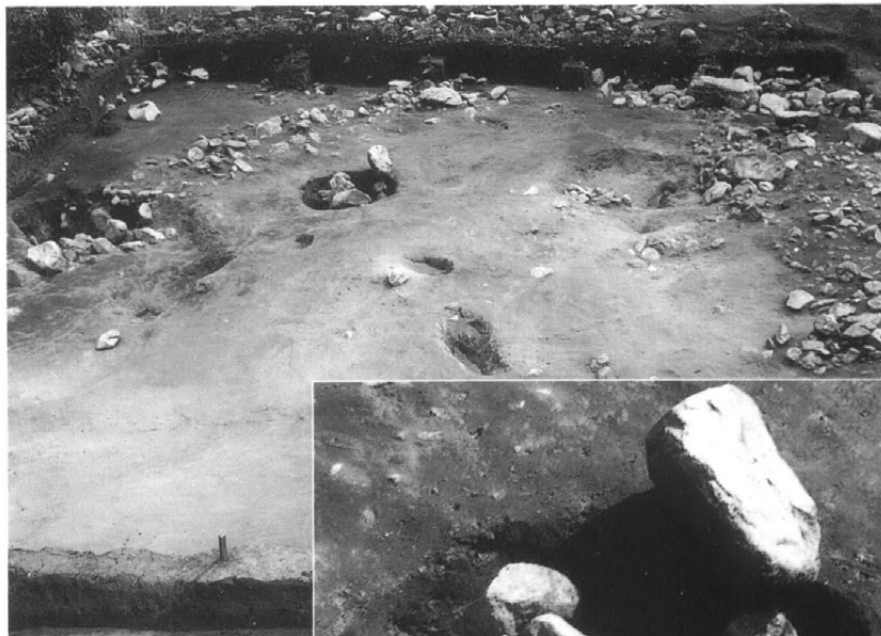


40 G32東壁出土の短刀と遺物

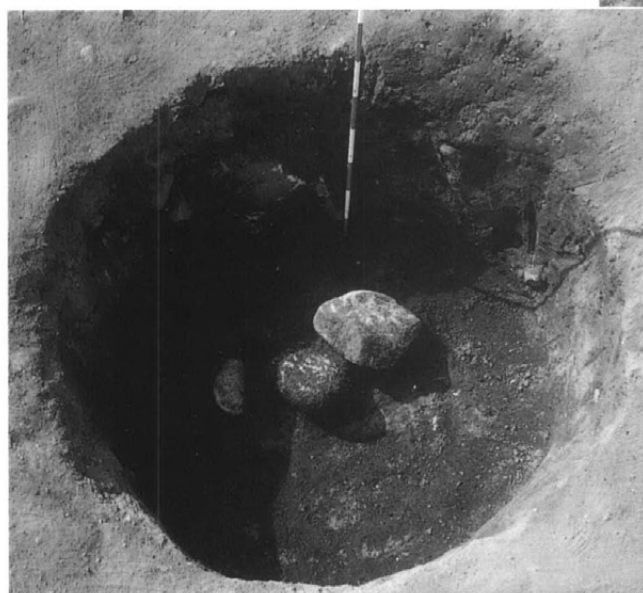


41 Q24検出の自然石の石皿

42 北から見た土坑4号・5号



43 土坑4号の上部



44 土坑4号の底部

45 土坑4号・5号の近景



46 北から見た土坑5号



47 西から見た土坑8号

48 北から見た土坑7号



49 M37の集石7号



50 S26付近の集石

51 R23付近の集石



52 K37付近の集石、上から5・4・3号



53 北から見た集石4号



54 南から見たO35付近の集石



55 北から見た集石1・
2・3・4号



56 北から見た1号集石
の内部

57 北から見たJ36付近
の集石



58 北から見たM37付近
の集石



59 同上南から見る

60 東南から見たB地点
の全景



61 北から見たG31付近



62 北から見たG29付近
の水場

63 同上



64 北から見たG32付近
の水場



65 同上近景



66 J25の中・近世の溝跡

67 北から見た2～6号
住居址

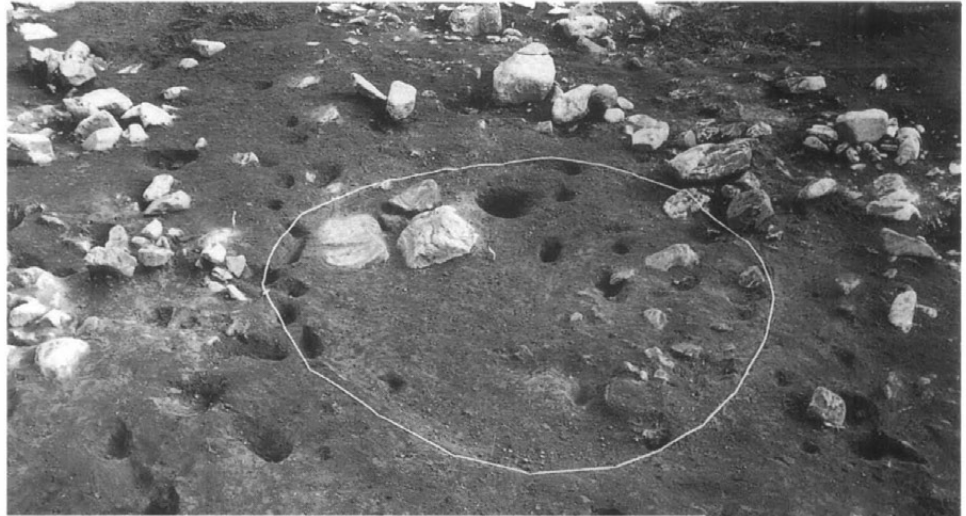


68 西北から見た3～6
号住居址

69 南から見た3～5号
住居址

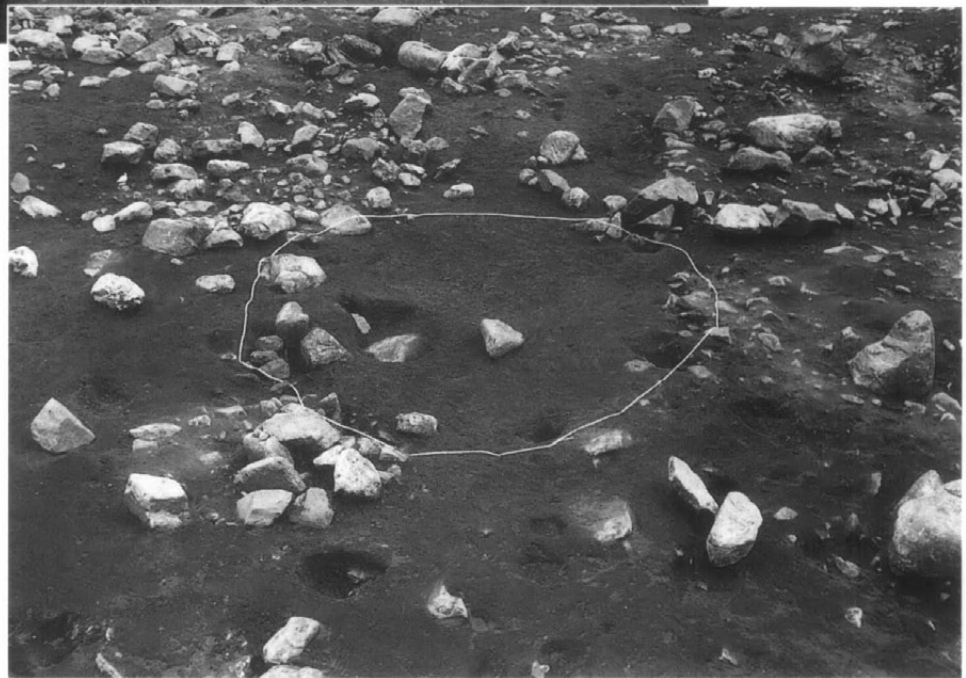


70 北から見た5号住居址



71 北から見た3~5号
住居址

72 北から見た6号住居址



73 北から見た2号住居址



74 同上

75 同上炉址



76 北から見た1号住居址
址(平安時代)

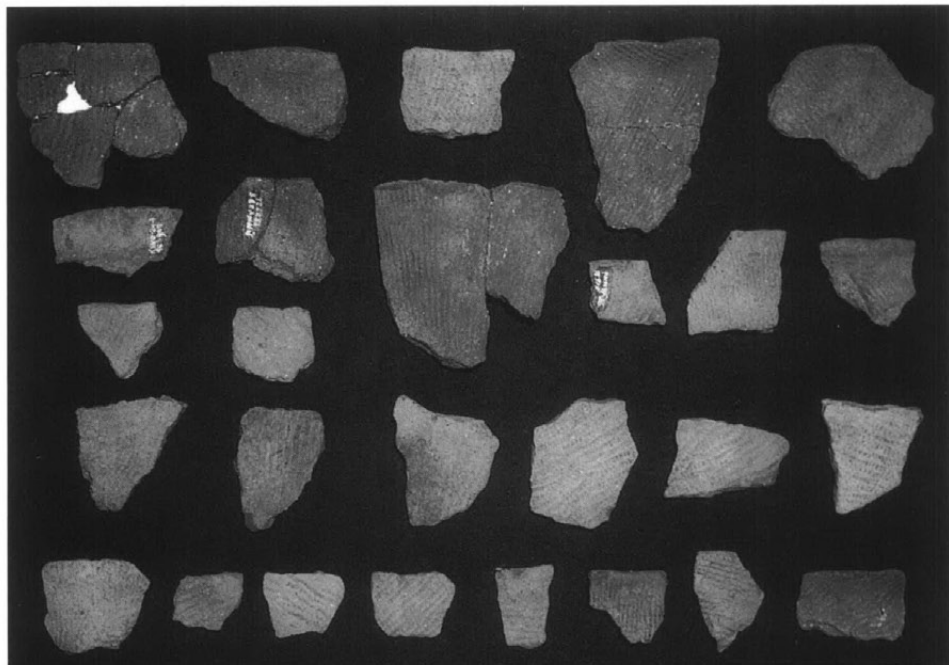


77 同上カマド跡

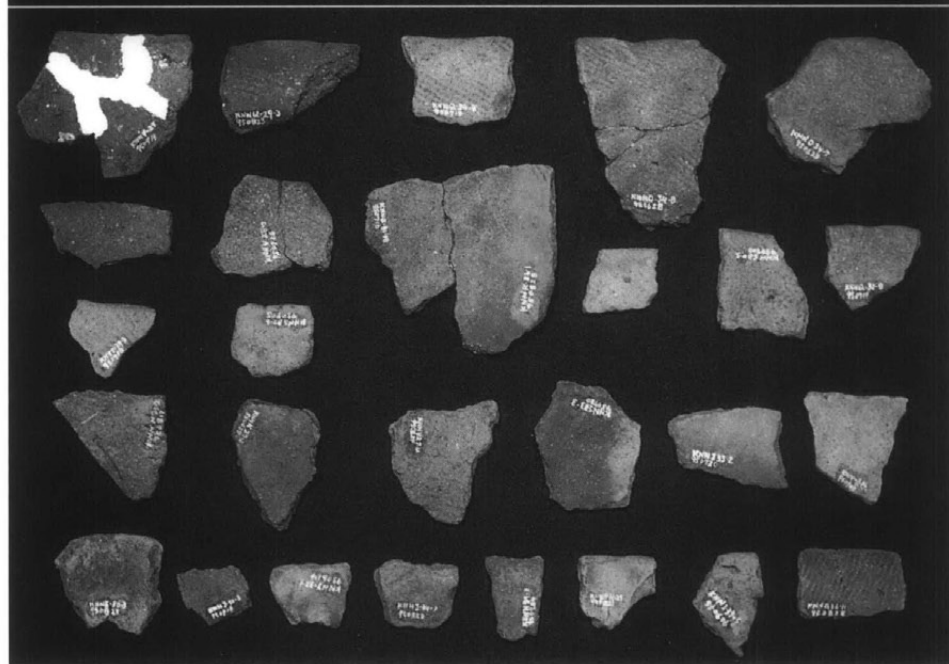
78 同上柱穴跡



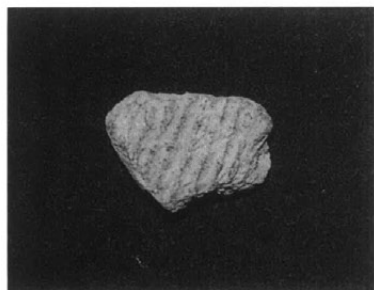
79 草創期～早期土器 1



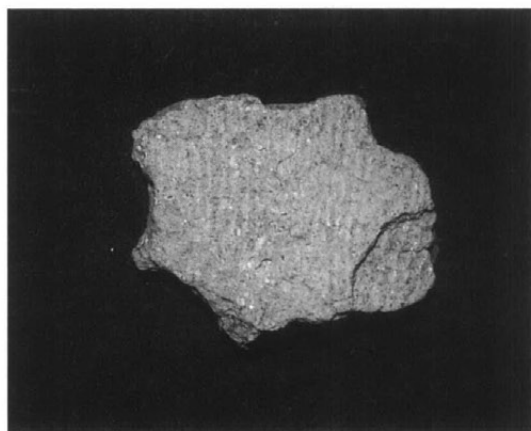
80 同上裏面



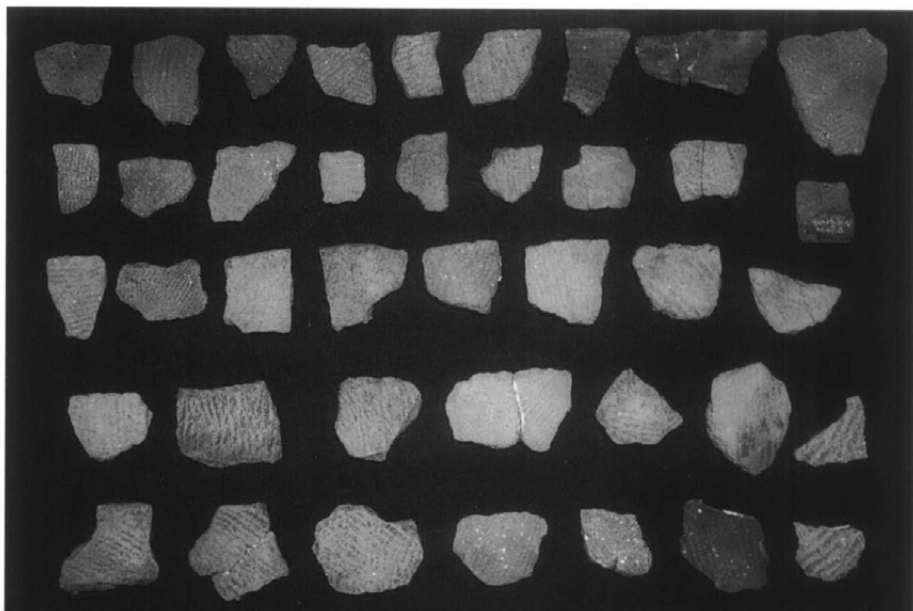
81 土器241



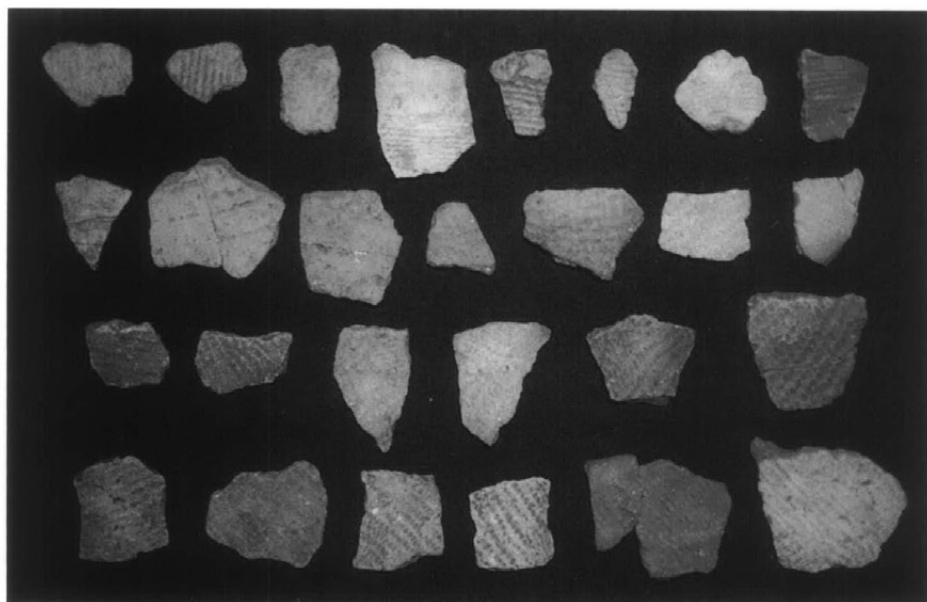
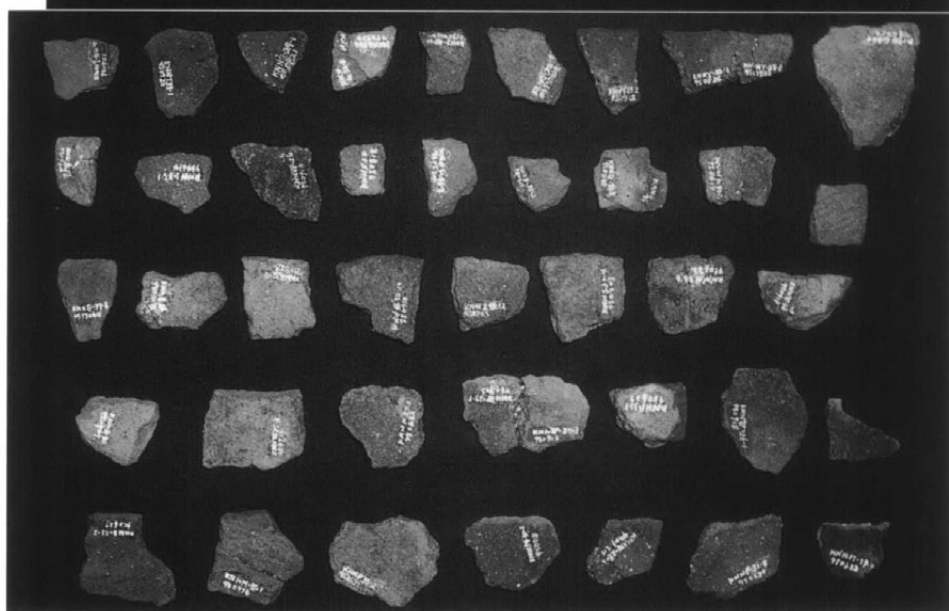
82 土器20



83 草創期～早期土器 2

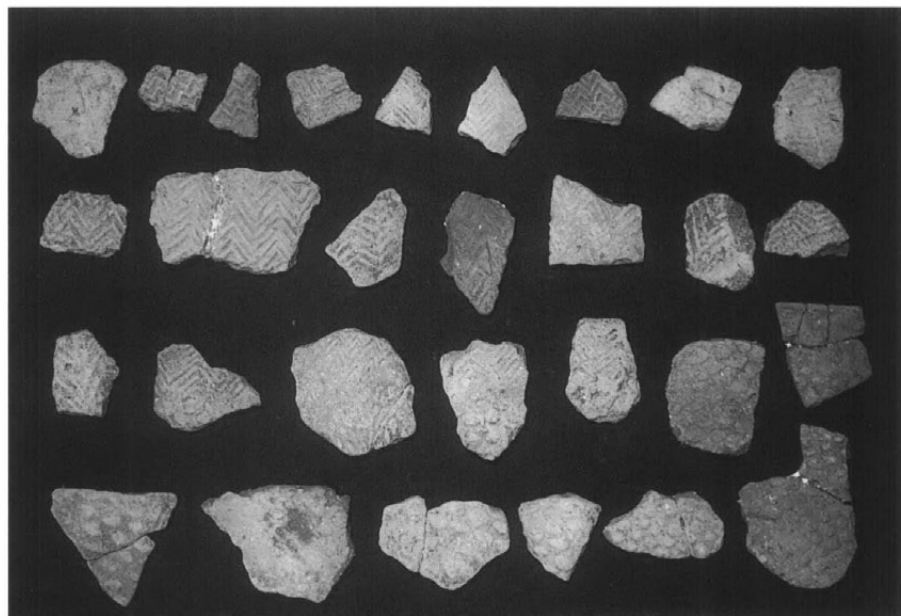


84 同上裏面

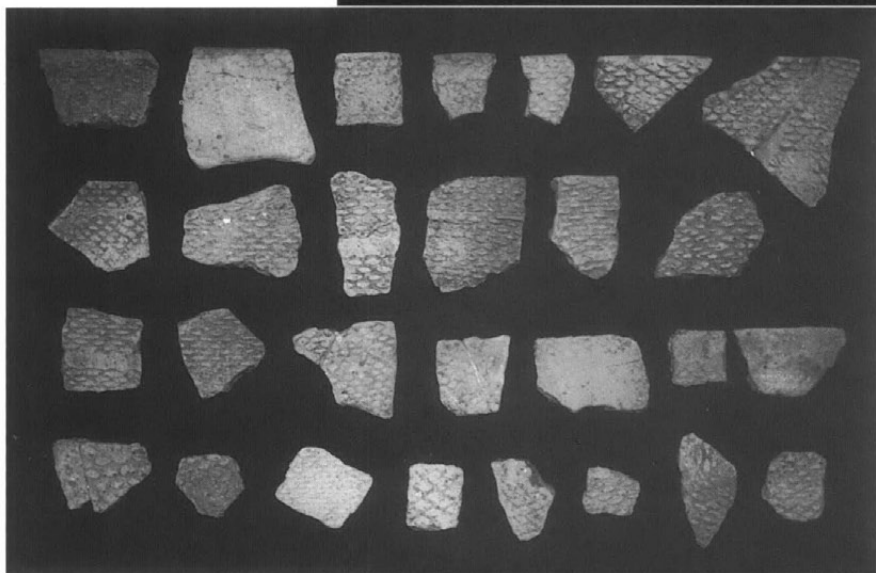


85 縄文早期土器

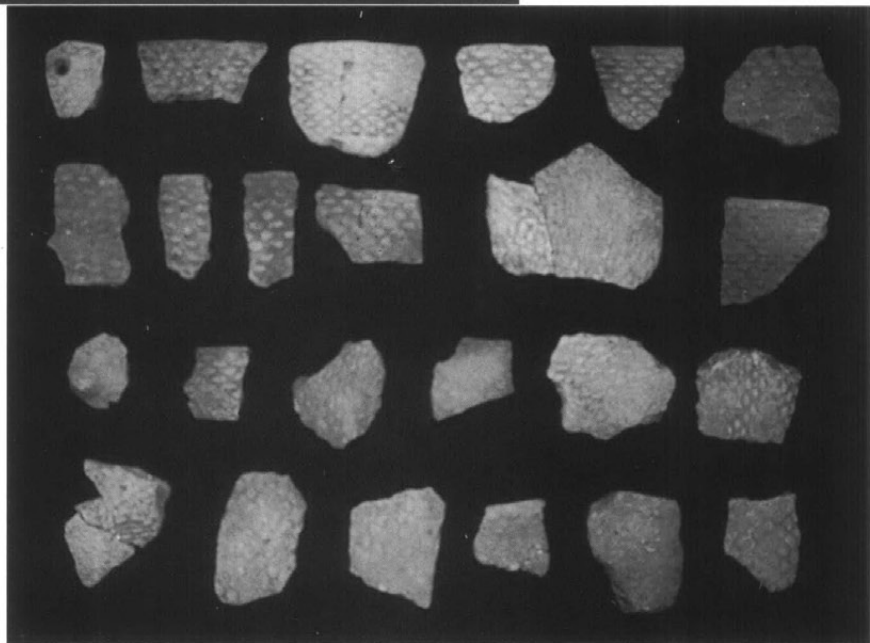
86 押型文土器 1



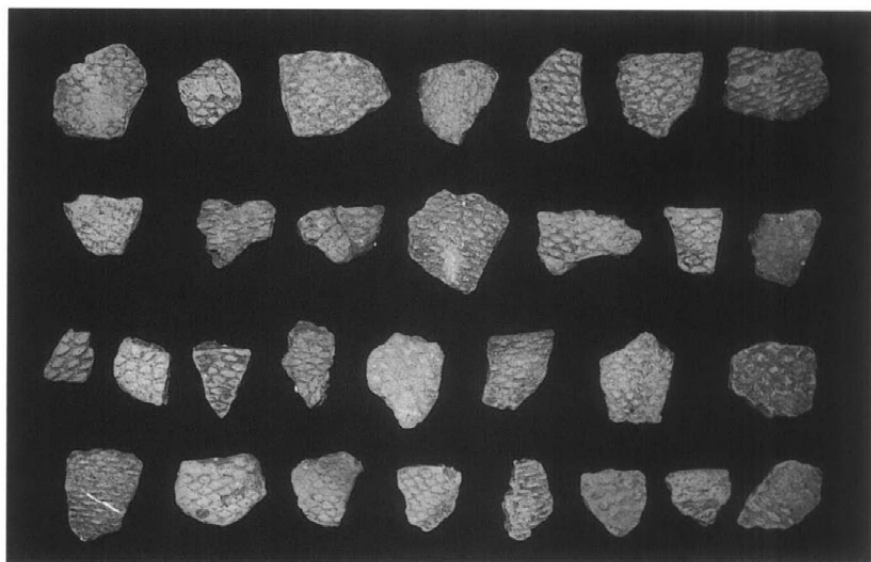
87 押型文土器 2



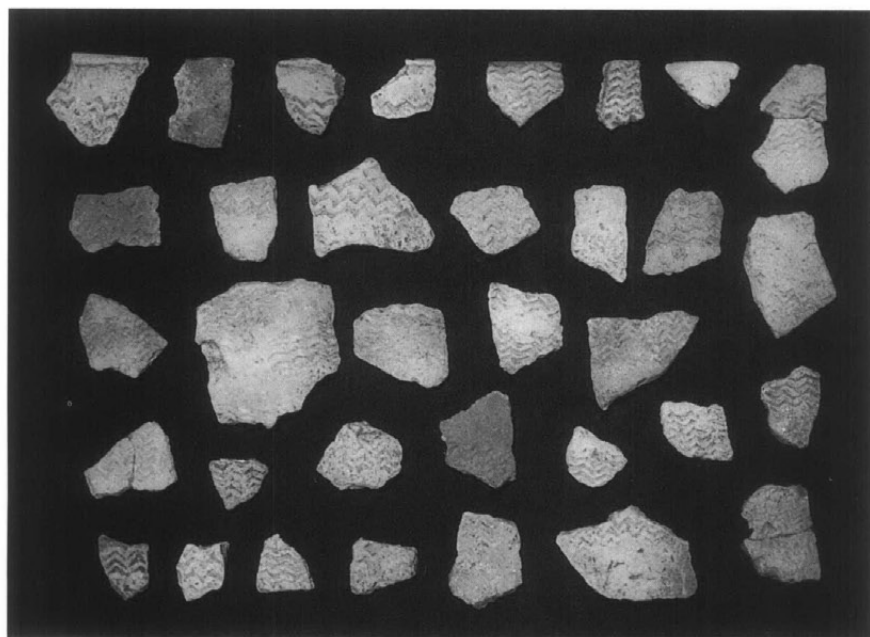
88 押型文土器 3



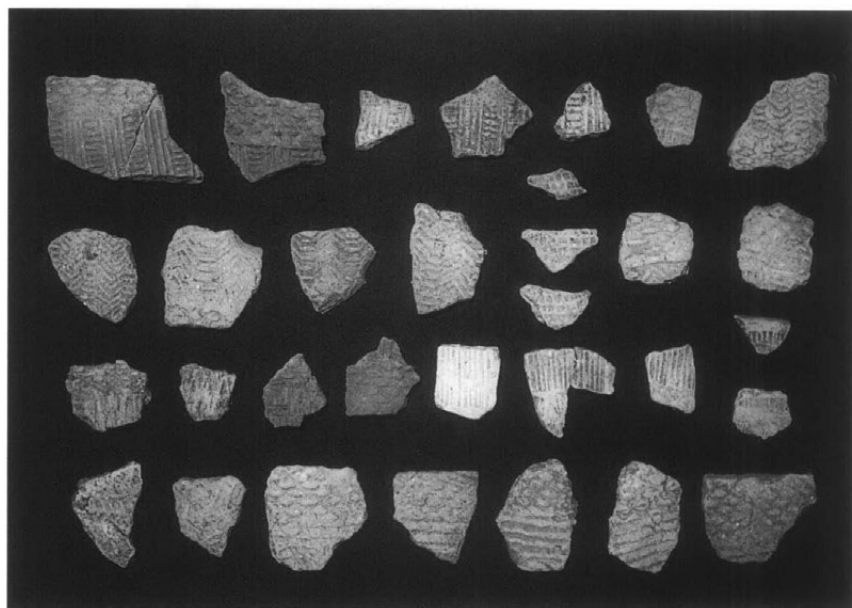
89 押型文土器 4



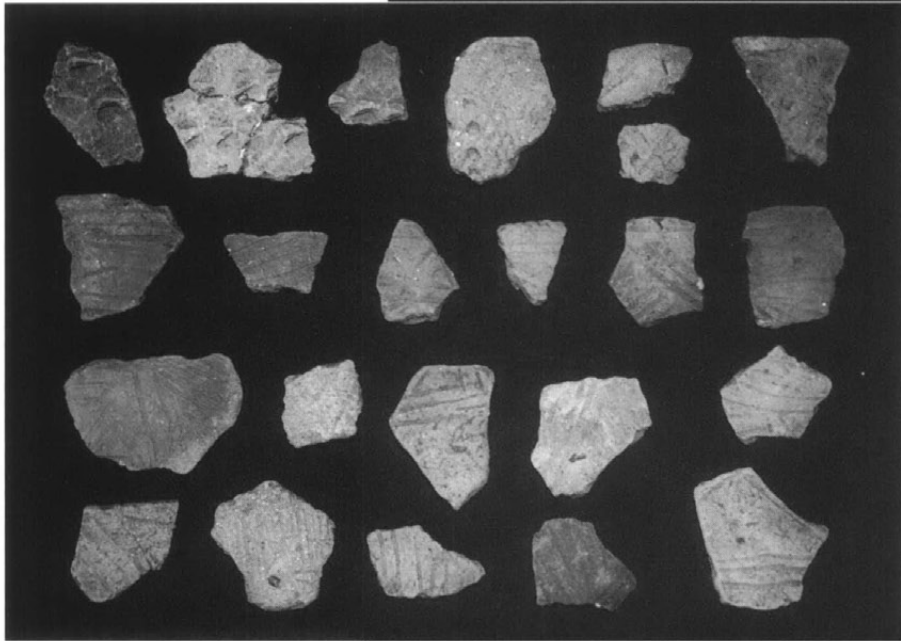
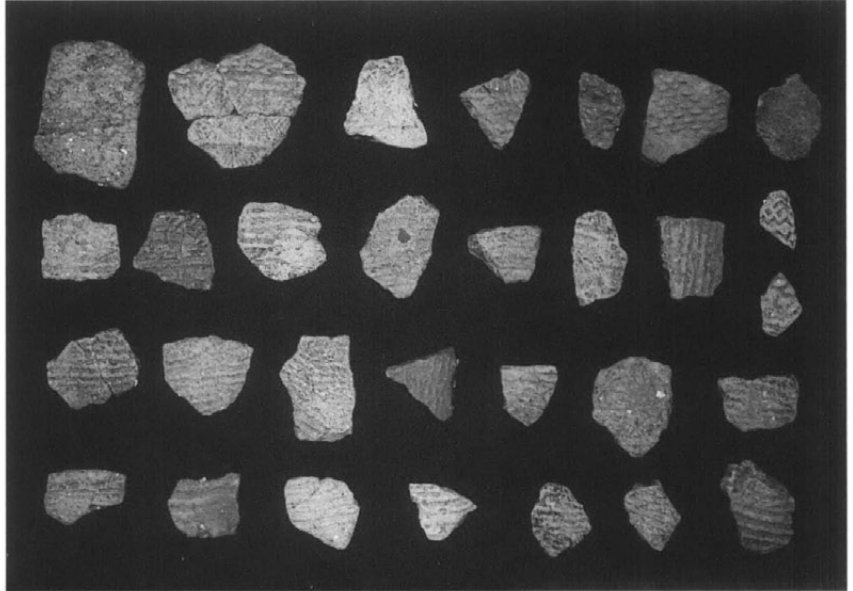
90 押型文土器 5



91 押型文土器 6

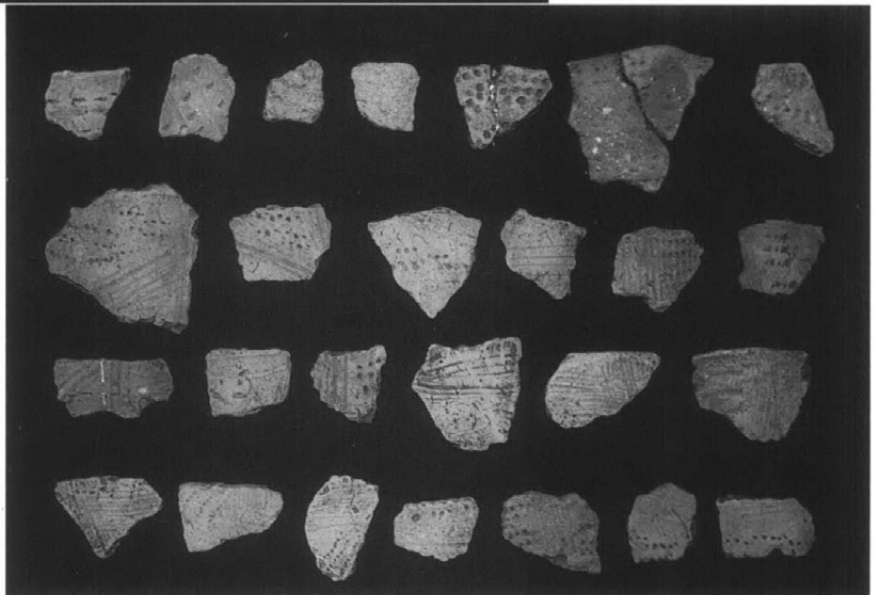


92 押型文土器 7

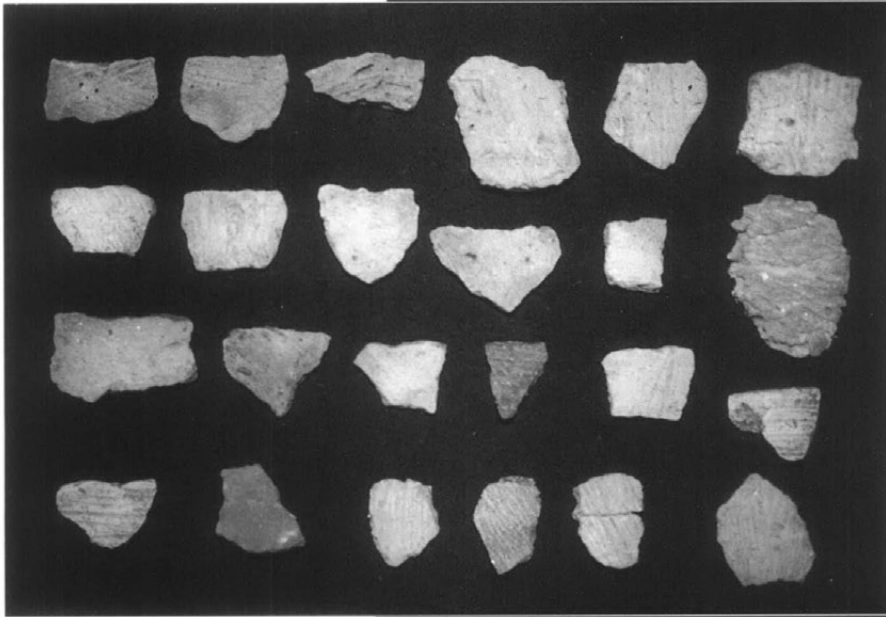
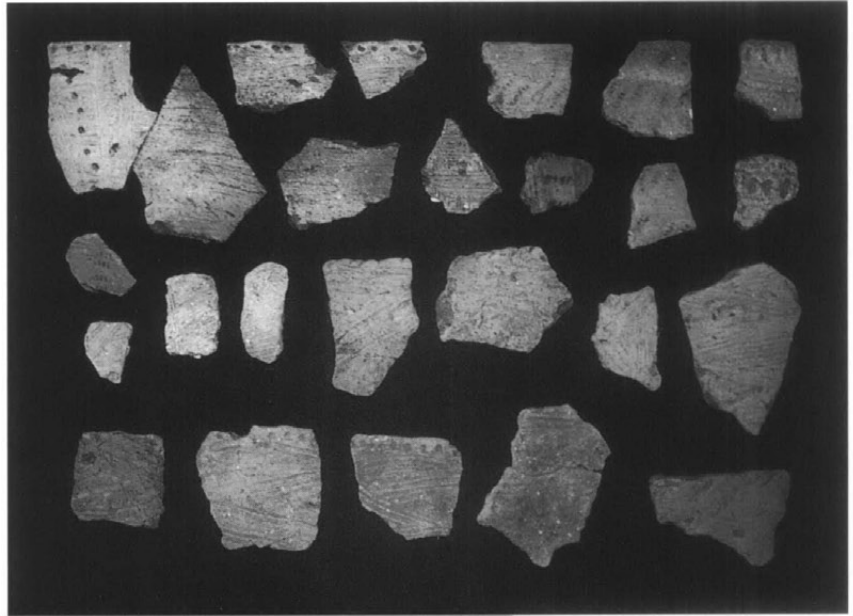


93 縄文早期縄文・沈線文系土器

94 縄文早期沈線文・条痕文系土器

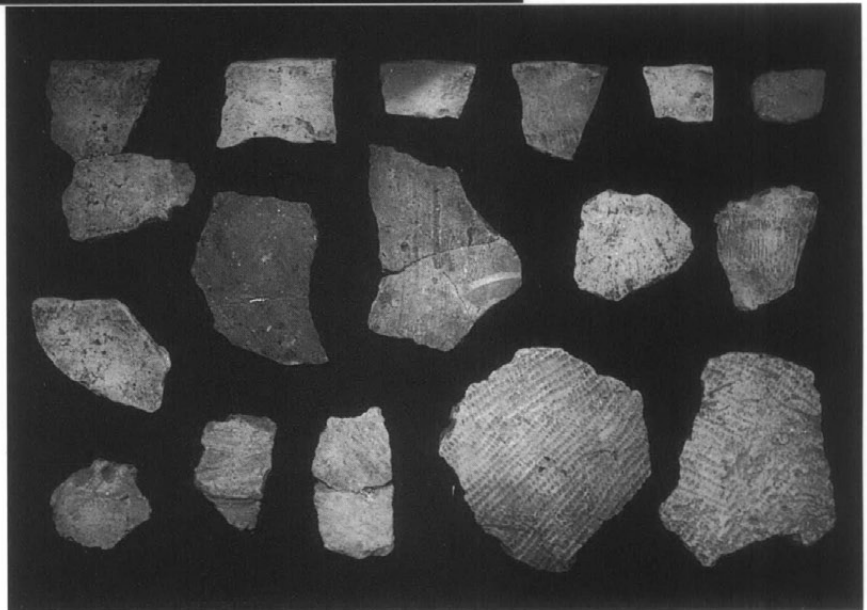


95 縄文早期条痕文系土器

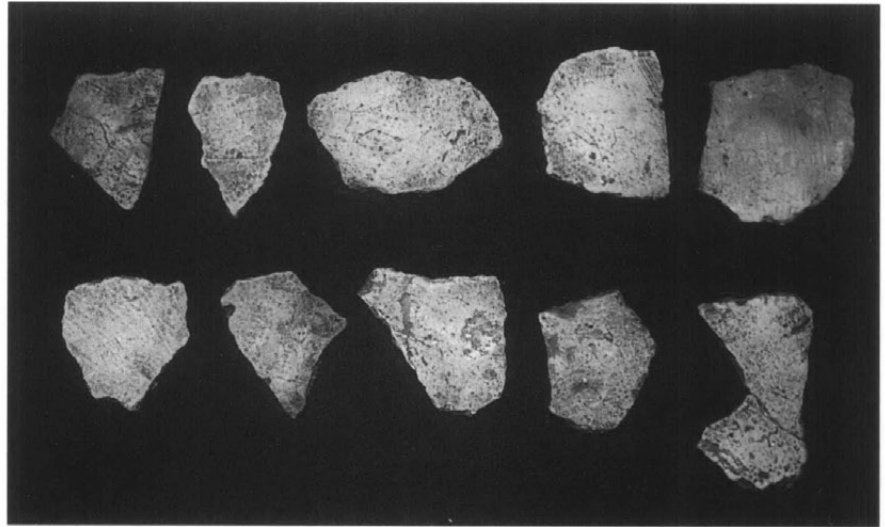


96 縄文早期条痕文系土器

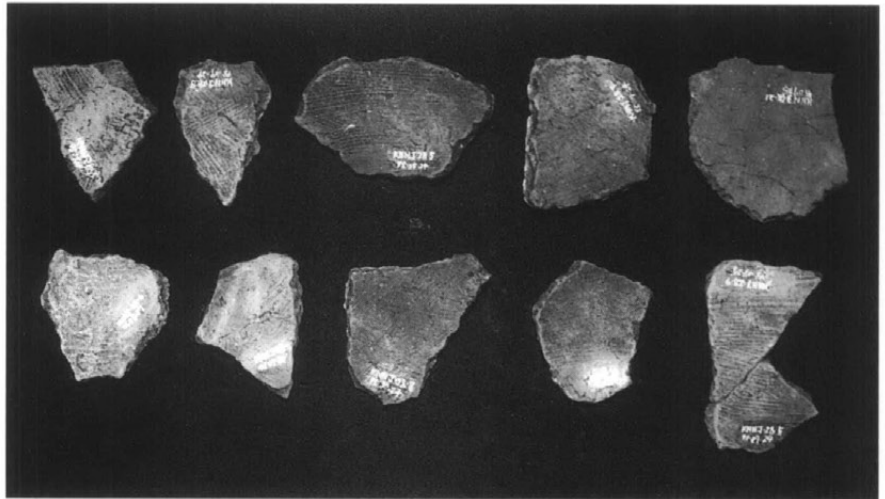
97 縄文早期無文・縄文・条痕文系土器



98 縄文早期条痕文系土器



99 同上裏面

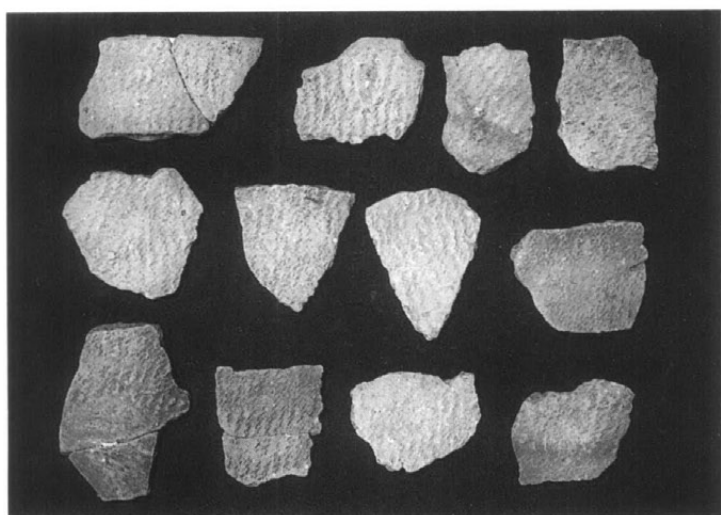
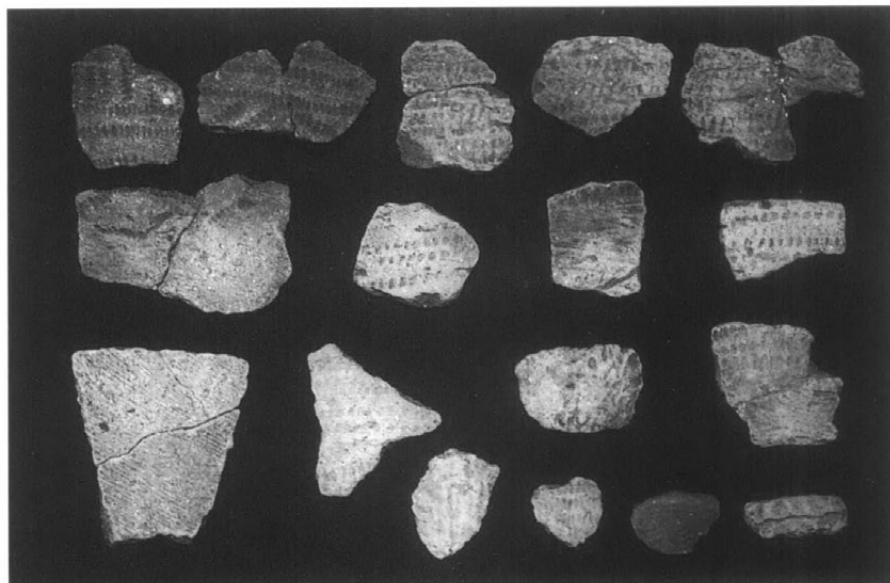


100 縄文早期条痕文系土器232



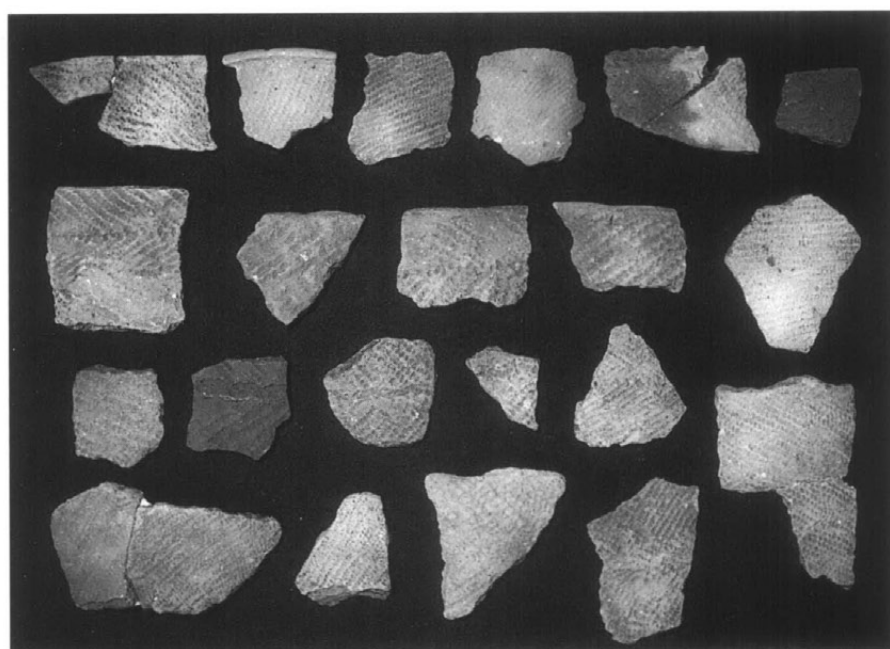
101 同・左内面の絡条体圧痕文

102 縄文早期絡条体圧痕文土器
ほか

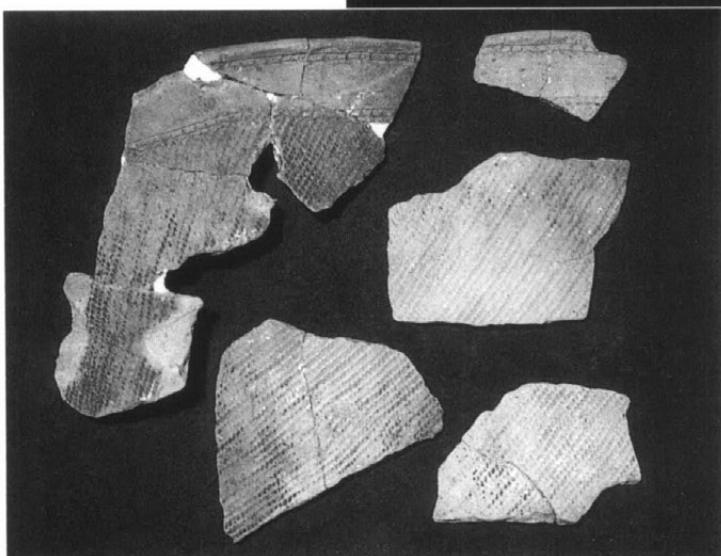
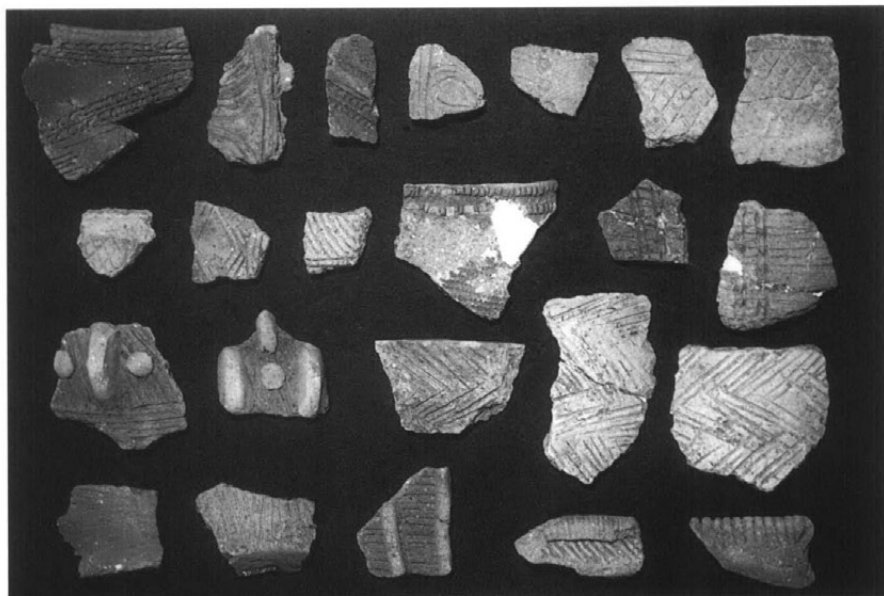


103 縄文前期撚糸文土器

104 縄文前期縄文土器

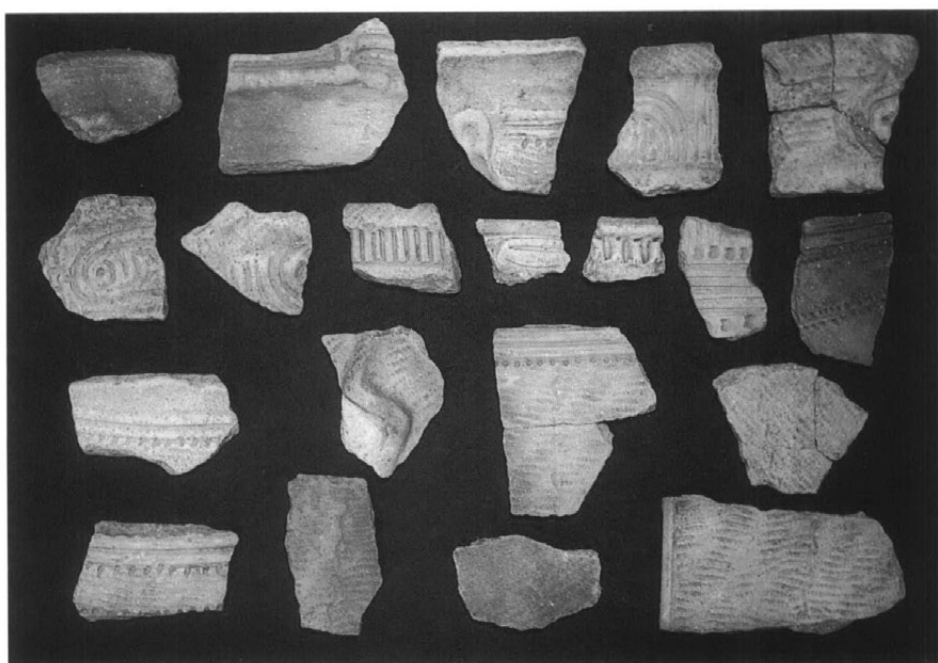


105 縄文前期土器



106 縄文前期土器

107 縄文中期土器

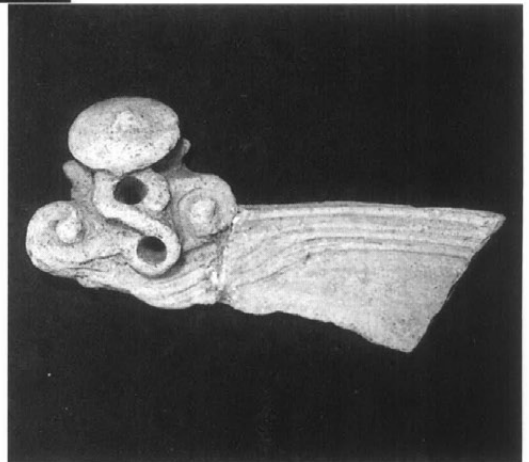


108 縄文中期土器



109 縄文後期土器

110 堀之内2式土器内面の縁帯文

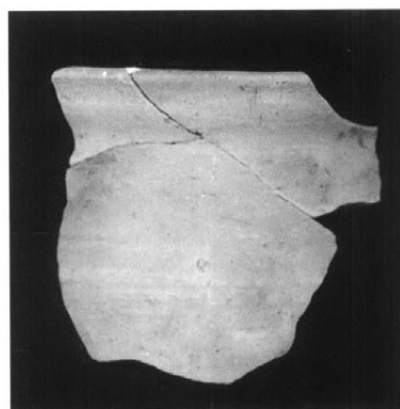


111 古墳時代土器 (上一列) と
平安時代土器

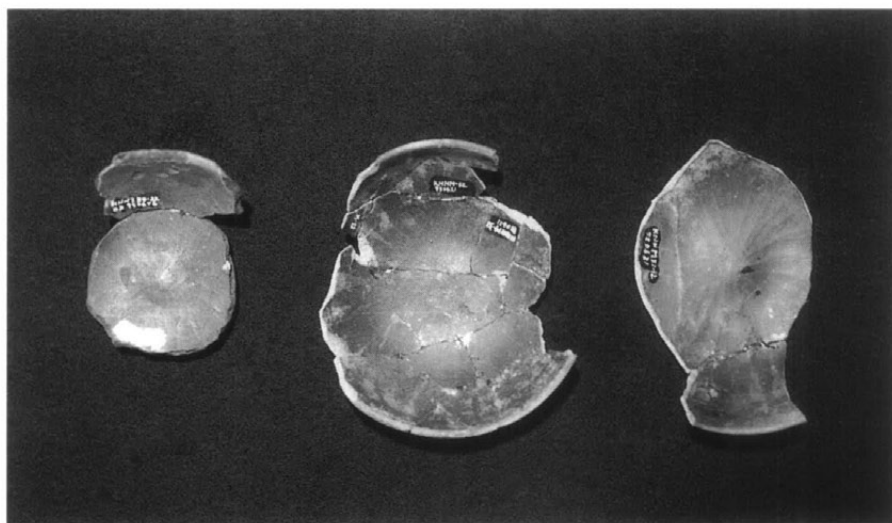


112 縄文前期土器 (左縦)
縄文後期土器 (中縦)
平安時代土器 (右縦)

113 平安時代土器

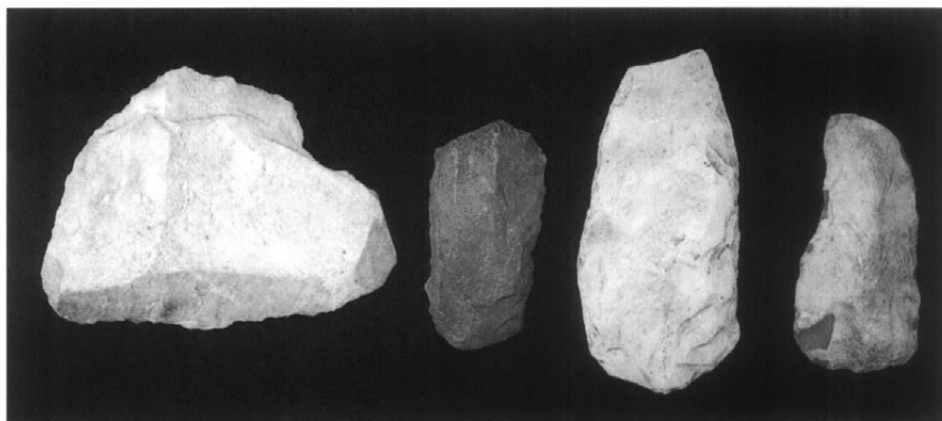


114 平安時代土器
黑色土器 坏

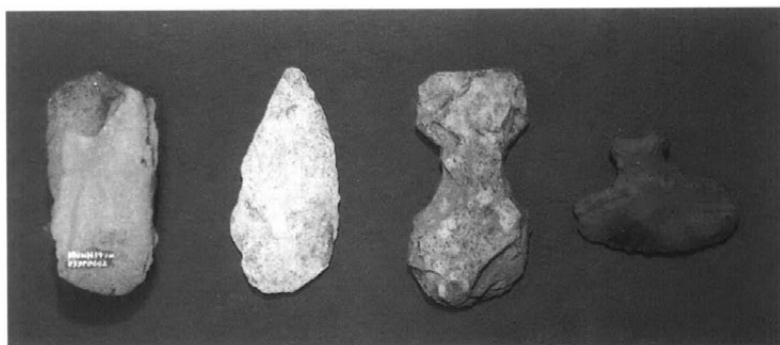


115 平安時代土器
甕

116 打製石斧

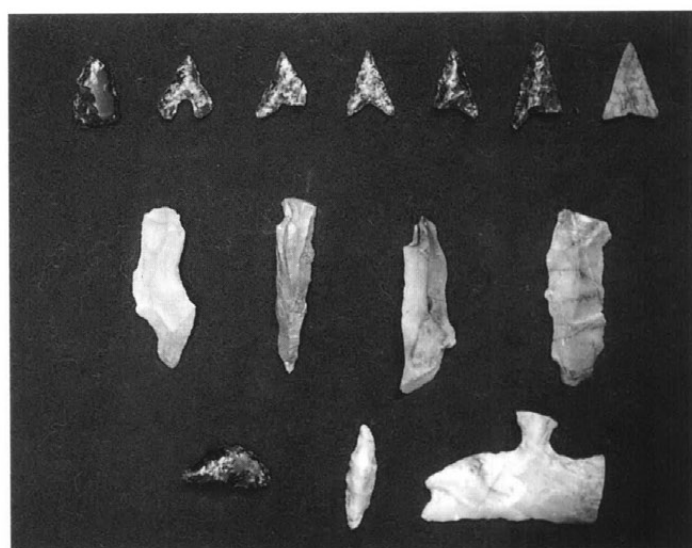


117 打製石斧・石匙
左端石斧18の裏面

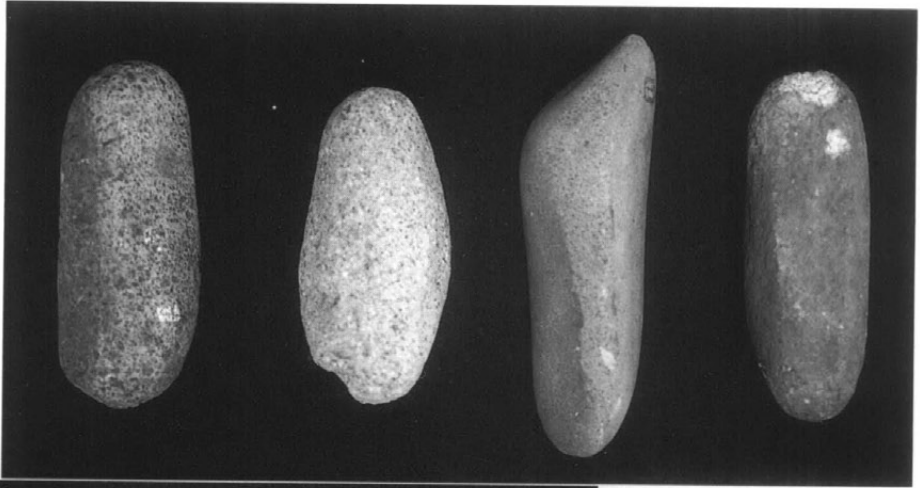


118 石器剥片

119 石鏃・石錐・剥片



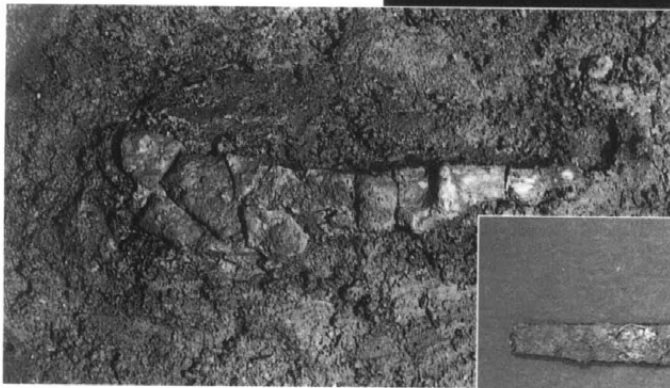
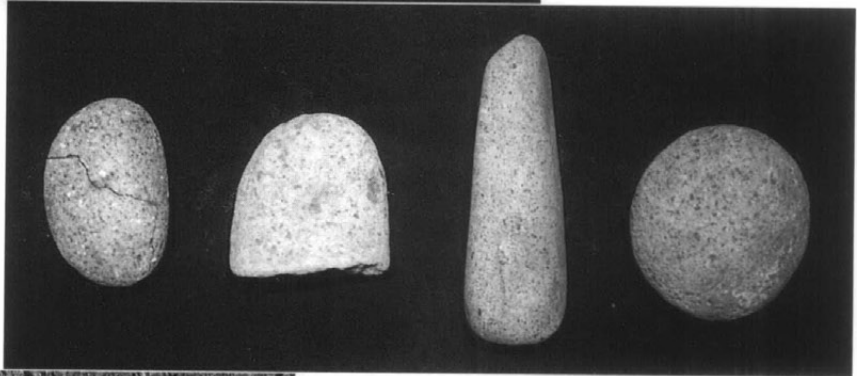
120 特種磨石



121 特種磨石

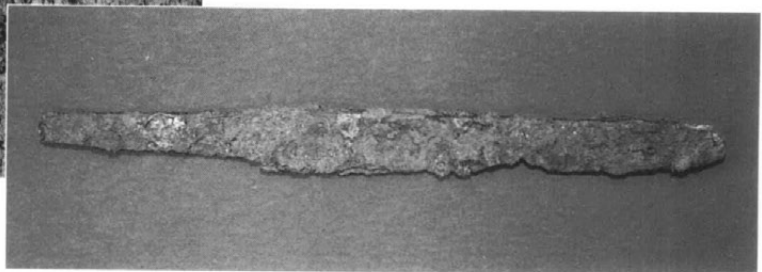


122 凹石・敲打石



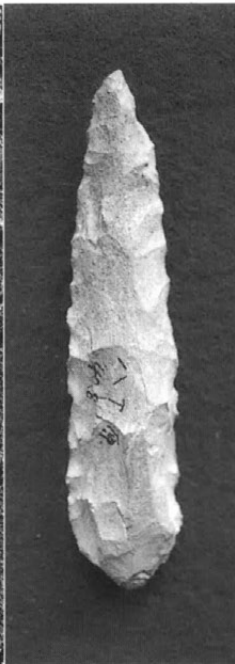
123 鉄鎌

124 短刀

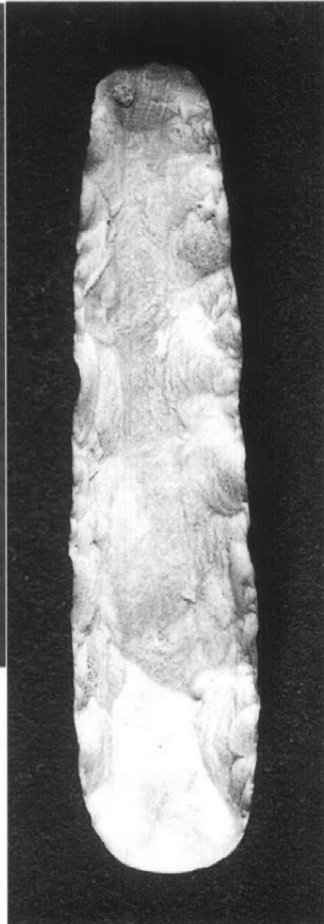




125 C地点の試掘



126 山ノ内町須賀川八丁原出土尖頭器(滝沢善次郎氏蔵)

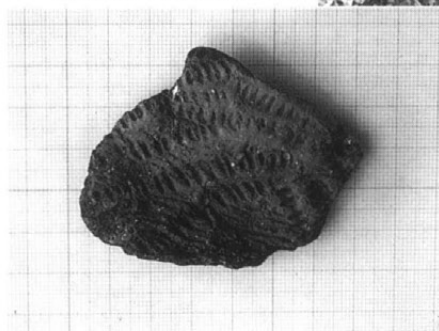


127 山ノ内町横倉北の窪出土御子柴型石斧(坂口兆氏蔵)



129 竜宮川の源泉

128 十二沢遺跡出土絡条体圧痕文土器(関伊志雄氏蔵)



山ノ内町の埋蔵文化財発掘調査報告書 発行 山ノ内町教育委員会

1	永峯光一ほか	佐野（「長野県考古学会研究報告書」3）（縄文晩期）	1967
2	金井汲次ほか	上条遺跡発掘調査略報（縄文中期）	1967
3	”	第2次上条遺跡調査略報（ ” ）	1968
4	”	佐野遺跡範囲確認調査報告（縄文晩期）	1975
5	”	佐野遺跡第4次発掘調査報告書（ ” ）	1977
6	”	” 第5次 ” （ ” ）	1978
7	田川幸生ほか	” 第6次 ” （ ” ）	1981
8	”	伊勢宮 （縄文後期）	”
9	”	佐野遺跡第7次 ” （縄文晩期）	1982
10	檀原長則ほか	上林中道南遺跡発掘調査報告書（縄文草創期～平安時代）	1985
11	田川幸生ほか	佐野遺跡第8次発掘調査報告書（縄文晩期）	1989
12	”	” 第9次 ” （ ” ）	1990
13	”	” 第10次 ” （ ” ）	1993
14	檀原長則ほか	島崎遺跡試掘調査報告書（縄文中期）	1994
15	”	上林中道南遺跡試掘調査報告書II（縄文草創期～平安時代）	1995
16	”	” 発掘調査報告書III（ ” ）	1996

上林中道南遺跡III

平成8年（1996）3月19日 印刷

平成8年 3月21日 発行

発行者 山ノ内町教育委員会

中野建設事務所

印刷者 ほおずき書籍株式会社

